専任教員の教育・研究業績

追手門学院大学

（2017 年 1 月）

学部別（所属別）教員一覧

（50 音順）

（ ）内は掲載ページ

経済学部

＜経済学科＞

奥井　克美　(1)
小椋　真奈美　(2)
近藤　伸二　(3)
櫻庭　千尋　(5)
佐藤　伸行　(7)
新野　三四子　(9)
曹　　満　(12)
寺本　博美　(13)
杤尾　真一　(14)
内藤　雄太　(17)
西村　和志　(19)
橋本　圭司　(20)
藤川　武海　(22)
細井　雅代　(24)
堀　一郎　(26)
前　比呂子　(27)
松田　年弘　(29)
松本　直樹　(30)
村田　美希　(31)
森島　覚　(32)
吉井　紀夫　(33)
四塚　朋子　(34)
李　義昭　(35)

経営学部

＜経営学科＞

井上　秀一　(37)
植藤　正志　(39)
岡崎　利美　(40)
金森　喜久男　(41)
川端　保至　(42)
神吉　直人　(44)
徐　治文　(46)
L.S.DE SILVA　(47)
杤尾　安伸　(50)
中村　都　(52)
西島　太一　(53)
藤原　英賢　(54)
水野　浩児　(55)
宮宇地　俊岳　(57)
村上　喜郁　(59)
八木　俊輔　(62)
山下　克之　(64)
李　建　(66)

＜マーケティング学科＞

池田　信寛　(67)
石盛　真徳　(69)
井出　明　(73)
金川　智惠　(75)
崔　宇　(77)
坂上　佳隆　(79)
笹本　晃子　(80)
篠原　健　(81)
長岡　千賀　(82)
中野　統英　(85)
朴　修賢　(90)
原田　章　(92)
福田　得夫　(94)
松井　温文　(96)
宮﨑　崇将　(100)

地域創造学部

＜地域創造学科＞

稲葉　哲　(101)
井上　典子　(102)
今堀　洋子　(104)
岩渕　亜希子　(106)
大泉　英次　(107)
河合　博司　(108)
草山　太郎　(109)
小林　善帆　(110)
佐藤　友美子　(111)
武田　佐知子　(113)
田中　正人　(114)
泊　吉実　(117)
沼尻　正之　(118)
橋本　裕之　(119)
葉山　幹恭　(123)
峯俊　智穂　(124)
安村　克己　(126)
山本　博史　(127)
善積　京子　(129)

学部別（所属別）教員一覧

（50 音順）

（ ）内は掲載ページ

社会学部

＜社会学科＞

上石　圭一　(131)
足立　重和　(135)
蘭　由岐子　(136)
上田　滋夢　(140)
内海　博文　(142)
小畑　力人　(145)
柏原　全孝　(147)
加藤　源太郎　(148)
木村　英樹　(149)
栗山　直子　(150)
佐々木　英一　(152)
城野　充　(153)
高垣　伸博　(154)
富田　大介　(155)
福本　賢太　(158)
藤吉　圭二　(160)
古川　隆司　(161)
三上　剛史　(165)
森　真一　(166)
横田　修　(167)

心理学部

＜心理学科＞

荒井　崇史　(169)
荒木　浩子　(172)
石王　敦子　(173)
乾　敏郎　(175)
浦　光博　(183)
大神田　麻子　(186)
金政　祐司　(188)
河﨑　美保　(192)
倉西　宏　(194)
駿地　眞由美　(196)
瀧端　真理子　(197)
田中　秀明　(199)
田邊　亜澄　(200)
辻　　潔　(201)
中鹿　彰　(202)
永野　浩二　(204)
中村　このゆ　(206)
馬場　天信　(209)
東　正訓　(212)
鋒山　泰弘　(215)
増井　啓太　(217)
三川　俊樹　(219)
溝部　宏二　(221)
吉村　晋平　(224)

国際教養学部

＜アジア学科＞

淺野　純一　(227)
磯貝　健一　(228)
櫛引　祐希子　(229)
小松　久恵　(231)
承志　(233)
正信　公章　(234)
筒井　由起乃　(235)
永吉　雅夫　(237)
松家　裕子　(239)
南出　眞助　(241)
山口　公一　(243)
李　慶国　(245)

＜国際教養学科＞

井ノ口　淳三　(247)
貞光　宮城　(249)
佐藤　恭子　(251)
新谷　好　(253)
真銅　正宏　(255)
平尾　日出夫　(257)
福島　孝博　(258)
J.HERRICK　(260)
増崎　恒　(261)
R.E.MILLER　(263)

学部別（所属別）教員一覧

（学科別同職間 50 音順）

（ ）内は掲載ページ

基盤教育機構

池田　輝政　(265)
梅村　修　(266)
大串　恵太　(269)
加村　隆英　(270)
岸岡　奈津子　(271)
齊藤　一誠　(273)
水藤　龍彦　(274)
田上　正範　(275)
武田　裕紀　(278)
巽　樹理　(279)
辰本　頼弘　(280)
千葉　英史　(281)
豊島　眞介　(282)
秦　敬治　(283)
樋口　勝一　(286)
松井　健　(290)
村上　亨　(293)

経済学部

＜経済学科＞

奥井　克美　(1)
小椋　真奈美　(2)
近藤　伸二　(3)
櫻庭　千尋　(5)
佐藤　伸行　(7)
新野　三四子　(9)
曹　　満　(12)
寺本　博美　(13)
杤尾　真一　(14)
内藤　雄太　(17)
西村　和志　(19)
橋本　圭司　(20)
藤川　武海　(22)
細井　雅代　(24)
堀　一郎　(26)
前　比呂子　(27)
松田　年弘　(29)
松本　直樹　(30)
村田　美希　(31)
森島　覚　(32)
吉井　紀夫　(33)
四塚　朋子　(34)
李　義昭　(35)

経営学部

＜経営学科＞

井上　秀一　(37)
植藤　正志　(39)
岡崎　利美　(40)
金森　喜久男　(41)
川端　保至　(42)
神吉　直人　(44)
徐　治文　(46)
L.S.DE SILVA　(47)
杤尾　安伸　(50)
中村　都　(52)
西島　太一　(53)
藤原　英賢　(54)
水野　浩児　(55)
宮宇地　俊岳　(57)
村上　喜郁　(59)
八木　俊輔　(62)
山下　克之　(64)
李　建　(66)

＜マーケティング学科＞

池田　信寛　(67)
石盛　真徳　(69)
井出　明　(73)
金川　智惠　(75)
崔　宇　(77)
坂上　佳隆　(79)
笹本　晃子　(80)
篠原　健　(81)
長岡　千賀　(82)
中野　統英　(85)
朴　修賢　(90)
原田　章　(92)
福田　得夫　(94)
松井　温文　(96)
宮﨑　崇将　(100)

地域創造学部

＜地域創造学科＞

稲葉　哲　(101)
井上　典子　(102)
今堀　洋子　(104)
岩渕　亜希子　(106)
大泉　英次　(107)
河合　博司　(108)
草山　太郎　(109)
小林　善帆　(110)
佐藤　友美子　(111)
武田　佐知子　(113)
田中　正人　(114)
泊　吉実　(117)
沼尻　正之　(118)
橋本　裕之　(119)
葉山　幹恭　(123)
峯俊　智穂　(124)
安村　克己　(126)
山本　博史　(127)
善積　京子　(129)

社会学部

＜社会学科＞

上石　圭一　(131)
足立　重和　(135)
蘭　由岐子　(136)
上田　滋夢　(140)
内海　博文　(142)
小畑　力人　(145)
柏原　全孝　(147)
加藤　源太郎　(148)
木村　英樹　(149)
栗山　直子　(150)
佐々木　英一　(152)
城野　充　(153)
高垣　伸博　(154)
富田　大介　(155)
福本　賢太　(158)
藤吉　圭二　(160)
古川　隆司　(161)
三上　剛史　(165)
森　真一　(166)
横田　修　(167)

心理学部

＜心理学科＞

荒井　崇史　(169)
荒木　浩子　(172)
石王　敦子　(173)
乾　敏郎　(175)
浦　光博　(183)
大神田　麻子　(186)
金政　祐司　(188)
河﨑　美保　(192)
倉西　宏　(194)
駿地　眞由美　(196)
瀧端　真理子　(197)
田中　秀明　(199)
田邊　亜澄　(200)
辻　　潔　(201)
中鹿　彰　(202)
永野　浩二　(204)
中村　このゆ　(206)
馬場　天信　(209)
東　正訓　(212)
鋒山　泰弘　(215)
増井　啓太　(217)
三川　俊樹　(219)
溝部　宏二　(221)
吉村　晋平　(224)

国際教養学部

＜アジア学科＞
淺野　純一　(227)
磯貝　健一　(228)
櫛引　祐希子　(229)
小松　久恵　(231)
承志　(233)
正信　公章　(234)
筒井　由起乃　(235)
永吉　雅夫　(237)
松家　裕子　(239)
南出　眞助　(241)
山口　公一　(243)
李　慶国　(245)
＜国際教養学科＞
井ノ口　淳三　(247)
貞光　宮城　(249)
佐藤　恭子　(251)
新谷　好　(253)
真銅　正宏　(255)
平尾　日出夫　(257)
福島　孝博　(258)
J.HERRICK　(260)
増崎　恒　(261)
R.E.MILLER　(263)

基盤教育機構

池田　輝政　(265)
梅村　修　(266)
大串　恵太　(269)
加村　隆英　(270)
岸岡　奈津子　(271)
齊藤　一誠　(273)
水藤　龍彦　(274)
田上　正範　(275)
武田　裕紀　(278)
巽　樹理　(279)
辰本　頼弘　(280)
千葉　英史　(281)
豊島　眞介　(282)
秦　敬治　(283)
樋口　勝一　(286)
松井　健　(290)
村上　亨　(293)

学部別（所属別）教員一覧

（50 音順）

（ ）内は掲載ページ

経済学部

＜経済学科＞

奥井　克美　(1)
小椋　真奈美　(2)
近藤　伸二　(3)
櫻庭　千尋　(5)
佐藤　伸行　(7)
新野　三四子　(9)
曹　　満　(12)
寺本　博美　(13)
杤尾　真一　(14)
内藤　雄太　(17)
西村　和志　(19)
橋本　圭司　(20)
藤川　武海　(22)
細井　雅代　(24)
堀　一郎　(26)
前　比呂子　(27)
松田　年弘　(29)
松本　直樹　(30)
村田　美希　(31)
森島　覚　(32)
吉井　紀夫　(33)
四塚　朋子　(34)
李　義昭　(35)

経営学部

＜経営学科＞

井上　秀一　(37)
植藤　正志　(39)
岡崎　利美　(40)
金森　喜久男　(41)
川端　保至　(42)
神吉　直人　(44)
徐　治文　(46)
L.S.DE SILVA　(47)
杤尾　安伸　(50)
中村　都　(52)
西島　太一　(53)
藤原　英賢　(54)
水野　浩児　(55)
宮宇地　俊岳　(57)
村上　喜郁　(59)
八木　俊輔　(62)
山下　克之　(64)
李　建　(66)

＜マーケティング学科＞

池田　信寛　(67)
石盛　真徳　(69)
井出　明　(73)
金川　智惠　(75)
崔　宇　(77)
坂上　佳隆　(79)
笹本　晃子　(80)
篠原　健　(81)
長岡　千賀　(82)
中野　統英　(85)
朴　修賢　(90)
原田　章　(92)
福田　得夫　(94)
松井　温文　(96)
宮﨑　崇将　(100)

地域創造学部

＜地域創造学科＞

稲葉　哲　(101)
井上　典子　(102)
今堀　洋子　(104)
岩渕　亜希子　(106)
大泉　英次　(107)
河合　博司　(108)
草山　太郎　(109)
小林　善帆　(110)
佐藤　友美子　(111)
武田　佐知子　(113)
田中　正人　(114)
泊　吉実　(117)
沼尻　正之　(118)
橋本　裕之　(119)
葉山　幹恭　(123)
峯俊　智穂　(124)
安村　克己　(126)
山本　博史　(127)
善積　京子　(129)

学部別（所属別）教員一覧

（50 音順）

（ ）内は掲載ページ

社会学部

＜社会学科＞

上石　圭一　(131)
足立　重和　(135)
蘭　由岐子　(136)
上田　滋夢　(140)
内海　博文　(142)
小畑　力人　(145)
柏原　全孝　(147)
加藤　源太郎　(148)
木村　英樹　(149)
栗山　直子　(150)
佐々木　英一　(152)
城野　充　(153)
高垣　伸博　(154)
富田　大介　(155)
福本　賢太　(158)
藤吉　圭二　(160)
古川　隆司　(161)
三上　剛史　(165)
森　真一　(166)
横田　修　(167)

心理学部

＜心理学科＞

荒井　崇史　(169)
荒木　浩子　(172)
石王　敦子　(173)
乾　敏郎　(175)
浦　光博　(183)
大神田　麻子　(186)
金政　祐司　(188)
河﨑　美保　(192)
倉西　宏　(194)
駿地　眞由美　(196)
瀧端　真理子　(197)
田中　秀明　(199)
田邊　亜澄　(200)
辻　　潔　(201)
中鹿　彰　(202)
永野　浩二　(204)
中村　このゆ　(206)
馬場　天信　(209)
東　正訓　(212)
鋒山　泰弘　(215)
増井　啓太　(217)
三川　俊樹　(219)
溝部　宏二　(221)
吉村　晋平　(224)

国際教養学部

＜アジア学科＞

淺野　純一　(227)
磯貝　健一　(228)
櫛引　祐希子　(229)
小松　久恵　(231)
承志　(233)
正信　公章　(234)
筒井　由起乃　(235)
永吉　雅夫　(237)
松家　裕子　(239)
南出　眞助　(241)
山口　公一　(243)
李　慶国　(245)

＜国際教養学科＞

井ノ口　淳三　(247)
貞光　宮城　(249)
佐藤　恭子　(251)
新谷　好　(253)
真銅　正宏　(255)
平尾　日出夫　(257)
福島　孝博　(258)
J.HERRICK　(260)
増崎　恒　(261)
R.E.MILLER　(263)

学部別（所属別）教員一覧

（学科別同職間 50 音順）

（ ）内は掲載ページ

基盤教育機構

池田　輝政　(265)
梅村　修　(266)
大串　恵太　(269)
加村　隆英　(270)
岸岡　奈津子　(271)
齊藤　一誠　(273)
水藤　龍彦　(274)
田上　正範　(275)
武田　裕紀　(278)
巽　樹理　(279)
辰本　頼弘　(280)
千葉　英史　(281)
豊島　眞介　(282)
秦　敬治　(283)
樋口　勝一　(286)
松井　健　(290)
村上　亨　(293)

経済学部

＜経済学科＞

奥井　克美　(1)
小椋　真奈美　(2)
近藤　伸二　(3)
櫻庭　千尋　(5)
佐藤　伸行　(7)
新野　三四子　(9)
曹　　満　(12)
寺本　博美　(13)
杤尾　真一　(14)
内藤　雄太　(17)
西村　和志　(19)
橋本　圭司　(20)
藤川　武海　(22)
細井　雅代　(24)
堀　一郎　(26)
前　比呂子　(27)
松田　年弘　(29)
松本　直樹　(30)
村田　美希　(31)
森島　覚　(32)
吉井　紀夫　(33)
四塚　朋子　(34)
李　義昭　(35)

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	教授	奥井　　克美	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
公共選択学生の集い	2002年 4月 ～現在に至る	奥井ゼミのゼミ員は、毎年、「公共選択学生の集い」という学生による報告・討論会に参加している。これは、十数大学の学生が与えられた共通のテーマについてプレゼンテーションし、討論会で議論を深める、というものである。大学外の人とも交流し、切磋琢磨させることにしている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
経済原論ノート及び問題集	2003年 4月 1日 ～現在に至る	経済原論（春学期週2回授業、４単位）が開講されていた時代の授業で使うための講義ノート、練習問題。ホームページから閲覧できるようにしていたが、現在は学部共通の教科書が指定されており、授業時に適宜配布するのみである。
レポートの書き方	2007年 5月30日 ～現在に至る	レポートの書き方を、学部生向けに解説したもの。公共経済学、プログラム基礎演習、新入生演習、といった授業で使っている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
第５回三郷学フォーラム第２回三郷学大賞追手門学院大学大学院奥井研究室優秀賞受賞	2012年 7月28日	発表テーマ「中国の経済成長に伴う環境問題－内モンゴル砂漠化問題の事例から」

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
テキストブック公共選択	共著	2013年10月	(勁草書房)	川野辺裕幸・中村まづる編著、＜共著者＞小西砂千夫、長峯純一、西川雅史、鷲見英司、堀真奈美、増山幹高、和田淳一郎、飯島大邦、宮下量久、荒幡克己、伊藤穣、奥井克美、平井友行、中村まづる、川野辺裕幸	第11章「国際的合意形成：国際組織に関するものを中心に」216頁-243頁
経済体制の公共選択分析	単著	2015年 4月	(日本評論社)		
論文					
政治的・経済的自由度指標と世界各国の経済パフォーマンス	単著	2012年 9月	追手門経済論集(追手門学院大学経済学会) ４７(1)		181-238頁
シカゴ学派の展開と公共選択論の現在・未来	単著	2014年 7月	公共選択(木鐸社) (62)		85-108頁
その他					
民主主義の「質」と公共選択	–	2012年 6月	公共選択学会第16 回全国大会(専修大学神田校舎)		
シカゴ学派の展開と公共選択論の現在・未来	–	2013年11月	公共選択学会第17回全国大会(駒澤大学・深沢キャンパス)		
公共選択論の展開	–	2014年 1月	関西公共政策研究会(京都大学人間・環境学研究科棟)		
公共選択論及びその政策含意の行方	–	2014年 6月	日本公共政策学会2014年度 第18回研究大会(高崎経済大学(群馬県高崎市上並榎町1300番地）)	佐野亘氏　富崎隆氏　湯之上英雄氏　横山彰氏	
坂井豊貴『社会的選択理論への招待：投票と多数決の科学』日本評論社，2013年の書評	–	2015年 7月	公共選択(木鐸社) (64)		157-159頁
市川顕・稲垣文昭・奥田敦[編著]『経済体制とガバナンス』ミネルヴァ書房，2013年5月の書評	–	2015年10月	政治社会論叢(政治社会学会) (3)		51-60頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1991年～現在に至る	日本経済政策学会(国内学会)会員
1991年～現在に至る	日本財政学会(国内学会)会員
1993年～現在に至る	日本経済学会(国内学会)会員
1996年～現在に至る	公共選択学会(国内学会)会員
1996年～現在に至る	日本公共政策学会(国内学会)会員
1997年 4月～2012年 3月	公共選択学会(国内学会)幹事
2000年～現在に至る	国際公共経済学会(国内学会)会員
2008年～現在に至る	日本公共政策学会(国内学会)関西支部運営委員
2012年～現在に至る	日本公共政策学会(国内学会)理事
2012年 4月～2015年11月	公共選択学会(国内学会)理事
2013年～現在に至る	政治社会学会(国内学会)理事

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	准教授	小椋　　真奈美	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
講義内容に関するレジュメの配布	2009年 4月 ～現在に至る	担当している専門科目（統計学総論、計量経済学、入門統計学）にて毎回講義内容に沿ったレジュメを配布している。今後はWeb上でもレジュメを取得できるように検討している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
基礎経済学で使用する教材の作成	2015年 4月 ～2016年 3月	2015年度から新規に開講される「基礎経済学」に関して、シラバスの「到達目標」を提案しクラス間での統一化をはかった。また、授業で使用される教材を作成し、他のクラスへ教材を提供する予定である。
プログラム基礎演習のテキスト	2015年 8月 ～現在に至る	経済学部必修科目のプログラム基礎演習で使用するテキストをプログラム担当者4名で執筆した（第1、2章担当）。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
『青が散る』アワード1次審査への協力	2014年10月 ～2014年11月 4日	『青が散る』アワードの1次審査員となり、作文などの選定を行った。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
応用計量経済学研究	共著	2015年 3月	(勁草書房)	◎増田淳矢、小椋真奈美、英邦広、畔津憲司、山田誠治	17-49頁
論文					
A survey on demand systems for the nonstationary data process	単著	2012年12月	Otemon Economic Studies 45		7-17頁
Expansion of the difference in consumer surplus between the Japanese prefectural capitals: the consideration by the cost-of-living index	単著	2014年12月	Otemon Economic Studies(Otemon Gakuin University) 47		1-16頁
The estimation of a panel cointegrated demand system in Japan:Results from a panel vector error correction model (査読付)	単著	2015年 6月	International Journal of Intelligent Technologies and Applied Statistics 8(2)		25-40頁
Measurement of the cost-of-living index in the EASI model: Evidence from the Japanese expenditure data (査読付)	単著	2016年 3月	Asian Journal of Economic Modelling 4(1)		28-46頁
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2004年 4月～現在に至る	関西計量経済学研究会(国内研究会)会員
2004年10月～現在に至る	日本経済学会(国内学会)会員
2006年 7月～現在に至る	日本統計学会(国内学会)会員
2011年 4月～現在に至る	中京大学経済研究所研究員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	教授	近藤　伸二	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
アジア実力派企業のカリスマ創業者	単著	2012年 8月	(中央公論新社)		
論文					
インターネット利用者5億3800万人　中国ネット界の3大経営者	単著	2012年11月	エコノミスト(毎日新聞社) (2012年11月12日)		
韓台中の強い企業　サムスンの営業利益は年間２兆円ペース	単著	2013年 2月	エコノミスト(毎日新聞社) (2013年2月11日)		
台湾総統選、民進党が優勢　再び緊迫化に向かう中台関係	単著	2015年10月	エコノミスト (2015年10月20日)		
国際シンポジウム報告（１）「ＡＳＥＡＮ経済共同体と日本－統合深化を分析する－」	単著	2015年12月	オーストラリア研究紀要(追手門学院大学オーストラリア・アジア研究所) (41)		２-15頁
接近する中台　経済交流にブレーキか　１月総統選で新たな関係模索	単著	2015年12月	エコノミスト(毎日新聞出版) (2015年12月29日・2016年１月５日合併号)		
台湾総統選　圧勝の蔡英文氏「中国を挑発しない」	単著	2016年 1月	エコノミスト(毎日新聞出版) (2016年２月２日号)		
実務派に住民期待	単著	2016年 1月	毎日新聞(毎日新聞社) (2016年１月17日朝刊)		
その他					
２期目の台湾・馬英九政権と日中台関係	単著	2012年 4月	三水会勉強会講師(大阪市)		
行政発信力の向上	単著	2012年 6月	人事院近畿事務局研修会(大阪市)		
アジア実力派企業のカリスマ創業者	単著	2012年 9月	大阪日台交流協会９月例会(大阪市)		
メディアと人権	単著	2012年10月	三重県伊賀県民センター人権研修会(三重県伊賀上野市)		
なぜ、日本の電機メーカーはアジアの後塵を拝したのか	単著	2012年11月	天満インキュベーションラボ・ビジネスセミナー(大阪市)		
危機に立つ日本のものづくり	単著	2012年12月	社会保険研究会冬季例会講師(神戸市)		
アジア昇龍企業のカリスマ創業者に学べ	単著	2013年 1月	ＦＲＩＤＡＹ(講談社) (2013年1月18日)		
世界の経済統合の行方	単著	2013年 1月	大阪狭山市熟年大学一般教養公開講座(大阪府大阪狭山市)		
台湾企業の実力と日台連携の可能性	単著	2013年 3月	ベンチャーコミュニティー３月例会(大阪市)		
危機に立つ日本のものづくりと台頭するアジア企業	単著	2013年 4月	岸和田健老大学特別記念講座講師(大阪府岸和田市)		
霧社事件と台湾の先住民政策―映画『セデック・バレ』日本公開を前に―	単著	2013年 4月	大阪日台交流協会４月例会(大阪市)		

危機に立つ日本のものづくりと台頭するアジア企業	単著	2013年 5月	アジア・ビジネス研究(大阪市)		
台湾人のアイデンティティーと日台関係	単著	2013年 8月	富山県日台友好議員連盟総会(富山市)		
台湾の「族群」と政治的立場	単著	2013年 9月	ユースワーカー「アジアの会」第41回例会(大阪市)		
台湾経済の現状と日台連携の可能性	単著	2013年12月	泉大津ライオンズクラブ例会(大阪府泉大津市)		
２０１４年　中国経済の行方	単著	2014年 1月	毎日文化センター広島新春経済セミナー(広島市)		
日本のモノづくりはどうなる	単著	2014年 5月	おうてもん塾経済学入門講座(大阪市)		
中台経済交流の現状と展望	単著	2015年 3月	大阪日台交流協会３月例会(大阪市)		
危機に立つ日本のものづくり	単著	2015年 5月	はびきの市民大学平成２７年度前期講座(大阪府羽曳野市)		
台湾総統選挙の歴史と展望	単著	2015年10月	台湾協会講演会(東京都千代田区)		
中台首脳会談の評価と台湾総統選挙の展望	単著	2015年11月	大阪日台交流協会11月例会(大阪市)		
中国の民営企業	単著	2015年11月	日本知的財産協会国際第３委員会研究会(大阪市)		
離島から見る台湾の歴史	単著	2015年11月	ビジネススクール・イン・梅田－知られざるアジア・オーストラリアー(大阪市（追手門学院大阪梅田サテライト）)		
総統選が示した台湾社会の変革	単著	2016年 2月	第43回日本と台湾を考える集い「台湾の政治選択と私たち」(大阪市)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2005年 4月～現在に至る	台湾史研究会(国内学会)会員
2005年 4月～現在に至る	日本台湾学会(国内学会)会員
2009年10月～2012年 9月	毎日放送ラジオ報道番組「たね蒔きジャーナル」コメンテーター
2011年 4月～2014年 3月	大阪労災病院医療事故等調査委員会委員（2013年より院内医療事故調査委員会に改名）
2012年 7月～2012年 7月	公開シンポジウム「考えよう！エネルギーのこと！！～節電から考える家庭のエネルギーのあり方～」のコーディネーター
2014年 2月～2014年 2月	台湾協会報2014年２月号に「『日本統治時代ブーム』が映し出す台湾の現状」のタイトルで寄稿
2014年 4月～2014年 4月	台湾協会報2014年４月号に「原則と実務を使い分ける中台の知恵」のタイトルで寄稿
2014年 4月～現在に至る	日本日中関係学会(国内学会)会員
2014年 5月～2014年 5月	台湾協会報2014年５月号に「受け継がれる台湾学生運動の精神」のタイトルで寄稿
2014年 6月～2014年 6月	台湾協会報2014年６月号に「エイサーの栄光と挫折」のタイトルで寄稿
2014年 7月～2014年 7月	台湾協会報2014年７月号に「高まる台湾旅行人気」のタイトルで寄稿
2014年 8月～2014年 8月	台湾協会報2014年８月号に「根付く『自転車文化』」のタイトルで寄稿
2014年 9月～2014年 9月	台湾協会報2014年９月号に「『半導体の父』が警告した日本の将来」のタイトルで寄稿
2014年10月～2014年10月	台湾協会報2014年10月号に「李香蘭が残した足跡」のタイトルで寄稿
2014年11月～2014年11月	台湾協会報2014年11月号に「香港民主化運動との連携」のタイトルで寄稿
2014年12月～2014年12月	台湾協会報2014年12月号に「苦戦する貿易自由化競争」のタイトルで寄稿
2014年12月～2014年12月	茨木中高・大手前中高・大学の懇談会に出席し、中高の教員らと意見交換
2015年 1月～2015年 1月	台湾協会報2015年１月号に「２０１５年の展望」のタイトルで寄稿
2015年 2月～2015年 2月	台湾協会報2015年２月号に「新幹線の経営危機」のタイトルで寄稿
2015年 2月～2015年 2月	毎日新聞2015年２月12日朝刊に「台湾出身の歌手テレサ・テン死去から20年」のテーマで寄稿（１ページ全面）
2015年 3月～2015年 3月	台湾協会報2015年３月号に「災害で強まる日本との絆」のタイトルで寄稿
2015年 4月～2015年 4月	台湾協会報2015年４月号に「リー・クアンユー氏の『遺言』」のタイトルで寄稿
2015年 4月～2015年 4月	日本経済新聞2015年４月27日夕刊「テレサ・テン　今また輝き」でコメントが紹介される
2015年 5月～2015年 5月	はびきの市民大学で「危機に立つ日本のものづくり」のテーマで講演
2015年 5月～2015年 5月	台湾協会報2015年５月号に「ＡＩＩＢ参加で再燃する名称問題」のタイトルで寄稿
2015年 6月～2015年 6月	台湾協会報2015年６月号に「日本産食品の輸入規制強化の背景」のタイトルで寄稿
2015年 7月～2015年 7月	台湾協会報2015年７月号に「脱アップル依存を急ぐ鴻海」のタイトルで寄稿
2015年 8月～2015年 8月	台湾協会報2015年８月号に「外省人を描いた直木賞受賞作」のタイトルで寄稿
2015年 9月～2015年 9月	台湾協会報2015年９月号に「東京スター銀行の挑戦」のタイトルで寄稿
2015年10月～2015年10月	台湾協会報2015年10月号に「政治に翻弄されてきた『故宮南院』」のタイトルで寄稿
2015年10月～2015年10月	台湾協会講演会で「台湾総統選挙の歴史と展望」のテーマで講演
2015年10月～2015年10月	毎日新聞2015年10日30日夕刊にシンポジウム「ＡＳＥＡＮ経済共同体と日本」の抄録を掲載
2015年11月～2015年11月	台湾協会報2015年11月号に「中台首脳会談で挽回狙う国民党」のタイトルで寄稿
2015年11月～2015年11月	台湾協会報2015年11月号に講演抄録を掲載
2015年11月～2015年11月	大阪日台交流協会11月例会で「中台首脳会談の評価と台湾総統選挙の展望」のテーマで講演
2015年11月～2015年11月	日本知的財産協会国際第３委員会研究会で「中国の民営企業」のテーマで講演
2015年11月～2015年11月	朝日放送テレビ番組に出演し、中台首脳会談について解説
2015年11月～2015年11月	追手門学院大学オーストラリア・アジア研究所主催の公開講座で「離島から見る台湾」のテーマで講演
2015年12月～2015年12月	台湾協会報2015年12月号に「『対等演出』でも滲み出た温度差」のタイトルで寄稿
2016年 1月～2016年 1月	台湾協会報2016年１月号に「南シナ海で主張する領有権」のタイトルで寄稿
2016年 1月～現在に至る	朝日放送ラジオ番組に出演し、台湾総統選について解説
2016年 2月～2016年 2月	台湾協会報2016年２月号に「新時代を切り開いた総統選」のタイトルで寄稿
2016年 2月～2016年 2月	第43回日本と台湾を考える集いで「総統選が示した台湾社会の変革」のテーマで講演
2016年 3月～2016年 3月	台湾協会報2016年３月号に「シャープ買収で見せた郭台銘会長の執念」のタイトルで寄稿

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	教授	櫻庭　千尋	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
学内教育用LAN（LMS WebClass）での復習教材の導入	2015年 9月14日 ～2016年 3月31日	講義中心の授業（追手門学院大学経済学部の経済変動論2B、日本経済論2A、ヨーロッパ経済論2A。）において、学生の復習を促すために、小テストを組み込んだ復習教材を学内教育用LAN（LMS WebClass）で、毎授業後に配信し、学生がLMS WebClassで解答を入力提出する方法を導入した。復習教材は授業で教員が取り上げた独自の内容とし、学生がテスト形式で学び易い構成とし、解答直後に自動採点して解説を確認できるように設定して、学習効果を高めた。また、締切設定により、学生に規則正しい復習リズムが身に付くように、学習姿勢向上にも効果を発揮した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
ヨーロッパ経済論1Aの教材	2014年 4月 1日 ～2014年 8月31日	追手門学院大学経済学部のヨーロッパ経済論1A（春学期、2単位）の基本教材として、ヨーロッパの特徴ある経済を、ポイントを絞った全15回のスライドにまとめてPowerpointで作成し、配布するとともに、随時復習できるように学生用Web（UNIPA）に格納し閲覧可能とした。
日本経済論1Aの教材	2014年 4月 1日 ～2014年 8月31日	追手門学院大学経済学部の日本経済論1A（春学期、2単位）の基本教材として、日本経済の特性を、学習鵜し易い簡潔な形にまとめた全15回のスライドをPowerpointで作成し、配布するとともに、随時復習できるように学生用Web（UNIPA）に格納し閲覧可能とした。
経済変動論1Bの教材	2014年 4月 1日 ～2014年 8月31日	追手門学院大学経済学部の経済変動論1B（春学期、2単位）の基本教材として、経済成長論の基礎を学習し易い形にまとめた全15回のスライドをPowerpointで作成し、配布するとともに、随時復習できるように学生用Web（UNIPA）に格納し閲覧可能とした。
経済学基礎演習1Dの教材	2014年 4月 1日 ～2014年 8月31日	追手門学院大学経済学部の経済学基礎演習1D（春学期、2単位）で行なったディベート実習教材として、米国金融政策の変更を決定した2007年8月10日のFOMC詳細議事録を全訳して、履修学生に配布し、実演させた。実際の討議応酬の激しさを、出席学生が実感できた一方、他国の金融政策という高度な内容を消化し切れなかった点も浮き彫りになり、教材選択に当たっての次年度以降の課題となった。
経済学特殊講義1の教材	2014年 4月 1日 ～2014年 8月31日	追手門学院大学経済学部の経済学特殊講義1（春学期、2単位）で取り上げた動学的一般均衡理論を、ポイントを絞って書き下した全15回のスライドをPowerpointで作成し、配布するとともに、随時復習できるように学生用Web（UNIPA）に格納し閲覧可能とした。履修学生の理解進度に合わせて、後半部分を書き改めた。
経済学特殊講義9の教材	2014年 4月 1日 ～2014年 8月31日	追手門学院大学経済学部の経済学特殊講義9（春学期、2単位）で取り上げた金融危機の代表例を、入門学生にも学習できるように書き下し、配布した。随時復習できるように、授業で視聴したビデオを除き、学生用Web（UNIPA）に格納し閲覧可能とした。
ヨーロッパ経済論2Aの教材	2014年 9月15日 ～2015年 3月31日	追手門学院大学経済学部のヨーロッパ経済論2A（秋学期、2単位）の基本教材として、EU統合の基本事項を練習問題形式にまとめ、かつ授業期間中に加わった最新事情を加味した全15回の教材シートをWordで作成し、配布するとともに、随時復習できるように学生用Web（UNIPA）に格納し閲覧可能とした。
日本経済論2Aの教材	2014年 9月15日 ～2015年 3月31日	追手門学院大学経済学部の日本経済論2A（秋学期、2単位）の基本教材として、日本のマクロ経済政策を学習し易い練習問題形式にまとめた、全15回の教材シートをWordで作成し、事前配布するとともに、随時復習できるように学生用Web（UNIPA）に格納し閲覧可能とした。授業期間中に生じた消費税率再引き上げの延期を取り込むことで、政策と国民との関わりを学生に印象深く伝えることができた。
経済変動論2Bの教材	2014年 9月15日 ～2015年 3月31日	追手門学院大学経済学部の経済変動論2B（秋学期、2単位）の基本教材として、日本の景気変動を実戦的に分析する方法と練習問題をまとめた全15回の教材シートをWordで作成し、事前配布するとともに、随時復習できるように学生用Web（UNIPA）に格納し閲覧可能とした。
経済学特殊講義10の教材	2014年 9月15日 ～2015年 3月31日	追手門学院大学経済学部の経済学特殊講義10（秋学期、2単位）で取り上げた、定期刊行経済分析レポートの読み方とその実戦問題を書き下し、配布した。このうち実戦問題については、随時復習できるように学生用Web（UNIPA）に格納し閲覧可能とした。
経済学特殊講義2の教材	2014年 9月15日 ～2015年 3月31日	追手門学院大学経済学部の経済学特殊講義2（秋学期、2単位）で取り上げた動学的一般均衡モデルを用いた応用分析を、平易かつ直感的に学習できるように書き下した、全15回のスライドをPowerpointで作成し、配布するとともに、随時復習できるように学生用Web（UNIPA）に格納し閲覧可能とした。履修学生の提出した質問シートを踏まえて、入門レベルの説明の比重を高める修正を加えた。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					

証券アナリスト第２次レベル通信教育講座テキスト2015『市場と経済の分析　第6回　国際経済・金融の諸問題』	単著	2016年 2月	(公益社団法人　日本証券アナリスト協会)		
論文					
A note on consolidated statistics of cross-border exposures	単著	2012年 4月	IFC Working Papers 8 (Bank for International Settlements) http://www.bis.org/ifc/publ/ifcwork08.pdf		67-71頁
動学的経済モデルと統計整備	単著	2014年 3月	研究開発の俯瞰報告書 システム科学技術分野（2013年）(独立行政法人　科学技術振興機構　研究開発戦略センター) CRDS-FY2012(FR-07)		78-83頁
その他					
経済統計の国際比較向上	-	2012年 4月	日本統計学会会報 (151)		11-13頁
金融ビジネス：　消費税8%で何が変わるか	-	2014年 5月	特別公開講座「おうてもん塾」(追手門学院　大阪梅田サテライト)		
A comment on two papers presented to Invited Session 48 ″Modelling Risk: Theory and Applications″ of the ISI-RSC 2014	-	2014年11月	International Statistical Institute （国際統計協会） Regional Statistics Conference　(Malaysia)		
マクロ経済モデル：わが国における発展と課題	-	2014年12月	第7回システム科学技術研究推進会議(独立行政法人　科学技術振興機構　研究開発戦略センター)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1986年 8月～現在に至る	日本経営財務研究学会(国内学会)会員
1986年10月～現在に至る	日本統計学会(国内学会)会員
1993年 7月～現在に至る	日本ファイナンス学会(国内学会)会員
2009年 5月～2012年11月	統計委員会 日本銀行代表
2009年 8月～2012年12月	Irving Fisher Committee on Central Bank Statistics, Vice-chairperson（中央銀行統計に関するアービング・フィッシャー委員会副議長）
2010年 6月～2012年 3月	国土交通省土地・水資源局「不動産価格の動向指標の整備に関する研究会」 委員
2010年10月～2012年11月	IMF Financial Soundness Indicators country coordinator（国際通貨基金　金融安定化指標に関する日本政府代表）
2013年 9月～2013年12月	知日派国際人育成プログラム・セミナー講師
2014年11月	ISI Regional Statistics Conference（国際統計協会アジア地域統計コンファランス）の第41分科会（住宅バブルの研究）座長
2015年 2月	独立行政法人科学技術振興機構　研究開発戦略センター（JST/CRDS）主催ワークショップ「社会変動予測と社会システム構築のための社会シミュレーションの展望」でのコメンテーター

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	教授	佐藤　伸行	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
質問や疑問をコメントシートにて提出させ、次の授業でフィードバックすることで学生の参加意識を高める。	2015年4月～2016年3月	口頭による質問を遠慮する傾向のある学生たちに書面で質問を提出させ、次の授業の冒頭で回答する。こうしたフィードバックにより、復習効果を高め、学生も継続的な授業への参画意識を強めることができる。
2　作成した教科書、教材、参考書		
「世界最強の女帝　メルケルの謎」	2016年2月	ドイツ首相メルケルの評伝。ドイツの現代史、現在の欧州情勢の解説にもなる一冊とした。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
世界最強の女帝メルケルの謎	単著	2016年2月	文藝春秋		
論文					
事前に反発想定の必要あり―TPPは中国を律する新秩序だ	単著	2013年 3月	改革者(政策研究フォーラム)(2013年３月号)		22-25頁
「ユーラシア戦略」始動か―中国沿岸からバルト海への大動脈握るドイツ	単著	2014年 9月	改革者(政策研究フォーラム)(2014. ９月号)		26-29頁
「オバマ流」が混迷に拍車―先の見えないシリア内戦とアメリカ	単著	2014年11月	改革者(政策研究フォーラム)(2014. 11月号)		22-25頁
その他					
「人権」に揺れる欧州サッカー選手権	-	2012年 6月	フォーサイト電子版(新潮社)		
日本人女子学生殺害で炙り出される国家の病根―ルーマニア	-	2012年 9月	フォーサイト電子版(新潮社)		
オバマ大統領は女性で勝つ	-	2012年10月	J2TOP(時事通信社)		
「対日包囲」の先頭に立つメルケル独首相	-	2013年 1月	フォーサイト電子版(新潮社)		
「焼身自殺」相次ぐブルガリアの絶望	-	2013年 4月	フォーサイト電子版(新潮社)		
人生を決めるのはやはり情熱	-	2013年 4月	改革者(政策研究フォーラム)(2013年4月号)		58-58頁
鷹揚に構えたいが	-	2013年 5月	改革者(政策研究フォーラム)(2013年5月号)		56-56頁
遥かなインパール	-	2013年 6月	改革者(政策研究フォーラム)(2013年6月号)		56-56頁
「おフランス」随想	-	2013年 7月	改革者(政策研究フォーラム)(2013年7月)		56-56頁
タクシードライバーに聞け	-	2013年 8月	改革者(政策研究フォーラム)(2013年8月号)		56-56頁
キャッチコピーは要注意	-	2013年 9月	改革者(政策研究フォーラム)(2013年9月号)		56-56頁
「白河越え」を待ちながら	-	2013年10月	改革者(政策研究フォーラム)(2013年10月号)		41-41頁
東北とビスマルクの密議	-	2013年11月	改革者(政策研究フォーラム)(2013年11月号)		56-56頁

死体は語る	–	2013年12月	改革者(政策研究フォーラム) (2013年12月号)		56-56頁
失われたマケドニア	–	2014年 1月	改革者(政策研究フォーラム) (2014年１月号)		56-56頁
永遠なる賊軍	–	2014年 2月	改革者(政策研究フォーラム) (2014年2月)		58-58頁
メルケルも「打つ手なし」のウクライナ危機	–	2014年 3月	フォーサイト電子版(新潮社)		
天才も緊張する	–	2014年 4月	改革者(政策研究フォーラム) (2014年4月)		58-58頁
「詐話師」との戦い	–	2014年 5月	改革者(政策研究フォーラム) (2014年5月号)		58-58頁
「東海」随想	–	2014年 6月	改革者(政策研究フォーラム) (2014年6月号)		58-58頁
「独中同盟」は西側のリスク要因と化す	–	2014年 7月	フォーサイト電子版(新潮社)		
新聞力	–	2014年 7月	改革者(政策研究フォーラム) (2014年7月号)		58-58頁
欧州に亀裂もたらす「サウスストリーム」	–	2014年11月	フォーサイト電子版(新潮社)		
ロシア「サウスストリーム」中止の衝撃：新局面のエネルギー地政学	–	2014年12月	フォーサイト電子版(新潮社)		
ＥＣＢ量的緩和とドイツの「距離感」	–	2015年 1月	フォーサイト電子版(新潮社)		
何ゆえの訪日か？「メルケル独首相」が示した「バランス感覚」の妙	–	2015年 3月	フォーサイト電子版(新潮社)		
新次元のドイツ歴史認識	単著	2015年7月	海外事情（拓殖大学海外事情研究所)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2015年6月	大阪朝日放送（ABC)ニュース情報番組「正義のミカタ」に主演、ドイツ内政・外交について解説
2015年7月	おうてもん塾で講演

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	教授	新野　　三四子	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
自作小説を用いた「プロセスレコード」学習法	2006年 3月29日 ～2015年 3月31日	追手門学院大学人間学部紀要２０号にて紹介、105-123頁。自作の小説「夏子」を用いて、利用者-援助者のコミュニケーション場面を疑似体験し自己覚知をすすめるというペーパーシミュレーションの手法を、援助技術の学習に取り入れている。2013年度は「社会福祉学特殊講義２」にて活用した。
新入生演習におけるピアサポーターの活用	2014年 4月 1日 ～2014年 7月31日	新入生演習において、後半に自主的な企画を立案させる段階で、学習支援室で活動する上級生のピアサポーターを活用した。数度にわたり2名のサポーターと詳細な打ち合わせを行い進行表（手順書）を作成し、それに基づいて7月9日授業にて、2名のピアサポーターがファシリテーターとなり自主企画立案書作成を行った。翌週その立案書に基づき演習の総仕上げを行った。新入生にとっても上級生ピアサポーターにとっても効果のある教育方法実践であった。
福祉活動実践者を招いての支援の実際と課題についての学習	2014年 4月 1日 ～2015年 3月31日	6月19日および24日NPO法人みらいず：池谷氏、作田氏、株式会社とらいず：若松氏、宮武氏、7月8日NPO法人素材探検隊：田中正之氏、7月17日一般社団法人釜ヶ崎伝道支援会：野上綾夫氏、12月11日みらいず：池谷氏ほか2名を、担当授業「福祉の諸問題」「共生社会と人間」「現代社会の人間関係」に招き、支援活動の実際と課題などを直接聞き質疑応答などを通して、より実践につながる学習を深めるという教育方法を実践した。
私の町の徹底検証ポスターによるプレゼンテーション学習	2014年 9月15日 ～2015年 3月31日	教養ゼミ「福祉マインド社会の探求」において、各人の住む地域や通学途上のバリアや不自由な点を徹底的に調べ、写真や図を用いて大判ポスターを作成し（パワーポイントで作成できる者は挑戦した）プレゼンテーションを行い、ユニバーサル社会実現に向けて改善への提言と意見交換を行うという教育方法を実践した。
茨木市総合計画案に対するパブリックコメント提言学習	2014年 9月15日 ～2015年 3月31日	「社会福祉概論」において地域福祉の学習題材として茨木市が作成中であった第５次総合計画案を用いた。それに対し、地元住民・地元学生の立場から、パブリックコメントを書いて行政に提言し（フォーマルに市に提出したものはないが、主なものは当該事務局にコピーを渡した）、地域の改革やまちづくりについて関心を高めるという教育方法を実践した。
釜ヶ崎地域の現場視察学習	2014年 9月15日 ～2015年 3月31日	「社会福祉概論」授業にて、9月より生活困窮・ホームレス等社会的問題を大阪西成特区構想と併せて学習し、11月14日に西成めぐみ教会／釜ヶ崎支援事務局を主宰する野上綾男氏を訪問して現地視察とレクチャーを受け、レポートを作成。社会的課題に対する意識を高めるための効果的な現場視察・実地学習という教育方法を実践した。
障害者・高齢者疑似体験実習	2014年 9月15日 ～2015年 3月31日	教養ゼミ「福祉マインド社会の探求」において、障害者や高齢者の疑似体験用具（車いす、アイマスク、固定ベルト、視野狭窄ゴーグル等々）を装着して学内を移動し学内施設（トイレ、エレベーターなど）を使用してみるという当事者体験実習を行い、当事者に対する理解と支援についての意識・知識・方法を高める教育方法を実践した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
自作小説を用いた「プロセスレコード」学習法	2006年 3月29日 ～2014年 3月31日	追手門学院大学人間学部紀要２０号にて紹介、105-123頁。自作の小説「夏子」を用いて、利用者-援助者のコミュニケーション場面を疑似体験し自己覚知をすすめるというペーパーシミュレーションの手法を、援助技術の学習に取り入れた教材である。授業では2013年度は社会福祉学特殊講義２にて活用した。
利用者理解を深める実習学習の展開	2007年 3月20日 ～2014年 3月31日	新野三四子『福祉マインド教育実践論』（ナカニシヤ出版）に所収、135-159頁。利用者理解の方法・記入用紙・実際を示した援助現場実習の学習教材である。授業はもちろん現場での研修等にも利用可能である。本学授業では2013年度は社会福祉学特殊講義２で活用した。
福祉ワーカー養成講座「福祉マインド実践論」	2007年 3月20日 ～2014年 3月31日	新野三四子『福祉マインド教育実践論』（ナカニシヤ出版）に所収、169-184頁。福祉ワーカーが備えるべき４つの福祉マインドを提示し、援助実践の具体例など示した教材である。授業はもちろん援助職の研修等でも使用可能である。授業では2013年度は社会福祉概論１および２にて活用した。
基礎社会福祉学2013年版テキスト	2013年 6月 2日 ～2014年 3月31日	2013年度介護教員講習会用に作成したＡ４版46ページから成るテキストである。最新のデータや資料を掲載しているので、本学授業においても有効に活用できる。2013年度は社会福祉概論１、同２、および福祉の諸問題にて活用した。
基礎社会福祉学2014年版テキスト	2014年 4月26日 ～現在に至る	2014年度介護教員講習会用に作成したＡ４版46ページから成るテキストである（社団法人大阪介護福祉士会発行）。前年のものに最新のデータや情報を取り入れ大幅改訂した。豊富な資料を掲載しているので、本学授業においても有効に活用できる。2014年度は「社会福祉概論１」「同２」「福祉の諸問題」にて活用した。次年度授業でも利用したい。
ペーパーシミュレーションによる利用者理解教材	2014年 9月15日 ～現在に至る	新野三四子『福祉マインド教育実践論』（ナカニシヤ出版、2007）に所収の教材「利用者理解を深める実習学習の展開」を時代と制度の変化に即して大幅に改訂し別冊子として作成し直した。自作小説「夏子」を用いて、小説に登場する利用者の全体像を「利用者理解Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の3種の用紙に記入し利用者についての理解を深め、援助に必要なアセスメントを行うというペーパーシミュレーションの方法を用いた学習教材である。2014年度の「社会福祉学特殊講義２」において活用し学習効果を上げた。次年度授業でも活用したい。

私の町の徹底検証スライド教材	2014年 9月15日 ～現在に至る	2014年度「教養ゼミ：福祉マインド社会の探求」の教材として、茨木市、大阪市等の町中風景の写真を撮影し、身近にあるバリア、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、ユニバーサル社会等の実際を示してスライド（パワーポイント）46枚に編集した。ノーマライゼーションの目指すべきはユニバーサル社会であるという命題の証左となる有用な教材として効果があった。また「福祉の諸問題」「社会福祉概論」授業においてもその一部を活用できた。次年度も活用したい。
介護従事者の倫理	2015年 2月20日 ～現在に至る	成清美治・笠原幸子編著『介護福祉論』（学文社、2015.2.20）所収（151-165頁）。福祉ワーカーの実践の根拠となる価値/倫理、具体的な職業倫理、実践の大義等について詳細に解説した教科書。「社会福祉概論」「社会福祉学特殊講義」にて有効活用している。
福祉ワーカーの職業倫理と実践の大義	2015年 3月15日 ～現在に至る	追手門経済論集49巻2号（追手門学院大学経済学会発行、2015.3.15）所収（75-109頁）。福祉ワーカー論を扱う「社会福祉概論」「社会福祉学特殊講義」の教材として有効利用している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
ダイバージョナルセラピーワーカーの養成と役割	2014年 5月18日	日本ダイバージョナルセラピー協会主催「第5回ダイバージョナルセラピーフォーラムin福岡」において表題の講演を行った。高齢者・障害者等のケアにおけるDTワーカー養成教育の必要性を説き、大学における福祉教育に導入すべき教育内容・方法が多くあることを提言した。開催場所：福岡市TKP天神シティセンター。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
大学院生の修士論文作成の協力	2014年 9月 ～2015年 3月	私が臨床心理士有資格者であることから、心理学研究科2回生Ｆ.Ｈ.の修士論文執筆に必要な調査票内容の相談と調査の実施（対象学生への配布・記入・回収）に関し、本人及び指導教員の馬場天信准教授より協力要請があり、積極的に相談に応じ調査の実施に協力した。同学生は無事修士論文を提出し合格した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『日本キリスト教社会福祉の歴史』「キリスト教社会福祉の養成・教育・専門職の歩みー１日本の養成・教育の歩みと展望-総論ー」	共著	2014年 6月	(ミネルヴァ書房)	日本キリスト教社会福祉学会編、阿部志郎・岡本榮一監修	387-395頁
『日本キリスト教社会福祉の歴史』「キリスト教社会福祉の養成・教育・専門職の歩みー４養成教育の現状と課題-調査報告からー」	共著	2014年 6月	(ミネルヴァ書房)	日本キリスト教社会福祉学会編、阿部志郎・岡本榮一監修	409-428頁
『介護福祉論』	共著	2015年 2月	(学文社)	成清美治、笠原幸子ほか	151-165頁
論文					
ダイバージョナルセラピーワーカーの現状と課題	単著	2013年 3月	追手門経済論集(追手門学院大学経済学会) 47(2)		102-151頁
福祉ワーカーの職業倫理と実践の大義	単著	2015年 3月	追手門経済論集(追手門学院大学経済学会) 49(2)		75-109頁
クライエントの人権侵害とワーカーの職業倫理	単著	2016年 3月	追手門経済論集(追手門学院大学経済学会) 50(2)		23-48頁
その他					
ダイバージョナルセラピーにおける福祉マインド実践論	-	2013年 2月	ダイバージョナルセラピーワーカー養成講座第７期講座(東京)日本ＤＴ協会		
ダイバージョナルセラピーワーカーの実態と意識に関する調査報告書	-	2013年 3月	日本ＤＴ協会(日本ダイバージョナルセラピー協会)		
ダイバージョナルセラピーワーカーの実態と意識に関する調査報告	-	2013年 6月	日本ダイバージョナルセラピー協会設立10周年記念フォーラム(東京)		
基礎社会福祉学（2）	-	2013年 6月	平成25年度介護教員養成講座(大阪)大阪介護福祉士会		
基礎社会福祉学（4）	-	2013年 6月	平成25年度介護教員講習会(大阪)大阪介護福祉士会		
ダイバージョナルセラピーの導入とワーカー育成ーワーカー調査の結果をふまえて適用可能性を探るー	-	2013年10月	第21回日本介護福祉学会大会(熊本市)		
ダイバージョナルセラピーにおける福祉マインド実践論	-	2013年11月	ダイバージョナルセラピーワーカー養成講座第８期講座(大阪)日本ＤＴ協会		

基礎社会福祉学（1）	–	2014年 4月	平成26年度介護教員講習会(大阪)大阪介護福祉士会		
基礎社会福祉学（2）	–	2014年 4月	平成26年度介護教員講習会(大阪)大阪介護福祉士会		
ダイバージョナルセラピーワーカーの養成と役割	–	2014年 5月	第5回ダイバージョナルセラピーフォーラムin福岡(福岡)日本ＤＴ協会		
ダイバージョナルセラピーにおける福祉マインド実践論	–	2014年 7月	ダイバージョナルセラピーワーカー養成講座第９期講座(熊本市)日本ＤＴ協会		
ダイバージョナルセラピーのプロセス演習	–	2014年 9月	ダイバージョナルセラピーワーカー養成講座第９期講座(熊本市)日本ＤＴ協会		
ダイバージョナルセラピー実践への演習	–	2014年10月	ダイバージョナルセラピーワーカー養成講座第９期講座(熊本市)日本ＤＴ協会		
受講者によるプレゼンテーションの講評	–	2014年10月	ダイバージョナルセラピーワーカー養成講座第９期講座(熊本市)日本ＤＴ協会		
ダイバージョナルセラピーにおける福祉マインド実践論	–	2015年 3月	ダイバージョナルセラピーワーカー養成講座第10期講座(東京)日本ＤＴ協会		
ダイバージョナルセラピーのプロセス演習	–	2015年 5月	ダイバージョナルセラピーワーカー養成講座第10期講座(東京)日本ＤＴ協会		
ダイバージョナルセラピー実践への演習	–	2015年 6月	ダイバージョナルセラピーワーカー養成講座第10期講座(東京)日本ＤＴ協会		
受講者によるプレゼンテーションの講評	–	2015年 6月	ダイバージョナルセラピーワーカー養成講座第10期講座(千葉)日本ＤＴ協会		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1976年 5月～現在に至る	日本キリスト教社会福祉学会(国内学会)会員
1976年10月～現在に至る	日本社会福祉学会(国内学会)会員
1985年 4月～現在に至る	日本ソーシャルワーカー協会会員及び研修委員会委員
1990年10月～現在に至る	日本心理臨床学会(国内学会)会員
1991年 3月～現在に至る	臨床心理士取得（登録番号02909）
1993年10月～現在に至る	日本介護福祉学会(国内学会)会員
1995年 4月～現在に至る	社会福祉士取得（登録番号04040）
1999年 1月～現在に至る	こうべ安心サポート委員会安心生活支援部会・成年後見判定部会委員
1999年 6月～2012年 6月	日本キリスト教社会福祉学会(国内学会)理事
2000年 4月～2014年 3月	日本介護福祉学会(国内学会)学界誌編集委員
2001年 4月～現在に至る	こうべ安心サポート委員会事業運用審査委員会委員
2002年 4月～現在に至る	特定非営利活動法人日本ダイバージョナルセラピー協会監事
2002年 6月～現在に至る	日本子ども家庭福祉学会(国内学会)会員
2002年12月～現在に至る	障害者支援施設はんしん自立の家苦情解決第三者委員
2004年 4月～現在に至る	社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会評議員
2006年 5月～2014年 3月	茨木市障害程度区分等認定審査会　委員・合議体の長
2007年 4月～現在に至る	茨木市個人情報保護運営審議会　委員
2008年 1月～現在に至る	ダイバージョナルセラピーワーカー養成講座運営委員及び講師
2008年 3月～2013年 3月	茨木市障害者施策推進協議会　委員・副会長
2009年 4月～現在に至る	ダイバージョナルセラピーワーカー認定試験委員
2009年 4月～2014年 3月	日本介護福祉学会(国内学会)学会誌査読委員
2011年 4月～現在に至る	茨木市障害者自立支援協議会オブザーバー
2012年 8月～2013年 3月	茨木市保育所設置法人選考委員会 外部委員
2013年 4月～現在に至る	茨木市地域福祉推進審議会　委員
2013年 4月～現在に至る	茨木市社会福祉法人設立認可及び施設整備審査委員会　委員・副会長
2013年 4月～2013年 7月	茨木市立保育所の民営化に伴う移管先法人選考委員会　委員
2013年10月～2014年 5月	第５次茨木市総合計画策定委員会　助言委員
2014年 4月～2014年 7月	茨木市立保育所の民営化に伴う移管先法人選考委員会　委員
2014年 4月～現在に至る	茨木市障害支援区分等認定審査会　委員・合議体の長
2014年 4月～2014年 7月	茨木市立保育所の民営化に伴う移管先法人選考委員会 委員
2014年 6月～2015年 1月	茨木市総合計画策定審議会　委員
2015年 4月～現在に至る	茨木市人権センター理事
2015年 4月～2015年 7月	茨木市立保育所の民営化に伴う移管法人選考委員会　委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	准教授	曹　　満	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
全員参加型授業の実践	2014年 4月 1日 ～2016年 3月31日	中国語ビジネスコミュニケーションの授業では、毎年数名の中国人留学生が履修している。授業内容では、どうしても多数の日本人学生のレベルに合わせなければならない現実がある。彼らにとっては、簡単すぎるので、授業への無関心から、私語や欠席し勝ちであった。このような状況の中で、どうやって留学生のやる気を喚起するかは課題だった。いろいろ考えた結果、留学生を積極的に授業効果向上の資源として活かすことにした。具体的に、毎度の授業で、基本的な部分を教えた上で、留学生の人数に応じて幾つかの小グループに分けて、留学生を囲んだ形でコミュニケーションの時間をもうけ、そのあと、各グループの成果披露してもらう。このようなやり方で、名実ともにコミュニケーションの授業になったし、全員参加型の授業ができた。このような工夫をした結果、楽しい授業もできたし、学生からも、毎年４点以上の評価を得ている。
私語と居眠り及び携帯使用への対策の実践	2014年 4月 1日 ～2016年 3月 1日	アジア経済論の授業では 1）毎度とても大きな声で講義をしている。学生の耳に十分響かせるような声を出せば、学生は私語も居眠りもしにくくなる。実際、これまで、毎度、最初の大きな声での挨拶だけで、ほとんど静かとなった。 2）学生の授業を受ける態度を成績の評価に連動させる。具体的に、 ・学生にノートを取らせて、私語と居眠りをする暇を与えないこと。授業中、ときどきノートを見ながら、その日の授業の内容をまとめさせる。または、たまにその日のートを提出してもらう。当然私語や居眠りでノートを取らない人には、評価が低くなる。学生にこのような緊張感を持たせることで、私語や居眠りがほとんどなくなった。 ・注意しても、私語をやめない学生に対し、証拠（学生証の提示）と事実確認をした上、退出してもらう。 3）携帯の使用については、授業が始まる直前に全員鞄の中に入れるようにさせること、絶対机の上におかせない。それでも、使用する人には減点措置取る。大変効果的である。 上記のような対策は、最初の1~3回の授業で全員に周知させることが重要である。
授業内容の理解度を向上させ、学生に退屈を感じさせない授業方法の実践	2015年 4月 1日 ～2016年 3月31日	講義テーマと授業内容にあわせて、適時に映像や写真を学生に見さしながら、説明していくような方法を導入した。このやり方は、学生から高く評価されていた。今後も続けていく。
2　作成した教科書、教材、参考書		
担当授業（アジア経済論）の参考資料集１と２	2014年 4月 1日 ～2016年 3月31日	出版された教科書や教材ではなく、主に各授業テーマごとに、授業の内容を理解しやすくするために作成したデータ集。資料１は、アジア諸国と日本との比較データが中心である。資料２は、中国経済関連のデータが中心である。
「基礎経済学」授業のワークシート集	2015年 4月 1日 ～2016年 3月31日	「基礎経済学」の授業で１４回分のワークシートを作成してしようした。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
問題（留年した）学生への指導	2014年 4月 1日 ～2015年 3月31日	２０１４年度に経済学部の学生対応委員を担当した。月に１回の委員会を開き、また、自分の担当クラス以外の１４名の問題学生の指導をずっとやっていた、手紙や、メール及び電話などで、頻繁に連絡していた。直接または電話での相談も数多くした。
超大型授業の苦労（アジア経済論１）	2014年 4月 1日 ～2015年 3月31日	2014年度アジア経済論１の履修者数は513名、本学唯一の400名を超えたジャンボクラス。授業マネージメントの難しさはもちろん、３回のテストと３回の課題レポート、全６回の回答用紙の枚数は2500を超えた。学生の成績に係っているので、真面目に見なければならない。１時間で、20枚ぐらいしか採点できないので、全部で120時間以上かかった。
１部学生への個別指導	2015年 4月 1日 ～2016年 3月 1日	「アジア経済論」の授業で着いていけない教養学部の学生や留学生たちを多く指導していた。彼らは皆良い成績を収めることができた。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1995年～現在に至る	日本不動産学会(国内学会)会員
1998年～現在に至る	日本環境共生学会(国内学会)会員
2013年 7月～2013年 7月	八尾市民大学講座　テーマ：日中経済の現状と今後の行方
2015年 4月～2016年 3月	日本法務省への調査研究協力

V　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	教授	寺本　博美	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
コミュニティ政策のはなし	共著	2013年 3月	(成文堂)	石川久，青柳涼子，瀧直也，本多敏明，矢尾板俊平，寺本博美	131-160頁
経済成長と経済政策（中央大学経済研究所叢書65)	共著	2016年 3月	(中央大学出版部)	栗林世，丸尾直美，寺本博美，塩見英治，中野守，飯島大邦，川島康男，本間聡，谷口洋志，前川俊一，矢尾板俊平	55-86頁
論文					
経済学教育とサービスラーニング（2)	単著	2013年 3月	淑徳大学サービスラーニングセンター年報 (3)		17-21頁
分配に関する数量的分析の視角	単著	2014年 3月	淑徳大学研究紀要（総合福祉学部・コミュニティ政策学部) (48)		101-119頁
大学における教育環境	単著	2014年 3月	淑徳大学サービスラーニングセンター年報 (4)		13-18頁
政策評価と価値基準としての共感と共生　行動経済学および神経経済学の観点から	単著	2015年 3月	淑徳大学研究紀要（総合福祉学部・コミュニティ政策学部) (49)		131-142頁
政策科学・コミュニティ・サービスラーニング―リベラル・アーツから政策研究への導線―	単著	2015年 3月	淑徳大学サービスラーニングセンター年報 (5)		31-35頁
経済学サービス・ラーニングの省察	単著	2016年 3月	淑徳大学サービスラーニングセンター年報 (6)		25-28頁
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1977年 5月～現在に至る	日本経済政策学会(国内学会)会員
1983年 9月～現在に至る	日本経済学会(国内学会)会員
1984年 9月～現在に至る	日本財政学会(国内学会)会員
1997年 4月～2015年 3月	公共選択学会(国内学会)会員
2009年 4月 1日～現在に至る	松阪市地域公共交通協議会 委員・会長

V　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	准教授	朽尾　　真一	担当資格の有無　（無）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
経済シミュレーションを用いた仮想経済の体験ができる授業の実施	2006年 4月 ～現在に至る	1998年度から経済シミュレーションを用いて仮想経済を疑似体験する授業を実施している。この経済シミュレーションは経済情報処理(国際経済学科必修・ヒューマンエコノミー学科選択科目、担当は2008年度まで)と演習の授業で利用している。(経済学部太田拓男教授と共に開発･運用を進めている。プログラム作成は外部委託している。補助金対象事業です。)　2007年度と2008年度はソフトウェア論でもプログラムの考えるための題材として利用した。 2008年7月から、気まぐれに行動する学生よりも、通常の社会のようにまじめに活動する代行プログラムを設計開発した。これによりシミュレーションが上手く動作するようになっている。　経済情報処理の担当は2007年度までで、現在の担当者は経済シミュレーションを実施していない。 2009年度からは経済学部の学科科目として「経済シミュレーション」を開設しシミュレーションの活動を分析する講義を実施している。 2013年度からは経済学基礎演習の担当しているクラスでも、実施している。
成績の評価方法を変更し、授業各回におさらいの小テストを実施してこの配点を60点とした。残り40点は定期テストで評価した。(2007年度以降のソフトウェア論)	2007年 4月 ～現在に至る	授業は内容を理解し、この理解を積み上げていくものであるが、期末にまとめて丸暗記しようとする学生が多い。そこで、毎回の授業の開始時に前回の講義の内容を問う小テストを実施し、この配点を60点とした。小テストは携帯電話を利用する方法を用いたが、2007年度は途中でシステムが不調になったため、OMRを利用した。 OMRは、2006年度から2007年度にかけて情報プロジェクトの活動の一つとして作成した。 期末試験でもOMRを採用している。 携帯電話を用いるシステムも改善が行われ、朽尾の実施方法も改めたので、OMRでなく、携帯電話のシステムを使用している。 小テスト終了後は、解説を行い間違えたところを学生各自が確認できるようにした。 2010年度の履修人数101名で実質出席者数は60～80名程度であったが、採点が短時間で処理でき容易であったため、問題作成などに多くの時間をとることができた。 期末試験40点満点と小テスト60点満点で成績を評価した。ほとんどの学生は小テストよりも良い回答率を示しており、各回ごとの評価と解説が有効であることが確認できた。
講義のビデオ収録と公開	2007年11月 ～現在に至る	2005年度から2007年度は、講義の音声を学内Webに公開していたが、2007年11月より、音声の収録のみでなく、講義の動画収録を行っている。公開する仕組みはTIESを利用している。これは学外からもユーザーIDとパスワードでアクセスできる仕掛けで講義を聞き逃したり、欠席した学生が自宅からでも内容を確認できるように配慮した。2007年度は試行的に「経済情報処理」で実施した。2008年度以降は「ソフトウェア論」でも実施を始めた。2009年度以降は加えて「経済シュミレーション」も収録を行っている。 この収録方法は2009年5月にインフルエンザで休校になった講義の補講替わりとしても利用している。 2010年度に、フォーラム教室の設定の調整と、TIESとの接続環境の改善を行ってもらったため、接続できなかったり、中断したりしなくなり、快適に利用できるようになった。 2012年度はTIES側の都合で収録ができず、総合情報教育センターの協力を得て、他のシステムで代用している。 2013年度からも引き続き、総合情報センターの協力を得て、収録・公開を行っている。対象科目は「ソフトウェア論」と「経済シミュレーション」「データ分析ソフトウェア」である。
成績の評価方法を変更し、授業各回におさらいの小テストを実施してこの配点を25点とした。経済シミュレーションによる活動に対して25点を評価する。またレポートを課しこの配点を25点とした。残り25点は定期テストで評価した。(2009年度以降の経済シミュレーション)	2009年 4月 ～現在に至る	成績評価について、「ソフトウェア論」よりもさらに分散し、各25点の4つの評価に設定した。これは①授業開始時のおさらい小テスト、②経済シミュレーションでの活動状況、③産業連関などについて経済シミュレーションの数値を用いてレポート、④期末の定期テストである。講義内容については収録・公開しており、6月のインフルエンザの休講に対する補講としても実施した。2015年度からレポートの配点10点をシミュレーション活動に振り替えた。
経済学基礎演習で、毎回小テストを実施	2013年 4月 ～現在に至る	毎回の授業開始時にB5用紙を配り、テキスト内の事柄について指定したトピックスについて10分程度で記述させる。 文章を書く練習と、知識をまとめて定着させることを目的としている。 この結果は成績評価に含める。
WebClassタイムライン機能を用いた、授業展開	2015年 4月 1日 ～現在に至る	授業中に指示した内容や宿題などをWebClassのタイムラインに掲示する事で、目と耳の両方で指示が確認できるようになった。また、欠席した学生にもその日の進捗が判るようになり、授業内容に遅れないようになった。(欠席を推奨しているわけでは無い)
2　作成した教科書、教材、参考書		

ゲーミングによる経済シミュレーションの操作方法など	2006年 4月 ～現在に至る	1998年度から3カ年間で開発した「ゲーミングによる経済システムのシミュレーション」は、授業などで運用している中で様々な問題点が見つかった。これらの問題点を解決するために2006年度から3カ年間、システムの再構築を図って開発を進めた。 シミュレーションを授業で運用することは続けているが、再構築したシステムは年度毎にリリースして使用している。 このシミュレーションは学科科目「経済シミュレーション」や「経済学基礎演習」の担当クラス、ゼミで活用している。また、オープンキャンパスではデモも行っている。 将来的には、他の大学などにも販売できるようなシステムを想定して改善を務めている。 タブレット型の端末が普及しつつあるので、このような端末への対応も考慮する必要が出てきそうである。 このシステムそのものも教材である。また、参加者が操作しやすいように資料を随時追加して向上を計っている。
携帯電話を用いる小テストの実施に関する改善	2007年 4月 ～現在に至る	このシステムは、総合情報教育センターが導入したものであるが、外部の企業の製品である。 携帯電話に設問か解答の選択肢を表示できるシステムであったが、杤尾は設問や選択肢などを携帯電話に表示せずに、教室内でパワーポイントで表示している。 学生は数問の設問に解答する際に、周りから答えを聞くなどして設問の前や後ろに画面を移動させているようであった。携帯電話からサーバへのアクセスを減らすために、設問などを携帯の画面でなく、教室内のモニターに表示するようにした。 設問を表示する作業は手作業で行っていたが、2009年度からはパワーポイントのタイマー機能を利用している。 設問に解答する時間が制限され、前の設問に戻る隙がないため、サーバに繋がらなくなることはなくなった。 小テストの配点は、合計すると120点以上になる。この配点で60点取れたら良いと勘違いする学生がいるため、1問100点に変更した。この変更によって勘違いが減り、小テストに真剣に取り組むようになった。(単純に点数の合計でないことは何度も伝えているが、自分にとって都合良い解釈する学生が後を絶たない)
私立大学情報教育協会　ＦＤ情報技術講習会の講習会テキスト	2008年 4月 1日 ～現在に至る	講習会を担当する部分の原稿を執筆しました。
ゼミ生の論文指導用「論文を作成するときに注意したいこと」	2010年 4月 ～現在に至る	ゼミ生に論文が論文を作成する際に、Wordの文書構成上のテクニックを主として指導している。 論文そのものの指導は、別途行っている。
VisualBasic用のテキスト内容をExcelVBAに対応した内容に更新(教材)	2012年 4月 ～現在に至る	2000年に発刊したテキストの内容は、利用できるソフトウェアがバージョンアップして仕様が変更されているため、そのままでは利用しづらいので、ExcelVBAでも使用できるように内容を加筆・更新した。ゼミで使用している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
私立大学情報教育協会・FDのための情報技術研究講習会・講師	2013年 2月26日	私立大学情報教育協会FD情報技術講習会運営委員会の一員として、3日間に掛けて行われる講習会の一部の講師を務めるとともに、実習のサポートを行った。講習内容については年間5回程度の会議を通して、この運営委員会で検討している。2013年の開催地は大阪経済大学であった。平成20年(2008)度から毎年努めている。
私立大学情報教育協会・FDのための情報技術研究講習会・講師	2014年 2月26日	私立大学情報教育協会FD情報技術講習会運営委員会の一員として、3日間に掛けて行われる講習会の一部の講師を務めるとともに、実習のサポートを行った。講習内容については年間5回程度の会議を通して、この運営委員会で検討している。開催地は大阪経済大学であった。
私立大学情報教育協会・FDのための情報技術研究講習会・講師	2015年 2月25日	私立大学情報教育協会FD情報技術講習会運営委員会の一員として、3日間に掛けて行われる講習会の一部の講師を務めるとともに、実習のサポートを行った。講習内容については年間5回程度の会議を通して、この運営委員会で検討している。開催地は本学であった。
私立大学情報教育協会・FDのための情報技術研究講習会・講師	2016年 2月25日	私立大学情報教育協会FD情報技術講習会運営委員会の一員として、3日間に掛けて行われる講習会の一部の講師を務めるとともに、実習のサポートを行った。講習内容については年間5回程度の会議を通して、この運営委員会で検討している。開催地は大阪経済大学であった。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
科目「経済シミュレーション」の成績分布の分析	単著	2012年 9月	追手門経済論集(追手門学院大学経済学会) 47(1)		161-180頁
遠隔授業システムを用いた留学生の指導	単著	2015年 3月	一貫連携教育研究所紀要 (追手門学院一貫連携教育研究所) (1)		77-84頁

その他					
時系列表示を中心とした、タブレット利用を前提とするLMSの開発	-	2015年 1月	教育システム情報学会2014年度第5回研究会(大阪産業大学)	原田章、荒井崇史、岩渕亜希子、長尾俊明、平治彦	
時系列表示とOCR連携を特徴とするLMSのタブレットインターフェイス開発	-	2015年 9月	(東京都千代田区　アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館))	原田章、中条貴夫、横井博至、松本将之、平治彦	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1991年 4月～現在に至る	経営情報学会(国内学会)会員
1995年 4月～現在に至る	教育システム情報学会(国内学会)会員
1998年 9月～2011年11月	茨木市民コンピュータ講座・講師(大学開催)ほぼ毎年
2003年 1月～現在に至る	日本公共政策学会(国内学会)会員
2005年～現在に至る	茨木市立生涯学習センター市民講座講師
2005年 4月～2014年 3月	教育システム情報学会(国内学会)関西支部評議員
2009年～現在に至る	公益社団法人私立大学情報教育協会FD情報技術講習会運営委員会委員
2014年 4月～現在に至る	教育システム情報学会(国内学会)関西支部運営委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	准教授	内藤　　雄太	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
学習資料ファイルの作成	2004年 4月 1日 ～現在に至る	主に演習の授業向けに、文献・資料紹介、思考の図式化（因果連鎖図）、レジュメやディベートなどの手順、英語・PC・会計と経営経済統計、数学・統計、調査手法（社会調査論）などを簡単にまとめた資料を作成し、学生に配布している。下級生向け授業にその一部を利用したり、逆に下級生向けに使用した資料を再編成して演習で用いるなど、資料の内容は年々変化してきている。
科目名称変更と内容充実に向けた取り組み	2014年 4月 1日 ～現在に至る	「国際労働経済論」において労働市場・労使関係の歴史・比較と国際的展開を論じて来たが、様々な事情により当科目を「グローバル人材の経済学」へと名称変更し、AFPデータベースを用いた人物や公的機関の画像、GIS（地理情報システム）を用いた地図画像と統計データの組み合わせといったビジュアル化とともに、学生に不足していると言われる地理歴史や政治経済に関する基礎知識のフォローにも努めている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Study on the Effect of the Minimum Wages and Its Implications	単著	2013年 3月	Otemon Economic Studies(The Fuculty of Economics, Otemon Gakuin University) 45		
教職協働と組織文化―学問の自由と実業の秩序―	単著	2014年 3月	追手門学院大学教育研究所紀要(追手門学院大学教育研究所) (32)		
Employment Systems and “Governance Reform” in the Era of Low Economic Growth: A Preliminary Study of the Effects on Human Resource Development	単著	2015年 3月	Otemon Economic Studies(The Fuculty of Economics, Otemon Gakuin University) 47		
教職協働と組織文化(2)―学問の自由と実業の秩序・補論―	単著	2016年 3月	追手門学院　一貫連携教育研究所紀要(追手門学院　一貫連携教育研究所) (2)		
その他					
Bamber, G. J, Lansbury, R. D, and Wailes, N. (eds.)[2011], *International and Comparative Employment Relations, 5th ed.*, Sage Publications. （書評）	-	2012年 9月	追手門経済論集(追手門学院大学経済学会) 47(1)		
三宅秀道[2012]『新しい市場のつくり方』東洋経済新報社（書評）	-	2014年 3月	追手門経済論集(追手門学院大学経済学会) 48(2)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1999年 4月～現在に至る	日仏経営学会(国内学会)会員
2000年 4月～現在に至る	日本労使関係研究協会(国内研究会)会員

2000年 7月～現在に至る	日本労務学会(国内学会)会員
2003年 4月～現在に至る	日本インターンシップ学会(国内学会)会員
2003年10月～現在に至る	国際ビジネス研究学会(国内学会)会員
2004年 7月～現在に至る	日本経済政策学会(国内学会)会員
2004年10月～現在に至る	社会経済史学会(国内学会)会員
2008年 4月～現在に至る	日本キャリアデザイン学会(国内学会)会員
2010年～2013年	日本経済政策学会(国内学会)関西部会幹事
2011年 2月～2011年 6月	茨木市管理業務委託に係る総合評価一般競争入札評価委員会委員
2012年 2月～2012年 6月	茨木市管理業務委託に係る総合評価一般競争入札評価委員会委員
2013年 6月～2013年 9月	吹田市委託業務等総合評価審査委員会学識委員
2014年 2月～2014年 6月	茨木市管理業務委託に係る総合評価一般競争入札評価委員会委員
2015年 2月～2015年 6月	茨木市管理業務委託に係る総合評価一般競争入札評価委員会委員
2016年 4月～現在に至る	吹田市委託業務等総合評価審査委員会学識委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	教授	西村　　和志	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
金融論講義	2000年 2月25日 ～2005年 1月	第Ⅰ部基礎編、第Ⅱ部ミクロ編、第Ⅲ部マクロ編
経済原論I講義ノート	2003年 4月 ～2015年 3月31日	第1部マクロ経済学　序、第1章マクロ経済学の基礎概念と国民経済計算、第2章国民所得の決定論、第3章閉じたモデルと政府の経済政策、第4章開放経済モデル、第2部ミクロ経済学、序、第1章家計、第2章企業、第3章市場均衡を調整
金融論　第2版	2005年 1月30日 ～現在に至る	第Ⅰ部基礎編、第Ⅱ部ミクロ編、第Ⅲ部マクロ編
金融論　講義ノート	2010年 9月 ～現在に至る	序、I基礎編1．国民経済循環における金融、Ⅱミクロ金融論2．家計の金融行動、3．企業の金融行動、4．金融機関の行動、5．中央銀行と金融政策、6．金融市場と金利の決定、7．金融派生商品市場、Ⅲマクロ金融論、８．マクロ貨幣経済モデルの運行、９．日本の金融政策
経済学講義ノート	2014年 4月 1日 ～2016年 3月31日	第1部マクロ経済学　序マクロ経済学の課題　1マクロ経済学の基礎概念　2国民所得の決定　3閉じたモデルと経済政策　4回能経済モデル　５労働市場における雇用量の決定　６貨幣市場と金融政策　７閉じたモデルのＩＳ＝ＬＭ分析　８物価の決定　9開放マクロ経済モデル　第2部ミクロ経済学　序ミクロ経済学の課題　1家計　2企業　３市場の均衡と調整　4交換経済の均衡　5不完全市場の理論
資産形成論	2014年 9月 1日 ～現在に至る	金融市場のミクロ理論、証券投資の基礎知識、売買の方法と費用、資産管理の方法について、実際の取引ができるように、学んだ後、スマートフォンによる情報収集と証券の売買のシミュレーション演習をする。
入門経済学	2015年 4月 1日 ～現在に至る	第1部マクロ経済学　経済循環図から、経済集計量の概念を定義し、マクロ経済モデルで国民所得を決定する。政府、日本銀行の政策効果を求める。第2部ミクロ経済学　家計と企業が完全競争市場で、均衡価格を決定し、取引が成立することを図で示し、均衡への調整条件を確かめる。均衡における抒情分析をする。
経済学	2015年 4月 1日 ～現在に至る	第1部マクロ経済学　閉じたモデルにおいて、財政政策、金融政策の効果をIS=LM分析およびAD=AS分析をする。マンデル＝フレミング開放モデルにおいて、変動相場制下の財政政策、金融政策の効果を分析する。第2部ミクロ経済学　入門経済学の完全競争市場を復習しつつ、不完全競争市場の理論を学ぶ。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
環境対策製品の展示会、商業施設、堺市のメガソーラー見学	2013年10月24日 ～2013年12月	びわ湖環境ビジネスメッセ2013、堺太陽光発電所、ＡＴＣ省エネ博、あべのハルカスを事前研究をさせ、数人ごとで見学、担当者から説明してもらった。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
貨幣経済における現物・先物市場一時的競争均衡	単著	2013年 3月	追手門経済論集(追手門学院大学経済学会) 47(2)		209-224頁
貨幣経済における現物・先物の一時的一般均衡確率過程	単著	2014年 3月	追手門経済・経営研究(追手門学院大学) (21)		1-8頁
Temporal General Equilibrium in Overlapping Generations Model with Self-accumulated Pension	単著	2016年 3月	Otemon Economic Studies(the Faculty of Economics of Otemon Gakuin University) 48		45-62頁
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1981/4/1～現在に至る	日本経済学会(国内学会)会員
1981/4/1～現在に至る	日本統計学会(国内学会)会員
1996/4/1～現在に至る	日本金融学会(国内学会)会員
2005/4/1～現在に至る	日本ファイナンス学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 経済学部経済学科	職名 教授	氏名 橋本　　圭司	大学院における研究指導 担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
On the Existence of Education Kuznets Curve in China: Evidence from Panel Cointegration Approach（査読付）	単著	2012年 9月	Proceedings of The Second Asian Seminar in Regional Science		
Aging and Public Education Expenditure in Japan: Evidence from the Panel Cointegration Approach（査読付）	単著	2012年11月	Conference Proceedings of Aging and Society		
オーストラリアの教育水準とGDPの関係について	単著	2013年 2月	オーストラリア研究紀要(追手門学院大学オーストラリア研究所)(38)		
On the Relationship between Labor Force Ageing and Productivity in Japan: Evidence from Prefecture Panel Data Approach（査読付）	単著	2013年 6月	Proceedings of 2013 Istanbul Eurasian Academic Conference organized by West East Institute		
中国のインフレと為替レートの関係について	共著	2013年10月	追手門経済論集(追手門学院大学経済学会)	林朱雲	81-97頁
Labor Force with Higher Education and Productivity in Ageing Society: Evidence from Japan（査読付）	単著	2013年12月	Proceedings of International Business and Social Sciences Research Conference		
Higher Education and Labor Productivity in Ageing Society: Evidence from Japan（査読付）	単著	2015年 1月	Proceedings of The 13th Hawaii International Conference on Education		
Are Workers with Higher Education Productive in Ageing Society?Evidence from Japan（査読付）	単著	2015年 3月	Proceedings of International Academy of Business and Economics - 2015 Orlando-Winter Conference		
オーストラリアの若年失業率についての一考察	単著	2015年 3月	オーストラリア研究紀要(追手門学院大学)(40)		
その他					

Demographic Change and Public Education Expenditure in Japan: Evidence from Panel Granger Causality Tests	-	2012年 5月	Annual Hawaii International Conference on Business(Waikiki, Honolulu, USA)		
On the Existence of Education Kuznets Curve in China: Evidence from Panel Cointegration Approach	-	2012年 9月	The Second Asian Seminar in Regional Science(Japan, Kitakyushu city)		
Aging and Public Education Expenditure in Japan: Evidence from the Panel Cointegration Approach	-	2012年11月	Aging and Society(University of British Columbia, Vancouver, Canada)		
On the Relationship between Labor Force Ageing and Productivity in Japan: Evidence from Prefecture Panel Data Approach	-	2013年 6月	2013Istanbul Eurasian Academic Conference organized by West East Institute(Istanbul, Turkey)		
Labor Force with Higher Education and Productivity in Ageing Society: Evidence from Japan	-	2013年12月	International Business and Social Sciences Research Conference(Cancun, Mexico)		
Higher Education and Labor Productivity in Ageing Society:Evidence from Japan	-	2015年 1月	The 13th Hawaii International Conference on Education(Hilton Hawaiian Village Waikiki Beach Resort, Honolulu, Hawaii, USA)		
Are Workers with Higher Education Productive in Ageing Society?Evidence from Japan	-	2015年 3月	International Academy of Business and Economics - 2015 Orlando-Winter Conference(Orlando, Florida, USA)		
The Impact of Exchange Rate Movements on Consumer Prices in China: The Cases of USD and JPY	-	2015年 6月	World Business Research Conference(Beijing, China)	Zhuyun Lin	
高齢化社会における高等教育とマクロ労働生産性－都道府県パネル・データによる接近	-	2015年 6月	日本高等教育学会(早稲田大学)		
Higher Education, Labor Force Ageing and Productivity Growth: Evidence from Japan	-	2015年 8月	International Conference on Education, Psychology and Social Sciences(Taipei, Taiwan)		
Ageing and Productivity Performance with Higher Education: Evidence from Japan	-	2015年10月	17 th Eurasia Business and Economics Society Conference(Venice, Italy)		
Population Aging, Higher Education and Labor Productivity: Evidence from Japanese Prefecture Panel Data	-	2016年 3月	WEI (West East Institute) International Academic Conference in Barcelona 2016(Barcelona, Spain)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1988年 4月～現在に至る	日本経済学会(国内学会)会員
1988年 4月～現在に至る	日本統計学会(国内学会)会員
1995年 4月～現在に至る	American Economic Association(国際学会)会員
1997年 4月～現在に至る	日本高等教育学会(国内学会)会員
2000年 4月～現在に至る	Association of Indian Economic Studies(国際学会)会員
2011年10月～現在に至る	Athens Institute for Education and Research(国際学会)会員
2011年10月～現在に至る	Athens Institute for Education and Research(国際学会)Editorial Board

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	准教授	藤川　　武海	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Why do adolescents smoke? (査読付)	単著	2012年 4月	Rotary Club of Ipoh Weekly Bulletin 42		
Bayesian framework in repeated-play decision making (査読付)	共著	2012年 5月	American Journal of Applied Sciences 9(4)	Fujikawa, T. and Kobayashi, Y.	609-614頁
The impact of background music and sound in decision making: A case study in experimental economics laboratory (査読付)	共著	2012年 6月	African Journal of Business Management 6(7)	Fujikawa, T. and Kobayashi, Y.	2499-2466頁
音楽のテンポが経済的意思決定に及ぼす影響 (査読付)	共著	2012年11月	日本機械学会講演論文集 (日本機械学会) 12(39)	小林洋平、Foo Yung Chau	397-400頁
Trends in HIV/AIDS Awareness among University Students in Japan (査読付)	共著	2013年 5月	Journal of Contemporary Management	Kazuhito Ogawa, Takemi Fujikawa	
Why Is It So Difficult To Optimally Choose Innovation? Lest We Forget The Real World (査読付)	共著	2013年 5月	Modern Applied Science 7(5)	Partha Gangopadhyay, Takemi Fujikawa, Yohei Kobayashi	39-50頁
Malaysian Exports to Middle Eastern Asian Countries: Trends and the Role of Trade Agreements (査読付)	共著	2014年 7月	Asian Academy of Management Journal(Asian Academy of Management) 19(2)	T.A.Masron, T.Fujikawa, N.H.N. Azman	141-159頁
Halal development and Malaysian exports to western Asian countries (査読付)	共著	2015年 4月	Malaysian Journal of Economic Studies 52(1)	Masron, T. A., Azman, N. H. N.	55-73頁
その他					
大学の役割	-	2012年 6月	京都山城ロータリークラブ(京都府木津川市)		
Effect of background music tempo on decision making under risk and intertemporal choice	-	2012年 7月	WEAI's 87th Annual Conference(Hilton San Francisco Union Square)	Fujikawa, T., Kobayashi, Y. and Foo, Y.C.	
音楽のテンポが経済的意思決定に及ぼす影響	-	2012年11月	シンポジウム：スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス2012(名古屋市)	小林洋平、Foo Yung Chau	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2008年 1月～現在に至る	American Economic Association(国際学会)会員

2009年 4月 1日～2015年 3月31日	Malaysian Australian Alumni Council Council Associate (Representative)
2008年 6月～現在に至る	Malaysian Institute of Management(国際学会)会員
2008年 1月～現在に至る	The International Association for Research in Economic Psychology(国際学会)会員
2009年 1月～現在に至る	日本経済学会(国内学会)会員
2007年12月～現在に至る	日本行動計量学会(国内学会)会員
2008年 6月～現在に至る	行動経済学会(国内学会)会員
2010年 3月～現在に至る	査読委員、Journal of Economic Psychology
2010年 5月～現在に至る	The International Association for Research in Economic Psychology(国際学会)Country representative (Malaysia)
2010年 5月～現在に至る	国際経済心理学会マレーシア国代表
2010年 5月～現在に至る	査読委員、International Business Review
2010年 6月～現在に至る	査読委員、Asian Academy of Management Journal of Accounting and Finance
2010年10月～現在に至る	ゲストエディター、マレーシアイポーロータリークラブ誌
2012年 3月14日～現在に至る	京都山城ロータリークラブ 会員
2012年 7月 1日～現在に至る	京都山城ロータリークラブ 理事
2012年 7月 1日～現在に至る	京都山城ロータリークラブ 社会奉仕委員会委員長
2012年11月 7日～2013年 3月31日	京都山城ロータリークラブ 戦略計画小委員会委員
2013年 6月 1日～現在に至る	山城経済懇話会 幹事
2013年 7月～2014年 6月	京都山城ロータリークラブ　理事
2014年 1月～2014年 1月	The Daily NNA Malaysia Edition 雑誌寄稿
2014年 4月～現在に至る	京都府警察木津警察署木津防犯協会
2014年 4月～現在に至る	社会福祉法人愛光福祉会評議員
2014年 4月 1日～現在に至る	木津防犯協会 会員
2014年 4月 1日～現在に至る	社会福祉法人愛光福祉会 評議員
2014年 7月	山城経済懇話会での招待講義
2015年 4月～現在に至る	山城経済懇話会　幹事
2015年 7月～現在に至る	京都山城ロータリークラブ　理事

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	准教授	細井　　雅代	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
映像を使用した授業	2013年 9月21日 ～2016年 3月31日	地方財政論　30回の講義のうち2回ほど授業で取り上げるテーマに関わる映像を流し、学生さんにイメージを持っていただいてから、その社会問題への解決策を考えていくことにした。やはりテキストや新聞などを読むだけでは伝わらないことが伝わり、学生さんたちのその社会問題への意見が具体的に聞くことができた。
税務署員の講演と確定申告作成の手ほどき	2012年4月1日～2016年3月31日	租税論　30回の講義のうち1回ほど授業に税務署員と税理士の方にご講演をお願いし、キャリアの話及び確定申告書の作成の手ほどきをご教示いただく。租税論を通し、租税理論や制度を学習する他に社会に出てから必要な知識や技術を身に着けてもらう大切なニーズの高い授業の内容となっている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
経済学基礎演習１・２	2009年 4月 1日 ～2014年8月1日	追手門学院大学　2回生　必修講義　15回・15回 マクロ経済学とミクロ経済学の基礎的理論を学習する授業であるが、一般的な教科書に比べ作成たものは、文字数は少なく、容易言葉で理論の説明が書かれているものである。理論を学ぶ時、文字を追っていては頭に入らない学生さんが多いので、文字数を減らし、ポイント絞って文字に表すことで理解度が増す効果が得られる。
経済原論１	2014年 4月 1日 ～2014年 8月 1日	追手門学院大学　経営学部　１回生　15回 マクロ経済学の基礎的理論を学習する授業であるが、一般的な教科書に比べ作成たものは、文字数は少なく、容易言葉で理論の説明が書かれているものである。理論を学ぶ時、文字を追っていては頭に入らない学生さんが多いので、文字数を減らし、ポイント絞って文字に表すことで理解度が増す効果が得られる。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
小泉政権における地方分権改革と地方財政改革	単著	2014年 5月	日本財政の現代史Ⅲ(有斐閣)		
論文					
Estimating Relationships between Community Involvement and Student Performance Using a Production Function with Interaction Terms	単著	2013年12月	Otemon Economic Studies 46		75-89頁
自治体財政の状況と社会教育費の関係	単著	2015年 3月	追手門経済論集 49(2)		1-22頁
Examining the Relationship between Community Involvement and Student	単著	2015年12月	Otemon Economics Studies, 48		33-44頁
その他					
自治体財政の基本的な考え方～地方財政制度・地方財政の現状～	-	2012年 4月	(JIAM)		
Estimation of Relationship between Community Participation and Student Performance Using an Education Production Function with Interaction Term	単著	2012年10月	日本財政学会(淡路夢舞台国際会議場)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2001年～現在に至る	日本地方財政学会(国内学会)会員
2001年～現在に至る	日本経済学会(国内学会)会員
2001年～現在に至る	日本財政学会(国内学会)会員

2007年 7月～2014年 3月	川西市行財政改革審議会委員
2011年 6月～2013年12月	地域の自主性・自立性向上のための地方行財政のあり方に関する調査研究　研究会委員　（財）地方自治研究機構
2011年 6月～2012年10月	第5次泉南市総合計画審議会委員
2012年 2月～2013年 2月	枚方市新行政改革大綱策定委員会委員
2012年 4月～2012年12月	西脇市総合計画審議会委員
2013年 9月～2014年 3月	分権型社会を支える地域経済財政システム研究会（（財）日本都市センター）
2014年 5月	おうてもん塾講師[5月30日]

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	教授	堀　一郎	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
「アルセロール・ミッタル・スチール社のグローバル・ビジネス・モデル(下)」	単著	2013年 3月	『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集』(愛知県立大学大学院国際文化研究科)(第14号)		157-174頁
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1980年 7月～現在に至る	アメリカ学会(国内学会)会員
1990年10月～現在に至る	アメリカ経済史学会(国内学会)会員
1990年11月～現在に至る	経営史学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	教授	前　比呂子	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
実務家教員としての経験を基にした教育現場での実例を用いた事例検討・ロールプレイングを取り入れたアクティブラーニング	2015年4月～2016年1月	実際に現場で生起したいじめや虐待、不登校等を題材にしたグループでの事例検討、生徒や保護者への対応についてのロールプレイングで、当事者として教育課題に臨む姿勢と対応スキルが身についた。 学生による授業アンケート結果（25年度） ・学生自身の学習について（授業内容の理解や授業満足度等）8項目の平均値　4.65（大学平均値　3.88） ・授業について（評価の明確性、授業の工夫、アクティブラーニング等）10項目の平均値　4.96（大学平均値3.84） 視聴覚教材や学校見学を通し、現場での教育課題をリアルに学べたこと、毎時間実施する教育関連記事へのミニ論評、グループディスカッション等を評価する学生の声が多く見られた。
2　作成した教科書、教材、参考書		
1)「授業づくり入門」	2015年4月～7月	知識基盤社会とＰＩＳＡ型学力/求められる学力と学習指導要領の変遷/江戸時代の私塾に見るアクティブラーニング～/学習指導案の作り方等々
2）現場の教育課題と教員に必要なコミュニケーションスキル	2015年4月～7月	いじめ、虐待、不登校等教育現場における諸課題と対応に必要なスキルについて
3）教職教養予想問題集	2015年9月～2016年1月	大阪府・大阪市を中心とした教職教養問題過去問の分析による予想問題集
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2012年4月6日	大阪府立富田林高等学校教職員人権研修　講演 「性的マイノリティの生徒への支援について」
	2014年1月31日	大阪府教育委員会　学校経営研究発表大会（大阪府教育センター）発表 「本校における授業改善システムの構築～授業力の組織的向上をめざして～」
	2014年10月30日	大阪府教育委員会　進路指導地区代表連絡会　講演　「入試制度変更に向けた中・高連携のあり方について」
	2015年1月29日	大手前中・高教員研修　講演　「スクールセクシュアル・ハラスメントの防止について」
	2015年4月27日	追手門中・高教員研修　講演　「スクールセクシュアル・ハラスメントの防止について」
	2015年5月11日	追手門小学校教員研修　講演　「スクールセクシュアル・ハラスメントの防止について」
	2015年5月23日	羽曳野市民大学　講演　「21世紀を生き抜く学力とは」
	2015年11月27日	大阪府男女共同参画事課・内閣府主催　シンポジウム「増える貧困女子」パネリスト
4　その他教育活動上特記すべき事項		
1)25年間の国語科教員としての実践を基盤とした教員の授業向上の推進	2006年4月～2014年3月	昭和51年より25年間国語科教員として教育現場においてさまざまな授業実践を積んだ。平成18年からはそれらの実践を基に、校長として、授業改革、カリキュラム改革、教員の授業力向上に力を注いだ。校長在任中の8年間にわたり、自校の全教員の授業を評価観点を明らかにした上で、年複数回（のべ100 回以上）授業観察し、授業改善に向けての指導助言を行った。特に専門である国語については、経験年数の短い教員を対象にICT活用等テーマを定めた校内研修や定期的な授業観察、指導助言を行いその育成に努めた。
2)大阪府教員採用試験二次面接官	2007年8月～2013年8月	大阪府教員採用試験二次選考で国語模擬授業等の評価を行った。
3)授業改善を通した学校の組織力向上と人材育成〈大阪府立市岡高等学校	2012年6月～2014年1月	「めざす授業像」を教員全員の協議で「生徒の主体的な学びを生みだす授業」と定めて共有し、指導案の協同作成や事前授業を経て研究授業・研究協議に到る一連の研修を行い、組織としての授業力向上を図った。また、生徒による授業アンケート結果を踏まえた授業改善システムの構築、教科会議による課題の共有や教員間の互見授業など同僚性を活かした授業改革、ユネスコスクールへの加盟を契機とした探究型の学びの開発を推進した。大阪府教育委員会「学校経営叢書」に『校内における授業改善システムの構築～授業力の組織的向上をめざして～』(p.5-6)として実践報告を執筆した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					

とりかへばや物語論に見る「退廃性」の正体―「とりかへばや物語」教材化に向けての一考察―	単著・	2016年3月	追手門学院一貫連携教育研究所紀要第２号		11頁
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2009年 4月～2012年 3月	とんだばやし国際交流協会理事
2014年 1月～2015年 5月	スクールセクシュアルハラスメント防止についての講演（追手門学院大手前・中・高等学校にて）
2014年10月～2014年10月	大阪府教委主催大阪府高等学校入学者選抜制度の変更に係る中学校進路指導担当教員、管理職への講演
2015年 5月～2015年 5月	羽曳野市民大学講師
2015年11月～2015年11月	大阪府参画共同参画事業　シンポジウム　パネリスト

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	准教授	松田　　年弘	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
演習Ⅱにおけるゼミ内発表と個別指導の組み合わせによる卒論指導とゼミ生卒論集の作成	2012年 4月 1日 ～現在に至る	経済学部では卒論作成は必須ではないが、松田ゼミにおいては、卒論作成を単位修得要件の一つとしている。卒論作成の進行に応じて、春学期はゼミ内での卒論内容発表、秋学期は教員による個別指導を実施し、ゼミ生全員が卒論を完成するまで導いている。完成したゼミ生全員の卒論はＣＤに編集し、ゼミ生全員に配布している。完成度の高い卒論は、経済学部の学生論集に投稿するように指導している。
演習Ⅰにおいてゼミ内ディベート等の実施によるプレゼンテーション能力の涵養	2012年 9月20日 ～現在に至る	ゼミ内を４グループに分け、２グループごとに環境・エネルギー問題に関するテーマを設定したディベートを実施した。ディベートの立論においては、必ずパワーポイントを用いたプレゼンテーションをグループごとに実践させた。2013年度から、ディベートの実施後にゼミ生個人によるパワーポイントを用いたプレゼンテーションの練習を実施した。ゼミ生全員がパワーポイントによるプレゼンテーションを実施できる能力を養うことができている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
経済学部「経済知力をみがく！」の分担執筆	2008年 ～現在に至る	経済学部の冊子「経済知力をみがく！」において、「環境の価値を考える」という章を担当執筆している（毎年度、更新して発行する）。
演習Ⅱにおける小冊子「卒論作成の手引き」の作成	2012年 4月 1日 ～現在に至る	演習Ⅱにおいて、「そもそも論文とは何か」「論文の構成」「図表の作成方法」「参考文献の書き方」「文章の書き方」などを解説した小冊子「卒論作成の手引き」を作成し、ゼミ生に配布している。ゼミ生全員がこの小冊子を利用して、卒論作成に取り組み、完成させている。
「学びのガイドブック（経済学部）」の企画と執筆	2014年 9月 ～現在に至る	経済学部は2015年度から改組して、プログラム制度に基づく教育を展開している。プログラム制度の内容を新入生向けにわかりやすく解説した「学びのガイドブック」を企画し、自ら最も多くの節を担当して執筆した （プログラム選択とゼミ選択のスケジュール、環境経済プログラムの案内、 ゼミ選択と卒論、公務員になりたい学生のために）。
「プログラム基礎演習テキスト-環境経済プログラム-」の企画と執筆	2015年 5月 ～現在に至る	経済学部の改組に伴うプロジェクト制度の導入に伴い、新しい必修科目「プログラム基礎演習」が2016年度からスタートする。環境経済プログラムに所属する学生向けの「プログラム基礎演習」共通テキストを企画し、全12章のうち7章を執筆した（残り5章は他の教員が執筆した）。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
経済学部生の公務員試験対策の支援施策の企画と運営	2012年11月 ～2015年 3月	2012年度に、経済学部学生を対象とした公務員試験対策の支援施策を企画した。本施策は「成績条件をクリアした学部学生に対する本学公務員試験対策講座の受講料補助」と「講座受講生に対する学習支援」から成る。施策を案内する資料作成と学生への施策周知を担当し、2014年度には公務員試験支援委員として施策運営に携わった。
経済学部改組に伴うプログラム制の運営	2015年　4月 ～2016年 3月	経済学部改組に伴うプログラム制の運営に携わった。具体的には、(1) 新入生へのプログラム制の全体説明を担当した。(2) 個々のプログラム内容に関する説明会を企画した。(3) １年生による初めてのプログラム選択にそなえるため、事前アンケートを企画した。(4) １年生によるプログラム選択手続きを企画・運営した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
本来のラムゼイモデルと限界q	単著	2016年3月	追手門経済・経営研究（23号）		pp. 99-pp. 106
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1998年～現在に至る	国際公共経済学会(国内学会)会員
1998年～現在に至る	日本行動計量学会(国内学会)会員
2001年～2013年11月	国際公共経済学会(国内学会)理事
2001年～現在に至る	公益事業学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	教授	松本　　直樹	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
講義ノートの作成	2013年 4月 1日 ～現在に至る	国際マクロ経済学1、国際マクロ経済学2、国際金融論1、国際金融論2、経済学基礎演習、プログラム基礎演習等の担当科目について講義ノートを作成し、Web Classにより受講生に配信している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
円高とデフレーション	単著	2012年 9月	追手門経済論集 47(1)		143-160頁
金融緩和のアナウンスメント効果	単著	2013年 9月	追手門経済論集 48(1)		1-17頁
賃金・物価の伸縮性と経済の安定性	単著	2014年 9月	追手門経済論集 49(1)		31-51頁
The Effects of Wage Rise and Monetary Easing on Employment and Prices（査読付）	単著	2015年 5月	Post Keynesian Review 3(2)		1-16頁
その他					
賃金上昇と金融緩和が雇用と物価にもたらす効果	-	2014年11月	日本応用経済学会2014年度秋季大会(中央大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1981年～現在に至る	日本金融学会(国内学会)会員
1988年～現在に至る	日本経済学会(国内学会)会員
1994年～現在に至る	生活経済学会(国内学会)会員
2013年～現在に至る	日本応用経済学会(国内学会)会員
2013年～現在に至る	生活経済学会(国内学会)理事
2014年 6月	生活経済学会第３０回研究大会において、予定討論者を務めた。2014年6月22日、於長崎大学
2015年 6月	2015年6月27日28日、本学で生活経済学会第31回研究大会を開催し、大会実行委員長および大会プログラム委員長を務めた。
2015年 6月	生活経済学会(国内学会)大会実行委員長・プログラム委員長

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	准教授	村田　　美希	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
講義での工夫点	2015年 4月 ～現在に至る	講義科目においては、練習問題を活用して、学生の理解度を高める工夫をしている。一部の科目については、webclassで、採点結果をフィードバックしている。成績が芳しくない場合、課題の再提出を求めている。再度提出した課題についても再評価し、平常点に反映するようにして復習を促すようにしている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
経済原論Ⅰ授業資料およびPPT(2013年度版)	2013年 4月 ～2013年 7月	4単位 数式を用いた授業ではなく、グラフや図を用いて経済学の基礎理論を講義している。授業内容が豊富なため、授業進度を配慮して、板書ではなくPPTを用いている。図・グラフにはアニメーション機能を用いるなどスライドには工夫を凝らしている。
社会保障　授業資料およびPPT(2013年度版)	2013年 9月 ～2014年 2月	4単位 社会保障制度を図を用いてわかりやすく説明している。制度が頻繁に改正れるため、各種データとともに2012年度版を改定している。
経済原論Ⅰ　授業資料およびPPT(改訂版)	2014年 4月 ～現在に至る	4単位 数式を用いた授業ではなく、グラフや図を用いて経済学の基礎理論を講義している。授業内容が豊富なため、授業進度を配慮して、板書ではなくPPTを用いている。図・グラフにはアニメーション機能を用いるなどスライドには工夫を凝らしている。さらに復習のための練習問題も用意している。
社会保障　授業資料およびPPT(改訂版)	2014年 9月 ～現在に至る	4単位 社会保障制度を図を用いてわかりやすく説明している。制度が頻繁に改正れるため、各種データとともに2014年度版を改定している。
ミクロ経済学　練習問題	2015年 9月 ～現在に至る	4単位 例題(授業内で解説)と練習問題（評価対象課題）を用意している。内容のレベルは、基本概念の確認から公務員試験レベルの計算を含むものまでとなっている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
オーストラリアにおける障害児をもつ家族の就業状況の研究動向	単著	2012年12月	オーストラリア研究紀要 (追手門学院大学) (38)		39-44頁
オーストラリアにおける家族政策に関する研究動向について	単著	2013年12月	オーストラリア研究紀要 (追手門学院大学オーストラリア研究所) (39)		1-6頁
オーストラリアにおける出生数と女子労働力率の因果的効果に関する研究動向	単著	2014年 3月	追手門経済論集 48(2)		141-150頁
その他					
オーストラリアにおける出生率と女性有業率の関係について	-	2012年 6月	追手門学院大学経済学部研究会(大阪府茨木市 追手門学院大学)		
出生率内生化モデルにおける家族政策の考察	-	2014年 5月	2014年度生活経済学会関西部会第１回研究大会(大阪府)		
家族政策が出生率に及ぼす影響	-	2015年 6月	生活経済学会 第 31 回研究大会(追手門学院大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1998年 4月～現在に至る	日本経済学会(国内学会)会員
2000年 5月～現在に至る	日本経済政策学会(国内学会)会員
2013年 5月～現在に至る	生活経済学会(国内学会)会員
2013年11月～現在に至る	日本応用経済学会(国内学会)会員
2014年 7月～2015年 3月	茨木市人権尊重のまちづくり審議会
2014年 7月～2015年 3月	茨木市人権尊重のまちづくり審議会委員
2015年 6月	生活経済学会(国内学会)第31回研究大会実行委員
2015年 6月	生活経済学会第31回研究大会実行委員
2015年 7月	独立行政法人経済産業研究所　研究プロジェクト業績評価

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	教授	森島　　覚	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
フェアワーク下のオーストラリア労使関係	単著	2013年12月	オーストラリア研究紀要(追手門学院大学オーストラリア研究所)(39)		
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1991年 4月～現在に至る	経済理論学会(国内学会)会員
1991年 9月～現在に至る	オーストラリア学会(国内学会)会員
1991年11月～現在に至る	大洋州経済学会(国内学会)会員
2000年 7月～現在に至る	日本労使関係研究協会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	准教授	吉井　　紀夫	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
教材プリントを配布し、板書とそれを筆記する時間を節約し、浮いた時間を問題演習にあてる。	1998年 4月 1日 ～現在に至る	プリントを配布し、板書とそれを筆記する時間を節約し、浮いた時間を演習にあてる。重要事項は板書し自分でノートなどに書いてもらうが。演習は自分で式を変形したり図を書いたり数値を求めたり、空欄に用語や文章を入れる、など。選択ではなく自分で書き入れる。席を回って出来を見ながらヒントを何段階かに分けて示す。自分で考えることを重視。学生同士の教えあいも奨励。2015年度秋から企業の工場の様子がわかる動画の使用を少しずつ開始。演習、基礎演習、新入生演習の学生の名前を全員覚える。
2　作成した教科書、教材、参考書		
経済原論Ⅰ	1998年 4月 1日 ～現在に至る	第1部マクロ経済学 第1章　国内所得の諸概念 第2章　国内所得の決定　民間部門のみ 第3章　国内所得の決定　政府の考慮 第4章　国内所得の決定　外国の考慮 第2部ミクロ経済学 第1章　家計 第2章　企業 第3章　市場
経済変動論1	1999年 4月 1日 ～現在に至る	序章　　経済変動とは 1、経済成長と景気循環 2、いくつかの用語についての注 第1章　マクロ経済の短期的変動 1、国内所得の2面等価 2、投資と短期均衡 3、在庫循環と景気循環 第2章　資本蓄積と長期均衡 1、投資の2面性 2、ドーマーの成長モデルにおける長期均衡 3　ハロッドの成長理論 第３章　新古典派の成長理論 1、技術代替 2、新古典派の成長モデル
経済変動論2	1999年 4月 1日 ～現在に至る	序　　経済変動とは 1.　経済成長と景気循環 2.　用語についての注 3.　景気循環の分類 第1章　　景気循環と景気指標 1.　景気循環の諸局面 2.　景気指標のいろいろ 3.　景気予測入門 第2章　　近代経済成長 1.　近代経済成長の概念 2.　英国における開始と世界的波及 3.　諸特徴と意義
入門経済学解説プリント	2016年 4月 1日 ～現在に至る	序章　経済学とはどんな学問か 第1章　需要と供給 第2章　消費者行動の理論 第3章　企業行動の理論 以降は授業の進行に合わせ作成
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
ビジネスの現場の経験と労働時間効率	単著	2015年 9月	追手門経済論集(追手門学院大学経済学会)第50巻(第2)		
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1981年～現在に至る	日本経済学会(国内学会)会員
1986年～現在に至る	経済政策学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	教授	四塚　　朋子	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
学習内容の選択	2008年 4月 ～現在に至る	講義科目では、伝統的な理論と新しいアプローチ、時事問題をバランスよく混合した内容構成を心掛けるとともに、Excelを用いた問題演習や資格試験の過去問で手応えを感じてもらうようにしている。
教室秩序の維持	2010年 4月 ～現在に至る	常にコミュニケーションカードで進捗状況や理解の程度を把握しながら進めている。私語をする学生にはただちに注意を与えるか、質問を振る。また、ノートを取る時間には学生間で個人差が大きいので、様子を見ながら関連する話題を提供している。
理解程度の把握	2010年 4月 ～現在に至る	科目によって頻度は異なるが（ファイナンス論、リスクと向き合う経済学（2015年度までは経済データ分析）ではほぼ毎回、入門経済学では数回（2014年度までの経済原論Ⅰでは4回）、確認のための小テストや課題を実施し期末の評価に反映させている。頻回に行う小テストや意思決定に関するアンケートではWebClassなどのICTを用いてリアルタイムで全体の結果を示し、学習内容の定着を促している。また、コミュニケーションカードを用いて簡単な問題の解答状況をチェックしている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
「人類の偉大なる発明品「株式」とそのフロンティア」　『経済知力を磨く』所収	2008年 4月 1日 ～現在に至る	大航海時代に遡って株式の発祥から説き起こし、近年のトピックに至るまで社会におけるその意義と役割について高校生・新入生向きに簡単に解説した。
授業資料・プレゼンテーション資料	2010年 4月 1日 ～現在に至る	すべての講義科目について、パワーポイントファイルとエクセルファイルを作成。簡潔で分かりやすい表現を心がけている。また、必要に応じて資料や問題解法の手順を教学システム上で取得できるように配慮している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
BDM法による危険回避度・危険回避変換価格と個人属性　金融リテラシーの観点から	単著	2013年 3月	追手門経済論集(追手門学院大学経済学会) 47(2)		86-101頁
カタストロフィックな不確実性に対するWTP(willingness to pay)―耐震補強・地震保険投資への行動ファイナンス・アプローチ	単著	2013年 9月	追手門経済論集(追手門学院大学経済学会) 48(1)		61-79頁
これから「金利」の話をしよう―義務教育課程における算数・数学分野での金融教育導入について―	単著	2015年 3月	一貫連携教育研究紀要(追手門学院一貫連携教育研究所) １（１）		85-89頁
その他					
人間の行動を科学する：　経済学	-	2012年 9月	追大講座(追手門学院高校)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1991年～現在に至る	日本経済学会(国内学会)会員
1993年～現在に至る	日本ファイナンス学会(国内学会)会員
1993年～現在に至る	日本経営財務研究学会(国内学会)会員
1995年～現在に至る	American Economic Association(国際学会)会員
1995年～現在に至る	American Finance Association(国際学会)会員
2008年 4月～現在に至る	公益財団法人・日弁連　法務研究財団　専門部会委員
2011年～現在に至る	日本リスク研究学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経済学部経済学科	教授	李　　義昭	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
高齢者・障害者・児童などの支援施設における体験的学習と障害当事者との交流学習～他者を知り、自己の開発を行う～	2006年 4月 1日 ～現在に至る	演習Ⅰ・Ⅱにおいて、本校の大学教育高度化推進に係る平成22年報告に関連し、学生が体験学習を通じて、社会や地域の現実と現状に接し、自己の世界と異なった世界を知り、自己の開発につなげる学習設定を行った。具体的には大阪府ボランティア府民活動センターが行う「ボランティア体験プログラム」に参加した。また、NPO法人「ヤンヤンのおうち」社会福祉法人「かがやき神戸」での合宿施設体験、さらに、国内外の研究者からも注目されている社会福祉法人「浦河べてるの家」（北海道）と社会福祉法人さっぽろひかり福祉会「ひかり工房」でボランティア体験を行った。また、障害者自立支援センター「ぽぽんがぽん」主催の「つながりまつり」に参加した。
障害当事者・支援者・高齢者などとの交流学習～福祉と経済のわかる学生を育てる～	2007年 4月 1日 ～現在に至る	講義科目「福祉社会論」において、本校の大学教育高度化推進に係る平成22年報告に関連し、学生が交流講義を通して社会的に困難を持つ人々の現実と現状を知り、福祉サービス市場における需要に対するき供給はどのように増加させることが出来るのか、福祉と経済を複眼的に考えさせること目標に設定した。具体的には、「障害があっても地域で暮らせる世の中に」「二人三脚でアメリカ・ピース・ツアー～原爆の被害とかなしみをアメリカ人に伝え語り合う～」「土曜日の天使達～社会福祉法人かがやき神戸ぐりぃと」「いなみ野学園大学院卒業論文発表」など当事者の講演を行った。
社会人学生演習講座（社会人ゼミ）～追大型生涯学習講座～	2011年 4月 1日 ～現在に至る	本学の教育開発奨励制度にかかわる報告に関連して社会人を一般に募集し、人生や社会活動の経験を整理・理論づける、コミュニティビジネス・ボランティア団体・NPO法人を立ち上げるなどの「演習テーマ」に沿って、学習・調査・研究などを行おうとする社会人を対象に演習クラス（社会人ゼミ）を設け、大学の地域貢献の一環として社会人学生に生涯学習の機会を提供することにより、本学一般学生の学習意欲の向上、社会的見識の熟成など教育開発の効果の促進を行った。なお、以下研究テーマに沿った報告発表会を行った。「縄文時代から江戸時代まで（手作りの農民）」「地方中小都市における、地方自治体の財政政策と市民との経済的関係の研究」「キャリア形成支援メソッド（7つの智慧）」「ホリスティックに生きる～ベニシア・スタンリー・スミス京都大原里山暮らしを通して～」「宗教の公益性～シューマッハの宗教経済から～」「グローバル経済の人間的側面」「明石市の高齢化と福祉について」「障がいがあっても地域で暮らせる社会」「着物リメイクでお洒落を楽しむ」
2　作成した教科書、教材、参考書		
多人数講義科目における情報技術利用による授業理解の促進	2005年 4月 1日 ～現在に至る	福祉社会論・経済原論・経済学基礎演習において、各科目を学習・理解する上で必要な基礎知識および基礎的語句を授業の最初に提示し、さらに、インターネットWeb上（本学では「学びの泉」：現在「ＷＥＢＣＬＡＳＳ」）で公開している。また、毎回の講義における板書（講義ノート）はワードで作成したものをプロジェクターで投影し、この内容も直近二週間分を（本学では「学びの泉」：現在ＷＥＢＣＬＡＳＳ」）で授業の理解促進のために公開している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
「日本の近代化と障害者」	単著	2013年 3月	（株式会社　晃洋書房）		
論文					
「福祉社会と障害者の自立」	単著	2013年 3月	追手門学院大学『追手門経済論集　第47巻　第2号』		
「福祉社会と生涯学習」	単著	2014年 3月	（追手門学院大学『追手門経済論集　第48巻　第2号』）		

「福祉社会とワークライフバランス」	単著	2016年 3月	(追手門学院大学『追手門経済論集　第48巻　第2号』)		
その他					
『個人的な経験と障害の社会モデル』	単著	2012年10月	障害学会(神戸)		
音声認識技術の利用可能性	単著	2012年10月	障害学会(兵庫県神戸市　神戸大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2004年4月～現在に至る	福祉社会学会(国内学会)会員
1997年4月～現在に至る	経済社会学会(国内学会)会員
2004年4月～現在に至る	障害学会(国内学会)会員
2002年 3月～現在に至る	特定非営利活動法人ヤンヤンのおうち代表
2012年 4月～現在に至る	経済学部社会人演習講座（社会人ゼミ）
2014年 2月	共に生きるための経済学（ＯＮＣＣ提携講座）
2014年 3月	「地域で支える医療と介護」を考える第1回
2014年 6月	「地域で支える医療と介護」を考える第2回
2014年 9月	地域で支える医療と介護「認知症」
2014年 9月	現代人の食意識
2015年 2月	個性とは何だ

経営学部

＜経営学科＞

井上　秀一　(37)
植藤　正志　(39)
岡崎　利美　(40)
金森　喜久男　(41)
川端　保至　(42)
神吉　直人　(44)
徐　治文　(46)
L.S.DE SILVA　(47)
杤尾　安伸　(50)
中村　都　(52)
西島　太一　(53)
藤原　英賢　(54)
水野　浩児　(55)
宮宇地　俊岳　(57)
村上　喜郁　(59)
八木　俊輔　(62)
山下　克之　(64)
李　建　(66)

＜マーケティング学科＞

池田　信寛　(67)
石盛　真徳　(69)
井出　明　(73)
金川　智惠　(75)
崔　宇　(77)
坂上　佳隆　(79)
笹本　晃子　(80)
篠原　健　(81)
長岡　千賀　(82)
中野　統英　(85)
朴　修賢　(90)
原田　章　(92)
福田　得夫　(94)
松井　温文　(96)
宮﨑　崇将　(100)

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	講師	井上　秀一	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
医療機関における管理会計システムの役割―ミドルマネジメントの観点から―	共著	2013年12月	メルコ管理会計研究(メルコ学術振興財団) (6)	藤原靖也	63-72頁
専門職の役割コンフリクトと管理会計に関する文献レビュー―医療専門職の役割コンフリクト緩和の観点から―（査読付）	単著	2014年 5月	京都大学経済論叢(京都大学経済学会) 188(2)		47-61頁
医療機関のマネジメントコントロールシステムにおけるミドルの役割―ある中規模病院を対象とした事例研究―（査読付）	単著	2014年 8月	日本医療経営学会誌(日本医療経営学会) 8(1)		29-36頁
医療機関の管理会計システムとミドルマネジメント―ミドルマネジメントによる組織内調整の観点から―	単著	2016年 3月	(京都大学大学院経済学研究科)		
その他					
Management Accounting in Health Care and Roles of Middle Managers	-	2013年 7月	Asia Pacific Interdisciplinary Research in Accounting Conference 2013 Emerging Scholar's Colloquium(Kobe International Conference Center)		
医療機関におけるミドルマネージャーの役割と管理会計	-	2013年 9月	第51回日本医療・病院管理学会学術総会(京都大学)		
医療機関における管理会計とミドルマネージャーの役割	-	2013年 9月	2013年度日本管理会計学会全国大会(立命館大学琵琶湖・草津キャンパス)		
Responsibility Accounting System as a Belief System	-	2013年11月	The 7th Annual New Zealand Management Accounting Conference(Queenstown Resort College)	Norio Sawabe, Sumitaka Ushio, Yuichi Ichihara	
Roles of Middle Management and Management Control in Health Care	-	2013年11月	The 7th Annual New Zealand Management Accounting Conference(Queenstown Resort College)	Norio Sawabe	
Roles of Middle Management and Management Control in Health Care	-	2014年 4月	2014 Management Theory and Practice Conference(Kitakyushu International Conference Center)	Norio Sawabe	

医療機関の管理会計システムとミドルマネージャー ―組織内調整の観点から―	–	2015年 8月	会計学サマーセミナー in 九州 2015(佐賀大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2013年～現在に至る	日本管理会計学会(国内学会)準会員
2014年～現在に至る	日本会計研究学会(国内学会)準会員
2014年～現在に至る	日本医療・病院管理学会(国内学会)準会員
2014年～現在に至る	日本医療経営学会(国内学会)準会員
2014年～現在に至る	日本原価計算研究学会(国内学会)準会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	教授	植藤　　正志	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
事業承継入門　３、（第Ⅰ章：事業承継とリスクマネジメント―関西商人の経営理念に見るリスク観―）	共著	2015年 2月	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所[編]（追手門学院大学　出版会）	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所	1-26頁
論文					
CRO（最高リスク管理責任者）の職能的位置と役割	単著	2014年 6月	追手門経営論集(追手門学院大学経営学会)２０(１)		１-２６頁
経営理念に関する学説概観―経営理念と経営目的の相関を中心として―	共著	2015年 3月	追手門経済・経営研究(追手門学院大学)(第22号)	蘇　倩、植藤　正志	107-148頁
企業環境論の台頭と経営理念論の衰退	共著	2015年 6月	追手門経営論集(追手門学院大学経営学会)２１(１)	蘇　倩・植藤正志	１-１００頁
その他					
現代リスクマネジメントの生成と“見えざる組織的危機原因”の存在について	-	2013年 5月	国際ビジネスコミュニケーション学会(同志社大学　今出川キャンパス)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1975年10月～現在に至る	経営史学会(国内学会)会員
1975年11月～現在に至る	日本経営学会(国内学会)会員
1981年 8月～現在に至る	日本リスク・マネジメント学会(国内学会)会員
2014年11月	追手門流　強い経営を極める～持続可能な企業を目指して～　プログラムA（リスク管理）
2014年12月	追手門流　強い経営を極める～持続可能な企業を目指して～プログラムB（リスクマネジメントの形態と構造）
2015年11月	社会人対象特別カリキュラム

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	准教授	岡崎　　利美	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
教育研究所紀要（第30号）への投稿	2012年 3月	「”わかる”を促す教育実践のための予備的考察」、『教育研究所紀要』　第30号、16~24頁、2012年
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
変貌する日本型経営 グローバル市場主義の進展と日本企業	共著	2013年 3月	(中央経済社)	◎上林憲雄(編著）、小松章、田中一弘、三輪晋也、高浦康有、佐藤善信、赤岡功、岡崎利美、浅井澄子、平野光俊、福井直人、松尾睦	143-159頁
Japanese Management in Change	共著	2014年 9月	(Springer)	Norio Kambayashi Editor	99-112頁
事業承継入門　第3巻	共著	2015年 3月	(追手門学院大学出版会)	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所編	243-265頁
『ベンチャービジネス研究１』	共著	2016年 3月	(追手門学院大学出版会)	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所編	77-98頁
論文					
研究ノート：ベンチャー企業の資金調達に関するいくつかの考察	単著	2013年 2月	追手門学院大学ベンチャービジネス・レビュー(追手門学院大学ベンチャービジネス研究所)(第5号)		61-66頁
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1993年 6月～現在に至る	証券経済学会(国内学会)会員
1998年4月～現在に至る	日本経営財務研究学会(国内学会)会員
2003年4月～現在に至る	日本財務管理学会(国内学会)会員
2004年4月～現在に至る	関西ベンチャー学会(国内学会)会員
2006年4月～現在に至る	日本経営学会(国内学会)会員
2011年 4月～現在に至る	兵庫県社会福祉協議会　民間社会福祉事業職員退職共済運営委員会委員
2011年10月～現在に至る	兵庫地方労働審議会　港湾労働部会公益代表委員
2014年12月～2016年 3月	茨木市水道・下水道事業審議会委員
2015年 3月～現在に至る	関西ベンチャー学会(国内学会)理事
2015年 7月	ウッドマーケティング講座
2015年10月	日本財務管理学会第41回秋季全国大会における司会者と討論者

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部	教授	金森　喜久男	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
講義したい内容をＰＰにて理解容易にする工夫	2015年4月1日	９０分講義ＰＰ３０枚とし授業理解を深める為ＣＰ記述、ＷｅｂにＰＰ、ＣＰ採点を掲載し予復習に活用
2　作成した教科書、教材、参考書		
現代企業論、中小企業経営論、スポーツマネジメント	2014年～現在	各講義テーマに基づき論点図式化し、１講座４００枚のＰＰが教材として閲覧可能
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
大阪エベッサ（プロバスケットクラブ）		Ｂリーグ誕生に伴い、選手、スタッフにプロクラブとしての教育指導
4　その他教育活動上特記すべき事項		
大阪経済大学講演、仰星高校ＳＧＨ委員会活動	2015年～現在	仰星高校のグローバルハイスクール化に対する助言

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
サッカー界における顧客の創造	単著	2014年 8月	(株式会社フロムワン発行、朝日新聞出版発売)		
スポーツ事業マネジメントの基礎知識	単著	2015年12月	(東邦出版株式会社)		
論文					
なし					
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2014年12月 1日～現在に至る	東海大学仰星高校　運営委員会　委員 東海大学仰星高校の運営に対する外部アドバイザー
2015年 4月～現在に至る	大阪エベッサ（プロバスケットボールクラブ）の研修顧問
2015年 4月～現在に至る	日本スポーツ産業学会(国内学会)会員
2015年 4月 1日～現在に至る	パナソニック客員会：客員就任 パナソニックの役員・上席理事以上経験者の会

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	教授	川端　保至	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
受講生の理解度を向上のため、重要語句やポイントとなる文章をブランクとしたレジュメ配布	1997年 ～現在に至る	受講生の講義理解度を向上させるため、板書予定の内容をすべてレジュメとして作成し、講義開始前に配布する。１回の講義で４頁～６頁になるレジュメは重要語句やポイントとなる文章がブランクなっており、受講生が講義聴講時に記入していく。全部記入すると当日の講義のサブノートが完成する。従来は教師の講義内容や板書したものをノートに書き写すという方法であった。重要語句等をブランク部分にしたレジュメを配布することで、講義内容の理解に集中できる。学生からも好評である。
学生の課題提出論文、パワーポイントでの発表内容、卒業論文などは演習のサイトにアップロートする。	1997年 ～現在に至る	２．　学生の課題提出論文、パワーポイントでの発表内容、卒業論文などは演習のＨＰにアップロートしている。外部に公表するということで内容的に十分なものを完成しようという意識が受講生に生まれており、学生間での刺激と相乗効果がある。学生の論文を公表するために、川端自身が事前に学生の論文作成指導をおこなっている。テーマの選び方、資料の収集方法、文章の書き方、論文形式等を指導している。その結果卒業後の社会人になったときに有効であると卒業生から好評である。
演習生・院生の研究発表をパワーポイントと同期させてネット上で研究発表の動画を閲覧できる方法を採用。	2006年 ～2014年 3月	３．　2006年から演習生ないし大学院生の研究発表をパワーポイントで作成・発表するだけでなく、発表を録画し、パワーポイントと同期させてネット上で研究発表の動画を閲覧できる方法を取り入れている。この方法によって、どこにいてもインターネット環境があれば研究発表が視聴できることになった。中国人留学生の両親が中国で娘の研究発表を視聴できて喜んでいたそうである。また採用内定企業の人事担当者全員が視聴して新しい試みにチャレンジしたことを高く評価していたという。この方法によって学生の勉学に取り組む姿勢が熱意あふれるものとなり、満足度も向上する。同期させた研究発表の動画は川端のホームページに掲載している。すでに1998年以降は研究成果を発表する場としてパワーポイントデータや、卒業論文をＰＤＦにしてＨＰで発表していたが、ネット環境・技術の向上により取り組みが可能となった。他には適宜実務経験者（税理士・公認会計士等）を呼んで、理論研究と実践との接点を提示している。
「商業簿記」の講義では全15回の講義を録画し、パワーポイントと同期したネットで視聴できる形式のものを作成	2007年 ～2014年 3月	４．　2007年度の「商業簿記」の講義では全15回の講義を録画し、パワーポイントと同期したネットで視聴できる形式のものを作成した。今回は市販のソフトを用いた。（すでに2001年～2002年に同志社大学で「日本税理士会連合会寄付講座」で全13回の講義を収録し、ネット掲載していた。）（2007年の商業簿記の講義は教科書の著作権の関係で外部からのアクセスはできない。）この試みは和歌山大学で2006年度から始まったe-Learningの実験プロセスの一環であり、全15回の講義をPPTと同期させた講義動画の作成は和歌山大学で初めての試みだそうである。この講義でも配付資料をワープロソフトで作成し、それをパワーポイントに貼り付ける形式でパワーポイントを作成した（通常は逆でPPTを作成して配付資料形式で印刷する。）。内容は上記「１」の配付資料と同じ形式である。
2　作成した教科書、教材、参考書		
重要語句・重要文章をブランクにしたレジュメを作成・配布し、受講生に対して講義の理解に集中させている。	1997年 ～現在に至る	重要語句・重要文章をブランクにしたレジュメを作成・配布し、受講生に対して講義の理解に集中させている。全部の講義を聴講するとテキストの内容を要約した「サブノート」が完成するようにしている。同時にブランク部分を対象にしたＭＳ－Ｅｘｃｅｌ のＶＢＡを利用したＰＣプログラムを作成し、ＨＰに掲載して使わせている。このプログラムは、ランダム出題、誤答問題の反復出題、理解困難問題の特別反復練習（できない問題ばかりを集めた集中練習）等の特徴がある。音声も、動画にも対応しており、将来的には、説明についての担当者の動画にリンクして、いわばe-Learningの形での教材提供をしたいと考えている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
34「会社法制の萌芽と株式会社会計」（千葉準一・中野常男責任編集『体系現代会計学第8巻・会計と会計学の歴史』所収）	単著	2012年 4月	千葉準一・中野常男責任編集『体系現代会計学第8巻・会計と会計学の歴史』（全488頁）（中央経済社）		183-226頁
論文					
なし					
その他					

19世紀ドイツの商事会社の利益計算―ロエスレル日本商法草案の評価規定理解の手がかり―	–	2014年 8月	日本簿記学会(神戸大学経営学部)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1980年 9月～現在に至る	日本会計研究学会(国内学会)会員
2002年 5月～現在に至る	日本簿記学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	准教授	神吉　直人	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
グループディスカッションによる学生間交流の促進	2008年10月 ～現在に至る	神戸女学院大学マネジメント概論において実施。副専攻プログラムにおけるワークショップ活動の前段階として、受講学生同士の距離を縮めることに成功している。
卒業論文添削の徹底	2012年 4月 ～2015年 3月	香川大学経済学部での演習において、担当学生（13人・9人・9人）に徹底的な文章指導を実施した。
授業用スライドによるノートテイキングへの誘導	2013年 4月 ～現在に至る	経営学入門、経営倫理、経営組織論、現代企業入門の４科目について、パワーポイントでスライドを作成（毎年少しずつ更新）し使用している。これは、学生がノートを取ることを習慣化することを意図している（そのため、教科書やレジュメの配布は行っていない）。
メール文章、授業時の感想文等の添削	2015年 4月 ～現在に至る	ゼミ生を対象とした文章指導
演習でのSPI、時事・一般常識問題指導	2015年 9月 ～現在に至る	数学、社会を中心に自ら作成した問題を解かせ、その解説を行っている。
学生によるオープンキャンパス用（高校生向け）パンフレット作成	2015年10月 ～現在に至る	パソコン能力、文章力、企画力、交渉力などを総合的に高めることを企図して、パンフレットを作成した。添削、コメント等の指導を徹底的に行った。
合同ゼミ（他大学との研究報告会）への参加	2016年 7月 ～現在に至る	甲南大学（尾形真実哉准教授）が主催する合同ゼミ（愛媛大学、岡山大学、福岡女子大学が参加）に、ゼミ生5人（3年生1人、2年生4人）が参加した。夏休みに週に1回梅田サテライトに集まることから始めて議論を重ねた。社会科学の研究手法、パワーポイントによる発表などを指導。
2　作成した教科書、教材、参考書		
授業用スライド	2013年 4月 ～現在に至る	経営学入門、経営倫理、経営組織論、現代企業入門の各科目について、授業で見せるスライドを作成（教科書として配布すると、学生がそれに頼りノートを取らなくなることを危惧し、スライドにとどめている）。日々、新たな知見を得るごとに加筆・修正を行っている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
台湾エレクトロニクス産業のものづくりー台湾ハイテク産業の組織的特徴から考える日本の針路	共著	2014年 5月	(白桃書房)	◎長内厚、神吉直人、伊藤信悟、伊吹勇亮、簡施儀、許経明、新宅純二郎、蘇世庭、立本博文、陳韻如、中本龍市、本間利通	第1章、第9章、第11章、終章
論文					
インハウスデザイナーによるデザインと技術の統合	単著	2012年 9月	香川大学経済論叢 85(1・2)		101-123頁
ケーススタディ・株式会社日プラの成長プロセス	共著	2014年 2月	香川大学Working Paper Series (186)	◎近藤虹色・神吉直人	1-14頁
研究ノート・香川オリーブガイナーズの現状と課題	単著	2014年 3月	香川大学経済論叢 86(4)		101-119頁
組織理論におけるデザインの位置付け	単著	2014年12月	追手門経営論集 20(2)		45-69頁
その他					
台湾の旧国防役制度と産業競争力	-	2012年11月	日台ビジネスアライアンス研究会(早稲田大学WBS研究センター11号館)		
リーダーシップ論	-	2013年 8月	香川県庁平成25年度グループリーダー（課長補佐）候補者研修(香川県高松市)		
リノベーション起業とは	-	2014年12月	第3回シェアラボ「あきなう」(追手門学院大学)		
「建築と旅」に関してわたしたちができること	-	2015年 2月	ケンペケ02 建築の旅(鹿児島市)		

パリ・Japan Expoにおける株式会社トーハンの役割	–	2015年 3月	「国際コンテンツ製作ネットワークでのプロデューサーの創造性マネジメント能力の分析」研究会(京都大学)		
第1回リノベーション起業カレッジ神戸	–	2015年 3月	第1回リノベーション起業カレッジ神戸(神戸市・チャータードビル)		
経営組織論	–	2015年 8月	2015年度教員免許状更新講習(追手門学院大阪城スクエア)		
からだをととのえる。まずは身体から！	–	2015年 9月	第2期・第1回シェアラボ(追手門学院大学4号館4404教室)		
きもちをととのえる。	–	2015年11月	第2期・第3回シェアラボ(追手門学院大学・4号館4404教室)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2004年～現在に至る	日本経営学会(国内学会)会員
2004年～現在に至る	組織学会(国内学会)会員
2009年～現在に至る	INSNA(国際学会)会員
2011年 7月～2013年 7月	丸亀市産業振興推進会議 会長
2011年 7月～2013年 7月	丸亀市産業振興推進会議・会長
2011年11月～2012年 3月	高松市中小企業基本条例制定懇談会 職務代理者
2012年 4月～2014年 3月	香川県立高松商業高校学校評議員
2013年 6月～2015年 8月	組織学会(国内学会)会員サービス・広報委員
2013年11月～2015年12月	組織学会(国内学会)評議員
2014年 4月～2016年 3月	早稲田大学 台湾研究所 招聘研究員
2014年12月	成熟社会研究所・第3回シェアラボ「あきなう」にて奥村聡氏（承継コンサルタント）と対談
2015年 1月～現在に至る	合気道凱風館・助教補
2015年 2月	「ケンペケ02建築の旅」にて建築家・光嶋裕介氏と対談
2015年 3月	「第1回リノベーション起業カレッジ神戸」サポーター
2015年 8月	教員免許状更新講習・講師（経営組織論）
2015年 9月	「第2期・第1回シェアラボ「からだをととのえる」にて平尾剛氏（親和女子大学講師／元ラグビー日本代表）と対談
2015年11月	「第2期・第3回シェアラボ「きもちをととのえる」にて金政祐司氏（追手門学院大学心理学部教授）と対談

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	教授	徐　　治文	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
加盟WTO与外商投資企業法	2013年12月	「法と経済学」の視点からWTO加盟与中国外商投資企業法を検討した内容
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
加盟WTO与外商投資企業法	単著	2013年12月	追手門経営論集 19(2)		1-21頁
その他					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1994年 7月～現在に至る	九州大学産業法研究会(国内学会)会員
1998年 7月～現在に至る	九州法学会(国内学会)会員
2002年 7月～現在に至る	日中民商法研究会(国内学会)会員
2003年 7月～現在に至る	中国商法学研究会(国際学会)会員
2008年 8月～現在に至る	中国商法学研究会(国際学会)理事

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	教授	L.S.DE SILVA	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
学生に質問時間を与える	2000年 4月 1日 ～現在に至る	授業終了15分前からその日の授業内容に関する不明なところを理解してもらうため質問時間が設けてある。
教材の配布	2000年 4月 1日 ～現在に至る	学生に授業内容を理解してもらうため、毎回関係資料を配布し、資料参考しながら説明する。
毎日出勤し学生指導を行う	2000年 4月 1日 ～現在に至る	月から金まで毎日出勤し、研究、教育だけではなく、学生の勉強に関する悩みや学生生活等に関する問題解決するため努力している。
企業訪問	2009年 4月 1日 ～現在に至る	日本企業のグローバル化の実態を把握するため、演習生春秋合わせて2回企業を訪問し管理職と面会している。 昨年度はSHARPと京セラ2社をほうもんした
招待講演	2009年 4月 1日 ～現在に至る	演習学生を対象に専門家を招待し、春秋あわせて2回招待講演を実施している。学生に現場の声を聞いてもらうのがもくてきである。
SAFTA, VISTA, APATA, AIFTA及びAANFTA関係の資料収集し、教材として使用する	2010年 4月 1日 ～現在に至る	学生に多国籍企業の最新課題を理解してもらうためSAFTA, VISTA, APATA, AIFTA及びAANFTA、関係の未公開情報を収集し、教材として配布した。
パワーポイントを利用した授業、ケースブックを利用した授業	2010年 4月 1日 ～現在に至る	授業内容が学生に簡単に理解してもらうため毎回パワーポイントを利用し授業を行っている。授業終了15分前から質問時間を設けている。学生に自由に相談できるようにいつでも研究室にくるように指導している。 ケースブックを使って理論からでてくる具体例の分析も行っている。 私が担当する多国籍企業論とBRICｓ企業論に上記の教育方法を取り入れている。
パワーポイント形式での教材作成	2010年 4月 1日 ～現在に至る	学生に配布する教材の全てがパワーポイント形式で作成している。参考になる文献リストも同時に配布する。
外部の客員と専門家の招待	2010年 4月 1日 ～現在に至る	授業に関する実態を学生に理解してもらう目的で企業の管理職や専門家を招待し、学生と意見交換を行っている
学生の個別指導	2010年 4月 1日 ～現在に至る	授業・演習に付いていけない学生を対象に個別指導を週に2～3回行っている。
講義内容の質を向上させるため国内外大学の教員と連携した情報交換	2010年 4月 1日 ～現在に至る	私が担当する講義内容を向上させるため、国内外の他大学と連携しながら専門分野で新しい情報の交換を行っている。 現在、一ツ橋大学、オーストラリアメルボルン大学とシンガポール国立大学の教員と専門情報の交換を行っている。
出席率改善のための取り組み	2012年 4月 1日 ～現在に至る	できるだけ学生に授業・演習に出席してもらうため、授業・演習中に春秋数回小テストを実施している。
外国大学の教員との意見交換と交流	2013年 4月 ～現在に至る	学部・大学院の学生に充実した専門知識を提供する目的で、外国の大学（オーストラリア・メルボルン大学、シンガポール国立大学、コロンボ国立大学、インド・バンガロール工科大学等）の科目担当教員と意見交換しながら授業内容を定期的に改善しています。
学生の出席率と授業に集中してもらうためにコメントシートの導入	2013年 4月 ～現在に至る	毎回、授業終了後に、コメント　シートを配布し、その日の授業中心に課題に回答してもらう。　コメント・シートの導入によって学生の出席率が高まっているだけではなく、私語や途中退出等が減りました。
2　作成した教科書、教材、参考書		
学部：多国籍企業論に関するパワーポイント形式で作成した教材	2009年 4月 ～現在に至る	多国籍企業論を学ぶ学生に講義内容を理解してもらうため、英語のテキストを参考にして作成した教材です。
大学院（博士前期）：多国籍企業に関するケースブックとパワーポイント形式での教材の作成　（春・秋　2冊）	2010年 4月 ～現在に至る	多国籍企業論を受講する学生を対象にケースブックを作成し配布した。 パワーポイント形式で教材を作成し、授業中に学生に参考文献として配布した。
ＢＲＩＣｓ企業経営に関するパワーポイント形式の教材作成	2010年 4月 ～現在に至る	ＢＲＩＣｓ経営論を学ぶ学生に講義内容を簡単に理解してもらうため、英語の文献を参考にして作成した教材です。ＢＲＩＣｓ関係の文献が日本語で出版されていないので、このような教材が学生に大変役にたちます。
国際企業及びグローバル企業に関する教材作成	2010年 4月 1日 ～2014年 3月31日	国際企業およびグローバル企業に関する以下の教材を作成し、学生に配布した。 １．インド企業のグローバル化に関する教材、　２．中国企業のグローバル化に関する教材、　３．貿易の自由化に関する教材
BRICｓ教材作成	2012年 4月 1日 ～2015年 3月	学生にBRICｓ諸国の具体例を理解してもらうため、毎年、BRICｓ諸国の最新情報を収集し、BRICｓ教材を作成している。毎年250冊以上の教材作成し、学生の参考資料として配布した。授業から出てくる実態に関する統計と数表がBRICｓ教材に含まれていますので理論と実態両面でバランスをとれた授業をおこなうことができる。
ASEAN企業に関する事例作成	2013年 4月 1日 ～2014年 3月	学生にASEAN企業について具体的に理解してもらうため、ハンドブックを作成し、授業の参考教材として配布した
BRICs経営論に関する資料作成	2014年 3月 ～2015年 3月	BRICs経営論を履修する学生にはBRICs諸国の経済、経営、社会、貿易と投資について理解してもらうために作成した教材です
BRICs経営論に関するパワーポイント形式で作成した教材。	2014年 4月 1日 ～2015年 3月31日	BRICs経営論を学ぶ学生に講義内容をわかりやすくするために作成した教材です。 授業中に適宜はいふしています。
多国籍企業論に関するパワーポイント形式で作成した教材	2014年 4月 1日 ～2015年 3月31日	多国籍企業論を学ぶ学生に講義内容をより簡単に理解してもらうため、パワーポイント形式で作成した教材です。
自由貿易とＴＰＰに関する資料作成　（英文）	2014年 4月 1日 ～2015年 3月	自由貿易とＴＰＰに関する資料作成　Data and Information on Free Trade and TPP
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		

How Did you learn English? コロンボ国立大学研修会のResource Personとして出席	2012年 8月	コロンボ国立大学で毎年開催されている英語教育プログラムに212年に外部Resource Personとして出席した。
Standard of Education in Developing Nations: The Case of Sri Lanka	2014年 8月 8日	Academic workshop held at the Institute of Higher Education in Victoria Australia 2014
低迷する大学教育について考える：オーストラリアの事例を中心として	2014年 8月10日	オーストラリア・メルボルン大学で開催されました「Quality of Education-The Case of Australia」に参加することができた。会議では、日本の大学教育の現状と課題について意見を述べた。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
研究生の指導	2001年 4月 1日 ～現在に至る	大学院を進学を希望する研究生対象に研究計画書の書き方、研究方法論等について個別に指導している。
大学院生を対象に個別指導を実施する	2002年 4月 1日 ～現在に至る	専門知識をもたずに大学院に進学した学生が多い。大学院での授業・演習に付いていけない学生の個別指導を実施する。
外国大学教員との専門科目に関する意見交換と情報交換	2012年 4月 ～2015年 3月	私が担当している「多国籍企業論」と「BRICs企業論」科目の充実を図る目的で外国大学の同様な科目を担当されている教員と意見交換と情報交換を定期的に行っています。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Foreign Access to Japanese Market under Economic and Demographic Transition	単著	2012年 6月	Review of Otemon Business Management(Management Association of Otemon University) 18(1)		35-62頁
A Review of Major Macroeconomic Factors Affecting Current Status and Future Trends in India	単著	2013年 6月	Review of Otemon Business Management(Association of Business Management, Otemon Gakuin University) 19(1)		111-150頁
Past Developments and Future Trends of Economic Transformation and Globalization in SAARC	単著	2013年12月	Otemon Economic Studies(Meibun Sha) Vol 46(No. 1)		55-74頁
An Analysis of Trade Policy in SAFTA and Its Economic Impact on Member Countries	単著	2014年12月	Otemon Economic Studies 47		25-34頁
Export Trends and Free Trade in Australia: An Analysis	単著	2014年12月	Otemon Journal of Australian Studies 40		47-62頁
その他					
The strategy of Japanese multinationals in Oceania	-	2013年 8月	Melbourne University(Melbourne)		
Japanese Market Conditions for Australian Exports	-	2013年 9月	Australia Melbourne University(Melbourne Australia)		
A Statistical Analysis of Recent Trends in Exports in Australia	-	2013年12月	Working paper Series		1-18頁
An Analysis of Trends and Prospects in Free Trade between ASEAN, Australia and New Zealand	-	2013年12月	Working Paper Series		01-20頁
South Asian Association for Regional Cooperation (SAARC) and its impact on Global Trade	-	2013年12月	Colombo University Sri Lanka(Colombo Sri Lanka)		
The Role of Japan in ASEAN	-	2014年 3月	National University of Singapore(Singapore)		
Australia's Free Trade Policy and Its Impact on Japan	-	2014年 8月	Victoria University Melbourne Australia(Australia)		

Free Trade Policy in Australia	–	2014年 8月	Melbourne University Australia(Australia)		
Free trade between ASEAN, Australia and New Zealand: An Analysis	–	2014年 9月	Melbourne University Victoria Australia(Melbourne University Victoria Australia)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1990年 7月～現在に至る	JAPANESE GRADUTES' ALUMNI ASSOCIATIONの委員
1995年 5月～現在に至る	Sri Lanka Economic Association(国際学会)会員
1999年 4月～現在に至る	Association of Professional Management, Sri Lanka(国際学会)会員
2001年～現在に至る	IMAGE LANKA スリランカ非政府組織 (NGO) の各員顧問
2004年11月～現在に至る	Management Association of Singapore(国際学会)会員
2005年 9月～現在に至る	Australia Management Association(国際学会)会員
2008年 4月～2012年 5月	Sri Lanka Economic Association(国際学会)Editor
2008年 5月～2014年 4月	Australia Management Association(国際学会)Member
2010年11月～2013年10月	Association of Professional Management, Sri Lanka(国際学会)Editor
2012年12月	コロンボ国立大学講演　The Role of SAARC in South Asia
2013年 8月	メルボルン大学講演　Statistical Analysis　of Recent Trends in Exports in Australia
2014年 2月	シンガポール国立大学講演　The Role of　Japan in ASEAN　Economic Region
2014年 8月	Melbourne University Seminar on Free Trade
2014年 9月	Victoria University Seminar on Japan's Foreign Trade Policy

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	准教授	杤尾　　安伸	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
ビデオ教材などを利用したケーススタディ	2004年 4月 ～現在に至る	経営学は実務から派生した学問であるため、常に実践からの検証が求められる。従って、可能な限り具体例をもとに、経営学の諸理論を理解させるための工夫を行っている。具体的には、例えば、ある企業や人物がどのようにして成功に至ったのか、またその成功に至るまでにはどのような経緯があったのか、を把握する。このうえで、この事例を理論的にはどのように解釈できるのか、について解説を行う。このためには、学生自身がまず考える必要があるので、事前に問題を設定して、その問題を解説する形での理論概念の説明を行う。 このような手法で行うことにより、経営学の諸理論をただ覚えるだけではなく、具体例を通して理解させるため記憶への浸透が深いと思われる。
ゼミ活動におけるキャリア教育	2013年 4月 ～現在に至る	私のゼミでは、基礎演習の段階から「自己分析」「大学時代の活動」などの将来の就職活動に関わる文書の作成および指導を行っている。特に、「大学時代の活動」については実際に就職活動の段階になって記述するのは非常に困難である。このため、ゼミ活動において「ビジネスプラン作成」を実際に作成・プレゼンすることによって、この文書の内容作りならびに指導を行っている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
1からの経営学（中央経済社）　（第1版2006年）　（第2版2012年）	2006年 6月 ～現在に至る	本教科書は、教育方法の実践例における「ケーススタディによる教育」を補完するための教科書である。この教科書においては、従来の経営学の教科書にみられるような理論先行の記述は行われていない。経営学の諸理論を具体的な事例に基づいて解説を行っている。授業は、本教科書に基づいた形で行われているわけではないが、授業において小位階する具体例と、本教科書で紹介した事例など、いづれも具体例を多用することによって、経営学の諸理論の理解が進むことを目的としたものである。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
本学ビジネスプランコンテストへの参加と、合同企業説明会への参加	2015年 12月 ～現在に至る	すでに実務経験に関わる特記事項にも記述しているが、本学ビジネスプランコンテストには、私のゼミの2回生は全員聴講、3回生は全員発表、という形で参加している。また、毎年エキスポパークで開かれる合同企業説明会に私のゼミの2回生は全員学外活動の形で参加させている。2回生から就職説明会に参加させることで、就職への関心を早い段階から持ってもらうことを狙っている。実際に、参加した学生からも好評であった。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
1からの経営学（第２版）	共著	2012年 4月	(中央経済社)	加護野忠男・吉村典久編	56-67頁
事業承継入門３	共著	2015年 2月	(追手門学院大学出版会)	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所編	147-162頁
論文					
新人雇用の理論的考察（査読付）	単著	2012年12月	繊維製品消費科学(繊維製品消費科学学会) 53		33-37頁
労働過程変革の歴史理論と企業内教育	単著	2013年 2月	VENTURE BUSINESS REVIEW(追手門学院大学　ベンチャービジネス研究所) 5		13-20頁
人的資本論における理論的課題と労働過程変革の歴史理論	単著	2013年 6月	追手門経営論集(追手門学院大学経営学会) 19(1)		151－164頁
その他					
企業はなぜ新人を採用するのか	-	2012年 6月	日本繊維製品消費科学会(文化学園大学)		
経営学における研究手法	-	2012年 6月	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所(追手門学院大学)	土曜講座第3回　単独	
労働過程変革の歴史理論と企業内教育の実態	-	2014年 6月	日本繊維製品消費科学会全国大会(京都工芸繊維大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
年月	内容
2012年 6月	日本繊維製品消費科学会2012年次全国大会　消費者問題　座長
2012年 8月	六甲ビジネスシステムコンファレンス2012 幹事
2013年 6月	日本繊維製品消費科学会2013年次全国大会　消費者問題　座長
2013年 8月	六甲ビジネスシステムコンファレンス2013　幹事
2014年 6月	日本繊維製品消費科学会2014年次全国大会　消費者問題　座長
2014年 8月	六甲ビジネスシステムコンファレンス2014 幹事

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	教授	中村　　都	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
国際関係論へのファーストステップ	2012年 4月 ～現在に至る	教科書として2012年度から授業で使用（著書欄にも記載）
国際関係論へのファーストステップ　　初版、第2刷	2014年 5月	現代国際社会のトピックを平易に解説
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
鹿児島からカナダへある日本人移民のライフヒストリー　再び新たな聞き書きを加えて	単著	2015年 3月	追手門経済・経営論集（２２）		
その他					
人権としての平和の追求：　カナダ先住民の事例を中心に	–	2012年11月	日本平和学会(三重県津市)		
シンガポールの教科書にみる日本　　日本・シンガポールのよりより関係の構築に向けて	–	2015年10月	日本英語コミュニケーション学会(兵庫県西宮市)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1999年７月～現在	アジア政経学会(国内学会)会員
1992年５月～現在	日本国際政治学会(国内学会)会員
1992年５月～現在	日本平和学会(国内学会)会員
1999年４月～現在	日本社会学会(国内学会)会員
1995年４月～現在	日本英語コミュニケーション学会(国内学会)会員
2000年２月～現在	豪州アジア学会(国際学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	准教授	西島　　太一	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
上場各社に係る知識の涵養	2014年4月1日～現在に至る	講義の冒頭に上場各社の事業内容・社史・最近のニュース等を紹介した上で、事業（中間）報告・株主通信・決算短信等のIR関係資料を回覧に付し、以て日本の上場企業に関する知識の周知を図っている。（必要に応じて「スマホ使用許可」との条件で各社に関する「参考問題」（小テスト形式）も出題している。）
2　作成した教科書、教材、参考書		
配布レジュメ	1999年 4月 1日 ～現在に至る	講義系の各担当科目につき、1科目当たり半期120～180頁（1頁45字×50行）程度のレジュメ及びその他添付資料を配付している。 尚、それにより教科書や六法の購入・持参は不要としている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
養子縁組事件の国際裁判管轄権	共著	2012年 6月	国際私法判例百選[第2版](有斐閣)	櫻田＝道垣内編	214-215頁
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1995年 5月～現在に至る	国際私法学会(国内学会)会員
1997年 3月～現在に至る	関西国際私法学会(国内学会)会員
2012年12月～2013年 2月	国際私法学会誌掲載論文の査読及び執筆指導

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 経営学部経営学科	職名 准教授	氏名 藤原　　英賢	大学院における研究指導 担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
簿記資格の取得を支援するための講座を実施した。	2011年10月 1日 ～2013年3月	学習支援室で簿記学習支援講座を実施した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
我が国監査法人の専門性の測定	単著	2012年12月	追手門経営論集 18(2)		27-52頁
監査人の専門性と継続企業の前提に関する監査判断の関係	単著	2012年12月	追手門経営論集(追手門学院大学経営学会) 18(2)		53-72頁
監査報酬の決定に対する監査人の専門性の影響	単著	2013年 3月	追手門経済・経営研究(追手門学院大学) (20)		11-21頁
内部統制の問題を開示した企業の性質と問題の深刻度に関する研究	単著	2014年 3月	月刊監査研究(一般財団法人日本内部監査協会)		
内部統制報告制度に関する議論の整理	単著	2014年 3月	追手門経済・経営研究(追手門学院大学)		
内部統制を整備する意味を考える	単著	2015年 9月	企業会計(中央経済社) 67(9)		6-7頁
内部統制報告制度の改正に対する批判的検討	単著	2015年10月	企業会計(中央経済社) 67(10)		6-7頁
その他					
我が国企業の内部統制に関する情報開示の研究	-	2013年11月	日本監査研究学会第36回全国大会(東北大学)		
THE ECONOMIC DIFFERENCE BETWEEN COMPANIES WITH MATERIAL WEAKNESSES AND COMPANIES WHICH RECOGNIZED FUTURE INTERNAL CONTROL RISK	-	2014年10月	26 TH ASIAN - PACIFIC CONFERENCE ON INTERNATIONAL ACCOUNTING ISSUES(台北)		
2013年度監査研究の動向	-	2015年 3月	現代監査(日本監査研究学会)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2008年 4月～現在に至る	日本監査研究学会(国内学会)会員
2009年 1月～現在に至る	アメリカ会計学会(国際学会)会員
2009年 4月～現在に至る	日本内部統制研究学会(国内学会)会員
2009年 9月～現在に至る	日本会計研究学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	教授	水野　　浩児	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
ガンバ大阪公式戦におけるエコ推進活動	2010年 4月 ～現在に至る	ガンバ大阪公式戦全てにおいて、ゼミ生を中心に分別啓蒙活動を展開している。その活動はマスコミなどに取り上げられ、学生たちのモチベーションアップ等につながり就職面においても優位に働いている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
現代における債権譲渡行為の実相とその問題点	共著	2013年10月	法律行為論の諸相と展開（法律文化社）	髙森　八四郎・植木　哲	219-241頁
事業承継入門２「企業経営とファイナンス」	共著	2014年 2月	（追手門学院大学出版会）	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所編　　田淵正信・大庭みどり・小牧義昭・梶原晃・葉山幹恭	55-77頁
企業経営における金融機関との関係	共著	2015年 2月	事業承継入門３（追手門学院大学出版会）	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所編　　山下克之・岡崎利美・中野統英・李建・宮宇地俊岳・坂上佳隆	285-304頁
論文					
金融取引実務から考察する債権譲渡の実相と法人税部分貸倒との牽連性	単著	2012年12月	追手門経営論集１８（２）		７３頁
金融円滑化法期限到来から考察する債権譲渡の実相	単著	2014年 3月	追手門経済・経営研究21巻（21）		43-51頁
金融円滑化における担保のあり方と債権譲渡の実相	単著	2015年 3月	追手門経済・経営研究22巻（追手門学院大学）（22）		87-96頁
企業経営におけるＣＳＲと事業性評価	単著	2016年 3月	ベンチャービジネスレビュー（8）		15-20頁
ＡＢＬが金融実務に及ぼす影響と債権譲渡の実相	単著	2016年 3月	追手門学院大学経済・経営研究第23号（23）		17-34頁
その他					
融資に強い人材育成研修（事業性評価と金融行政１）	－	2014年 8月	南都銀行総合職研修（南都銀行研修センター）		
融資に強い人材育成研修（事業性評価と金融行政２）	－	2014年 8月	南都銀行総合職研修		
オーストラリアの金融情勢とアジア経済の動向について	－	2014年 9月	ナショナルオーストラリア銀行「資産運用特別セミナー」（ハービス大阪）		
オーストラリア金融情勢とアジア経済の動向について―これからのオーストラリアの魅力の検証―	－	2014年 9月	ナショナルオーストラリア銀行「資産運用特別セミナー」（ヒルトンプラザ）		
自律力向上セミナー　報連相をフル活用して自立力アップ	－	2014年 9月	篠山市人材育英セミナー（丹南商工会館）		
オーストラリアの金融情勢とアジア経済の動向について	－	2014年11月	ナショナルオーストラリア銀行「資産運用特別セミナー」（名古屋マリオットアソシアホテル　１６階「サルビア」）		

オーストラリア金融情勢とアジア経済の動向について―これからのオーストラリアの魅力の検証―	－	2014年11月	ナショナルオーストアリア銀行「資産運用特別セミナー」(名古屋マリオットホテル)		
若手社員の的確な指導方法―現代の若者の実情について―	－	2015年 1月	ニューファクトリー開発協会　　新年親睦・賀詞交歓会＆講演会(リーガロイヤルＮＣＢ)		
融資に強い人材育成研修（事業性評価と金融行政１）	－	2015年 8月	南都銀行総合職研修		
融資に強い人材育成研修（事業性評価と金融行政２）	－	2015年 8月	南都銀行総合職研修(南都銀行本店)		
オーストラリアの金融情勢と住宅取得環境	－	2015年12月	大洋州経済学会第45回大会(京都大学)		
事業性評価と債権譲渡について（金融行政方針研究）	－	2016年 1月	奈良信用金庫支店長会(奈良県郡山市　奈良信用金庫本店)		
事業性評価と債権譲渡（ＡＢＬ）について（金融行政方針研究）	－	2016年 1月	北おおさか信用金庫審査担当管理職会議(北おおさか信用金庫研修所)		
事業性評価と債権譲渡について（金融行政方針研究）	－	2016年 2月	奈良信用金庫支店長会(奈良県大和郡山市　奈良信用金庫本店)		
事業性評価と債権譲渡について（金融行政方針研究）	－	2016年 3月	奈良信用金庫支店長会(奈良県大和郡山市　奈良信用金庫本店)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2006年10月～現在に至る	金融法学会(国内学会)会員
2007年 5月～2014年3月	日本ファイナンス学会(国内学会)会員
2007年 6月～現在に至る	日本知財学会(国内学会)会員
2007年 4月～現在に至る	本学体育会サッカー部部長・顧問
2009年 4月～現在に至る	奈良県再生支援協議会専門家委員（アドバイザー）
2009年 4月 1日～現在に至る	奈良県再生支援協議会 アドバイザー
2010年 4月～現在に至る	兵庫県嘱託診断委員
2010年 4月～現在に至る	奈良県再生支援協議会アドバイザー
2010年 4月～現在に至る	関西学生サッカー連盟理事
2010年 4月 1日～現在に至る	兵庫県 嘱託診断委員
2011年 4月～現在に至る	中小企業基盤整備機構企業連携支援アドバイザー
2011年 4月 1日～現在に至る	中小企業基盤整備機構 企業連携支援アドバイザー
2015年12月～現在に至る	大洋州経済学会(国内学会)会員
2013年 8月	毎日放送テレビ「ＶＯＩＣＥ」出演
2005年 4月～現在に至る	ラジオ大阪パーソナリティ（土曜情報スタジオ毎週20時～21時メインパーソナリティ）

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	准教授	宮宇地　俊岳	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
歴史から見る公正価値会計－会計の根源的な役割を問う－	共著	2013年 3月	(森山書店)	渡邊 泉編著（渡邊 泉、松本 敏史、宮武 記章、宮宇地 俊岳、高須 教夫、杉田 武志、佐々木 重人、岡嶋 慶、久保田 秀樹、小野 武美）	51-71頁
Fair Value Accounting in Historical Perspective	共著	2014年 2月	(MORIYAMA SHOTEN)	Izumi Watanabe (Editor and Co-Authour)	61-84頁
事業承継入門 3　事業承継のためのマーケティングと経営管理	共著	2015年 2月	(追手門学院大学出版会)	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所編（共著者：植藤 正志、大門 康剛、井出 明、稲葉 哲、朴 修賢、長岡 千賀、杤尾 安伸、坂上 佳隆、宮宇地 俊岳、李 建、中野 統英、岡崎 利美、山下 克之、水野 浩児	183-207頁
論文					
公正価値会計の現状と課題	単著	2012年 8月	日本会計研究学会 課題研究委員会 最終報告書『歴史から見る公正価値会計－会計の根源的な役割を問う－』		45-62頁
Does Fair Value Accounting Improve Relevance of Accounting Information ?	単著	2013年12月	Otemon Economic Studies 46		37-53頁
企業分析における経営戦略分析の意義と分析事例	単著	2014年 2月	追手門学院大学ベンチャービジネスレビュー(追手門学院大学ベンチャービジネス研究所) 6		23-34頁
買収防衛策導入による経済的帰結に関するサーベイ　―導入企業属性、株価効果、利益マネジメントを中心として―	単著	2015年 3月	追手門学院大学ベンチャービジネスレビュー 第7巻		3-14頁
その他					
Does Fair Value Accounting Improve Relevance of Accounting Information ?	-	2012年12月	2012 Accounting Theory and Practice Conference, Taiwan Accounting Association(National Taiwan University, Taipei, Taiwan)		
学会ルポ　日本会計研究学会第６２回関西部会（統一論題「財務情報利用の理論と実際」）	-	2013年 6月	企業会計(中央経済社) 65(6)		133頁

The Politics of Global Accounting Standards:The Case of the Accounting Standard Advisory Forum (ASAF)	-	2015年 8月	"Building Bridges to Our Future" , 2015 Annual Meeting of American Accounting Association(The Hyatt Regency Chicago and Swissôtel Chicago, Chicago, USA)	Masatsugu Sanada (Shyujitsu University)	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2007年 9月～現在に至る	日本会計研究学会(国内学会)会員
2007年11月～現在に至る	日本ディスクロージャー研究学会(国内学会)会員
2009年11月～現在に至る	Asian Academic Accounting Association （アジア会計学会）(国際学会)会員
2009年12月～現在に至る	European Accounting Association （ヨーロッパ会計学会）(国際学会)会員
2012年 9月	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所　土曜セミナー「IPOにおける初値乖離の現状と要因」
2013年 7月	関西社会人大学院連合　インテリジェント・アレー専門セミナー　「財務諸表入門」（全2回）
2014年 9月	Discussant on "The relationship between R&D capitalization and subsequent R&D investment decision the monitoring role of board of directors", The 73th Annual Meeting, Japan Accounting Association, Yokohama National University, Yokohama, Japan
2015年 6月～現在に至る	American Accounting Association （アメリカ会計学会）(国際学会)会員
2015年 9月	Discussant on "The effect of chief executive officers turnover on international financial reporting standards reconciliation", The 74th Annual Meeting, Japan Accounting Association, Kobe University, Kobe, Japan

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	准教授	村上　　喜郁	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
ビジネス・マネジメント	2013年 9月	経営学初学者に向けた基礎的な経営管理に関する教科書。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ビジネス・マネジメント	共著	2013年 9月	(文眞堂)	柴健次・廣瀬幹好・向山敦夫・木口誠一 編著	30-38頁
事業承継入門1　事業承継のための経営革新とマーケティング	共著	2014年 2月	(追手門学院大学出版会)	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所　編　（八木俊輔・有田健一・文能照之・村上喜郁・池田信寛・牧 美喜男）	59-77頁
ベンチャービジネス研究1　地域おこし、資本政策、IT技術、ファイナンス、物流管理、ダークツーリズム	共著	2016年 3月	(追手門学院大学出版会)	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所編（宮宇地俊岳、中野統英、岡崎利美、宮﨑崇将、井出明）	1-28頁
人としくみの農業　地域をひとから人へ手渡す六次産業化	共著	2016年 3月	(追手門学院大学出版会)	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所編（香坂玲、葉山幹恭、梶原晃）	53-93頁
論文					
フードツーリズムにおける差別化要因としてのガストロノミー	単著	2012年12月	日本観光研究学会全国大会学術論文集(日本観光研究学会) 27		193-196頁
自動車企業における現代的フルライン政策に関する試論－GM社の事例を中心に－（査読付）	単著	2013年 8月	工業経営研究(工業経営研究学会) 27		65-72頁
B級ご当地グルメのブランド戦略―三重県亀山市の「亀山みそ焼きうどん」の事例を中心に―	単著	2013年12月	日本観光研究学会全国大会学術論文集(日本観光研究学会) 28		101-104頁
ご当地グルメによる地域振興における組織間ネットワーク―静岡県富士宮市の事例を中心にして―	単著	2014年12月	『第29回 日本観光 研究学会 全国大会 学術論文集』(日本観光研究学会)		177-180頁
ガストロノミーとフードツーリズム開発	共著	2014年12月	『第29回 日本観光研究学会 全国大会 学術 論文集』(日本観光研究学会)	尾家 建生、玉置 桃子、村上 喜郁	97-100頁
東日本大震災特別研究・カキの東北のガストロノミーのブランド化と観光事業の再生：全国大会研究成果発表報告要旨	共著	2014年12月	『東日本大震災特別研究 成果報告要旨集』(日本観光研究学会)	尾家 建生、大森 真治郎、丸岡 義治、庄子 真岐、大浪 健一、橋爪 伸也、山川 雅行、高田 剛司、村上 喜郁	5-6頁
その他					
自動車企業における現代的フルライン政策に関する試論	-	2012年 9月	工業経営研究学会、第27回全国大会(佐賀大学)		
フードツーリズムにおける差別化要因としてのガストロノミー―都市型と地方型を軸として―	-	2012年12月	日本観光研究学会　第27回全国大会(宮城大学)		

おうてもん塾第3期「事業承継　第2講「事業承継と新しいビジネス分野への展開」	-	2013年 2月			
泉州地域の地域プロモーションに関する調査研究～食を通じた地域ブランド構築に向けて～	-	2013年 6月	(公益財団法人　堺都市政策研究所)	尾家建生、高田剛司、村上喜郁	
はなやか関西　文化首都年　フォーラム「関西の食文化とフードツーリズム」	-	2013年 9月	(大阪府立大学　I-site なんば)		
フードツーリズムの可能性	-	2013年11月	観光政策フォーラム(株式会社ジェイクリエイト) (53)		
公開講座フェスタ2013　「ご当地グルメ」と地域振興	-	2013年11月	(大阪府新別館南館8階大研修室)		
B級ご当地グルメのブランド戦略―三重県亀山市の「亀山みそ焼きうどん」の事例を中心に―	-	2013年12月	日本観光研究学会　第28回全国大会(神奈川県)		
フード・ツーリズム研究：成果報告－関西における食と観光の関係性と競争優位性－	-	2014年 3月	観光研究(日本観光研究学会) 25(2)	尾家建生、高田剛司、村上喜郁、山川雅行、玉置桃子、近藤政幸、王静、中子富貴子、原田弘之、中井郷	59-62頁
泉州地域の地域プロモーションに関する調査研究~食のブランド化による観光振興・地域活性化~	-	2014年 3月	(公益財団法人　堺都市政策研究所)	尾家建生、高田剛司、村上喜郁	
追手門学院大学提携講座　「食」を考える　第6回ご当地グルメとフードツーリズム（1）	-	2014年 5月	はびきの市民大学(大阪府　羽曳野市)		
公開フォーラム ユネスコ無形文化遺産登録記念「和食は誰のものか？」	-	2014年 6月	国立民族学博物館　公開フォーラム ユネスコ無形文化遺産登録記念(大阪府)		
追手門学院大学提携講座　「食」を考える　第6回ご当地グルメとフードツーリズム（2）	-	2014年 6月	はびきの市民大学(大阪府　羽曳野市)		
地域文化創造セミナー春講座「上方文化ホスピタリティ 第4回 大阪の外食産業とおもてなし」	-	2014年 9月	(大阪府　茨木市)		
日本観光研究学会 特別研究 フォーラム「震災復興とフードツーリズム －牡蠣の可能性めぐってー」「生鮮マーケットの総合観光拠点化」	-	2014年 9月	日本観光研究学会 特別研究 フォーラム「震災復興とフードツーリズム －牡蠣の可能性めぐってー」(宮城県　石巻市)		
はなやか関西　文化首都年　フォーラム「大阪の市場と観光」	-	2014年11月	(大阪府立大学　I-site なんば)		
ご当地グルメによる地域振興における組織間　ネットワーク―静岡県富士宮市の事例を中心にして―	-	2014年12月	第29回 日本観光研究学会 全国大会(大阪府立大学 I-siteなんば)		
ガストロノミーと フードツーリズム開発	-	2014年12月	第29回 日本観光研究学会 全国大会(大阪府立大学 I-siteなんば)	尾家 建生、玉置 桃子、村上 喜郁	
東日本大震災 特別研究　カキによる東北のガストロノミーのブランド化と観光の再生（ポスターセッション）	-	2014年12月	第29回 日本観光研究学会 全国大会(大阪府立大学 I-siteなんば)	尾家 建生、大森 真治郎、丸岡 義治、庄子 真岐、大浪 健一、橋爪 伸也、山川 雅行、高田 剛司、村上 喜郁	
フォーラム「ガストロノミーとフードツーリズム」	-	2015年 2月	フードツーリズム研究会(大阪（追手門学院　梅田サテライト）)		
見山の郷 商品開発プロジェクト	-	2016年 2月	地域文化創造機構 北摂学 第6回報告(追手門学院大学 会議室5)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
年月	内容
2000年～現在に至る	日本経営学会(国内学会)会員
2001年～現在に至る	工業経営研究学会(国内学会)会員
2010年～現在に至る	日本フードツーリズム研究会（旧：フードツーリズム研究会）(国内研究会)会員
2011年～現在に至る	日本観光研究学会(国内学会)会員
2011年 9月～2014年 9月	工業経営研究学会(国内学会)会計幹事
2013年 2月	おうてもん塾第3期　「事業承継　第2講「事業承継と新しいビジネス分野への展開」
2013年 9月	はなやか関西　文化首都年　フォーラム「関西の食文化とフードツーリズム」
2013年11月	公開講座フェスタ2013　「ご当地グルメ」と地域振興
2014年 5月～2014年 6月	はびきの市民大学　追手門学院大学提携講座　「食」を考える　第6・7回ご当地グルメとフードツーリズム（1）（2）
2014年 6月	国立民族学博物館　公開フォーラム ユネスコ無形文化遺産登録記念「和食は誰のものか？」 パネリスト
2014年 9月	地域文化創造セミナー春講座　「上方文化ホスピタリティ 第4回　大阪の外食産業とおもてなし」（対談：山川雅行・村上喜郁）
2014年 9月～現在に至る	工業経営研究学会(国内学会)ホームページ担当幹事
2014年 9月	日本観光研究学会 特別研究 フォーラム「震災復興とフードツーリズム」
2014年11月	はなやか関西　文化首都年　フォーラム「大阪の市場と観光」
2015年 2月	フォーラム「ガストロノミーとフードツーリズム」
2015年 4月	日本フードツーリズム研究会（旧：フードツーリズム研究会）(国内研究会)学術担当
2015年 6月～2016年 3月	東北フードツーリズム開発推進協議会 委員
2015年 7月～2016年 3月	神河町観光施設保全活用整備計画アドバイザー会議 委員
2015年 7月～2016年 2月	神河町観光施設保全活用整備計画アドバイザー会議 委員
2015年11月	追手門流強い経営を極める！～地方・地域社会への社会的貢献～第5回食を資源とした地域活性化「フードフェスティ バルで地域の活性化」
2015年11月	追手門流強い経営を極める！～地方・地域社会への社会的貢献～第6回食を資源とした地域活性化「食の資源探し、食 の魅力づくりと地域活性化」
2015年12月	追手門流強い経営を極める！～地方・地域社会への社会的貢献～第7回食を資源とした地域活性化「食のアトラクショ ン化による地域づくり」
2015年12月	追手門流強い経営を極める！～地方・地域社会への社会的貢献～第8回食を資源とした地域活性化「NPOによる食資源を活かした地域活性化」
2016年 3月 3日	文化観光振興事業　すみよしの魅力PR補助金事業　補助金選定委員 委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	教授	八木　　俊輔	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
環境経営論１	2015年 4月 1日 ～2015年 7月20日	教材として、環境経営論１用にパワーポイントのスライドを毎回作成
経営学入門	2015年 4月 1日 ～2015年 7月20日	教材として、経営学入門用にパワーポイントのスライドを毎回作成
経営学概論１	2015年 4月 1日 ～2015年 7月20日	教材として、経営学概論１用にパワーポイントのスライドを毎回作成
環境経営論２	2015年 9月15日 ～2016年 1月20日	教材として、環境経営論２用にパワーポイントのスライドを毎回作成
経営学入門	2015年 9月15日 ～2016年 1月20日	教材として、経営学入門用にパワーポイントのスライドを毎回作成
経営学概論2	2015年 9月15日 ～2016年 1月20日	教材として、経営学概論2用にパワーポイントのスライドを毎回作成
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
事業承継入門―事業承継のための経営革新とマーケティング―	共著	2014年 2月	(追手門学院大学出版会(丸善出版))	八木俊輔、有田健一、文能照之、村上喜郁、池田信寛、牧美喜男	1-22頁
ビジネスをデザインする	共著	2016年 3月	(ミネルヴァ書房)	足立辰雄（編著者）、山縣正幸、小松史朗、上田健作、日野隆生、関智宏、久富健治、布施匡章、大貝健二、八木俊輔、山下裕介、谷口智彦	163-177頁
論文					
リスクマネジメントと持続可能なマネジメント―持続的価値創出のための戦略展開―	単著	2013年 5月	サステイナブル　マネジメント(環境経営学会)１２(１)		79-96頁
マネジメントの発展と持続可能なマネジメントの体系	単著	2013年 9月	日本経営学会　第87回全国研究大会報告要旨集		285-288頁
マネジメントの発展と持続可能なマネジメントの体系ーサステナビリティ戦略と持続的競争優位の構築	単著	2014年 9月	経営学論集　第８４集(日本経営学会)、電子版(日本経営学会)第８４集		(55)1-12頁
自動車業界におけるマーケティングとサステナビリティ戦略－持続的競争優位の構築を目指して－	単著	2014年11月	2014年度　環境経営学会　秋季研究大会報告論文集(環境経営学会)		19-26頁
その他(学会発表、講演等)					
環境規制の政策評価ー環境経済学の定量的アプローチ(書評)	-	2012年10月	サステイナブル　マネジメント(環境経営学会)１１(２)		
マネジメントの展開と持続可能なマネジメント	-	2013年 2月	日本経営倫理学会(大阪府商工会館)		
事業承継とサステナビリティ　-持続可能な企業を目指して-	-	2013年 2月	おうてもん塾第3期「事業承継」（全6講）第4講		
自動車会社に求められる新しいCSR、企業経営	-	2013年 7月	BMWステイクホルダーワークショップ		
マネジメントの発展と持続可能なマネジメントの体系	-	2013年 9月	日本経営学会(関西学院大学)		

2014年　日本経済の再生と企業の戦略	–	2014年 3月	(大阪大学　中之島センター)		
環境ビジネスと企業の戦略	–	2014年 9月	(大阪大学　中之島センター)		
自動車業界におけるマーケティングとサステナビリティ戦略　–持続的競争優位の構築を目指して–	–	2014年11月	環境経営学会(神戸山手大学)		
企業の競争優位の構築とサステナビリティ戦略（社会人対象セミナー)	–	2015年 2月	「強い経営を極める一持続可能な企業を目指して一」社会人対象特別セミナー(大阪梅田サテライト)		
中堅・中小企業経営とサステナビリティ（社会人対象セミナー)	–	2015年11月	強い経営を極める！プログラムＡ　社会人対象セミナー		
企業のサステナビリティ戦略と持続的競争優位の構築	–	2015年11月	日本経営倫理学会(追手門学院　大阪梅田サテライト)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1989年～現在に至る	日本農業経済学会(国内学会)会員
1990年～現在に至る	日本農業経営学会(国内学会)会員
1991年～現在に至る	日本フードシステム学会(国内学会)会員
1996年～現在に至る	日本マネジメント学会（旧　日本経営教育学会）(国内学会)会員
2001年～現在に至る	兵庫自治学会（旧　兵庫県政学会）(国内学会)会員
2001年11月～現在に至る	兵庫自治学会（旧　兵庫県政学会）(国内学会)評議員
2001年11月～現在に至る	兵庫自治学会（旧　兵庫県政学会）　評議員
2003年～現在に至る	環境経営学会(国内学会)会員
2011年～現在に至る	工業経営研究学会(国内学会)会員
2011年～現在に至る	日本経営学会(国内学会)会員
2011年 7月～現在に至る	環境経営学会(国内学会)幹事（学会誌編集委員)
2011年 7月～現在に至る	環境経営学会　学会誌編集委員
2011年 7月～現在に至る	環境経営学会　幹事
2012年10月	兵庫自治学会　研究発表大会　分科会コーディネーター（兵庫県環境管理局長　森川格氏と)
2012年10月～2013年 9月	日本マネジメント学会（旧　日本経営教育学会）(国内学会)学会誌論文査読委員
2012年10月～現在に至る	（財）大学基準協会大学評価分科会評価委員(候補)
2013年 7月	ＢMW　ステイクホルダー　ワークショップ
2014年10月	兵庫自治学会　研究発表大会　分科会コーディネーター(兵庫県防災企画局長　松原浩二氏と)
2014年11月	事業承継とサステナビリティ（社会人対象セミナー、講演)
2015年 2月	BMW社のサステナビリティ戦略（杉浦光氏（BMW)）、社会人対象セミナー、コーディネーター
2015年 2月	パナソニックのサステナビリティ戦略(有田健一氏・井原豊昭氏(パナソニック)、社会人対象セミナー、コーディネーター
2015年 2月	企業の競争優位の構築とサステナビリティ戦略（社会人対象セミナー、講演)
2015年 3月	企業のサステナビリティ戦略（松井英章氏・宮内洋宜氏((株)日本総合研究所)）、社会人対象セミナー、コーディネーター
2015年11月	中堅・中小企業経営とサステナビリティ(社会人対象セミナー、講演)

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	教授	山下　　克之	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
簿記教育用の練習教材の作成	2013年 4月 1日 ～2014年 3月31日	授業で使用しているテキストに加え，おもに自宅学習用としてテーマごとに練習問題を作成した。
財務諸表分析用の練習シートの作成	2013年 4月 1日 ～2014年 3月31日	授業で扱った財務分析手法（安全性，収益性等に関して）に基づき，指標ごとに練習問題を作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
大隈杯争奪雄弁大会審査講評および指導（弁論，デイベート技術の教育　於：早稲田大学）	2013年11月	早稲田大学雄弁会（会長：早稲田大学商学部教授　藤田誠氏）主催の行事にて，審査，講評をするとともに，参加学生への教育を行った。
大隈杯争奪雄弁大会審査講評および指導（弁論，デイベート技術の教育　於：早稲田大学）	2014年11月	早稲田大学雄弁会（会長：早稲田大学商学部教授　藤田誠氏）主催の行事にて，審査，講評をするとともに，参加学生への教育を行った。
大隈杯争奪雄弁大会審査講評および指導（弁論，デイベート技術の教育　於：早稲田大学）	2015年11月	早稲田大学雄弁会（会長：早稲田大学商学部教授　藤田誠氏）主催の行事にて，審査，講評をするとともに，参加学生への教育を行った。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
サブゼミの開催	2014年 5月 ～2014年 7月	金融機関より内定を得た学生を中心に，金融をテーマに週１回（土曜日　９時から１３時　梅田サテライトにて）サブゼミを開催した。
他大学との合同共同研究発表会の企画，運営（参加人数約100名）	2016年 2月 ～2016年 2月	

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『ストック・オプション会計』	単著	2013年 3月	(白桃書房)		
事業承継における新株予約権　『事業承継入門―事業承継のためのマーケティングと経営管理―』第13章分担執筆	単著	2015年 2月	(追手門学院大学出版会（丸善株式会社）)		
論文					
日経225構成銘柄企業におけるストック・オプション	単著	2012年 6月	追手門経営論集 18(1)		63-97頁
株式報酬型ストック・オプションに関する一考察	単著	2014年 3月	追手門経済・経営研究 (21)		19-30頁
子会社の役員等へのストック・オプション付与	単著	2015年 4月	産業経理(一般財団法人産業経理協会) 75(1)		14-23頁
種類株式の発行実態に関連しての考察―会計処理，自己資本利益率（ＲＯＥ），有価証券報告書記載の観点より―	単著	2016年 3月	追手門経済・経営研究 (23)		35-53頁
その他					
日経225構成銘柄企業におけるストック・オプション	-	2012年 5月	第7回現代資本会計研究会(名古屋大学)		
ストック・オプションの利用実態-1円ストック・オプションおよび役員報酬としてのストック・オプションに関して	-	2013年 5月	第9回現代資本会計研究会(名古屋大学)		
著書「ストック・オプション会計」書評	-	2013年10月	企業会計2013年10月号		
著書「ストック・オプション会計」書評	-	2013年10月	産業経理2013年10月号		

子会社の役員・従業員へのストック・オプション付与の現状と課題（中間報告）	–	2013年12月	第10回現代資本会計研究会(名古屋大学)		
株式報酬型ストック・オプションに関する一考察	–	2013年12月	第63回日本会計研究学会関西部会(桃山学院大学)		
事業承継における新株予約権	–	2014年 5月	第11回現代資本会計研究会(名古屋大学)		
子会社役員等へのストック・オプション付与	–	2014年 9月	第73回日本会計研究学会大会全国大会(横浜国立大学)		
権利確定後のストック・オプションー株式報酬型ストック・オプションへの考察を通して	–	2014年12月	日本ディスクロージャー研究学会特別プロジェクト／第12回現代資本会計研究会(名古屋大学)		
種類株式の実態調査に関しての考察	–	2015年 5月	第13回現代資本会計研究会(名古屋大学)		
ストック・オプションに関する会計処理の再検討	–	2015年 9月	第74回日本会計研究学会全国大会(神戸大学)		
権利確定条件付き有償新株予約権についての整理	–	2015年12月	第14回現代資本会計研究会(名古屋大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2003年 4月～現在に至る	日本インベスター・リレーションズ学会(国内学会)会員
2004年 4月～現在に至る	現代企業法研究会(国内研究会)会員
2006年 4月～現在に至る	日本会計研究学会(国内学会)会員
2006年 4月～現在に至る	日本簿記学会(国内学会)会員
2010年 4月～現在に至る	茨木市指定管理者候補者選定委員会委員（2010年4月1日～現在）
2013年 2月～2013年 4月	茨木市特別職報酬等審議会委員
2013年10月～2013年10月	雑誌（企業会計）に掲載された（著書について）
2013年10月～2013年10月	雑誌（産業経理）に掲載された（著書について）
2014年 4月～現在に至る	日本財務管理学会(国内学会)会員
2014年11月～2014年11月	大隈杯争奪雄弁大会審査員および講評（於：早稲田大学）
2015年 4月～2015年 4月	広告に掲載された（論文に関して）
2015年11月～2015年11月	大隈杯争奪雄弁大会審査員および講評（於：早稲田大学）

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部経営学科	教授	李　　建	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
ケースメソッドの活用	2012年 4月 1日 ～現在に至る	実際の事例をもとに講義を組み立てることで、臨場感を与え、実践力向上に結び付けている。
画像とアニメーション機能を活用した教育実践	2012年 4月 1日 ～現在に至る	資料提示の際に、アニメーション機能を有効活用することで、講義の流れを掴みやすくし、理解度アップを図っている。
ビジネスプラン・コンテストの教育的活用	2013年 4月 1日 ～現在に至る	ゼミ内でビジネスプランを競わせ、コンテストを日頃のゼミ成果の発表会と位置づけることで、教育効果の向上を図っている。
他大学との合同ゼミ	2013年 4月 1日 ～現在に至る	年に一度、阪南大学CHOゼミと合同で、ゼミでの企業研究の成果を発表するプレゼンテーション大会を行い、分析力やプレゼン力の向上を図っている。
追手門グッズコンテストの教育的活用	2014年 4月 1日 ～現在に至る	ゼミ内でグッズアイデアを競わせ、コンテストを日頃のゼミ成果の発表会と位置付けることで、教育効果の向上を図っている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
『事業承継入門３』	2015年 2月	「第10章 事業承継と管理会計」の執筆を担当した。事業承継における管理会計の重要性をCVP分析を中心に解説している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
留学生の指導	2010年 4月 1日 ～2013年 9月	韓国の建国大学からの交換留学生に、定期的に学習面および生活面の指導を行った。
追大グッズコンテストにて佳作獲得	2014年 4月 1日 ～2015年 3月31日	ゼミ生のチームが本学のグッズコンテスト大会にて佳作を獲得した。
追手門ビジネスプラン・コンテストにて奨励賞獲得	2014年 4月 1日 ～2015年 3月31日	ゼミ活動の一環として、ゼミ内でビジネスプランを競わせているが、今回は4チームが本学のビジネスプラン・コンテストの1次予選を通過し、うち1チームが奨励賞を獲得した。
関西ベンチャー学会にて優秀賞獲得	2014年 4月 1日 ～2015年 3月31日	本ゼミの由比さんチームが、学内のコンテストで奨励賞をとったビジネスプランに改良を加え、関西ベンチャー学会のビジネスプラン発表会にて優秀賞を獲得した。
派遣留学生の事前語学研修	2015年 5月 1日 ～6月30日	交換留学で韓国に留学を予定している学生に対し、事前語学研修の一環として韓国語の指導を行った。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
事業承継入門３	共著	2015年 2月	(追手門学院大学出版会)	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所編	209-226頁
論文					
予算管理における文化的側面：成果主義を中心に	共著	2014年 3月	ベンチャービジネス・レビュー (6)	李建・福田直樹	3-11頁
Mechanisms for Lowering Budgetary Slack in Japanese Companies	共著	2015年 8月	*Lean Management of Global Supply Chain*, World Scientific Publishing Co.	李建・福田直樹・松木智子	231-250頁
その他					
成果主義と予算管理	-	2013年12月	日本組織会計学会研究会 (成城大学)	李建・福田直樹	
日本的予算管理における予算スラック軽減のメカニズム	-	2014年 9月	日本管理会計学会(青山学院大学)	福田直樹・松木智子・李建	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1996年10月～現在に至る	日本原価計算研究学会(国内学会)会員
1997年10月～現在に至る	日本会計研究学会(国内学会)会員
1997年10月～現在に至る	日本管理会計学会(国内学会)会員
2000年 4月～現在に至る	日本組織会計学会(国内学会)会員
2013年 4月～現在に至る	日本韓国会計研究会幹事
2014年 1月	授業内特別講師 （阪南大学）

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部マーケティング学科	教授	池田　　信寛	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
具体的事例による理論の理解	1989年 4月 1日 ～現在に至る	テレビ・新聞・雑誌などから作成した視聴覚教材を基に多くの具体的なビジネスの事例に触れさせることで、学生に現場感覚を養わせるとともに、これらの資料を経済経営学、特に、マーケティング論の視点から分析し解釈することで、現場への適応力や応用力を身に付けさせる欧米流ビジネスすく一路の手法を取り入れている。
毎週５０～６０本のテレビ番組をチェックし、教材になる映像を作成し続けている。その総計はＤＶＤ７００枚に上る	2003年 4月 1日 ～現在に至る	文字だけの教材では、実務経験のほとんど皆無な学生に、ビジネスの現場感覚を身に付けさせることは難しい。そのため、テレビ放送から教材になる画像を逐一チェックし、それらを講義などで使っている。学生の反応は、とても良い。
大人数講義におけるグループディスカッションの試み	2013年 4月 1日 ～現在に至る	一グループ5人×21グループに予習プリントを配り事前学習を促し、講義では特定テーマについて議論し発表させる。反転授業、アクティブラーニングの実践である。
反転授業とグループディスカッションの試み	2014年 4月 1日 ～現在に至る	講義に先立って予習用プリント（全１２万字）を熟読させ、そこに書かれてある設問を講義授業中にグループディスカッションする。
授業の出席者を２０のグループに分け、毎回、討議内容を発表させた。	2014年 9月 1日 ～現在に至る	春学期では、試験的に、授業の一部にグループディスカッションを取り入れたが、学生の反応が良いため、ほぼ毎回の授業でグループディスカッションを行う方式に変えた。
反転授業のための予習の徹底と私語を排除するための座席指定	2015年 4月 1日 ～現在に至る	学期初めは、予習しない学生が目に付くが、予習しないと講義についていけないことが分かると予習しだす。座席指定（３回ごとに席替え）により、多くの学生と話しができるので理解が深まる。グループディスカッション後の各班の発表も学生に他の考えも聞けると好評である。
2　作成した教科書、教材、参考書		
『経営学入門－ビジネスの世界で働く』（第３章「流通業の世界で働く」を執筆）	2006年 4月 1日 ～現在に至る	初めて経営学を学ぶ初年度生向けに分かりやすく書かれた入門書であり、経営学の様々な分野を俯瞰できるようになっている。
『WHY（なぜ）を考える！マーケティングの知恵』、中央経済社、単著	2010年 4月 1日 ～現在に至る	市販の入門書は概念的な話が多く、そのため、具体的な商品やその戦略の記述がほんの少しあるか、あるいは、全くないかであるため、主要キーワードに絞り豊富な事例を取り入れ、前知識がない高校生でも分かるように執筆した。
反転授業用予習教材（春学期分：１２万字）「マーケティング論」デジタルコンテンツ2013	2014年 2月 1日 ～現在に至る	講義で話す内容をすべて文章化た。講義では、この教材の予習を前提にグループディスカッションを行う。
反転授業用予習教材（春学期分：１２万字）「マーケティング論」デジタルコンテンツ　2014改訂版	2014年 4月 ～2015年 3月	講義で話す内容をすべて文章化た。講義では、この教材の予習を前提にグループディスカッションを行う。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
ＦＤセミナー発表「教育サービスの本質」	2013年 1月18日	大学教育における真の顧客は保護者と企業であり、学生は良質な労働力になるべく大学に任された原材料、原石であることを主張した。
追大講座（高校生向け）「マーケティングとは何か」	2013年 1月31日	マーケティングとは顧客目線の経営学であることを説いた。
おうてもん塾	2013年 2月19日	ヒット商品にはヒットする理由があることを説いた。
「ユニバーシティ・アイデンティティ」研修会	2013年 7月 4日	追手門学院大学のアイデンティティのあり方について学んだ。
「学び論Ａ～私はなぜ追手門学院大学で働いているか」	2013年 7月 5日	自分の仕事観について半生を振り返りながら話しをした。
学生ＦＤ発案授業	2013年12月16日	論題は「下半身のマーケティング：Ｌｅｔ’ｓＹｏｋｕｊｙｏ」
学生発案型授業の講師	2015年 1月19日	論題は「キラキラネームが社会に与える影響」（３１０６教室）
4　その他教育活動上特記すべき事項		
１．ＦＤセミナー発表「教育サービスの本質」（2013/1/18）	2013年 1月18日 ～2013年 1月18日	大学教育における真の顧客は保護者と企業であり、学生は良質な労働力になるべく大学に任された原材料、原石であることを主張した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Omotenashi: Japanese Hospitality as the Global Standard（査読付）	単著	2013年 1月	Japanese Management and International Studies vol.9(World Scientific)		
関係性マーケティングとおもてなし	単著	2014年 2月	事業承継入門１(追手門学院大学ベンチャービジネス研究所)		
企業経営におけるおもてなし精神とＣＳＲ	単著	2016年 3月	追手門学院大学 ベンチャービジネス・レビュー(追手門学院大学 ベンチャービジネス研究所)(8)		3-13頁

その他					
企業経営におけるおもてなし精神とコンプライアンス	–	2014年11月			
企業経営におけるおもてなし精神とＣＳＲ	–	2015年11月			

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1986年 4月～現在に至る	日本商業学会(国内学会)会員
2012年 6月～現在に至る	日本組織会計学会(国際学会)会員
2013年 1月～2013年 1月	おうてもん講座 「関係性マーケティングとおもてなし」
2013年 2月	おうてもん塾 「おもてなしと関係性マーケティング」
2013年 9月	茨木商法会議所によるアンケート調査とその分析
2013年11月～2013年11月	釜山ＭＢＳテレビ取材
2014年 9月～2014年 9月	茨木商工会議所によるアンケート調査の分析
2014年 9月～2014年 9月	高大連携 大阪電気通信大学高等学校にて「ヒット商品を生む１０のキーワード」を講演した。
2014年 9月～2014年 9月	高大連携@大阪電気通信大学高等学校にて「ヒット商品を生む１０のキーワード」を講演し本学の印象向上に務めた。
2014年11月～2014年11月	ニュージーランド・クライエストチャーチ日本語学校の再活性化戦略案の作成
2014年11月～2014年11月	中小企業経営者支援セミナーでの講演「おもてなし精神とコンプライアンス」@グランフロント大阪
2014年11月～2014年11月	中小企業経営者支援セミナーでの講演「おもてなし精神とコンプライアンス」@グランフロント大阪
2015年 1月～2015年 1月	２０１４年茨木フェスティバル 市民意識アンケート報告書　追手門学院大学ベンチャービジネス研究所 vol.12
2015年 9月～2015年 9月	２０１５年 茨木フェスティバル「茨木の暮らし」アンケート実施
2015年11月～2015年11月	企業経営におけるおもてなし精神とＣＳＲ
2016年 1月～2016年 1月	２０１５年 茨木フェスティバル「茨木の暮らし」アンケート結果報告書の作成

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部マーケティング学科	准教授	石盛　真徳	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
コミュニティを社会心理学から考える	単著	2013年12月	コミュニティの社会心理学(ナカニシヤ出版)		
システム論とTEA	共著	2015年 3月	安田裕子・滑田明暢。福田茉莉・サトウタツヤ（編）TEA理論編　複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ(新曜社)	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ（編）TEA理論編	122-127頁
文化とフィールド研究―写真投影法による身近な環境・空間の理解	共著	2016年 2月	対人社会心理学研究レシピ―実験実習の基礎から研究作法まで―(北大路書房)	大坊郁夫（監修）、谷口淳一・金政 祐司・木村昌紀・石盛真徳（編）	205-214頁
集団・文化の研究	共著	2016年 2月	対人社会心理学研究レシピ―実験実習の基礎から研究作法まで―(北大路書房)	大坊郁夫（監修）、谷口淳一・金政 祐司・木村昌紀・石盛真徳（編）	184-187頁
論文					
参加型海外スポーツイベントにおけるアウトバンド・ツーリストの研究―ホノルルマラソン参加者の動機と制約要因について（査読付）	共著	2013年 5月	スポーツ産業学研究 23(1)	◎西尾建・岡本純也・石盛真徳	75-88頁
コミュニティ意識尺度（短縮版）の開発（査読付）	共著	2013年 8月	実験社会心理学研究 53(1)	◎石盛真徳・岡本卓也・加藤潤三	22-29頁
写真による高齢者の地域生活把握の試み―写真ーナラティブ誘出法（PEN-A: Photo Eliciting Narrative Approach）による写真とナラティブの内容分析を中心として（査読付）	共著	2014年 9月	コミュニティ心理学研究 18(1)	◎石盛真徳・岡本卓也・加藤潤三	42-57頁
地域資源の発見・開発手法としての写真調査法の可能性―沖縄国際通りを事例として―（査読付）	共著	2014年 9月	コミュニティ心理学研究 18(1)	◎加藤潤三・石盛真徳・岡本卓也	58-75頁
写真・ナラティブ誘出法（PEN-A: Photo Eliciting Narrative Approach）による中高年の地域コミュニティへの意識と地域における活動の把握―京都市中京区西ノ京・壬生地域における調査―	共著	2014年12月	追手門経営論集 20(2)	◎石盛真徳・岡本卓也・加藤潤三	1-43頁

生活空間における人間行動および人間関係を分析するためのシステム論的アプローチ：場理論、相互依存性理論、ソシオン理論、TEMを中心として	単著	2015年 3月	関西学院大学社会学部紀要 (120)		13-25頁
高齢者向けレジリエンス尺度作成の試み：生態学的アプローチ	共著	2016年 3月	追手門経済・経営研究第23	◎石盛真徳・岡本民夫・三村浩史・長田侃士・小國英夫・小久保望・宮本三恵子・田上優佳	1-16頁
その他					
京都マラソンの学生ボランティア参加者の参加動機とコミュニティ意識に関する研究（1）	-	2012年 5月	日本コミュニティ心理学会第15回大会(札幌)	石盛真徳・加藤潤三・岡本卓也	
京都市中京区における近隣生活圏とコミュニティ意識(4)―景観評価とコミュニティ意識のマルチレベル相関分析―	-	2012年 9月	日本グループ・ダイナミックス学会第59回大会(京都)	岡本卓也・石盛真徳・加藤潤三	
写真・ナラティブ誘出法（Photo Eliciting Narrative Approach：PEN-A）による地域環境認知把握の試み	-	2013年 3月	日本環境心理学会第6回大会(東京)	石盛真徳・岡本卓也・加藤潤三	
居住地イメージによるPlace Identityの違い	-	2013年 7月	日本コミュニティ心理学会第16回大会(東京)	岡本卓也・石盛真徳・加藤潤三・宮城禎信・近藤芳樹	
TEM図による英国在住日本人女性の心理的文化変容とキャリア選択プロセスの分析―国際結婚した調査協力者Aの5年間に焦点を当ててー	-	2013年 8月	日本質的心理学会第10回大会(京都)		
家族システムの発達と移行に関する研究(1)―父親と母親のネット利用の積極性と夫婦間・家族内コミュニケーションおよび地域コミュニティでの参加・交流との関連―	-	2013年 9月	日本心理学会第77回大会(札幌)	石盛真徳・小杉考司・清水裕士・藤澤隆史・渡邊太	
家族システムの発達と移行に関する研究(2)―家族関係データからみる家族のイメージについて―	-	2013年 9月	日本心理学会第77回大会(札幌)	小杉考司・石盛真徳・清水裕士・藤澤隆史・渡邊太	
家族関係データに対する非対称MDSの応用	-	2013年 9月	日本行動計量学会第41回大会(千葉県習志野市)	小杉考司・藤澤隆史・清水裕士・石盛真徳・渡邊太・藤澤等	
首都圏における地域コミュニティの現状(1)―地域特性によるコミュニティ価値の相違―	-	2013年11月	日本社会心理学会第54回大会(沖縄県宜野湾市)	加藤潤三・石盛真徳・岡本卓也・近藤芳樹・宮城禎信	
首都圏における地域コミュニティの現状(2)―Place Identity やコミュニティ意識が定住意図に与える影響―	-	2013年11月	日本社会心理学会第54回大会(沖縄県宜野湾市)	岡本卓也・石盛真徳・加藤潤三・近藤芳樹・宮城禎信	
首都圏における地域コミュニティの現状(3)―コミュニティ活動への参加の現状と今後の方向性―	-	2013年11月	日本社会心理学会第54回大会(沖縄県宜野湾市)	石盛真徳・加藤潤三・岡本卓也・近藤芳樹・宮城禎信	
Psychological acculturation process and career course of a Japanese background woman in the UK based on Trajectory equifinality model of life history interviews	-	2014年 7月	28th International Congress of Applied Psychology(Palais des Congres de Paris)		
横浜市磯子区におけるコミュニティ意識に関する研究（1）	-	2014年 7月	日本社会心理学会第55回大会(北海道大学／北海道札幌市)	岡本卓也・加藤順三・近藤芳樹	

横浜市磯子区におけるコミュニティ意識に関する研究（２）―居住の契機とPlace Identityの関係―	-	2014年 7月	日本社会心理学会第55回大会(北海道大学／北海道札幌市)	岡本卓也・石盛真徳・加藤順三・近藤芳樹	
家族システムの発達と移行に関する研究(3)―夫婦ペアデータのマルチレベル相関分析―	-	2014年 9月	日本グループ・ダイナミックス学会第61回大会(東洋大学／東京都文京区)	小杉考司・清水裕士・藤澤隆史・渡邊太	
高齢者向けレジリエンス尺度作成の試み	-	2014年 9月	日本心理学会第78回大会(同志社大学／京都府京都市)		
〈まちづくり〉に使える心理学	-	2014年10月	おうてもん塾第２期(追手門学院大阪梅田サテライト)		
マラソン・ボランティアへの参加が地域活動への意識に及ぼす影響について(1)：安曇野市職員ボランティアを対象とした調査より	-	2015年 6月	日本コミュニティ心理学会第18回大会(法政大学多摩キャンパス／東京都町田市)	石盛真徳・岡本卓也	
マラソン・ボランティアへの参加が地域活動への意識に及ぼす影響について(2)：市民ボランティアを対象とした調査より	-	2015年 6月	日本コミュニティ心理学会第18回大会発表論文集(法政大学多摩キャンパス／東京都町田市)	岡本卓也・石盛真徳	
Community values in the Tokyo metropolitan area	-	2015年 7月	14th European Congress of Psychology(Milan)	M. Ishimori; T. Okamoto; J. Kato; Y. & Kondo	
夫婦ペアデータのマルチレベルSEMによる分析	-	2015年 9月	日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場／愛知県名古屋市)		
家族システムの発達と移行に関する研究(4)―地域生活満足度および居住継続意図への影響要因の検討	-	2015年 9月	日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場／愛知県名古屋市)	石盛真徳・小杉考司・清水裕士・藤澤隆史・渡邊太	
家族システムの発達と移行に関する研究(5)―社会経済状態指標（SES）との関連―	-	2015年 9月	日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場／愛知県名古屋市)	藤澤隆史・小杉考司・清水裕士・石盛真徳・渡邊太	
家族システムの発達と移行に関する研究(6)―家族システムとしての安定性・柔軟性―	-	2015年 9月	日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場／愛知県名古屋市)	小杉考司・清水裕士・石盛真徳・藤澤隆史・渡邊太	
家族システムの発達と移行に関する研究(7)―家族ネットワークの共有とズレが精神的健康に及ぼす影響―	-	2015年 9月	日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場／愛知県名古屋市)	清水裕士・石盛真徳・藤澤隆史・小杉考司・渡邊太	
TEM図による英国在住日本人女性の心理的文化変容とキャリア選択プロセスの分析―国際結婚した調査協力者Bの約25年間に焦点を当ててー	-	2015年10月	日本質的心理学会第12回大会(宮城教育大学／宮城県仙台市)		
写真・ナラティブ誘出法（Photo Eliciting Narrative Approach：PEN-A）による高齢者の地域生活へのアプローチ	-	2015年11月	日本社会心理学会第56回大会(東京女子大学／東京都杉並区)		
首都圏における地域コミュニティの現状の統合的な理解に向けて(1)―コミュニティカルテ作成の試み―	-	2015年11月	日本社会心理学会第56回大会(東京女子大学／東京都杉並区)	加藤順三・石盛真徳・岡本卓也・近藤芳樹	
首都圏における地域コミュニティの現状の統合的な理解に向けて(2)― 環境配慮行動に注目して ―	-	2015年11月	日本社会心理学会第56回大会(東京女子大学／東京都杉並区)	石盛真徳・岡本卓也・近藤芳樹・加藤順三	
首都圏における地域コミュニティの現状の統合的な理解に向けて(3)―地域との繋がりを感じるとき―	-	2015年11月	日本社会心理学会第56回大会(東京女子大学／東京都杉並区)	岡本卓也・石盛真徳・加藤順三・近藤芳樹	

首都圏における地域コミュニティの現状の統合的な理解に向けて(4)―定住意図に与える影響―	-	2015年11月	日本社会心理学会第56回大会(東京女子大学／東京都杉並区)	近藤芳樹・谷沢仁美・稲垣勝之・加藤順三・石盛真徳・岡本卓也	
地域コミュニティへの意識を規定するもの：量的アプローチと質的アプローチによる検討	-	2016年 3月	群馬大学社会心理学研究小集会（第12回）（群馬県前橋市）		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1996年 4月～現在に至る	日本グループ・ダイナミックス学会(国内学会)会員
1996年 4月～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員
1996年 4月～現在に至る	日本社会心理学会(国内学会)会員
2001年 4月～現在に至る	日本感情心理学会(国内学会)会員
2001年12月～現在に至る	日本コミュニティ心理学会(国内学会)会員
2002年 4月～現在に至る	日本NPO学会(国内学会)会員
2002年 4月～現在に至る	特定非営利活動法人にんじんネット協議会研究部主任研究員
2007年 5月～2010年 5月	日本感情心理学会(国内学会)幹事
2008年 7月～現在に至る	特定非営利活動法人うつくしい京都理事
2008年11月～現在に至る	情報通信学会会員(国内学会)会員
2009年 4月～2013年 3月	日本グループ・ダイナミックス学会(国内学会)理事
2010年 5月～2013年 5月	日本感情心理学会(国内学会)理事
2012年 4月～2016年 4月	日本コミュニティ心理学会(国内学会)研究委員会委員
2014年10月	おうてもん塾第2期＜まちづくり＞に使える心理学　講師担当
2015年 4月～2016年 4月	日本コミュニティ心理学会(国内学会)理事
2016年 4月～現在に至る	日本コミュニティ心理学会(国内学会)研究委員会委員長
2016年 4月～現在に至る	日本コミュニティ心理学会(国内学会)常任理事
2016年 4月～現在に至る	日本コミュニティ心理学会(国内学会)編集委員会副委員長

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部マーケティング学科	准教授	井出　　明	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
教育開発奨励制度によるタブレット教材の試用	2014年 4月 1日 ～2014年 9月30日	学内研究資金により、学生にタブレット教材を試用させた。
2　作成した教科書、教材、参考書		
教育開発奨励制度によるタブレット教材の開発	2013年 4月 1日 ～2013年 9月30日	学内研究資金により、学生にタブレット教材を試用させたが、その際、紙媒体を電子化するとともにページ間にリンクを貼り、オンライン学習のしくみを作った。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
チェルノブイリ・ダークツーリズム・ガイド	共著	2013年 7月	(ゲンロン)	東浩紀	53-61頁
福島第一原発観光地化計画	共著	2013年11月	(ゲンロン)	東浩紀	32,71,100-101,144-159頁
観光学ガイドブック	共著	2014年 4月	(ナカニシヤ書店)		pp.64,216--69,219頁
論文					
Future Tourism in Hokkaido with a Comparison to Current Tourism in Okinawa（査読付）	単著	2012年 6月	Evolutionary and Institutional Economics Review(Japan Association of Evolutionary Economics) Vol. 9		pp.101-111頁
自然災害とダークツーリズム	単著	2012年 6月	地域安全学会一般講演論文集(地域安全学会) Vol.29(PaperID-C-9)		
東アジアにおけるダークツーリズム研究の課題（査読付）	単著	2012年 8月	2012東北アジア観光学会 全州学術大会 論文集(東北アジア観光学会（韓国）)		pp.465-467頁
東日本大震災とダークツーリズム	単著	2012年 8月	地域安全学会いわきワークショップ論文集(地域安全学会) (PaperID-I-3)		
情報まちづくり論から見た図書館の役割	単著	2012年10月	人文科学とコンピュータ(情報処理学会) CH-96(PaperID-5)		
悼む旅としてのダークツーリズム（査読付）	単著	2012年12月	日本観光研究学会第27回全国大会学術論文集(日本観光研究学会)		pp.169-172頁
ダークツーリズムと地域イノベーション	単著	2013年 3月	進化経済学会論集大17集(進化経済学会)		
日本型ダークツーリズムの可能性　―戦争・災害・環境の視点から―（査読付）	単著	2013年 3月	観光・余暇関係諸学会共同大会学術論文集(併催　日本余暇学会総会・ツーリズム学会) (第4号)		pp.9-15頁
ダークツーリズム入門　1　ダークツーリズムとは何か	単著	2013年 5月	ゲンロンエトセトラ＃７ (ゲンロン)		pp.46-53頁
ダークツーリズム入門　2　バンダアチェ	単著	2013年 7月	ゲンロンエトセトラ＃８ (株式会社ゲンロン)		pp.62-71頁
被災地を旅するということ ： ダークツーリズムの可能性（査読付）	単著	2013年10月	都市問題(後藤・安田記念東京都市研究所) 104巻(10号)		pp.14-18頁
ダークツーリズム入門　3　ダークツーリズムポイントとしての熊本	単著	2013年11月	ゲンロン通信#9+#10		pp.66-76頁

観光史における福島第一原発観光地化計画の意義（査読付）	単著	2013年12月	日本観光研究学会全国大会学術論文集(日本観光研究学会) (28号)		141-144頁
ダークツーリズムと地域の進化　--遺構の保存を中心に--	単著	2014年 3月	進化経済学会論集18(進化経済学会)		pp123-129頁
ダークツーリズム入門　4　日本型レッドツーリズムの可能性	単著	2014年 3月	ゲンロン通信 #11		pp67-79頁
49.ダークツーリズムと情報技術 単著 2014年6月　　PaperID4	単著	2014年 5月	人文科学とコンピュータ CH102(情報処理学会) 102(4)		1-6頁
ハンセン病療養所とダークツーリズム（査読付）	共著	2014年11月	日本観光研究学会全国大会学術論文集(日本観光研究学会) 29		273-276頁
ICT and Dark Tourism（査読付）	単著	2015年 1月	e-Review of Tourism Research(International Federation for IT and Travel & Tourism) 6		sp4頁
その他					
Dark Tourism in Japan	-	2012年 5月	IAJS　Boston大会(Boston)		
情報まちづくり論から見た博物館の役割	-	2012年12月	アートマネジメント学会第１４回全国大会(神戸市)		
Meta-data Analysis for Sound Scape in Ordinary Town	-	2014年 3月	International Journal of Art & Science(Malta)	Motoki Nagashima	
新しいフクシマをつくる～福島第一原発観光地化計画～	-	2014年 3月	３．１１映画祭		
ダークツーリズムと被災地の復興	-	2014年 7月	日本弁護士連合会復興まちづくり講演会(弁護士会館)		
ダークツーリズムと記憶の承継	-	2014年11月	広島市立大学開学20周年記念シンポジウム(広島市)		
災害メモリアル	-	2014年11月	シンポジウム「災害メモリアル～震災資料アーカイブと展示・活用」(長岡市)		
退化的進化とダークツーリズム	-	2015年 3月	進化経済学会(小樽商科大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1999年10月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員
2001年 3月～現在に至る	進化経済学会(国内学会)会員
2004年10月～現在に至る	地域安全学会(国内学会)会員
2007年 7月～現在に至る	International Association for Development of the Information Society(国際学会)会員
2010年 4月～2012年 3月	Information Technologies in Travel and Tourism(国際学会)会員
2010年 4月～2012年 3月	進化経済学会(国内学会)観光学研究部会部会長
2011年 4月～現在に至る	日本観光研究学会(国内学会)会員
2012年 3月～現在に至る	進化経済学会(国内学会)理事
2012年 4月～現在に至る	進化経済学会(国内学会)観光学研究部会幹事
2013年 4月～2014年 3月	情報処理学会(国内学会)若手の会
2013年 7月	朝日新聞　高橋源一郎「論壇時評」にて紹介　7/25
2013年 8月	神戸新聞 心寄せて　東日本大震災　8/15
2013年11月	読売新聞 ダークツーリズム　　負の記憶、哀悼と継承　11/4
2013年12月	朝日新聞　宮城版　（語る　震災１０００日）惨事の旅「ダークツーリズム」　井出明さん　／宮城県　12/4
2014年 4月	日本経済新聞で福知山線脱線事故に関する談話が紹介される
2014年 5月	朝日新聞「人」欄で研究が紹介
2014年 7月	中日新聞で福島第一原発事故に関する談話が掲載される
2014年 9月	中日新聞でイタイイタイ病に関する談話が掲載される
2015年 2月	NHKラジオ　被災地の声でゲストとして登場
2015年 3月	北海道新聞に震災以降に関する談話が掲載された
2015年 3月	日本経済新聞で福知山線脱線事故に関するJRの動きへの談話が掲載される
2015年 5月	朝日新聞　論壇時流で研究が紹介
2015年 7月	神戸新聞で研究が紹介（写真入り）
2015年11月	中国新聞で広島市立大学でのパネルの様子が紹介される
2015年11月	新潟中央日報で研究が紹介される
2015年11月	朝日新聞で広島市立大学でのパネルの様子が紹介される

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部マーケティング学科	教授	金川　　智惠	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
リスクコミュニケーション論におけるリスクコミュニケーションのシミュレーション実践	2013年 4月 1日 ～現在に至る	リスクコミュニケーション論の授業において、効果的リスクコミュニケーションの内実を体得するために、木下冨雄らと共同開発をした農林水産省等のリスクコミュニケーション官養成プログラムを、学生に適用できるよう、改訂版として作成した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
1回生からの始まる統合的キャリア支援教育プログラムの実施	2011年 4月 1日 ～現在に至る	入学直後からのキャリア支援教育の開始として、１回生対象に春学期にキャリア支援ワークショップを開催している。2011年に開始したところ、保護者にも評価が高く、一度は全学的行事となったが、経営学部の参加者が多数を占めていることもあり、現在は初期の通り、経営学部の教育プログラムとして継続実施している。
2回生も含めた統合的キャリア支援ワークショップの企画と実施	2013年 4月 1日 ～現在に至る	入学直後からのキャリア支援教育の開始として、１回生対象に春学期にキャリア支援ワークショップを2011年から実施しているが、3回生からの本格的就職活動につながる、統合的キャリア支援教育プログラムの設計を試みた。その一環として、2回生を対象とした企画書作成ワークショップを開始し、「社会で使える知と技」の醸成を図っている。
経営学研究科主催　銀行・証券会社からの寄付講座による英語による経営学の授業の企画及び実施	2015年 6月 9日 ～現在に至る	銀行、証券会社からの実務の専門家による、英語による経営学の授業を企画し実践した。具体的には、三井住友銀行、SMBC日興證券からの寄付講座の申し出に対し、銀行業務、グローバル経済等に関する講義を英語により実施することを提案し、春学期に実施に至った。また秋学期には、三菱東京UFJ銀行により、銀行の国際業務について英語による講義が実施された。本来は経営学研究科の院生のための授業であるが、英語という特色故、GCCの第１期生の帰国前後の英語ブラッシュアップ教育も視野にいれ、GCCを始め、留学予定者、海外からの留学生等幅広い学生に対して参加を呼びかけ、多くの参加者を得た。またNHK等メディアの関心も喚起し、取材、TV放映も行われた。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
がんリスクコミュニケーション・モデルの臨床研究（１）ー看護師による情動的サポートの成否が患者の満足度に及ぼす影響ー	共著	2013年 9月	市立堺病院臨床研究取扱要綱第24条による自主研究報告書(市立堺病院)	◎金川智惠、竹西亜古、藪ノ弘美、阿南節子、住田るみ、今村博司、古河洋、松野純男、池田桂子、池田智絵	研究者、堺病院の医療従事者により、調査目的から全て合同で協議、データ取得も同様である。分析、執筆に当たっても合議の上であるので、具体的分担箇所の特定は不可。
食品の安全に関するリスクコミュニケーションのあり方について	共著	2015年 5月	食品安全委員会企画等専門調査会報告書(内閣府食品安全委員会)	食品安全委員会企画等専門調査委員会構成員（有路昌彦、鬼武一夫、小出薫、河野康子、夏目智子、堀口逸子、金川智惠、髙橋久仁子、細野ひろみ、松永和紀、姫田尚）	左記、専門調査委員会構成員と食品安全委員会事務局とで、食のリスクコミュニケーションについて合同で協議した。その結果を合同協議により作成したため、具体的分担箇所の特定は不可。
論文					
福島原子力発電所事故における管理者メッセージの分析：リスクコミュニケーションの心理モデルに基づく官邸発表の検討	共著	2013年12月	京都光華女子大学研究紀要 51	竹西正典・竹西亜古・金川智惠・原田章	25-38頁
福島原子力発電所事故における管理者メッセージの分析（２）：東京電力発表のコンテンツ分析と受け手の評価	共著	2014年12月	京都光華女子大学研究紀要 52	竹西正典・竹西亜古・金川智惠・原田章	105-119頁
How Did the Media Report on the Great East Japan Earthquake? Objectivity and Emotionality Seeking in Japanese Media Coverage（査読付）	共著	2015年 5月	Plos One| DOI:10.1371/journal.pone.0125966 May 18, 2015	Yukiko Uchida, Chie Kanagawa, Ako Takenishi, Akira Harada, Kiyotake Okawa, Hiromi Yabuno	1-15頁

1352

医療現場のコミュニケーション	単著	2016年 2月	関西がんチーム医療研究会学会抄録(関西がんチーム医療研究会)		
その他					
東日本大震災における報道－報道内容と報道関係者への調査からの分析－	–	2013年 9月	日本グループ・ダイナミックス学会第59回大会(京都大学)	内田由紀子・竹西亜古・原田章・大川清丈・藪ノ弘美	
リスクコミュニケーションの効果性ー測定に関する問題提起	–	2014年 9月	リスクコミュニケーションのあり方に関する勉強会(食品安全委員会中会議室（東京都港区赤坂）)		
放射線リスク情報の記憶と伝達－飲料水に関する説明文を用いた社会心理学的検討－	–	2015年 5月	日本フードシステム学会(東京農大)	高橋克也・竹西亜古・ 横山須美・金川智惠	
放射線リスク情報伝達に関する社会心理学的研究－医療放射線リスク情報の伝達－	–	2015年 7月	第52回アイソトープ・放射線研究会(東京大学)	横山須美・竹西亜古・金川智惠・高橋克也・森口由香・伏見康之・若城康伸	
「食品添加物ってどんなもの？」	–	2015年 9月	食の安全安心シンポジウム「食品添加物ってどんなもの？」(大阪府新別館北館4階　多目的ホール（大阪市中央区大手前3丁目1番43号）)	小島正美・金川智惠・祖父江友孝・上野弘樹・砂田八壽子	
医療現場におけるリスクコミュニケーション	–	2016年 2月	関西がんチーム医療研究会第１８回大会(大阪城スクエア　大阪府大阪市)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1981年 4月～現在に至る	日本グループ・ダイナミックス学会(国内学会)会員
1981年 4月～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員
1985年 4月～現在に至る	日本発達心理学会(国内学会)会員
2001年 4月～現在に至る	日本社会心理学会(国内学会)会員
2007年 9月～現在に至る	関西がんチーム医療研究会 研究会設立時発起人、現在同世話人
2013年12月～2014年 1月	日本学術振興会科学研究費補助金第一段審査委員平成26年度審査員
2014年 2月～2014年 2月	関西がんチーム医療研究会第１４回大会医療現場のコミュニケーション部会座長
2014年 4月～2015年 3月	内閣府　食品安全委員会専門委員
2014年 4月～現在に至る	日本リスク研究学会(国内学会)会員
2014年 4月 1日～2015年 3月31日	内閣府食品安全委員会リスクコミュニケーション研究会 研究会構成員
2014年 5月～2014年 5月	経営学部主催キャリア形成支援プログラムのメディア取材
2014年 9月～2015年 3月	校友会協働事業社会人セミナー「追手門流強い経営を極める」の企画運営
2014年 9月～2014年 9月	関西がんチーム医療研究会第１５回大会医療現場のコミュニケーション部会座長
2014年12月～2015年 1月	日本学術振興会科学研究費補助金第一段審査委員平成２7年度審査員
2015年 2月～2015年 2月	第１６回関西がんチーム医療研究会医療現場のコミュニケーション部会で座長
2015年 4月～2016年 1月	校友会協働事業社会人セミナー「追手門流強い経営を極める」第２回企画企画運営
2015年 8月～2015年 8月	第１7回関西がんチーム医療研究会医療現場のコミュニケーション部会で座長
2015年 9月～2015年 9月	食の安全安心シンポジウム「食品添加物ってどんなもの？」にて司会を担当
2015年11月～2015年11月	経営学研究科主催英語による経営学講義の実施とメディア取材

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部マーケティング学科	講師	崔　宇	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
授業用の動画作成	2015年4月～現在	経営情報入門の授業で複雑なPC操作については、文書や図表で説明すると同時に、動画を作り、事前に本学のeラーニングシステムのアプリ、WebClassを通じて毎回、受講者に提供している。それによって、学習意欲が高まり、学習効果の向上につながった。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
本学におけるグローバル教育推進事業への協力	2015年4月～現在	2015年度から本学の交換留学生向けの英語開講科目を担当し、英語による専門教育の実践に携わり、2016年度には通年の授業として開講することになった。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Innovation and Entrepreneurship: Creating New Value	共著	2015年11月	(Oxford University Press)	Masaharu Ota	586-604頁
論文					
A theoretical analysis of sustainable supply chain realization	単著	2011年 8月	Journal of Information and Management in Japan(Japan Soceity for Information and Management) 31(4)		100-111頁
Literature review in SCM studies and future outlook	単著	2012年 8月	The Business Review(The Society of Business Research Osaka City University) 63(2)		43-70頁
Operation strategies for ensuring Supply Chain Resilience（査読付）	共著	2012年11月	Proceedings of The 2nd International Symposium on Operations Management and Strategy	Ota, Masaharu	CD-ROM頁
サプライチェーン・レジリエンス実現に向けての意思決定モデル（査読付）	単著	2013年 9月	日本情報経営学会誌 34(1)		77-88頁
The formation of Demand Chains driven by The Internet of Things and Cloud Computing	共著	2014年 7月	Proceedings of The 19th Asia-Pacific Decision Sciences Institute Conference	Ota, Masaharu	CD-ROM頁
Improvement of Resilience on Smart Supply Chain	単著	2014年10月	The Journal of Gifu Keizai University(Gifu Institute of Economics) 48(1)		39-52頁
その他					
サステナブルサプライチェーンの構築及びその実証的分析	-	2011年 7月	日本情報経営学会第62回全国大会(神戸大学)		
The sustainable supply chain studies and its experimental analysis	-	2011年11月	42nd Annual Meeting of the Decision Sciences Institute(Boston, MA,USA)	Ota, Masaharu	
サプライチェーン・レジリエンスに関わる研究	-	2012年10月	日本情報経営学会第65回全国大会(青森県立大学)		
サステナブルサプライチェーン研究の再検討	-	2013年 5月	日本情報経営学会第66回全国大会(群馬大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2005年 3月～現在に至る	日本情報経営学会(国内学会)会員
2010年 2月～現在に至る	Australian Computer Society(国内学会)会員
2011年 6月～現在に至る	Decision Sciences Institute(国際学会)会員
2012年 6月～現在に至る	日本情報経営学会(国内学会)本部幹事
2012年12月～現在に至る	日本経営工学会論文誌（英文号）　レフェリー

2013年 4月～現在に至る	日本情報経営学会(国内学会)関西支部運営委員
2013年 5月～2013年 5月	International Symposium on Operations Management and Strategy 2013 / Member of Program Committee
2013年 5月～現在に至る	日本情報経営学会誌 レフェリー
2013年 7月～2013年 7月	The 12th International Decision Sciences Institute Conference / Chairman of SCM session
2013年10月～2013年10月	日本情報経営学会第67回全国大会コメンテーター
2013年10月～現在に至る	経営学会(国内学会)会員
2014年 4月～2015年 3月	『中部経済新聞』の「オープンカレッジ」コラムの不定期寄稿者
2014年11月～2014年11月	日本情報経営学会第69回全国大会コメンテーター

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部マーケティング学科	教授	坂上　　佳隆	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
コンピュータを用いた実習的講義を行っている。	2014年 4月 1日 ～現在に至る	演習、経営統計、経営データ分析ではエクセルを用いて具体例を解くことを通して概念の理解を深めている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
事業承継入門３	共著	2015年 2月	(追手門学院大学出版会)	追手門学院ベンチャービジネス研究所編　・植藤正志、大門康剛、坂上佳隆他著	163-181(19頁)
リスクのもとでの意思決定	単著	2015年 3月	(追手門学院大学出版会)		
論文					
A note on the pricing of the perpetual American capped power put option	単著	2012年 3月	Munich Personal RePEc Archive		
A Note on the Pricing of American Capped Power Put Option（査読付）	単著	2015年 4月	Journal of Business and Financial Affairs		
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1978年～現在に至る	日本統計学会(国内学会)会員
1985年～現在に至る	日本オペレーションズ・リサーチ学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部マーケティング学科	准教授	笹本　　晃子	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
英語講読のクラスで、特別な教材に加え、オンライン上のＶＯＡ、ＢＢＣ教材を補助的に活用しての授業	2013年 9月17日 ～現在に至る	Graded reading materials の活用やＶＯＡ，ＢＢＣのSpecial Englishのサイトを利用して、授業時間外での学習効果促進を図るため、個々の学生の語学力レベルと関心に応じた話題の教材を選ばせ、１）多読の演習、２）指定教材の内容把握をはかるための問題を作成させ、クラス内で解答させる等読解力の養成を試みている。 WebClassのテスト機能を使い多人数クラスでのクラス運営に活用
2　作成した教科書、教材、参考書		
１９９７年５月初版の教科書が現在は、電子図書となってオンライン上で扱われている。	1999年 5月 ～現在に至る	『Error-Free English for Japanese Students』　英潮社 http://wwonephe.com/shop/item432
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1988年 3月～現在に至る	全国語学教育学会（JALT)(国内学会)会員
1988年 7月～現在に至る	（社）日本時事英語学会（JACES)(国内学会)会員
1991年～現在に至る	文部省招聘アセアン青年代表団の岐阜県世界青年交流協会受け入れインハウスセミナー通訳
1996年～現在に至る	International Association of Teachers of English as a Foreign Language（IATEFEL)(国際学会)会員
1999年 8月～現在に至る	Teachers of English to Speakers of Other Languages, Inc.(TESOL)(国際学会)会員
2001年 4月～現在に至る	*SIETAR, Japan(国際学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部マーケティング学科	教授	篠原　　健	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
MANABO　システム開発	2010年 4月 ～現在に至る	遠隔学習システムの開発 国語とN1日本語能力テストのコンテンツ追加2014年度 学生と教員の登録を行った 英語の機能はプロトタイプを追加した
MANABOSS　システム開発	2013年10月 ～2015年 3月	アサーションプログラムのためのシステム開発 2014年度はスマートフォン対応への切り替え機能を追加した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
Emerging location based services and its priacy control	-	2012年 9月	(Viena)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2014年 4月～2015年 3月	グローバルＩＴ経営（社会人向けの夜間開講　正式の授業が大学の制約でできないためにゼミにした）を酒井客員教授と共同運営（１０回）

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部マーケティング学科	准教授	長岡　千賀	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
マルチメディア機器を活用した授業実施―「音楽心理学」「感性情報心理学」「広告心理学」において―	2008年 4月 1日 ～現在に至る	視覚的・音響的に提示を有効に活用し，具体的な音響や広告動画・画像に触れる体験を通して，授業内容の理解を深めさせている.
授業内容のインターネット上での公開	2008年10月 1日 ～2012年 3月31日	梅花女子大学「感性情報心理学」の授業内容を，受講者がインターネット上で閲覧できるようにし、講義時間外にも参照し自習できるようにした。
放射線安全管理士資格認証講習	2010年12月 1日 ～2012年 3月 1日	NPO安全安心アカデミー主催。原子力発電所内の放射線管理に携わる者に「放射線安全管理士」の資格を認定するための，心理学とヒューマンエラーに関する講義を実施した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
放射線安全管理士資格認証講習テキスト（共著）	2010年12月 ～2012年 8月	原子力発電所内の放射線管理に携わる者対象。NPO安全安心アカデミー主催。「放射線安全管理士」の資格を認定するための，心理学とヒューマンエラーに関する講義を実施した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
事業承継とヒューマンエラーの防止	共著	2015年 2月	事業承継入門〈3〉事業承継のためのマーケティングと経営管理）（追手門学院大学出版会）	植藤正志・大門康剛・井出明・稲葉 哲・朴 修賢・長岡千賀・杤尾安伸・坂上佳隆・宮宇地俊岳・李建・中野統英・岡崎利美・山下克之・水野浩児	123-145頁
論文					
The Relationship between Seating Locations and Instructor-Student Entrainment in a Classroom（査読付）	共著	2012年12月	11(4)	Masashi Komori, Chika Nagaoka	179-182頁
Asymmetry in Facial Expressions as a Function of Social Skills（査読付）	共著	2013年 3月	IEICE Trans. on Information & Systems E96-D(3)	Masashi Komori, Hiroko Kamide, Satoru Kawamura, Chika Nagaoka	507-513頁
行動指標を用いた心理臨床の関係性に関する定量的検討 ―描画法施行場面を題材として―（査読付）	共著	2013年 3月	対人社会心理学研究(大阪大学大学院人間科学研究科　社会心理学研究室) 13	長岡千賀，佐々木玲仁，小森政嗣，　金 文子，石丸綾子	31-40頁
A comparison of experienced counsellors, novice counsellors and non-counsellors in memory of client-presented information during therapeutic interviews（査読付）	共著	2013年 8月	Psychologia: An International Journal of Psychological Sciences 56(2)	◎Nagaoka, C., Yoshikawa, S., Kuwabara, T., Oyama, Y., Watabe, M., Hatanaka, C., & Komori, M.	154-165頁
Implication of silence in a Japanese psychotherapy context: a preliminary study using quantitative analysis of silence and utterance of a therapist and a client（査読付）	共著	2014年 3月	Asia Pacific Journal of Counselling and Psychotherapy 4(2)	◎Nagaoka; Kuwabara; Yoshikawa; Watabe; Komori; Oyama; Hatanaka	147-152頁

1410

Preliminary study on the relation between the coping patterns and the mental health of radiation control personnel and non-destructive inspectors engaged in the periodic inspections of nuclear plants. (査読付)	共著	2014年 4月	Journal of Occupational Health	Nagaoka, C., & Uchida, Y.	169-177頁
原子力発電所の定期検査における労働職場環境のストレッサーと精神的健康の構造～放射線管理員と非破壊検査員を例とした予備的検討～ (査読付)	共著	2015年 5月	計画行政 38(2)	◎長岡千賀・内田由紀子	33-44頁
その他					
発達障害児への作業療法におけるセラピストの専門的技法	-	2012年 5月	ヒューマンコミュニケーション基礎研究会(沖縄)	長岡千賀, 小山内秀和, 前田駿太	
A Comparison of Experienced Counselors, Novice Counselors, and Non-Counselors in Recalling Client-Presented Information during Therapeutic Interviews	-	2012年 8月	the 34th Annual Conference of the Cognitive Science Society (CogSci 2012)(Sapporo)	Nagaoka,C., Yoshikawa, S., Kuwabara, T.,Oyama, Y., Hatanaka, C., Watabe,M., & Komori, M.	
Effect of Social Skills on the Asymmetry in Facial Expressions	-	2012年 8月	the 34th Annual Conference of the Cognitive Science Society (CogSci 2012)(Sapporo)	Komori, M., Kamide, H.,Kawamura, S., & Nagaoka, C.	
Relationships between periodic behaviors in micro-blogging and the users' baseline mood	-	2012年 8月	13th ACIS International Conference on Software Engineering, Artificial Intelligence, Networking and Parallel/Distribut ed Computing (SNPD 2012)(Kyoto)	Komori, M., Matsumura, N., Miura, A., Nagaoka, C.	
より良い質問紙調査のために：作成から実施まで（ワークショップ）	-	2012年 9月	日本心理学会第76回大会(専修大学)	小山内秀和・長岡千賀（企画）, 鈴木淳子・田辺肇・内田由紀子・高橋雄介（話題提供）	
子どもが療育に通うことによる保護者の認知の変化 縦断的調査による検討	-	2012年 9月	日本心理学会大会　第76回(専修大学)		
より良い保護者面談をするために:対話の時間構造と内容の分析に基づく考察	-	2012年10月	日本LD学会大会, 自主シンポジウム『発達障害児の学習支援と心の発達～保護者支援と合わせて～／企画：京都大学霊長類研究科・小川詩乃』(仙台)		
自閉症児への作業療法におけるセラピストの専門的技法	-	2012年12月	HCGシンポジウム内, 企画セッション『コミュニケーションの進化と未来：霊長類からジェミノイドまで／企画：ＨＣＳ研究会（ヒューマンコミュニケーション基礎第一種研究会）』(熊本)		
Implication of silence in a Japanese psychotherapy context: a preliminary study using comparison with everyday advice session.	-	2013年 8月	9th International Conference on Cognitive Science (ICCS 2013)(Kuching, Malaysia)	Nagaoka, C., Kuwabara, T., Watabe, M., Yoshikawa, S.,Komori, M., Oyama, Y., Hatanaka, C.	

1410

自閉症児への作業療法におけるセラピストの専門的技法に関する予備的検討	-	2013年 8月	日本教育心理学会第55回総会　自主シンポ「保育・教育における実践者の言葉がけをとらえる」（企画： 田中浩司（首都大学東京）・若山育代（富山大学））(法政大学)		
発達障害児への作業療法におけるセラピストの専門的技法(2)―セラピストの言葉がけを指標とした検討―	-	2013年 9月	日本心理学会第77回大会発表論文集(札幌)	**長岡千賀**	
臨床につながる心理学研究とは：socialすなわちコミュニケーション行動からつながる	-	2013年 9月	日本心理学会第77回大会 企画シンポジウム「臨床につながる心理学研究とは」司会者　　丹野義彦（東京大学）・坂本真士（日本大学）(札幌コンベンションセンター)	*長岡千賀*	
対人関係再考	-	2013年10月	日本LD学会第22回大会(横浜)		
Embodied synchrony in social interaction	-	2014年 1月	9th International Inuyama Comparative Social Cognition Symposium (iCS2-9 international)(Inuyama)		
学習支援の場における保護者支援	-	2014年 2月	「発達障害の子ども達への“あたたかい支援”とは」研究会(京都)		
保護者支援に必要なこととは―これまでとこれから―	-	2014年 3月	日本発達心理学会第25回大会(京都)		
学習支援の場における保護者支援	-	2014年 3月	日本発達心理学会第25回大会(京都)		
発達障害について如何に啓発するか：啓発資料上の表現が読み手の態度に及ぼす影響	-	2014年 9月	日本心理学会第78回大会(京都)		
子どもへの作業療法におけるセラピストの専門的技法　～ セラピストの声掛けに関わる分析手法の検討 ～	-	2015年 5月	電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会(沖縄)	長岡千賀・加藤寿宏・松島佳苗・吉川左紀子	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1999年 4月～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員
2007年 3月～現在に至る	日本認知心理学会(国内学会)会員
2009年 5月～現在に至る	日本認知科学会(国内学会)会員
2010年12月～2012年 8月	放射線安全管理士資格認証講習
2010年12月～現在に至る	社会言語科学会(国内学会)会員
2012年11月～2012年11月	一般の学習塾における講師・経営者向けスキルアップ講座における講演
2014年 2月～2014年 2月	一般公開研究会「発達障害の子ども達への“あたたかい支援”とは」における話題提供
2014年10月～2014年10月	おうてもん塾第２期「使える心理学」　第3講「〈ミス防止〉に使える心理学」講師

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部マーケティング学科	准教授	中野　　統英	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
情報リテラシー１および２	2005年 4月 1日 ～2015年 3月31日	情報リテラシー１では情報やコンピュータとは何かといったことを教示した．具体的にはコンピュータの内部構造や歴史，情報倫理と知的財産権，情報をどのようにして扱うか，そして情報を扱う上での問題点について講義を行った．さらに文書作成ソフトを使った各種文書の作成やホームページ作成方法について実習形式で教えた． 情報リテラシー２では，情報化と社会生活の関係という観点から講義を行った．具体的には情報化によるサービスの変化，情報化と経営の関係，情報化が社会生活に及ぼす影響，そして情報化にともなう社会の発展についての講義を行った．さらに表計算ソフトの操作方法と応用(各種データ処理および解析)，データベース，プレゼンテーション技法についても実習形式で教えた．
統計学入門および現代と統計	2007年 4月 1日 ～2016年 3月31日	統計学入門では，度数分布表の作成方法や代表値などといった統計処理の基礎，確率に関する基礎知識，確率変数および離散確率変数における確率分布関数について講義形式で授業を行った．ただし統計処理や確率の計算については適時問題を作成して演習も行った． 現代と統計では，離散確率変数における確率分布関数とそれらを用いた分布(二項分布およびポアソン分布)，連続確率変数における確率分布関数および正規分布について講義形式で授業を行い，最後にカイ２乗分布およびｔ分布についての講義を行った．二項分布，ポアソン分布および正規分布については適時問題を作成して演習も行った．
プログラミング演習１および２	2009年 4月 1日 ～2013年 3月31日	プログラミング演習１では，プログラム作成の基礎についてJava言語およびプログラム作成ツールEclipseを用いて実習形式で授業を行った．初めにJava言語の基礎知識およびEclipseの利用方法からJavaプログラムの基本構造を教示し，その後は配列や各種繰り返し文，条件分岐，ライブラリの活用法や例外処理について教えた． プログラミング演習２では，オブジェクト指向によるプログラミングについての実習を，Java言語およびEclipseを用いて行った．前半ではオブジェクト指向プログラミングの基礎知識からクラスの作成・利用法，クラスの継承法，変数やクラスのカプセル化などについて教示し，後半では簡単なWindowsアプリケーションの作成方法について教示した．
科学技術史１おおび２	2011年 4月 1日 ～2012年 3月31日	科学技術史１では，科学技術の変遷について，紀元前から現在までの科学技術の変遷を系統的に学習させることにより現代社会がどのように成り立っているかについての授業を行った． 科学技術史２では，２０世紀以降の科学技術発達の歴史を宇宙、生物および情報通信の分野から詳細かつ系統的に学習させることにより，現在社会が抱える問題点を把握し，さらに科学技術の観点から未来を模索して将来への指針を立てる能力を身につけさせる授業を行った．
経営数学１および２	2011年 4月 1日 ～2013年 3月31日	経営数学１および２では，経営ビジネスに必要な数学のうち様々な分野で必要となる微分積分学のついての講義を行った． 春学期（経営数学１）では微分積分学の基礎となる数列，各種関数（指数関数・対数関数・三角関数）および数列・関数の極限についての授業を行った． 秋学期（経営数学２）では微分法の基礎的演算および応用，積分法の基礎についての授業を行った．
コンピュータ統計学Ⅰ	2012年 4月 1日 ～2013年 3月31日	コンピュータ統計学１では，実際に経済学や経営学等で用いる統計理論およびデータ解析の手法を学び，統計学を実践的に使いこなすことができるようコンピュータでの実習を交えた授業を行った．内容は １．確率および各種分布の復習 ２．標本調査及び標本分布 ３．推定および仮説検定 ４．回帰分析について である．３．および４．についてはExcelの統計ツールを用いた演習を行いレポート課題も提示した．

基礎演習１および２	2012年 4月 1日 ～2014年 3月31日	基礎演習１では，基礎演習ではレゴ®ブロックを用いたロボット作成ツールLEGO® MINDSTORMS® を用いてプログラムの基礎を理解させる授業を実習形式で行った．春学期の基礎演習１ではまず実際にロボットを作成させた．そしてGUIで簡単にプログラムを作成できるNXTソフトウェアでプログラムを作成させてロボットを動作させることによりコンピュータプログラムのアルゴリズムを理解させる授業を行った．最後に自身のプログラムについてのレポート作成，発表および実演(作成したプログラムによるロボットの動作)を行った． 基礎演習２では，基礎演習２では初めにJAVA言語によるプログラミングを学習し，そしてこの言語を用いたロボット動作プログラムツールLeJosによるプログラムを用いてロボットを動作させることによりコンピュータ言語を用いたプログラミング能力およびコンピュータ組み込み機器の動作制御を行う能力を養う授業を実習形式で行った． 最後に自身のプログラムについてのレポート作成を行った．
発展演習１および２	2013年 4月 1日 ～2015年 3月31日	発展演習では，初めに基礎演習２で作成したJAVA言語のプログラムに関する発表を行った．その次に科学技術史について学び，自身で設定した科学技術関連のテーマに沿った発表やディスカッションを行った．このことによりビジネス文書作成やプレゼンテーションおよびディスカッションの能力を養った． 春学期の発展演習１では １．基礎演習2で作成したプログラムについての発表および実演(作成したプログラムによるロボットの動作) ２．古代ギリシャ時代から19世紀までの科学技術史の講義 ３．上記講義で出てきたキーワードに関するレポート作成および発表 を行った． 秋学期の発展演習２では，以下の科学技術史およびマナー講座 １．中国・インドおよび日本の科学技術史 ２．20世紀以降の科学技術史の学習およびこれらに関する課題のまとめと発表 ３．社会人として最低限必要なマナーについて ４．コンピュータ，インターネットおよびプリンタの歴史 ５．科学技術の発展が及ぼす社会的問題と責任に関する講義，レポート作成および発表 についての学習を行った．
経営数学１および２	2013年 4月 1日 ～2016年 3月31日	経営数学１では，度数分布表の作成方法や平均値・分散等といった統計処理の基礎，確率に関する基礎知識，確率変数および離散確率変数における分布関数について講義形式で授業を行った．ただし統計処理や確率の計算については適時問題を作成して演習も行った． 経営数学２では，離散確率変数における確率分布関数とそれらを用いた分布(二項分布およびポアソン分布)，連続確率変数における確率分布関数および正規分布について講義形式で授業を行った．正規分布については適時問題を作成して演習も行った．
統計学Ⅰ	2013年 4月 1日 ～現在に至る	統計学Ⅰでは，を学び，統計学を実践的に使いこなすことができるようコンピュータでの実習を交えた授業を行った．内容は １．確率および各種分布の復習 ２．標本調査及び標本分布 ３．推定および仮説検定 ４．回帰分析について である．３．および４．についてはExcelの統計ツールを用いた演習を行いレポート課題も提示した．
卒業演習１および２	2014年 4月 1日 ～2016年 3月31日	卒業演習では，これまでにゼミで学んできたことをもう一度見つめなおします．そして社会へ旅立っていくに当たり 必要な上記の能力を身につけます．最終的には卒業論文の作成および発表を行うことによって実践的能力を磨きあげ将来への夢を持ってもらうことを目的としています． 卒業演習１では， １．卒業論文を書くために必要な論文作成の技術を学習する． ２．卒業論文のテーマとなるメーカまたは業界を選定する． ことを行った． 卒業演習２では １．卒業論文の中間発表 ２．ビジネスマナーの学習および実習 ３．卒業論文作成および最終発表 を行った．

経営統計および経営データ分析	2014年 4月 1日 ～2016年 3月31日	経営統計では度数分布表の作成方法や平均値・分散等といった統計処理の基礎，経済分野で用いる統計学に関する事項(ジニ係数など)，確率に関する基礎知識，確率変数，二項分布および正規分布についてコンピュータを用いた実習を交えて授業を行った．統計処理や分布の計算については適時問題を作成してコンピュータによる演習(Excel)も行った． 経営データ分析では，実際に経営学等で用いられている統計理論およびデータ解析の手法を学び，統計学を実践的に使いこなすことができるようコンピュータでの実習を交えた授業を行った．内容は １．標本調査及び標本分布 ２．推定および仮説検定 ３．回帰分析について である．１．および２．については電卓を用いた演習を行った．また２．および３．についてはExcelの統計ツールを用いた演習を行いレポート課題も提示した．
意思決定論１および２	2015年 4月 1日 ～2016年 3月31日	意思決定論１では，統計的な意思決定を行うための基本的な考えかたおよび意思決定論で用いる基本的な知識について理解し，簡単な問題に応用する能力を身につけること学習を行った．具体的には １．意思決定の基本的な考え方 ２．意思決定論の基礎となるベイズの定理について ３．ベイズの定理を用いた意思決定の理解しおよび現実問題に対する応用 について学習を行った． 意思決定論２では，まずリスクに対する基本的な考えかたを理解し，次に意思決定論で欠かせないゲーム理論についての基本的な知識について理解する授業を行った．最後にゲーム理論を用いて，様々な意思決定問題を解決する応用力を身につける．これらのことを目的とする．具体的には １．リスクに対する基本的な考え方 ２．ゲーム理論について ３．ゲーム理論を用いた意思決定および現実問題に対する応用 についての学習を行った．
経営情報入門	2015年 9月15日 ～2016年 3月31日	本講義では，表計算ソフトを用いて具体的な経営分析についての学習を行った．具体的には １．表計算ソフトの基本的な操作方法習得(表計算，関数，グラフ作成など) ２．ITを用いた経営分析の方法を体得(重回帰分析，数量化I類など)を行った．
２　作成した教科書、教材、参考書		
情報リテラシー１および２	2005年 4月 1日 ～2015年 3月31日	文書作成ソフトと表計算ソフトの使用法については，2005年度は市販テキストを利用したが，2006年度からは高校で情報を履修した生徒が多数になったので自作プリントのみで講義と演習を行った．「情報やコンピュータとは何か」や「情報化と社会生活の関係」については自作スライドを用いて講義を行い，コンピュータの基本操作，注意事項，データベース，プレゼンテーションなどについてもすべて自作スライドと自作プリントを作成して講義を行った．
統計学入門および現代と統計	2007年 4月 1日 ～2016年 3月31日	基本的には市販のテキストで授業を行ったが，板書を充実させてノートだけでも授業を理解できるように配慮した．さらに適時問題を作成してプリントで配布することによって演習も行った．
プログラミング演習１および２	2009年 4月 1日 ～2013年 3月31日	プログラミング演習１では，初めに各種プログラム言語，JavaやEclipseについての説明を，自作スライドを用いて行った。その後プログラム課題については自分で作成した課題を自作プリントで説明を行い、Java言語プログラミングのテクニックについてはテキストを用いて解説を行った． プログラミング演習２では，プログラムの課題については自分で作成した課題およびテキストに掲載されている課題について自作プリントを用いて説明を行い、Java言語プログラミングのテクニックについてはテキストを用いて解説を行った．
コンピュータ統計学Ｉ	2012年 4月 1日 ～2013年 3月31日	市販のテキストおよびテキストをベースに作成した資料をファイルで配布することにより授業を行った．適時自作の演習問題を配布して授業中に演習を行ったり，Excelを用いた統計処理の実習を行ったりした．
基礎演習１および２	2012年 4月 1日 ～2013年 3月31日	基礎演習１では，NXTソフトウェアについては市販のテキストを用いて授業を行った．ただレポート作成および発表におけるスライド作成については自作プリントを用いて説明を行った． 基礎演習2では，JAVAの学習については市販のテキストをベースにしながら適時自作のプリントで説明を加え，自作のサンプルプログラムを用いて授業を行った．LeJos(JAVA言語でLEGOロボットを動かすパッケージ)については市販のテキストを用いつつ自作のサンプルプログラムを作成させることによってプログラミングの応用を学習させた．
発展演習１および２	2013年 4月 1日 ～2015年 3月31日	発展演習１における科学技術史については，自作のスライドを用いて授業を行った．同時にスライドをベースにしたプリントも配布した． 発展演習2における科学技術史については，自作のスライドを用いて授業を行った．同時にスライドをベースにしたプリントも配布した．マナー講座についても自作のスライドを用いて授業を行い，同時にスライドをベースにしたプリントも配布した．

経営数学１および２	2013年 4月 1日 ～2016年 3月31日	基本的には市販のテキストで授業を行っているが，追加問題や解説を加えることにより板書を充実させてノートだけでも授業を理解できるように配慮した．さらに適時問題を作成してプリントで配布することによる演習も行った．
統計学Ｉ	2013年 4月 1日 ～2015年 9月14日	市販のテキストおよびテキストをベースに作成した資料をファイルで配布することにより授業を行った．適時自作の演習問題を配布して授業中に演習を行ったり，Excelを用いた統計処理の実習を行ったりした．
卒業演習１および２	2014年 4月 1日 ～2016年 3月31日	卒業演習１における論文作成技術については，自作のプリントを作成・配布して授業を行った． 卒業演習2における卒論の中間発表および卒論発表については，プレゼンテーション方法を解説した自作のスライドを用いて授業を行い，同時にスライドをベースにしたプリントも配布した．マナー講座についても自作のスライドを用いて授業を行い，同時にスライドをベースにしたプリントも配布した．マナー講座については，さらに実習のための電話応答例などを記したプリントを配布したり名刺を作成させたりしながら，授業参加者全員に実習を行った．
経営統計および経営データ分析	2014年 4月 1日 ～2016年 3月31日	基本的には市販のテキストおよびテキストをベースに作成した資料をファイルで配布することにより授業を行った．適時自作の演習問題を配布して授業中に(コンピュータを使わない)演習を行ったり，Excelを用いた統計処理の実習を行ったりした．
意思決定論１および２	2015年 4月 1日 ～2016年 3月31日	意思決定論1では意思決定の考え方，確率・統計学の基礎理論，ベイズ理論およびベイズ統計学についての理論について講義形式で授業を行った．また統計学や確率ベイズ統計学については実践例を豊富に示し，演習問題も豊富に作成して演習も行った． 意思決定論2では，リスクに対する考えから(ポートフォリオ)およびゲーム理論についての授業を講義形式で行った．リスク管理については実例を用いて詳細に説明を行った．ゲーム理論については基礎理論から応用例まで講義の合間に適時問題を作成して演習を行った．
経営情報入門	2015年 9月15日 ～2016年 3月31日	経営情報入門では，市販テキストおよび自作プリントを用いて講義を行った．まず前半に表計算ソフトの基本的な操作方法について実習を交えた学習を行った．後半では表計算ソフトを用いてデータベース作成・活用，基本統計量の計算，重回帰分析および数量化I類についての学習を行った．
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
経営学部のあるゼミナールにおけるロボットを利用したプログラミング教育の概要およびその効果	2013年 7月27日	日本情報経営学会関西支部第２２５回支部例会 招待講演 近年，経営学部などの文科系出身学生がICT関連企業などへSEとして就職する事例が増えてきている．発表者は2012年度より経営学部内のゼミナールを担当することになり，そこでプログラム教育を行うことになった．しかしながら理科系の学生と違いプログラムを全く知らない学生やコンピュータ自体を使い慣れていない学生が多いなかで，発表者は前述のような学生に対してもプログラムやコンピュータに興味を持ってもらいかつ楽しく学習してもらうべく，LEGO® MINDSTORMS® で作成したロボットを利用したプログラミングの教育を行った．今回はこの時の概要および教育効果についての発表を行った．
４　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
事業承継とITの有効活用	共著	2015年 2月	事業承継入門3 事業戦略のためのマーケティングと経営管理(追手門学院大学出版会) 3	植藤正志，大門康弘，井出明，稲葉哲，朴修賢，長岡千賀，朽尾安伸，坂上佳隆，宮宇地俊岳，李建，中野統英，岡崎利美，山下克之，水野浩児（追手門学院大学ベンチャービジネス研究所編）	227-242頁
ベンチャービジネスとIT技術	共著	2016年 3月	ベンチャービジネス研究1 地域おこし、資本政策、IT技術、ファイナンス、物流管理、ダークツーリズム(追手門学院大学出版会) 第3章	村上喜郁，宮宇地俊岳，中野統英，岡崎利美，宮﨑崇将，井出明(追手門学院大学ベンチャービジネス研究所編)	53-76頁
論文					
Q学習を含むエージェントによって構成されるエージェントベースシミュレーションにおける割引率と流行の流布との関係に関する研究	単著	2012年12月	追手門経営論集 18(2)		1-18頁
経営学部学生に対するプログラミング導入教育の実践と効果 --- LEGO MINDSTORMS を利用して ---	共著	2013年12月	追手門経営論集 19(2)	◎中野統英，　原田章	23-44頁

Q学習を含むエージェントによるエージェントベースシミュレーションにおける流行の流布と初期採用者の配置に関する研究	共著	2014年 6月	追手門経営論集 20(１)	◎中野統英・周慧	27-48頁
その他					
経営学部のあるゼミナールにおけるロボットを利用したプログラミング教育の概要およびその効果	-	2013年 7月	日本情報経営学会関西支部第２２５回支部例会(追手門学院　大阪梅田サテライト)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1998年～現在に至る	システム制御情報学会(国内学会)会員
1998年～現在に至る	日本機械学会(国内学会)会員
1998年～現在に至る	計測自動制御学会(国内学会)会員
2004年～現在に至る	米国電気電子学会(国際学会)会員
2005年～現在に至る	日本繊維機械学会(国内学会)会員
2009年～現在に至る	人工知能学会(国内学会)会員
2010年～現在に至る	日本繊維製品消費科学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部マーケティング学科	准教授	朴　修賢	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
経営管理講座テキスト	2012年 4月	平成２４年度　徳島大学産学官連携推進部「産業人材育成講座」のためのテキスト コマ６　市場開拓・拡販・第2創業アクションプラン コマ７　新商品・改良製品開発　　pp127-150
経営管理講座テキスト	2014年 4月	平成26年度　徳島大学産学官連携推進部「産業人材育成講座」のためのテキスト コマ５「市場開拓・拡散・商品開発」部分担当pp. 135-160
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
ビジネスプランコンテストプレゼン	2013年11月28日	ベンチャービジネス研究所主催のビジネスプランコンテストに、ゼミ4組を指導、参加しプレゼンを行った。 2位に入賞。
グッツコンテストプレゼン	2014年 6月	ベンチャービジネス研究所主催のグッツコンテストに、ゼミ５組を指導、参加しプレゼンを行った。 2位に入賞。
ビジネスプランコンテストプレゼン	2014年11月	ベンチャービジネス研究所主催のビジネスプランコンテストに、ゼミ4組を指導、参加させた。 その結果、奨励賞と佳作に入賞。
ビジネスプランコンテスト指導	2015年	ベンチャービジネス研究所主催のビジネスプランコンテストに、ゼミ５組、2年生21名を指導、参加させた。 その結果、全員が1次審査を追加し、2次審査では優秀賞、奨励賞に入賞した。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
短期海外セミナー事前研修	2015年 7月15日	韓国短期海外セミナーに参加する学生を対象に行う事前研修を担当した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
事業承継入門３	共著	2015年 2月	（追手門学院大学出版会）	朴修賢その他13人	103-122頁
論文					
携帯電話サービス利用者の継続利用意向に対するスイッチング・コストとサービス品質が与える影響　－　日韓の比較分析によるグローバル戦略的観点により	単著	2012年 6月	財団法人電気通信普及財団　研究助成事業－研究調査報告書(財団法人電気通信普及財) (27)		１－９頁
モバイル通信サービスの『品質構造」と消費者満足との関係	単著	2013年 9月	日本情報経営学会第67回大会予稿集		33－36頁
モバイル通信サービスの知覚品質と顧客行動意図との構造的関係性に関する実証研究－日本と韓国のモバイル通信サービス市場の比較調査としてー	単著	2014年 3月	Venture Business Review(追手門学院大学ベンチャービジネス研究所) ６		23-32頁
Webコミュニティを基盤とする顧客経験価値共創の可能性について	単著	2015年 3月	追手門経営論集(追手門学院大学経営学会) 20(２)		79-97頁
日本のモバイル通信サービス市場における企業イメージと消費者意思決定の間の構造的関係について	単著	2015年 7月	日本情報経営学会学会誌 35(4)		43-52頁
モバイル通信サービス利用者の意思決定における企業イメージ要因の影響に関する影響	単著	2015年11月	日本情報経営学会第７１回大会予稿集(日本情報経営学会)		111-114頁
韓国における6次産業化の活性化とソーシャルメディアの役割について	単著	2016年 3月	追手門学院大学ベンチャービジネス・レビュー ８		21-30頁
その他					

モバイル通信サービスの『品質構造』と消費者満足との関係	–	2013年 9月	日本情報経営学会(徳山大学)		
モバイル通信サービス利用者の意思決定における企業イメージ要因の影響に関する研究	–	2015年11月	日本情報経営学会(尾道市立大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1999年12月～現在に至る	日本商業学会(国内学会)会員
2001年 4月～現在に至る	日本情報経営学会(国内学会)会員
2003年5月～現在に至る	韓国マーケティング管理学会(国際学会)会員
2005年5月～現在に至る	日本経営学会(国内学会)会員
2011年 4月～現在に至る	日本テレワーク学会(国内学会)会員
2012年 5月～現在に至る	日本情報経営学会(国内学会)関西支部運営委員
2012年 5月～現在に至る	日本情報経営学会(国内学会)研究プロジェクト委員幹事
2013年 8月	大手前高校の商店街体験事業のサポート
2013年11月	徳島大学産学官連携推進部主催、産業人材育成講座の講師
2014年 7月	日本テレワーク学会第16回全国大会「国内クラウドソーシング市場におけるプロジェクト受注型消費者の分析」研究報告に対するコメンテーター
6	徳島大学産学官連携推進部主催、産業人材育成講座の講師
2014年11月～2015年 7月	日本テレワーク学会(国内学会)全国大会実行委員
2014年11月	日本情報経営学会第69回全国大会「オンラインショッピングに対するベトナム消費者の認識」発表に対するコメンテーター
2015年 4月～現在に至る	多様な働き方研究会
2015年 7月	ウッドマーケティング講座
2015年 7月	研究大会の司会
2015年10月～現在に至る	日本情報経営学会(国内学会)国際交流委員会

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部マーケティング学科	教授	原田　　章	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
Excelによる統計解析入門	2015年 8月 3日 ～2015年 8月 3日	教員免許更新講習で用いた教材．A4で65ページ．内容は統計解析の入門的なものとExcelによるその実行方法に関するものであった．
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
教員免許更新講習の講師	2015年 8月 3日 ～2015年 8月 3日	教員免許更新講習の講師として，選択科目「Excelによる統計解析入門」を実施．28名の受講者があった．

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
統計解析の心構えと実践	共著	2013年10月	（ナカニシヤ出版）	松田幸弘	1-295頁
論文					
CALL学習者の英語伸長度に影響を及ぼす要因	共著	2013年 8月	外国語教育メディア学会第53回（2013年度）全国研究大会発表要項(外国語教育メディア学会（LET）)	岩田 聖子	144-145頁
福島原子力発電所事故における管理者メッセージの分析：リスクコミュニケーションの心理モデルに基づく官邸発表の検討	共著	2013年12月	京都光華女子大学研究紀要 51	◎竹西正典，竹西亜古，金川智惠，原田章	25-38頁
インターネットの口コミが購買行動に及ぼす影響－女子学生の化粧品購買のアンケート調査から－	共著	2014年 6月	経営情報学会全国研究発表大会論文集	◎姚佳，井戸田博樹，原田章	229-232頁
CALL学習者の有効性について：CALL授業を利用した通常クラスと再履修クラスの比較より	共著	2014年 8月	外国語教育システム学会第54回大会発表論文集	◎岩田聖子，原田章	54-55頁
福島原子力発電所事故における管理者メッセージの分析(2)：東京電力発表のコンテンツ分析と受け手の評価	共著	2014年12月	京都光華女子大学研究紀要 52	◎竹西正典，竹西亜古，金川智惠，原田章	105-119頁
時系列表示を中心とした，タブレット利用を前提とするLMSの開発	共著	2015年 1月	教育システム情報学会研究報告 29(5)	◎原田章，荒井崇史，岩渕亜希子，杤尾真一，長尾俊明，平治彦	5-8頁
CALL英語学習者に影響を及ぼす要因の特定に向けて―CALL学習者のコンピュータスキル及び英語力の観点から―	共著	2015年 3月	一貫連携教育研究所紀要 (1)	◎岩田聖子・原田章	90-100頁
警察官に対する犯罪情勢分析手法の研修の試み（査読付）	共著	2016年 1月	科学警察研究所報告 64(1)	島田貴仁，齊藤知範，**原田章**	24-34頁
その他					
CALL学習者に影響を及ぼす要因の特定に向けて：CALL学習者のコンピュータスキル及び英語力に関する質問紙開発	－	2012年 8月	外国語教育メディア学会第52回全国研究大会(甲南大学)	岩田聖子	
CALL授業に対する評価と英語習熟度の関係	－	2012年 9月	日本心理学会第76回大会(専修大学)	岩田聖子	

行動計量学入門	-	2013年 6月	警察専科・犯罪情勢分析コース(関東管区警察学校)		
CALL学習者の英語伸長度に影響を及ぼす要因	-	2013年 8月	外国語教育メディア学会第53回全国研究大会(文京学院大学)	岩田 聖子	
インターネットの口コミが購買行動に及ぼす影響ー女子学生の化粧品購買のアンケート調査からー	-	2014年 6月	経営情報学会2014年春期全国研究発表大会(青山学院大学相模原キャンパス)	姚佳，井戸田博樹	
行動計量学入門	-	2014年 6月	警察専科・犯罪情勢分析コース(関東管区警察学校)		
CALL学習者の有効性について：CALL授業を利用した通常クラスと再履修クラスの比較より	-	2014年 8月	外国語教育システム学会第54回全国大会(福岡大学)	岩田聖子	
時系列表示を中心とした，タブレット利用を前提とするLMSの開発	-	2015年 1月	教育システム情報学会2014年度第5回研究会「新技術の開発と活用による次世代教育・学習環境のデザイン/一般(大阪産業大学)	荒井崇史，岩渕亜希子，杤尾真一，長尾俊明，平治彦	
Excelによる統計解析入門	-	2015年 8月	教員免許更新講習		
キャリア教育に関する科目の単位を修得すれば就職できるのか	-	2015年 9月	大学行政管理学会(関西大学)	吉田尚子・長尾俊明・米澤慎二	
修得科目数の時系列経過から見た大学生の卒業・留年	-	2015年 9月	大学行政管理学会(関西大学)	長尾俊明・吉田尚子・米澤慎二	
時系列表示とOCR連携を特徴とするLMSのタブレットインターフェイス開発	-	2015年 9月	平成27年度ICT利用による教育改善研究発表会(アルカディア市ヶ谷)	杤尾真一・中条貴夫・横井博至・松本将之・平治彦	
一般教室・講義形式の授業に対するWebClassを用いた動的支援	-	2016年 2月	メディア教育シンポジウム「ICTの教育活用と高大連携」(名古屋文理大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1994年 4月～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員
1994年 6月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員
1998年 8月～現在に至る	日本行動計量学会(国内学会)会員
1998年 8月～現在に至る	認知科学会(国内学会)会員
2003年 9月～現在に至る	日本教育心理学会(国内学会)会員
2003年 9月～現在に至る	日本犯罪心理学会(国内学会)会員
2012年 4月～現在に至る	外国語教育メディア学会(国内学会)会員
2012年12月	大学コンソーシアム大阪での公開授業
2013年 6月	警察庁防犯実務専科・犯罪情勢分析コースでの講演「行動計量学入門」
2014年 6月	警察庁防犯実務専科・犯罪情勢分析コースでの講演「行動計量学入門」
2015年 6月	警察庁防犯実務専科・犯罪情勢分析コースでの講演「行動計量学入門」

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部マーケティング学科	教授	福田　　得夫	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
専門演習「基礎演習１・２」、「発展演習１・２」、「卒業演習１・２」の資料	2008年 4月 1日 ～現在に至る	独自作成の資料を電子ファイル化したものを配布している。総ページ数は２００ページを超える。常時その内容は刷新中である。また、そのファイルの一部は演習受講生には公開している。
担当科目「情報科学概論１・２」の授業資料	2009年 4月 1日 ～現在に至る	従来は教科書を使用して、補助的にプリントを配布し板書をしながら講義していたが、受講生の増加から板書では対応できなくなってきたので、パワーポイントを使用している。また、その内容は常時改善を計っており、その結果現在は全ページ数（全画面数）１４４ページとなっている。また、パワーポイント中の項目等および授業中に写すことが困難な図表等については、別にプリントとして配布しており、プリント中の空白部分を授業中に記入していけば、最終的には「教科書」ができあがるようにしている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Probabilistic Approach for Vague Perceptions of Complex Phenomena (査読付)	単著	2012年 5月	Proc. of the 43rd ISCIE Intl. Symp. on Stochastic Systems Theory and Its Appl.		101-106頁
On a Probabilistic Approach for Capricious Vague Perceptions of Random Phenomena (査読付)	単著	2012年12月	Systems, Control and Information(The Institute of Systems, Control and Information Engineers) 25(12)		392-388頁
On Statistical Moments for Capricious Vague Perceptions (査読付)	単著	2013年 5月	Proc. of the 44th ISCIE Intl. Symp. on Stochastic Systems Theory and Its Appl.		15-20頁
On Second Statistical Moments for Capricious Vague Perceptions (査読付)	単著	2013年11月	Systems, Control and Information(The Institute of System, Control and Information Engineers) 26(11)		1-7頁
On Estimation Problem Associated with Persons' Capricious Perceptions of Crisp Phenomena	単著	2013年12月	Otemon Economic Studies 46		1-36頁
On Convergence of Estimates Concerned with Fuzzy Random Data (査読付)	単著	2014年 8月	Proc. of ISCIE Intl. Conf. on Stochastic Systems and Its Applications		361-366頁
Sumulation Studies for a Class of Fuzzy Random Data (査読付)	単著	2015年 5月	Proc. of ISCIE Intl. Conf. on Stochastic Systems and Its Applications		118-123頁

Convergent Properties of Estimators Concerned with a Class of Vague Random Phenomena（査読付）	単著	2015年12月	Transactions of the Institute of Systems, Control and Information Engineers(the Institute of Systems, Control and Information Engineers) 28(12)		460-466頁
その他					
On Statistical Moments for Capricious Vague Perceptions	-	2012年11月	The 44th ISCIE Symp. on Stochastic Systems Theory and Its Appl.(Kokushikan University, Tokyo, JAPAN)		
On Convergences of Estimates Concerned with Fuzzy Random Data	-	2013年11月	The 45th ISCIE Symp. on Stochastic Systems Theory and Its Appl.(University of the Ryukyus)		
Simulation Studies for a Class of Fuzzy Random Data	-	2014年11月	The 46th ISCIE Symp. on Stochastic Systems Theory and Its Appl.(Kyoto Institute of Technology, Kyoto JAPAN)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1975年 4月～現在に至る	システム制御情報学会（旧「日本自動制御協会」）(国内学会)会員
1975年 4月～現在に至る	計測自動制御学会(国内学会)会員
1979年 1月～現在に至る	米国電気電子学会（ＩＥＥＥ）(国際学会)会員
1988年～現在に至る	日本シミュレーション＆ゲーミング学会(国内学会)会員
1989年 4月～現在に至る	システム制御情報学会（旧「日本自動制御協会」）(国内学会)「ストカスティックシステムシンポジウム」組織委員
1989年11月～現在に至る	日本知能情報ファジィ学会（旧「日本ファジィ学会」）(国内学会)会員
1991年～現在に至る	日本応用数理学会(国内学会)会員
2014年11月～2014年11月	46th ISCIE Int. Symp. of Stochastic Systems and Its Applications の session の chairman

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 経営学部マーケティング学科	職名 講師	氏名 松井　　温文	大学院における研究指導 担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
『サービスの国際化とマーケティング−モノつくり大国からサービス大国へ−』マーケティングの歴史的変遷　村上薫編	2014年 3月	五絃舎
『サービス・マーケティングの理論と実践』	2014年 3月	五絃舎
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
医療マーケティング	単著	2012年10月	マーケティング戦略の理論と実践(五絃舎)		
商業集積の論理	単著	2013年 4月	激変する現代の小売流通(五絃舎)		
マーケティングの歴史的変遷	単著	2014年 3月	サービスの国際化とマーケティング−モノつくり大国からサービス大国へ−(五絃舎)		
台湾行く『おもてなし』−加賀屋の試み−	単著	2014年 3月	サービスの国際化とマーケティング−モノつくり大国からサービス大国へ−(五絃舎)		
アパレル商品の販売	単著	2014年 3月	サービス・マーケティングの理論と実践(五絃舎)		
サービスの生産管理	単著	2014年 3月	サービス・マーケティングの理論と実践(五絃舎)		
ペンション・民宿	単著	2014年 3月	サービス・マーケティングの理論と実践(五絃舎)		
化粧品の販売	単著	2014年 3月	サービス・マーケティングの理論と実践(五絃舎)		
『経営学入門』　企業の生産・研究開発戦略　高木直人編	共著	2014年 3月	(五絃舎)		
サービス環境のリレーションシップ・マーケティング	単著	2014年 8月	岡山武史編『リレーションシップ・マーケティング』(五絃舎)		
リレーションシップ・マーケティングの起源と歴史	単著	2014年 8月	岡山武史編『リレーションシップ・マーケティング』(五絃舎)		
ブランドにみる統一性と不統一性	単著	2014年 9月	金澤敦史編『ブランド・マネジメント論』(銀河書籍)		
地域ブランド	単著	2014年 9月	金澤敦史編『ブランド・マネジメント論』(銀河書籍)		

大学の国際化	単著	2014年 9月	金澤敦史編『国際マーケティング論』(銀河書籍)		
強力な流通経路戦略	単著	2014年 9月	成田景堯編『京都に学ぶマーケティング』(五絃舎)		
観光の国際化	単著	2014年 9月	金澤敦史編『国際マーケティング論』(銀河書籍)		
サービス・マーケティング	単著	2015年 3月	岩永忠康編『マーケティングの理論と戦略』(五絃舎)		
論文					
「マーケティングにおけるブランドの役割−岩永忠康先生の見解を基礎として−」	単著	2012年 4月	『佐賀大学経済論集』45(ぬ)		
ブランドの実践的活用	単著	2012年 7月	実践経営学会研究(4)		
岡山清水白桃B級品の試験的流通〜農協と農家の共生に向けて〜	共著	2013年 3月	Discussion Papers in Business Management(28)	石川貴憲・今光俊介・種市豊・西田宇志・松井温文	10〜19頁
転換期の日本的経営とキャリア形成	共著	2013年 3月	Discussion Papers in Business Management(27)	安部耕作・松井温文	1〜4頁
食品産業にみる市場細分化戦略としてのブランド（査読付）	単著	2013年 3月	日本産業科学学会研究論叢		
ブランドとチャネルの今日−コンビニエンス・ストアを中心的事例として−	単著	2013年 6月	追手門経営論集第19巻(第1号)		
整骨院サービスの1つの方向性−スポーツを中心として−	共著	2013年 6月	関西実践経営(45)	松井温文・今光俊介	49〜56頁
農産物流通の実践−清水白桃を事例として−	単著	2013年 8月	実践経営学研究(5)		
新たな魅力ある低価格戦略(研究ノート)	共著	2013年12月	追手門経営論集19(2)	松井温文・今光俊介	59〜64頁
体験型実践教育に係わる学生の意識調査−漁村の活性化に係って−	単著	2014年 3月	教育研究所紀要(追手門学院大学教育研究所)(32)		
医療マーケティングの対象とアプローチ（査読付）	単著	2014年 3月	日本消費経済学会年報		
小売マーケティングの特徴（査読付）	単著	2014年 3月	日本産業科学学会研究論叢(日本産業科学学会)19		
NB商品とPB商品の概念に関するレビュー(研究ノート)	共著	2014年 6月	追手門経営論集20(1)	松井温文・岡田一範	111〜115頁
近年のマーケティングの社会性について(研究ノート)	共著	2014年 6月	追手門経営論集20(1)	松井温文・今光俊介	89〜96頁
コンビニエンス・ストアにみる生産的労働(研究ノート)	共著	2014年12月	追手門経営論集第20巻(第2号)	松井温文・今光俊介	132〜134頁
サービス・マーケティング研究の対象−対象の限定を目的として−(研究ノート)	単著	2014年12月	追手門経営論集20(2)		
プライベート・ブランド商品の概念−我が国の実状を鑑みて−(研究ノート)	共著	2014年12月	追手門経営論集20(2)	松井温文・岡田一範	159〜161頁
寡占的製造企業と大手小売企業との関係−プライベート・ブランド商品を中心として−	単著	2015年 3月	(追手門経済・経営研究)(22)		
日本を学ぶための講義内容の設定−流通・マーケティングに係わって−	単著	2015年 3月	一貫連携教育研究所紀要1		
その他					

開放的チャネルと閉鎖的チャネルの併用−市場細分化・価格・ブランドとの関係から−	単著	2012年 6月	日本消費経済学会西日本大会(広島大学東千田キャンパス)		
ブランドの実践的活用	単著	y	実践経営学会第55回全国大会(久留米大学御井キャンパス)		
ブランドとチャネルの今日	単著	2012年10月	日本消費経済学会第37回全国大会(近畿大学東大阪キャンパス第3会場(G館503教室))		
小売マーケティングの特徴	単著	2013年 4月	日本産業科学学会関西部会(芦屋大学六麓荘キャンパス5号館4階第1会議室)		
医療マーケティングの対象とアプローチ	単著	2013年 6月	日本消費経済学会西日本大会(名古屋文理大学北館2階N201教室)		
小売マーケティングの独自性	単著	2013年 7月	九州流通研究会(佐賀大学経済学部131演習室)		
小売経営論からの小売マーケティング論の峻別	単著	2013年 7月	日本消費経済学会関西部会(近畿大学21号館7階大学院演習室1)		
小売マーケティングの特徴	単著	2013年 8月	日本産業科学学会第19回全国大会(九州産業大学1号館7階B会場(中会議室))		
農産物流通の実践−清水白桃を事例として−	単著	2013年 9月	実践経営学会第56回全国大会(大阪経済大学大隅学舎J館4階教室A)		
医療マーケティングの対象とアプローチ	単著	2013年10月	日本消費経済学会(中央学院大学6号館第1会場631教室)		
漁村への関心を高めるために−現状の根本的問題の解決に向けて−	単著	2013年11月	実践経営学会中部部会(中京大学名古屋キャンパスセンタービル8階08A教室)		
新たな魅力ある低価格競争	共著	2013年12月	日本消費経済学会中部部会(東海学園大学栄サテライトキャンパス901教室)	今光俊介	
コンビニエンス・ストアにみる生産的労働	共著	2014年 4月	日本産業科学学会関西部会(芦屋大学大阪キャンパス18階)	今光俊介	
白石善章先生による市場の概念−『市場の制度的進化』創成社−」	単著	2014年 4月	第4回九州流通研究会(佐賀大学経済学部134演習室)		
プライベート・ブランドの概念についての一考察	単著	2014年 5月	日本消費経済学会中部部会(愛知淑徳大学星ヶ丘キャンパス1号館3階13A教室)		
プライベート・ブランドの概念について	共著	2014年 6月	日本産業科学学会中部部会(高田短期大学)	岡田一範	
医療サービスにおける満足の基礎的な確認	単著	2014年 6月	日本消費経済学会西日本大会(大阪商業大学Uメディアセンターネットワークレクチャールーム第1会場)		
コンビニエンス・ストアにみる生産的労働	共著	2014年 8月	日本産業科学学会全国大会(青森公立大学大学院棟1211教室)	今光俊介	
プライベート・ブランドの概念について	共著	2014年 8月	日本産業科学学会全国大会(青森公立大学大学院棟1211教室)	岡田一範	
医療サービスにおける満足の概念	単著	2014年 9月	日本消費経済学会第39回全国大会(長崎県立大学佐世保校経済学部第1会場(102教室))		
プライベート・ブランド商品の意味内容について	単著	2014年11月	日本流通学会第28回全国大会(阪南大学本キャンパス第4会場(832教室))		
マーケティングの性格−白石善章先生の援護を受けて−	単著	2014年11月	第64回実践経営学会関西支部会(近畿大学Eキャンパス B館10階マルチメディア会議室)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2001/4/1～現在に至る	実践経営学会等(国内学会)会員

2002/6/1～現在に至る	日本商業学会(国内学会)会員
2002/7/1～現在に至る	日本流通学会(国内学会)会員
2004/8/1～現在に至る	日本産業科学学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
経営学部マーケティング学科	講師	宮﨑　崇将	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
図説 経済の論点	共著	2015年 1月		柴田努、新井大輔、森原康仁	22-25頁
資本主義の現在	共著	2015年 4月	(文理閣)	豊福裕二	100-118頁
格差社会と現代流通	共著	2015年 8月		大野哲明、佐々木保幸、番場博之	86-101頁
論文					
なし					
その他					
生産計画と販売計画の事前的調整−サンスター を事例に—	−	2014年 3月	日本物流学会(大阪産業大学梅田サテライト)		
生産計画と販売計画の事前的調整−サンスター を事例に—	−	2014年 4月	日本流通学会関西・中四国部会(大阪府)		
流通研究におけるネットワーク概念の再検討	−	2014年11月	日本流通学会(大阪府)	田中彰	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2003年10月～現在に至る	日本流通学会(国内学会)会員
2009年～現在に至る	日本物流学会(国内学会)会員
2011年 5月～現在に至る	日本商業学会(国内学会)会員
2013年 9月～現在に至る	工業経営研究学会(国内学会)会員
2015年 9月	生産者からみた”CO・OP”の特長と意義
2015年11月	生産と販売との連携・協同への挑戦

地域創造学部

＜地域創造学科＞

稲葉　哲　(101)
井上　典子　(102)
今堀　洋子　(104)
岩渕　亜希子　(106)
大泉　英次　(107)
河合　博司　(108)
草山　太郎　(109)
小林　善帆　(110)
佐藤　友美子　(111)
武田　佐知子　(113)
田中　正人　(114)
泊　吉実　(117)
沼尻　正之　(118)
橋本　裕之　(119)
葉山　幹恭　(123)
峯俊　智穂　(124)
安村　克己　(126)
山本　博史　(127)
善積　京子　(129)

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	講師	稲葉　　哲	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
事業承継入門〈3〉事業承継のためのマーケティングと経営管理（共著）	共著	2015年 2月	事業承継入門3　事業承継のためのマーケティングと経営管理(追手門学院大学出版会)	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所[編]、植藤正志、大門康剛、井出明、朴修賢、長岡千賀、栃尾安伸、坂上佳隆、宮宇地俊岳、李建、中野統英、岡崎利美、山下克之、水野浩児[著]	79-101頁
論文					
通貨危機時およびそれ以後における韓国製造業の参入退出分析	単著	2013年 6月	追手門経営論集(明文舎)19(1)		1-28頁
韓国における受託製造加工の効率性に関する決定要因分析（査読付）	単著	2013年 8月	日本中小企業学会論集32(同友館)		149-161頁
韓国における下請政策と実態に関する一考察	単著	2016年 3月	追手門学院大学地域創造学部紀要(1)		1-22頁
その他					
한국에 있어서의 수탁제조가공의 효율성에 관한 결정요인분석（韓国語報告）	-	2012年 6月	第１０回神戸大学経済経営研究所・大学院経済学研究科・漢陽大学校経済金融大学・経済研究所共同研究発表会(神戸大学)		
韓国における受託製造加工の効率性に関する決定要因分析	-	2012年 9月	日本中小企業学会(嘉悦大学（東京）)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2001年 1月～現在に至る	国際開発学会(国内学会)会員
2011年10月～現在に至る	日本中小企業学会(国内学会)会員
2013年11月～現在に至る	現代韓国朝鮮学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	教授	井上　　典子	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
国際的視点に基づく教育方法の実践	2013年12月 ～2013年12月	大学主催の国際シンポジウムの一環として、外国人研究者を含めた地域セミナーを企画・実践した。その中で、地元住民及び学生らは、海外研究者、国内研究者に対して、自らが長年行ってきた取組についてプレゼンテーションを行うことができた。国際的な視点に基づく学校・社会教育を実践した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
食と景観の地域づくり	2014年 4月 ～現在に至る	農業等の一次産業と景観形成（生態学的・文化的）との関係を示しつつ、これらの生業の役割について学生に認識させる。また、一次産業を通じた地域管理や地域活性化策について検討させるとともに、地域づくりの方法について理解させることを目的とした教材。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
著作の試験問題としての採用	2014年 2月	2014年度同志社大学入試試験において、国語の問題の中に『文化的景観と風景』（『風景の思想』学芸出版社2012．6)の一部が使用された。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
風景の思想	共著	2012年 6月	(学芸出版社)	西村幸夫、伊藤毅、中井一　編	138-151頁
食と景観の地域づくり	共著	2013年 2月	(学芸出版社)	染井順一郎、井上典子	pp. 33-73, pp. 88-115, pp. 125-130, pp150-178, pp. 212-240(一部)
創造農村～過疎をクリエイティブに生きる戦略	共著	2014年 2月	(学芸出版社)	佐々木雅幸　他	88-99頁
Okazaki in Kyoto, in Hitoric Towns between East and West	共著	2015年	ISBN 978-88-6975-081-6(Erme s Edizioni Scientifiche, Roma)	O.Niglio	338-349頁
論文					
文化的景観の分析手法に関する報告ー無形の要素を中心とした「平戸島の文化的景観」の調査	共著	2012年 2月	(公益社団法人日本都市計画学会) 10	植野健治	全文
平戸島西海岸地域の景観保全に関する研究	単著	2013年 3月			
The Study on the Academic Debates Concerning The Old And New Conflict of Historic Cities in Italy (査読付)	共著	2014年11月	Esempi di Architettura, The architecture of reason: tradition, history and city, Biannual Journal(Aracne Editrice, ERMES. Servizi Editorial Integrati Srl) Vol 1.(N.2)	Olimpia NIGLIO	57-63頁
Urban Landscape of Okazaki in Kyoto (査読付)	共著	2015年 1月	VITRUVIO, rivista Università Politecnica di Valencia (Spagna),(Università Politecnica di Valencia) 1	O.Niglio	13-22頁
ボローニャ市都市保全政策における都市再評価事業の実施に関する考察 (査読付)	単著	2016年 3月	追手門学院大学地域創造学部紀要 (1)		23-35頁
その他					

Culture, landscape and monuments in the city of Kyoto. The restoration of the Imperial Gateway at Nijyo Castle (2012-2013): News from Iscaesah Members	-	2013年 4月	International Scientific Committee on the Analysis and Restoration of Structures of Architectural He(ICOMOS)	Olimpia Niglio	
「イメージのリユース　－　ボローニャの事例から」“Spolia, 建築・都市の継承と再利用　西洋と東洋の比較を通じて”	-	2013年 7月	京都大学大学院人間・環境学研究科国際シンポジウム″Spolia″(京都　(京都大学))		
Kyoto. The restoration of the Imperial Gateway at Nijyo Castle (2012-2013)	-	2013年 9月	Forum UESCO,n.94, settembre 2013	Olimpia Niglio	
産業地区の再生と地域文化	-	2013年12月	追手門学院大学地域文化創造機構国際シンポジウム“地域文化の創造とは何か”(大阪　(追手門学院大学))		
近代の産業地区とその再利用　ボローニャ・タンペレ・大阪	-	2014年 9月	国際シンポジウム『地域文化の創造とは何か』(大阪)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2009年3月～現在に至る	日本イコモス国内委員会(国内その他)会員
2004年5月～現在に至る	日本計画行政学会(国内学会)会員
2000年 9月～現在に至る	日本都市計画学会(国内学会)会員
2011年 4月～現在に至る	地中海学会(国内学会)会員
2012年 4月～2013年 3月	宇治茶の普及に関する「本ずプロジェクト」コーディネート
2013年 4月	「学芸出版社セミナー」講師
2013年 8月～2015年 8月	大阪府市文化振興会議 委員
2013年 8月～2015年 8月	大阪府市文化振興会議
2013年10月	第７４期高知市民の大学「高知県の文化財に学ぶ」講師
2014年 2月	近江八幡市　ミニセミナー　講師
2014年 6月	「はびきの市民大学」講師
2014年 6月	「茨木市のキリスト教遺産を学ぶ」コーディネート
2014年 7月	「佐渡市における地域づくりについて」コーディネート
2014年 8月～現在に至る	大阪市都市計画審議会 委員
2014年 8月～現在に至る	大阪市都市計画審議会
2014年10月～現在に至る	平戸市世界遺産登録推進会議 委員
2014年10月～現在に至る	平戸市世界遺産登録推進会議
2014年11月	プロジェクト型科目に対する新聞社取材
2014年12月	平成26年度農村共生・対流総合対策交付金事業
2014年12月	第10回景観デザイン研究会発表会座長
2015年 3月～現在に至る	茨木市文化財保護審議会 委員
2015年 3月～現在に至る	茨木市文化財保護審議会
2016年 2月	「観光資源としての庭園」に関する研究会
2016年 2月～現在に至る	平戸市文化的景観推進委員会 委員
2016年 2月～現在に至る	平戸市文化的景観推進委員会

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	准教授	今堀　　洋子	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
講義と対話をセットにした授業の試み（大人数の授業のケース）	2009年 4月 1日 ～現在に至る	「地域と暮らし１・２」において、３枚もののレポートを使い、講義内容を聴いて、その概要を要約し、問いかけに対して、自らの考えを書き、さらに、自問自答できる力を身につける試みをしている。更に、上記のレポートの中の、問いかけの部分を使い、受講生の考えをまとめて、授業で提示することにより、学生同士のあるいは学生と教員との対話を試みた。⇒経済学部　自己評価　2010　および　2011　参照
ワークショップ型の授業　～ファシリテーションの手法を用いた授業改革～	2014年 4月 1日 ～現在に至る	一方的に教師が話し、学生が聞くという授業から、受講生同士が共に学び合う「学びの共同体」をつくるべく、ファシリテーションの手法を用いて、ワークショップ型の授業を展開している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
成熟社会研究所のシェアラボ　vol2のゲストスピーカー	2014年10月 9日	追手門学院大学 食堂棟３階　シアトルズベストコーヒー奥 スタッフコーナー「大学の教室を『共に学びあう』場へ」というタイトルで講演をした。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
学部公開講座の司会	2008年 ～現在に至る	経済学部で春と秋に開講されている公開講座において、講師の招聘および、講座の司会進行を勤めている。
社会人ゼミの開講	2012年 4月 1日 ～2016年 3月31日	社会人ゼミを開講し、ゼミ生への研究指導を実施している。
村上信夫氏によることば磨き塾の受講	2012年12月 ～現在に至る	追大生を中心に開講されている講座における村上氏のサポート
中野民夫氏によるファシリテーション講座を受講し、ファシリテーション技術の習得	2013年10月	同志社大学で開催されたファシリテーション講座に参加し、中野民夫教授流のファシリテーションの技術を習得し、その実践を日々の授業で実施している。
中野民夫氏によるワークショップ 「活気ある授業を創るには？～参加型場づくりの技法『ファシリテーション』の活用～」のサポート	2016年3月18日	京都大学で開催された「第22回大学教育研究フォーラム」の特別企画における中野民夫氏のサポート

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
ギフトエコロジーの実践現場における創造的活動　～カリフォルニア州ベイエリアを事例として～	単著	2016年 3月	追手門学院大学　地域創造学部紀要(追手門学院大学) 1		37-63頁
その他					
One Planet Living -Shift to Sharing from Scramble -	-	2013年 5月	Hawaii International Conference On Business(Hawaii)		
私たちの食卓と世界のつながり	-	2013年11月	吹田市　平成25年度意識啓発講座(吹田市立男女共同参画センター)		
地域のお金を地域で循環 ～「漏れバケツ」と「地域内乗数効果」～	-	2014年 6月			
食のつながりマップ	-	2014年 6月			
大学の教室を『共に学びあう』場へ	-	2014年10月			
限界集落こそ時代の最先端　～上勝町のこころみ～	-	2014年12月	2014年度第2回研究大会(大阪)		
Let's Learn from Japanese Honey Bees: Experiences of Projected Based Program	-	2015年 1月	The 13th Annual Hawaii International Conference on Education(Hawaii)		
ギフトエコノミー（与えあう経済）の萌芽	-	2015年12月	2015年度第1回研究大会(大阪)		

Challenging to The Holistic Education: The Edible Schoolyard and Cooking Local and In-Season Food by way of Example	-	2016年 1月	2016 Hawaii International Conference on Education(Hawaii)		
シェアリングエコノミーについて　～サービサイジングの先にあるもの～	-	2016年 3月	実践！環境経営セミナー(ATCグリーンエコプラザ)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2001年4月～現在に至る	環境情報科学学会(国内学会)会員
2003年4月～現在に至る	環境科学会(国内学会)会員
2003年11月～現在に至る	関西エコステージ研究会　第三者評価委員会　委員
2005年 5月～2016年 3月	茨木市生涯学習センターパソコン講座　講師
2005年 8月 1日～2015年 3月31日	茨木市ごみ減量審議会 委員・学識経験者
2009年 2月～現在に至る	モモの家運営委員
2009年 4月～現在に至る	経済教育学会(国内学会)会員
2010年 1月～現在に至る	環境省　我が国におけるびんリユースシステムの在り方に係る検討会 委員
2010年 1月 1日～現在に至る	堺市廃棄物減量等推進審議会 委員・学識経験者
2011年 7月 1日～2013年 3月 1日	茨木市地球温暖化対策推進委員会 委員・学識経験者
2012年 4月～2015年 3月	ヒューマンエコノミー学会(国内学会)会員
2012年 4月～現在に至る	ヒューマンエコノミー学会(国内学会)理事
2012年 4月～2016年 3月	社会人ゼミ
2012年 4月 1日～現在に至る	茨木市大規模小売店舗立地協議会 委員・学識経験者
2013年 5月 1日～2013年 9月 1日	堺市・資源循環型廃棄物処理施設運営モニタリング業務の業者選定委員会 審査委員
2013年 9月	地球一個分の暮らし　～貨幣システムに着目して～
2014年 2月 1日～2015年 3月31日	茨木市環境審議会 委員・学識経験者
2014年 4月～現在に至る	授業におけるAP学生の受け入れ、ミツバチプロジェクトでの連携の可能性検討など
2014年 4月 1日～現在に至る	大阪市開発審査会 委員・学識経験者
2014年11月	生活経済学会(国内学会)会員
2015年 6月～2015年 6月	ニホンミツバチを先生として 共に学びあう
2015年 6月～2015年 6月	ミツバチでつながるコミュニティ
2015年 6月～2015年 6月	追大ミツバチプロジェクト
2015年 7月～2015年 8月	まなびやの宝　追手門学院大学　ミツバチプロジェクト
2015年 7月～2015年10月	ミツバチ達をもっと身近に
2015年 7月～2015年 7月	大学でのシニアの出番
2015年10月～2016年 2月	コミュニティ・スタイル　はたらきながらまなびあそぶ
2015年11月～2015年11月	身近なエコに関するワークショップ
2016年 3月～2016年 3月	地域創造につながる環境教育の好例としてのエディブル・スクールヤード（食育菜園）

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	准教授	岩渕　　亜希子	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2000年 7月～現在に至る	日本老年社会科学学会(国内学会)会員
2001年 4月～現在に至る	関西社会学会(国内学会)会員
2001年 7月～現在に至る	日本社会学会(国内学会)会員
2002年～現在に至る	北海道社会学会(国内学会)会員
2014年 8月～現在に至る	日本家族社会学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部	教授	大泉　英次	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
専門演習における企業見学ならびに地域調査の実施	2015年 4月 1日 ～2016年 3月30日	専門演習の一環として、課外の時間を利用し、企業見学（日世株式会社・茨木市）ならびに地域視察（和歌山県湯浅町の伝統的建造物群保存地区、同町内の熊野古道）を実施した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
経済学部公共サービスプログラムセミナーの実施	2015年 4月 1日 ～2016年 3月30日	公共サービスプログラムリーダーとして、同プログラムに対する学生の理解と関心をえるため、自治体幹部職員を招き、セミナーを実施した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Government/Public Lending Institutions: Asia-Pacific	共著	2012年 4月	International Encyclopedia of Housing and Home, Vol. 2.(Elsevier: Oxford, UK)	◎Eiji Oizumi, Kim Sunsik	304-310頁
不安定と格差の住宅市場論	単著	2013年 3月	(白桃書房)		1-233頁
論文					
戦後70年日本の住宅問題	単著	2016年 3月	経済(新日本出版社)(246)		125-141頁
その他					
現代住宅問題と住宅市場論の方法	-	2013年10月	政治経済学・経済史学会2013年度秋季学術大会(下関市（下関市立大学）)		
公共財としての英国フットパス	-	2014年 6月	おうてもん塾(大阪市)		
持続可能なまちづくりをめざして	-	2014年 7月	和歌山地域経済研究機構シンポジウム(和歌山市)		
成熟社会の住まいと地域づくり	-	2015年 5月	はびきの市民大学(羽曳野市)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2007年9月～現在に至る	Asia-Pacific Network for Housing Research(国際学会)準会員
1994年6月～現在に至る	政治経済学・経済史学会(国内学会)会員
1998年10月～現在に至る	都市住宅学会(国内学会)会員
2005年 6月～現在に至る	和歌山放送「経済ジャーナル」コメンテーター
2010年 4月～現在に至る	阪南市入札監視委員会委員
2012年 6月～現在に至る	和歌山県政府調達苦情処理委員会委員
2013年11月～現在に至る	日本住宅会議副理事長
2014年 6月～現在に至る	阪南市公共料金等適正化審議会委員
2015年 5月	成熟社会の住まいと地域づくり 講演

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	教授	河合　　博司	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
茨木市の未来構想	–	2013年 7月	茨木市観光協会　主催		
絵本の里―剣淵町の取組について	–	2013年10月	茨木市住みよいまちづくり協議会　主催		
建学の精神と日本国憲法の今	–	2014年11月	酪農学園大学セミナー(酪農学園大学・北海道江別市)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2013年 5月～現在に至る	茨木市観光協会 理事

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	講師	草山　　太郎	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
ブラインドサッカーの魅力と課題 ： 視覚障害プレーヤーの語りから	単著	2016年3月10日	追手門学院大学地域創造学部紀要		65-91頁
その他					
特集・スポーツ系習いことをする前に　Q&A 期待するもの？得られるもの？　２．不器用な子の挑戦	単著	2014年12月	ちいさい・おおきい・よわい・つよい(ジャパンマシニスト社)(103)		33-35頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2003年 4月～現在に至る	障害学会(国内学会)会員
2008年 4月～現在に至る	福祉社会学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	准教授	小林　善帆	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
近代日本のキリスト教主義女学校と精神修養　－いけ花・茶の湯・礼儀作法・武道を通して	単著	2013年 3月	日本の近代化とプロテスタンティズム(教文館)		
植民地期朝鮮の教育資料　Ⅰ	単著	2015年 3月	植民地期朝鮮の教育資料　Ⅰ(国際日本文化研究センター)		
『女性満洲』と戦時下のいけ花	共著	2016年 2月	メディア　－移民をつなぐ、移民がつなぐ(クロスカルチャー出版)	河原典史、日比嘉高ほか	335-355頁
植民地期朝鮮の教育資料　Ⅱ	単著	2016年 3月	植民地期朝鮮の教育資料　Ⅱ(国際日本文化研究センター)		
論文					
植民地朝鮮の女学校・高等女学校といけ花・茶の湯・礼儀作法　－植民地台湾との相互参照を加えて（査読付）	単著	2013年 3月	日本研究(国際日本文化研究センター) 47		
近代女子教育における茶の湯　－植民地朝鮮の女学校・高等女学校の事例をふまえて	単著	2013年 4月	－女性研究者による－茶文化研究論文集(茶文化研究発表会実行委員会)		
いけ花史試論　前編（査読付）	単著	2013年12月	いけ花文化研究(国際いけ花学会) (創刊号)		
禁裏連歌空間とたて花	単著	2014年 3月	(私家版)		
いけ花史試論　後編（査読付）	単著	2014年12月	いけ花文化研究(国際いけ花学会) (2)		
『女性満洲』と戦時下のいけ花（査読付）	単著	2015年 3月	立命館言語文化研究(立命館大学) 26(4)		103-114頁
その他					
資料紹介　ソウル大学校蔵　伝宗碩筆『連歌老葉』	－	2013年 9月	日本研究(国際日本文化研究センター) 48		
メディアにみる植民地期朝鮮の中等教育　－アイデンティティという視点から－	－	2015年 8月	日韓次世代学術フォーラム　第12回国際学術大会(韓国)		
いけ花とコッコジ　－帝国日本の連続と非連続	－	2016年 2月	国際日本文化研究センター　共同研究会(日本)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1988年 4月～現在に至る	民族藝術学会(国内学会)会員
1999年12月～現在に至る	大阪市平野区　杭全神社　月次連歌会連衆
2011年 4月～現在に至る	京都女子大学　連歌部
2012年 9月～現在に至る	国際いけ花学会(国際学会)会員
2013年 4月～現在に至る	小島頓宮法楽連歌会　連衆

V　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	教授	佐藤　友美子	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
神戸大学　　学長選考会議委員	2004年 4月 ～現在に至る	学長選考の無い年は年数回、選考のある年は選考に当たって面接や事前打ち合わせ等があり、７，８回の会議に参加。現在は議長として会議運営も行っている。
神戸大学　　経営協議会委員	2004年 4月 ～現在に至る	年間６回程度の経営協議会に出席し、大学運営に対して適宜意見を述べている。
大阪大学文学部 2011年度 大阪大学文学部　外部評価委員	2011年 4月 1日 ～2012年 3月31日	大学からの資料提供、見学、説明、質疑応答により、評価を行い、「外部評価書2011」に意見が掲載されている。
神戸大学発達科学部 2012年度 神戸大学発達科学部　外部評価委員	2012年 4月 1日 ～2013年 3月31日	大学からの資料提供を元に公開ヒアリングを実施した。ヒアリング記録と統括記録が、2014年「人間発達環境学研究科・発達科学部外部評価実施報告書」に掲載されている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
これからの土木	–	2014年 9月	土木学会全国大会(大阪府吹田市)		
地域から始まる　これからの心豊かな生き方	–	2015年 5月	うめだカレッジ(大阪市生涯学習センター)		
世代間交流	–	2015年 6月	日本世代交流学会大会(大阪城スクエア)		
成熟社会におけるシニアの役割と居場所	–	2015年10月	(茨木市)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2001年 1月～現在に至る	阪神高速道路公団　阪神高速道路公団事業評価監視委員会委員
2001年 3月～現在に至る	環境省　中央環境審議会　生物多様性国家戦略懇談会委員
2001年 6月～現在に至る	日刊工業新聞社　キャンパス・ベンチャーグランプリ審査委員
2002年 1月～現在に至る	大阪府　大阪府立狭山池博物館運営協議会委員
2002年11月～現在に至る	国土交通省　近畿運輸局　近畿地方交通審議会委員
2004年 4月～2014年 3月	国土交通省交通政策審議会 委員
2004年 4月～2014年 3月	国土交通省交通政策審議会　交通政策審議会委員
2005年 3月～現在に至る	財団法人　自然公園財団　「自然環境ボランティアファンド」運営委員
2005年 7月～現在に至る	社団法人　日本アロマ環境協会　社団法人　日本アロマ環境協会　顧問
2005年12月～現在に至る	堺市　堺歴史文化都市推進有識者会議委員
2006年 1月～現在に至る	兵庫県立芸術文化センター　兵庫県立芸術文化センター運営委員
2006年 5月～2014年 3月	国土交通省交通政策審議会　交通体系分科会　地域公共交通部会委員
2006年 5月～2014年 3月	国土交通省交通政策審議会　観光分科会 委員
2006年 5月～2014年 3月	国土交通省交通政策審議会　観光分科会委員
2006年 5月～2014年 3月	国土交通省交通政策審議会　陸上交通分科会　鉄道部会委員
2006年 5月～現在に至る	坂田記念ジャーナリズム振興財団　坂田記念ジャーナリズム振興財団理事会・評議員会委員
2006年 6月～2014年 3月	国土交通省交通政策審議会　交通体系分科会　地域公共交通部会委員
2006年 6月～2014年 3月	国土交通省交通政策審議会　航空分科会委員
2006年 7月～現在に至る	京都市　京都創生百人委員会メンバー
2006年 7月～2014年 3月	大阪府　大阪府私立学校審議会委員
2007年 1月～現在に至る	環境省　中央環境審議会　自然環境部会温泉小委員会委員
2007年 2月～現在に至る	堺市　堺市歴史文化都市有識者会議委員
2007年 4月～2014年 3月	独立行政法人　国立科学博物館 独立行政法人　国立科学博物館評議会評議員
2007年 4月～2015年 3月	財団法人ひょうご震災記念２１世紀研究機構　財団法人ひょうご震災記念２１世紀研究機構外部評価委員会委員
2007年 5月～2015年 6月	財団法人　大阪城ホール　大阪城ホール文化･スポーツイベント振興助成事業選考委員会委員
2007年 8月～2013年 8月	法務省　法制審議会委員
2007年 8月～2013年 8月	法務省法制審議会 委員

2007年 9月～現在に至る	読売新聞大阪本社　よみうり子育て応援団＠大阪メンバー
2009年～現在に至る	人事院総裁賞　選考委員
2009年 3月～現在に至る	人事院総裁賞 選考委員
2009年 4月～2013年	神戸新聞 ．.7 客員論説委員
2010年～現在に至る	公益信託高橋信三記念放送文化振興基金　運営委員
2010年～現在に至る	地方の時代映像祭　審査委員
2010年 4月～現在に至る	独立行政法人・芸術文化振興会 芸術文化振興基金運営委員会委員
2010年 6月～現在に至る	西日本旅客鉄道株式会社　役員会議・社外取締役
2011年～現在に至る	MBS毎日放送　番組審議会委員
2011年～現在に至る	朝日新聞文化財団　評議委員
2011年 1月～現在に至る	環境省　中央環境審議会 委員
2011年 1月～現在に至る	環境省　中央環境審議会委員
2011年 3月～2014年 2月	国土審議会委員・北海道開発分科会
2012年 4月～現在に至る	西日本旅客鉄道株式会社　企業倫理委員会委員
2013年 4月～現在に至る	公益財団法人　国際花と緑の博覧会記念協会　評議委員
2013年 4月～現在に至る	社団法人　大阪広告協会　大阪広告協会賞選考委員
2013年 8月～2014年 3月	交通政策審議会　交通体系分科会・地域公共交通部会委員
2013年 8月～現在に至る	大阪市市民局　大阪市男女共同参画審議会委員
2013年 8月～現在に至る	大阪市市民局　男女共同参画審議会 委員
2013年11月～現在に至る	人間文化研究機構総合研究推進委員会委員
2014年 5月	大阪府立大学公開講座「関西経済論」
2014年 6月	追手門学院地域文化創造セミナー連続公演
2014年 8月～2014年12月	大阪商工会議所「企業における女性の活躍推進研究会」座長
2014年 8月	明治安田生命「関西からおもてなし　商いとおもとなし」
2015年 2月	いちょうカレッジ（大阪市生涯学習まちづくり市民大学）
2015年 3月～現在に至る	日本放送協会経営委員会委員
2015年 4月～現在に至る	第２５回山片蟠桃賞審査委員
2015年 5月～現在に至る	大阪府観光客受け入れ環境整備の推進にかなする調査検討会議委員
2015年 5月～現在に至る	日本放送協会経営委員会監査委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	教授	武田　佐知子	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
いにしえから架かる虹―時と装いのフーガ	単著	2014年 3月	(イリス　同時代社)		1-245頁
古代日本の衣服と交通―装う王権つなぐ道―	単著	2014年 3月	(思文閣)		1-420頁
平安貴族における愛のかたちと衣服のかたち―とりかえばやの復権―	単著	2014年 3月	武田佐知子編『交錯する知―衣装・信仰・女性―』(思文閣)		1-20頁
論文					
民族衣装における異装と共装	単著	2012年 4月	着衣する身体と女性の周縁化(思文閣)		9-36頁
古代浴衣復元のための覚え書き	単著	2012年 3月	歴史における周縁と共生～疫病・触穢思想・女人結界・除災儀礼		131-142頁
聖徳太子の造形―仏教文化史からみる聖徳太子―	単著	2012年 4月	藝林(藝林會) 61(1)		77-119頁
西馬音内の盆踊り	単著	2013年 3月	東北文学の世界(盛岡大学日本文学科) (21)		79-82頁
古代浴衣復元のための覚え書き	単著	2014年 4月	歴史における周縁と共生(思文閣)		
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
なし	

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	准教授	田中　正人	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
講義内容のヴィジュアル化（ＭＳパワーポイント）	2003年 4月 ～現在に至る	都市計画や市街地整備，まちづくりの現場の情報を効果的に伝えるために，画像，図面，地図データ等を多用した講義を実施している。担当する講義はすべてＭＳパワーポイントの使用を基本としている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
「ワークショップの本（神戸のまちづくり参加のレシピ）」（こうべまちづくりセンター発行）	2003年 4月 ～2014年 7月	［街のしくみ（神戸山手短期大学・2単位）］［神戸山手大学（神戸学入門・2単位）］ 神戸市内におけるまちづくりワークショップの事例を網羅的に収集して編んだブックレット。特に代表的な5つの事例について，関係者へのインタビューに基づく詳細な内容を紹介している。そのうち1つの事例分の執筆を担当した。全体の編集にも携わっている。（A5版，74ページ） 座学の限界のなかで，住民の生の声を含む具体事例の提示は現場のリアリティを体感することへの貢献がある。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
住宅白書2011-2013 東日本大震災　住まいと生活の復興	共著	2013年 6月	（ドメス出版）	塩崎賢明，田中正人，ほか計48名	300-304頁
リジリエント・シティ 現代都市はいかに災害から回復するのか？	共著	2014年 1月	（クリエイツかもがわ）	山崎義人，田中正人，田口太郎，室崎千重	115-169頁，215-219頁
これからの住まいとまち　「住む力」をいかす地域生活空間の創造	共著	2014年 4月	（朝倉書店）	阪東美智子，葛西リサ，高澤由美，堀田祐三子，河井容子，寺川政司，近藤民代，田中正人，小川知弘，田中貢	102-111頁，125-138頁
大震災20年と復興災害	共著	2015年 1月	（クリエイツかもがわ）	塩崎賢明，西川榮一，出口俊一，田中正人，他25人	70-73頁
復興と居住地移動	共著	2016年 1月	（関西学院大学出版会）	堀田祐三子，小川知弘，荒木裕子，高澤由美，石塚裕子，田中正人，石原凌河，竹田茉耶，澤田雅浩，塚本卓，宮定章，石塚直樹，佃悠	3-5頁，44-50頁，64-68頁
災害対応ハンドブック	共著	2016年 5月	（法律文化社）	室崎益輝，岡田憲夫，中林一樹，野呂雅之，津久井進，山崎栄一，田中正人，他	133-135頁
論文					
沿岸地域における居住者の災害リスク認知と高所移転意向に関する研究　－和歌山県串本町の事例を通して－（査読付）	単著	2012年11月	地域安全学会論文集(地域安全学会) 18		495-502頁
災害復興過程における居住者の移動実態とその背景	単著	2012年12月	神戸山手大学紀要(神戸山手大学) (14)		109-127頁
社会関係の維持を可能にする集落空間再編の条件－南海・東南海地震による激甚被害が想定される沿岸集落の事例研究－	共著	2013年 3月	住宅総合研究財団研究論文集(住総研) 39	◎田中正人，堀田祐三子	143-154頁
南海・東南海地震の激甚被害が想定される沿岸地域の自主的な高所移転の実態とその背景（査読付）	単著	2013年11月	地域安全学会論文集(地域安全学会) 21		251-258頁

再被災リスク下にある集落への居住者の帰還実態とその背景 －台風12号豪雨災害後の十津川村の経験から－（査読付）	単著	2014年11月	地域安全学会論文集(地域安全学会) 24		141-149頁
「災害孤独死」をいかに防ぐか	単著	2015年2月	住宅会議93号（日本住宅会議）		10－11頁
被災リスク下にある歴史的景観地区コミュニティの居住継続意識とその支持要因　和歌山県海南市黒江・船尾地区の事例（査読付）	単著	2015年 6月	日本建築学会計画系論文集(日本建築学会) (711)		1169-1178頁
津波被災リスク下にある歴史的景観地区コミュニティの移転意識の構造に関する研究　－和歌山県海南市黒江・船尾地区の事例－（査読付）	単著	2015年11月	地域安全学会論文集(地域安全学会) 27		129-136頁
その他					
防災・減災のこころえ	-	2012年 6月	新在家まちづくり委員会総会記念講演(新在家地域福祉センター)		
南海・東南海地震の激甚被害が想定される沿岸地域の自主的な高台移転の実態とその背景	-	2012年 9月	日本建築学会大会，東海(名古屋市（名古屋大学）)	田中正人，東川宏樹	
コミュニティと 災害復興公営住宅　～「孤立化」を防ぐ住宅供給～	-	2012年10月	東日本大震災における災害復興公営住宅の実践的手法に関する連続講座(東北大学)		
南海・東南海地震による激甚被害が想定される沿岸地域居住者のコミュニティと高所移転意向　-和歌山県串本町におけるケーススタディ-	-	2012年12月	日本災害復興学会大会2012(福島市)		
相互理解を育む多角的なまちづくり	-	2013年 2月	平成24年度こうべまちづくり学校＜特別講座＞		
まちづくり協議会誕生から まちづくり 協定締結まで	-	2013年 3月	東灘まちづくり協議会連絡会(東灘区総合庁舎)		
ふたたび元の居住地に戻ることはできるのか	-	2013年 5月	荒浜フォーラム　～ふるさと荒浜の里浜を考えよう～(七郷市民センター)		
社会関係の維持を可能にする集落再編の条件	-	2013年 6月	住総研研究選奨記念講演会		
再被災リスク下にある居住地への帰還実態とその背景　－台風12号豪雨災害後の十津川村の経験から－	-	2013年 9月	地域安全学会東日本大震災復興ワークショップ2013(大船渡市)		
再定住地の選択肢を形成するための避難生活プロセスの条件　－台風12号豪雨災害後の十津川村の経験から－	-	2013年10月	日本災害復興学会大会2013(高槻市（関西大学）)		
被災集落における避難プロセスと再定住地の選択肢形成の関係　－台風12 号豪雨災害後の十津川村の事例を通して－	-	2014年 9月	日本建築学会大会，近畿(神戸市（神戸大学）)		
地域の防災福祉コミュニティ会議等でのファシリテーション能力の向上	-	2015年 2月	平成26年度 地域防災事務担当者研修(神戸市役所4号館4階作戦室)		
協働のまちづくり　～対立・納得・共感・合意～	-	2015年 5月	霞ヶ丘まちづくり推進会設立総会記念講演		

阪神・淡路大震災の復興デザイン	–	2015年 6月	(東京大学)		
被災リスク下にある歴史的景観地区コミュニティの移転意向と生活行動実態　ー和歌山県海南市黒江・船尾地区の事例を通してー	–	2015年 9月	日本建築学会大会，関東(神奈川県（東海大学）)		
斜面密集市街地における対症療法的・動態的・即興的アプローチ	–	2016年 1月	兵庫県住環境整備・都市再生等事業推進協議会		
被災リスクと移転リスク	–	2016年 1月	地域再生研究会(関西学院大学)		
景観まちづくり134回のあゆみ	–	2016年 3月	古都に燃える会設立30周年記念講演会(The Sodoh Higashiyama)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1993年～現在に至る	日本建築学会(国内学会)会員
1995年～現在に至る	日本住宅会議(国内その他)会員
2001年 4月～現在に至る	京都市景観・まちづくりセンター 登録専門家
2007年～現在に至る	日本都市計画学会(国内学会)会員
2008年～現在に至る	地域安全学会(国内学会)会員
2008年 4月～現在に至る	神戸市すまい・まちづくり公社（こうべまちづくりセンター）　登録専門家
2011年～現在に至る	日本災害復興学会(国内学会)会員
2011年 9月～2013年 3月	神戸市まちづくり専門委員会 委員
2011年10月～現在に至る	兵庫県　東日本大震災ひょうごまちづくり専門家 登録専門家
2012年 5月～現在に至る	日本災害復興学会(国内学会)学会誌編集委員
2012年 7月～現在に至る	東日本大震災復興・後方支援活動
2015年 4月～現在に至る	日本災害復興学会(国内学会)論文集小委員会委員
2015年 4月～現在に至る	水害フォーラム
2016年 4月 1日～現在に至る	三田市都市計画審議会 委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	教授	泊　吉実	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
わかりやすさを伝える	単著	2013年 8月	新聞研究(日本新聞協会)(2013年8月)		52-53頁
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
なし	

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部	准教授	沼尻　　正之	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
授業における映像メディアの利用法について発表	2014年 3月25日	本学『教育研究所紀要』第32号に「教材としての映画–授業における映像資料の活用をめぐって」を掲載。授業改善の提案を行った。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
「ムスリムと出会う日本社会」、「再現される故郷の祭り」	共著	2012年 6月	三木英・櫻井義秀編『日本に生きる移民たちの宗教生活』（ミネルヴァ書房）	三木英	225-251頁
論文					
情報技術の進歩は社会をどう変えるのか―ビッグデータとゲーミフィケーション的監視の時代	単著	2014年 3月	追手門学院大学社会学部紀要 (8)		43-63頁
教材としての映画―授業における映像資料の活用をめぐって	単著	2014年 3月	追手門学院大学教育研究所紀要 (32)		75-84頁
ハラル・ブームの宗教社会学–宗教的タブーがもたらす異文化理解–	単著	2015年 3月	追手門学院大学社会学部紀要 9		57-74頁
その他					
書評：田野大輔著『愛と欲望のナチズム』	–	2014年 3月	社会学評論(日本社会学会)		
ニューカマー宗教が経験した東日本大震災	–	2015年 3月	科研費報告書「宗教的ニューカマーの研究–日本における外国籍住民の宗教への社会学的アプローチ」		203-214頁
日本メディアのなかの「ハラール」	–	2015年 3月	科研費報告書「宗教的ニューカマーの研究–日本における外国籍住民の宗教への社会学的アプローチ」		44-53頁
昨今国内「ハラール」事情	–	2015年 3月	科研費報告書「宗教的ニューカマーの研究–日本における外国籍住民の宗教への社会学的アプローチ」		27-43頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1992年～現在に至る	関西社会学会(国内学会)会員
1994年～現在に至る	日本社会学会(国内学会)会員
1995年～現在に至る	「宗教と社会」学会(国内学会)会員
1996年～現在に至る	日本スポーツ社会学会(国内学会)会員
2001年～現在に至る	日本教育社会学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	教授	橋本　　裕之	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
critical reading	2000年 4月 ～現在に至る	論文を論理的かつ批判的に読み、その成果を口頭発表や共同討議において提示する。発表者は課題となる論文の構造を読み取り、所定の形式にしたがってハンドアウトを作成し、与えられた時間を厳守して発表を行う。これに対し，コメンテーターが論文の論理的な矛盾点を指摘する。両者の発表を土台として参加者が議論を行う。論理的・批判的な思考や効果的なプレゼンテーションとディスカッションの技術など、学問においてはもちろん、他の領域においても不可欠な能力が訓練される。
芸能を創造する	2000年10月 ～現在に至る	伝統芸能公演の制作、大河ドラマの台本に依拠した芸能考証、新作狂言の創作など、芸能を創造する実験的な授業を断続的に手がけている。パフォーマンスを見るだけでなく創ることによって、パフォーマンスに対する理解を深める。
theoretical thinking	2003年 4月 ～現在に至る	上記(1)に関連して、パフォーマンス・スタディーズのテクスト（Richard Schechner, Performance Studies An Introduction)などを参照しながらディスカッションを行ない、理論的な思考能力を獲得する授業を実施している。ここでも、論理的・批判的な思考や効果的なプレゼンテーションとディスカッションの技術など、学問においてはもちろん、他の領域においても不可欠な能力が訓練される。
3つの柱	2003年10月 ～現在に至る	上記、(1)critical reading、(2)theoretical thinking、(3)data collectionという3つの柱を立てた上で、こうした授業を相互に連関させて実施することによって、学問的な技術・能力を総合的に養う。
data collection	2003年10月 ～現在に至る	上記(1)に関連して、折口信夫・宮沢賢治・石川啄木などのテクストを論理的かつ批判的に読むことによって、テクストを細部に至るまで分析し、入念に資料にあたる授業を実施している。ここでも、論理的・批判的な思考や効果的なプレゼンテーションとディスカッションの技術など、学問においてはもちろん、他の領域においても不可欠な能力が訓練される。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
岩手県沿岸部における無形民俗文化財への支援と今後の課題	共著	2012年 9月	『記憶をつなぐ―津波災害と文化遺産』（国立民族学博物館）	日高真吾　編	122-133頁
岩手県沿岸部の民俗芸能―東日本大震災以前の鵜鳥神楽と釜石虎舞―	共著	2012年 9月	『記憶をつなぐ―津波災害と文化遺産』（国立民族学博物館）	日高真吾　編	44-51頁
日本の民俗研究の活性化のために	共著	2012年11月	『世界の中の柳田国男』（藤原書店）	スコット・シュネル、橋本裕之　著 R・A・モース・赤坂憲雄　編	287－302頁
むすびつなぐ―伝統芸能と復興への軌跡	共著	2013年 3月	（日本財団）	日本財団公益チーム　編	82-83頁
クルーズ客船で被災地観光に出かけて民俗芸能を鑑賞しよう	共著	2013年 3月	『復興ツーリズム：観光学からのメッセージ』（同文館出版）	総合観光学会　編	207-214頁
支援格差を乗り越える―岩手県沿岸部の民俗芸能に関する現状と課題―	共著	2013年 3月	『文化芸術による復興推進に向けて　活動報告集』（文化芸術による復興推進コンソーシアム・社団法人全国公立文化施設協会）	文化芸術による復興推進コンソーシアム・社団法人全国公立文化施設協会　編	88-90頁

獅子頭空洞説、あるいは器としての獅子頭	共著	2013年 3月	『ユーラシアにおける仮頭文化の研究』(立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)プロジェクト研究)	立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)プロジェクト研究(自由プロジェクト研究)「ユーラシアにおける汎文化圏的な世界認知の研究―仮面・仮頭に着目して―」 編	31-39頁
舞台の上の文化―まつり・民俗芸能・博物館	単著	2014年 2月	(追手門学院大学出版会)		
山口昌男の周縁――仕掛けとしての民俗芸能	共著	2014年10月	『山口昌男 人類学的思考の沃野』(東京外国語大学出版会)	真島一郎・川村伸秀編	137-159頁
民俗学事典	共著	2014年12月	(丸善出版)	民俗学事典編集委員会 編	580-581頁
震災と芸能――地域再生の原動力	単著	2015年 3月	(追手門学院大学出版会)		
芸能的思考	単著	2015年 6月	(森話社)		
儀礼と芸能の民俗誌	単著	2015年10月	(岩田書院)		
災害文化の継承と創造	単著	2016年 2月	(臨川書店)		
南部神楽調査報告書	共著	2016年 3月	(一関市教育委員会)	千葉信胤・東資子	
大槌発 未来へのグランドデザインー震災復興と地域の自然・文化ー	共著	2016年 3月	(昭和堂)	谷口真人 編	206－233頁
大船渡市民俗芸能調査報告書ー祈りを舞う、暮らしを踊るー(本編)	共著	2016年 3月	(大船渡市郷土芸能活性化事業実行委員会)	山本玲子・千葉信胤・小向裕明・沼田愛・東資子	
大船渡市民俗芸能調査報告書ー祈りを舞う、暮らしを踊るー(資料編)	共著	2016年 3月	(大船渡市郷土芸能活性化事業実行委員会)	山本玲子・千葉信胤・小向裕明・沼田愛・東資子	
論文					
津浪と芸能―東日本大震災以降の現状と課題―(査読付)	単著	2012年 5月	『演劇学論集 日本演劇学会』(日本演劇学会) (54)		44－57頁
体験を経験に昇華させる方法	単著	2012年 6月	『民博通信』(国立民族学博物館) (No.137)		24-25頁
細く長く続けたい―民俗芸能支援の現在進行形―	単著	2012年 7月	『日本ナショナルトラスト報』 (No.490)		2-4頁
民俗芸能と地域社会――岩手県沿岸部における秘密	単著	2012年 9月	『月刊みんぱく』(国立民族学博物館) 第36巻(第9号)		4-5頁
南部藩壽松院年行司支配太神楽と国立民族学博物館――企画展「記憶をつなぐ―津波災害と文化遺産―」関連イベント「南部藩壽松院年行司太神楽みんぱく公演」に寄せて	単著	2012年10月	『季刊民族学』(財団法人千里文化財団) 第36巻(第4号)		71-84頁
瘤取り爺と田楽法師―宮沢賢治「鹿踊りのはじまり」に及びながら―	単著	2012年12月	『まつり』(まつり同好会) (74号)		67-91頁
動物化する芸能―柳之御所遺跡出土の「鳥獣人物戯画」墨描折敷に関連して―	単著	2013年 8月	『東北文化芸術研究』(東北文化芸術研究所) (創刊号)		13-22頁
東日本大震災以降を展望する―民俗芸能の被災と復興―	単著	2014年10月	生活文化(生活文化研究所) (280)		2-8頁
希望としての文化財―大矢先生の理想を継ぐ―	単著	2015年 4月	季刊民族学(千里文化財団) 第39(第2)		79-81頁
震災から学ぶ伝統芸能の役割と「感謝と祈り」を伝える活動ーみんぱく研究公演「じゃんがら念仏踊り」より	共著	2015年 4月	季刊民族学(千里文化財団) 第39(第2)	遠藤論・日高真吾	68-73頁

協働する共同体へ－民俗芸能を復興する／させる方法の可能性－	単著	2016年 3月	舞踊学(舞踊学会) (38)		106-112頁
無形民俗文化財の社会性－現代社会における民俗芸能の場所－	単著	2016年 3月	追手門学院大学地域創造学部紀要(追手門学院大学地域創造学部) (1)		121-131頁
その他					
From Cultural Properties to Cultural Heritage	-	2012年10月	American Folklore Society(New Orleans)		
Restoration of Communities through Folk Performing Arts: Kagura Performers after the Great Tohoku Earthquake	-	2014年 5月	IUAES 2014 with JASCA(Makuhari Messe)		
On Ritualistic Responses to the Great East Japan Earthquake of 2011	-	2014年 7月	Survivor-Centered Responses to Massive Disasters: Healing through Narrative and Local Knowledge Conference(Bellagio, Italy)		
From Intangible Cultural Properties to Intangible Cultural Heritage: Folk Performing Arts after the Great East Japan earthquake	-	2014年12月	Safeguarding and Representing Traditional Arts as Intangible Cultural Heritage: East Asian and American Perspectives Conference(Honghe University, China)		
Restoration of Communities through Folk Performing Arts: Kagura Performers after the Great Tohoku Earthquake	-	2015年 3月	The 13th Urban Culture Research Forum(Chulalongkorn University, Indonesia)		
被災地域の無形文化遺産のこれから ―『震災と芸能―地域再生の原動力』 以降 を展望する？―	-	2015年 3月	第3回無形文化遺産情報ネットワーク協議会(東京)		
「震災と復興」シンポジウム－研究の現在－	-	2016年 3月	舞踊学(舞踊学会) (38)	懸田弘訓・俵木悟・古井戸秀夫	113-116頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1986年 5月～現在に至る	民俗芸能学会(国内学会)会員
1987年 1月～現在に至る	芸能史研究会(国内学会)会員
1991年 4月～現在に至る	日本民俗学会(国内学会)会員
1992年 4月～現在に至る	日本文化人類学会（旧日本民族学会）(国内学会)会員
1995年 6月～現在に至る	American Folklore Society(国際学会)会員
1996年 2月～現在に至る	Association for Asian Studies(国際学会)会員
1996年 8月～現在に至る	American Anthropological Association(国際学会)会員
2004年 7月～現在に至る	日本民俗学会(国内学会)評議員
2005年 7月～現在に至る	日本演劇学会(国内学会)会員
2009年 4月～現在に至る	民俗芸能学会(国内学会)評議員
2010年 5月～2014年 4月	岩手県文化芸術振興審議会委員
2010年 5月～2014年 4月	岩手県文化財保護審議会委員
2010年11月～2014年 3月	秋保の田植踊民俗文化財調査に係る調査指導委員会（仙台市教育委員会）委員
2012年 2月～現在に至る	二戸市文化財調査委員
2012年 2月～2016年 3月	大阪市特別参与
2012年 2月～2016年 3月	大阪府特別参与
2012年 4月～2014年 3月	一戸町文化財調査専門委員
2012年 4月～2015年 3月	国立民族学博物館共同研究員
2013年 6月	岩手県一戸町第13回神楽公開　小鳥谷七ツ踊りと小友神楽　解説
2013年 7月	7月17日 日本経済新聞 夕刊　東京 橋本裕之教授(社会学部)が企画「7/27　奈奈子祭」
2013年 7月	7月3 毎日新聞　夕刊 橋本裕之教授(社会学部)が企画　「民俗芸能祭見学ツアー」
2013年 8月	8月25日 朝日新聞 東京/岩手 橋本裕之教授(社会学部)が副所長、「東北文化芸術研究所」開所
2013年10月	10月18日 朝日新聞 橋本裕之教授(社会学部)が橋渡し「茨木童子」で新作狂言
2013年11月	11月7日 毎日新聞 橋本裕之教授(社会学部)、「宮本輝の大阪検定Ⅰ」について
2013年12月	明治安田生命　地域文化セミナー　関西無形文化遺産事情
2014年 3月	3月6日　読売新聞　橋本裕之特別教授(地域文化創造機構)が「神楽鑑賞ツアー」を企画

2014年 3月	地域文化創造機構　機関研究　第4回公開フォーラム「『東北記録映画三部作』に向き合う
2014年 3月	茨木神社　鵜鳥神楽　地域づくりフォーラム
2014年 4月	指定文化財目指し南部神楽を本格調査担当に橋本裕之教授
2014年 4月	橋本裕之教授らが南部神楽のひとつ達古神楽を調査
2014年 4月	観客と一体感　布佐神楽躍動　一関で発表　橋本裕之教授がコメント
2014年 5月	書評　追手門学院大学出版会　橋本裕之教授著『舞台の上の文化』
2014年 6月	明治安田生命・関西を考える会発行冊子に橋本裕之教授（地域文化創造機構特別教授・社会学部教授）寄稿
2014年 6月	橋本裕之教授（地域文化創造機構特別教授・社会学部教授）らが調査担当の南部神楽について
2014年 7月	『舞台の上の文化』について、著者の橋本裕之教授（地域文化創造機構特別教授・社会学部教授）コメント
2014年 7月～現在に至る	豊中市文化芸術振興審議会委員
2014年 8月	橋本裕之教授著書で、追手門学院大学出版会発行の書籍『舞台の上の文化』の書評が掲載
2014年 9月	「南部神楽」について、橋本裕之教授が担当する調査に本格的に着手したことが掲載
2014年 9月	おおつちさいがいエフエム（ラジオ）に橋本裕之教授が進行役を務めたワークショップで出演
2014年 9月	南部神楽の継承についての中で本学の橋本裕之教授の取り組みが紹介された
2014年 9月	本学橋本裕之教授が企画した牧澤神楽保存会の上演会開催について掲載
2014年 9月	橋本裕之教授が、東北福祉大講師の千葉信胤氏、庭元の蓬田さんと対談することが掲載
2014年10月	本学の橋本裕之教授（社会学部）が取り組んでいる「南部神楽」の研究発表に関する記事が掲載
2014年11月	「南部神楽」の調査をしている本学の橋本裕之教授（社会学部）に関する記事が掲載
2014年11月	本学の宮本輝ミュージアムでの企画展「宮本輝の大阪検定Ⅱ」に関する記事が橋本裕之教授のコメントとともに掲載
2014年12月	「南部神楽」の調査を担当している本学の橋本裕之教授（社会学部）に関する記事
2014年12月	「南部神楽」の調査を担当している本学の橋本裕之教授（社会学部）に関する記事が掲載
2014年12月	「南部神楽」の調査を担当している本学の橋本裕之教授（社会学部）に関する記事が掲載
2015年 1月	1月24日に国立民族学博物館で本学の橋本裕之教授（社会学部）らが座談会形式で話すことについて掲載
2015年 2月	2月15日に三陸公民館で開催した公開フォーラムで橋本裕之教授（社会学部）が市内における郷土芸能活動の特徴の説明を行なったことを掲載
2015年 2月	橋本裕之教授（社会学部）が2月28日（土）に開催される「中里鶏舞上演会」に関する記事
2015年 2月	橋本裕之教授（社会学部）が神楽の伝承を支援する方策などについて寄稿した文章が掲載
2015年 3月	本学 地域文化創造機構 橋本裕之特別教授が企画した「中里鶏舞上演会」が取上げられ、同教授のコメントが紹介
2015年 3月～2015年 3月	本学の橋本裕之教授が企画した中里鶏舞上演会に関する番組が放送
2015年 3月	橋本裕之教授が「中里鶏舞上演会」を企画・立案し、上演後のシンポジウムでは司会を担当することについて掲載
2015年 5月	普代村まち・ひと・しごと創生推進会議委員
2015年12月	12月7日に開催された「九戸の山伏神楽祭典」で、本学の橋本裕之教授（社会学部）が、神楽についての解説と、「北の山伏神楽」に関する講演を行なった様子が放送されました。
2016年 4月～現在に至る	国際日本文化研究センター共同研究員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	講師	葉山　幹恭	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
PBL型授業（アクティブラーニング）の実施	2013年 4月 ～現在に至る	2013年度：経営学部PBLプログラム 2014年度：経営学部PBLプログラム、マーケティング特殊講義1B/2B、プロジェクト1A/2A 2015年度：経営学部PBLプログラム、マーケティング特殊講義1/2、プロジェクト3H/4H
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
インターンシップ・PBLグランプリでの発表（合同フォーラム「みんなでつくろう、明日の人材」）	2014年 3月10日	2013年度の経営学部PBLプログラムでの取り組みを学生が発表するため、内容と発表の指導（準備）を行った。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
教育のために学部団体と協定を結ぶ	2014年 4月 ～現在に至る	巽製粉株式会社（奈良県桜井市）

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
事業承継入門〈2〉税金・資金と農林水産業の事業承継	共著	2014年 2月	（追手門学院大学出版会）	田淵正信、大庭みどり、水野浩児、小牧義昭、梶原晃	129-146頁
論文					
非大規模農家による多角化戦略の現状　―6次産業推進事業の申請状況にみる企業家精神―	単著	2013年 6月	追手門経営論集		201-223頁
その他					
深化する六次産業化戦略　～生産・加工・販売、それぞれのアプローチ～	-	2015年12月	セミナープログラム／追手門流 強い経営を極める！（大阪（追手門学院大阪梅田サテライト））		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2008年～現在に至る	オーストラリア学会(国内学会)会員
2004年～現在に至る	日本経営倫理学会(国内学会)会員
2005年～現在に至る	日本経営学会(国内学会)会員
2013年～現在に至る	日本農業経営学会(国内学会)会員
2014年 4月～現在に至る	追手門学院大学漕艇部顧問
2014年 4月～現在に至る	追手門学院大手前高等学校（追手門コース）での授業

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	准教授	峯俊　智穂	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
地域に根差した世界遺産「文化的景観」保護のあり方に関する考察―和歌山県田辺市本宮町を事例として―	単著	2014年 3月	政策科学(立命館大学政策科学会) 21(4)		
文化財「記念物」保護の歴史から世界遺産「参詣道」の保護の在り方を探る―和歌山県田辺市本宮町を対象として―	単著	2014年12月	第２９回日本観光研究学会全国大会発表論文集(日本観光研究学会) 29		
文化財「記念物」保護の歴史から世界遺産「参詣道」の保護の在り方を探る―和歌山県田辺市本宮町を対象として―	単著	2015年11月	第30回日本観光研究学会全国大会発表論文集(日本観光研究学会) 30		1-4頁
世界文化遺産の法的保護―熊野参詣道の「歴史の道」事業を手がかりとして整理する―（査読付）	単著	2016年 3月	森下財団紀要(一般財団法人 京都大学名誉教授 森下正明研究記念財団) 1(1)		32-43頁
その他					
地域の食文化からヘリテージ・ツーリズムのあり方を考える：和歌山県田辺市本宮町を事例として	単著	2012年 8月	東北亜観光学会第６回大会(清州大学校（大韓民国忠清北道清州市）)	本発表では、「ヘリテージ・ツーリズム」のあり方について世界文化遺産を取り上げ、地域の食文化の継承に着目して考察を行った。その際、世界遺産地域における保護と活用が循環した持続可能な世界遺産保護システム構築のあり方を探ることを手がかりとしている。 事例には、世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を構成する文化的資産をいくつか有する和歌山県田辺市本宮町を取り上げた。	
世界遺産リストに記載されている道―熊野古道―	単著	2012年10月	平成２４年度四天王寺大学公開講座「道を通して見えてくるもの」（さいかくホール（大阪市））		
世界遺産保護から地域づくりのあり方を考える	単著	2012年11月	はびきの市民大学平成24年度後期講座(LICはびきの（羽曳野市）)		
特産品の活かし方を探る―和歌山県田辺市本宮町における茶栽培者を対象としたライフ・ヒストリー予備調査結果より―	単著	2012年12月	第２７回日本観光研究学会全国大会研究発表会(宮城大学大和キャンパス)		
日本におけるヘリテージツーリズム研究［日本観光研究学会研究分科会 成果報告］	共著	2013年	観光研究(日本観光研究学会) 24(2)	金井萬造、峯俊智穂、宮城博文	55-58頁

人間環境を守るということ―絶滅危惧種へのまなざしから―	単著	2013年 6月	四天王寺大学特別公開講座「生と死と」(LICはびきの（羽曳野市）)		
世界遺産を学んでみよう！	単著	2013年 8月	西京極西児童館456kidsスタークラブ(京都市)		
日本の世界遺産地域における文化遺産保護	単著	2013年 8月	東北亜観光学会第７回大会(大韓民国 全羅北道全州市)		
農業振興からみる世界遺産保護―和歌山県田辺市本宮町における茶栽培を事例として―	単著	2013年11月	日本村落研究学会第６１回大会(福井県越前市)		
世界遺産を学んでみよう！	単著	2014年 8月	京都市西京極西児童館456kidsスタークラブ(京都市)		
中山間地域における世界遺産保護と観光振興との関わり方―和歌山県田辺市本宮町を事例として―	単著	2014年11月	桃山学院大学提供講座「都市型観光とまちづくり」(和泉シティプラザ)		
文化財「記念物」保護の歴史から世界遺産「参詣道」の保護の在り方を探る―和歌山県田辺市本宮町を対象として―	単著	2014年12月	第２９回日本観光研究学会全国大会研究発表会(大阪府立大学I-siteなんば)		
世界遺産を学んでみよう！	単著	2015年 8月	京都市西京極西児童館456kidsスタークラブ(京都市)		
世界遺産の構成資産「熊野参詣道」保護のあり方を考察する一「歴史の道」事業を手がかりとしてー	単著	2015年11月	第88回 旅行ビジネス研究学会(キャンパスプラザ京都)		
文化財「記念物」保護の歴史から世界遺産「参詣道」の保護の在り方を探る―和歌山県田辺市本宮町を対象として―	単著	2015年11月	第30回 日本観光研究学会全国大会研究発表会(高崎経済大学)		
世界文化遺産地域における住民生活と観光動向 ―和歌山県田辺市本宮町に関する統計資料からの考察―	単著	2016年 3月	追手門学院大学 地域創造学部紀要(追手門学院大学 地域創造学部) 1		209-229頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2004年～現在に至る	日本うどん学会(国内学会)会員
2005年 4月～現在に至る	旅行ビジネス研究学会(国内研究会)会員
2005年 4月～現在に至る	日本観光研究学会(国内学会)会員
2006年 4月～現在に至る	東北亜観光学会(国際学会)会員
2007年 4月～現在に至る	立命館大学政策科学会(国内学会)会員
2012年 4月～2015年 5月	日本観光研究学会(国内学会)関西支部幹事
2012年 6月～2014年 6月	特定非営利活動法人 観光力推進ネットワーク・関西　事務局長
2012年11月	ユネスコ・ユースプログラム「第３グループ」コーディネーター
2013年 8月～現在に至る	日本村落研究学会(国内学会)会員
2013年 8月	東北亜観光学会第３回大学生国際発表大会「第４セクション」コメンテーター
2014年 6月～現在に至る	一般財団法人京都大学名誉教授森下正明研究記念財団 主席研究員
2014年 9月	紀伊民報2014年9月23日「女子大生が龍神体験―個人向け旅行プラン企画―」
2014年11月～現在に至る	日本観光ホスピタリティ教育学会(国内学会)会員
2015年 5月	経済地理学会第62回大会ラウンドテーブル「産業観光を楽しむ」コメンテーター
2015年 6月～現在に至る	日本観光ホスピタリティ教育学会(国内学会)幹事
2015年11月	紀伊民報2015年11月1日「田辺の魅力を現地調査―連携協定 追手門学院大学生20人―」
2016年 1月	紀伊民報2016年1月1日「学生を魅了する聖地『熊野』―本宮町の世界遺産地舞台に―」
2016年 2月	日本観光ホスピタリティ教育学会 2015年度全国大会 実行委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	教授	安村　克己	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
課題による予習の徹底	2001年 4月 1日 ～現在に至る	教科書を指定し、学生は次回の授業までにその関連範囲の要約を課される。この課題は、学期中にほぼ毎回連続してなされ、提出された要約は毎回採点され、採点結果が成績に反映される。（成績の採点は、平常点10%、課題30%、試験60%）
講義スケジュールの開示とその理解の徹底	2001年 4月 1日 ～現在に至る	講義形式の授業では、各授業開始時のガイダンスで、講義要項とは別に、それよりも詳細な各授業概要を記したスケジュール表を学生に配布し、学生が講義全体の道筋を把握して、各講義の内容を理解しやすいようにしている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
生活空間再生論における人間社会の成立の根本的要件	単著	2012年 6月	地域創造学研究　（奈良県立大学） (XVI)		1-27頁
「山村」再生の実践に関する生活空間再生論の新たな視座	単著	2012年 9月	地域創造学研究　（奈良県立大学） (XVII)		1-34頁
観光学が実践の学として成立する可能性について（査読付）	単著	2013年 3月	観光学評論　（観光学術学会） 1(1)		35-50頁
ある山村におけるムラ社会の実態（前半）――限界集落zムラを事例として――	単著	2016年 3月	追手門学院大学地域創造学部紀要 (1)		133-157頁
その他					
実践の学としての観光学をめざして	–	2012年 7月	観光学術学会第一回全国大会シンポジウム(和歌山大学)		
実践の学としての観光学をめざして	–	2012年 7月	観光学術学会 第１回大会 観光学の確立に向けて(和歌山大学)		
まちづくりのホスピタリティ戦略、再考	–	2014年 7月	追手門学院大学 地域文化創造セミナー(茨木)		
観光が築く持続可能な社会	–	2014年 7月	第一回シェアラボ 「動く」（追手門学院大学）		
観光が築く持続可能な成熟社会	–	2014年11月	大阪府公開講座フェスタ2014(大阪府新別館南館（大阪市中央区大手前）)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1979年 6月～現在に至る	日本社会学会(国内学会)会員
2006年 7月～現在に至る	日本NPO学会(国内学会)会員
2007年 2月 1日～2014年 3月31日	奈良市中心市街地活性化協議会 委員
2012年 2月～現在に至る	観光学術学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	教授	山本　　博史	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
ICT等を活用した授業方法	1998年 6月16日 ～現在に至る	授業内容及び参考文献のWEB上での公開 グループディスカッションの活用
学修記録（ポートフォリオ）の活用	2016年 4月 1日 ～現在に至る	講義科目については、授業終了時に毎回コメントシートを記載させ、学期末に学修記録（ポートフォリオ）として学生一人ひとりに返却し、学修記録をもとに振り返りをするように促している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
原稿発表：「地域創造学部」の挑戦	2015年 9月	日本私大連盟の『大学時報』第364号に 「地域創造学部」の挑戦 というタイトルで原稿発表
講演：「地域創造学部の取り組み」	2015年 9月 3日	私立大学情報教育協会主催：教育改革ICT戦略大会 分科会テーマ：地域社会での活躍を目指したアクティブ・ラーニングによる人材育成 「地域創造学部の取り組み」というタイトルで発表
4　その他教育活動上特記すべき事項		
学部学生データベースの作成と活用	2015年 4月 1日 ～現在に至る	学部学生の学籍情報、入試種別情報、単位取得状況、GPA情報などをデータベース化して、学部学生の修学指導に活用している。データベースは暗号化するとともに非公開としている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
上町学を創造する　よみがえる古都おおさか	共著	2015年 3月	(追手門学院大学出版会)	上町学プロジェクト　編集	1-14頁（単独）、195-236頁（座談会につき頁数抽出不可）
論文					
「陸前高田うごく七夕まつり・川原祭組」支援プロジェクトと学生の学び	単著	2014年 3月	追手門学院大学教育研究所紀要(追手門学院大学教育研究所) (第32号)		91-97頁
その他					
写真でウォーク上町台地	-	2012年 5月			
上町台地と教育	-	2012年 6月			
男女共同参画社会について	-	2012年 6月			
上町台地の歴史(物語)と現代	-	2012年 7月			
男女共同参画社会について　学校の果たすべき役割とは？	-	2012年 7月			
万葉集の住吉	-	2013年 5月			
空堀の昔と今	-	2013年 6月			
古都の未来	-	2013年 7月			
食を通して現代社会を考える	-	2013年 7月			
大学の地域連携の取り組み	-	2013年 9月			
地域と大学（大学の地域戦略を知る）	-	2013年11月			
現代日本の食事情（1）	-	2014年 4月	(大阪府羽曳野市)		
食の哲学	-	2014年 4月	(大阪府羽曳野市)		
現代日本の食事情（2）	-	2014年 5月			
食と絵画／映画	-	2014年 6月	(大阪府羽曳野市)		
文学の中の食	-	2014年 7月	(大阪府羽曳野市)		
食の倫理学	-	2014年 7月	(大阪府羽曳野市)		
シニアの地域連携	-	2014年 9月			
大学の地域戦略	-	2014年11月			
現代人の食意識	-	2015年 2月			
「地域創造学部」の挑戦	-	2015年 9月	大学時報(日本私大連盟) (364)		118-123頁

地域社会での活躍を目指したアクティブ・ラーニングによる人材育成　地域創造学部の取り組み	-	2015年 9月	教育改革ICT戦略大会(東京)		
大学の地域戦略	-	2015年11月			
地域と大学	-	2015年12月	茨木シニアカレッジ		
近松門左衛門と北摂（対談）	-	2016年 2月			

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1979年 6月～現在に至る	日本カント協会(国内学会)会員
1982年10月～現在に至る	日本哲学会(国内学会)会員
2003年 2月～現在に至る	池田市男女共同参画審議会委員（現在、副会長）
2006年 2月～現在に至る	門真市男女共同参画審議会会長
2006年 4月～現在に至る	池田市緑化推進委員会委員
2012年 6月	門真市男女共同参画研究講座にて講演　「男女共同参画社会について」
2012年 7月	門真市男女平等教育研修会にて講演「男女共同参画社会について 学校の果たすべき役割とは？」
2012年 9月～現在に至る	茨木市観光協会広報誌「いばらきのぉと」編集委員
2013年 1月	UStream　北摂王国　放送出演　地域連携
2013年 2月	茨木市観光協会　「いばらきのおと」　取材を受けた。　学生とともに編集に携わった模様を紹介された
2013年 4月～現在に至る	茨木市住みよいまちづくり協議会理事
2013年 4月～現在に至る	茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会委員
2013年 5月	はびきの市民大学　　上町学1　万葉集の住吉
2013年 6月	はびきの市民大学　上町学2　空堀の昔と今
2013年 6月～2014年12月	茨木市男女共生センターローズWAM授業運営協議会委員
2013年 7月	はびきの市民大学　上町学3　古都の未来
2013年 7月	大阪日日新聞より、地域連携、「連携考房　童子」について取材をうけた
2013年 7月	茨木シニアカレッジ　食を通して現代社会を考える
2013年 7月～2013年 9月	茨木商工会議所「茨木市活性化委員会」委員長
2013年 9月	茨木シニアカレッジ　大学の地域連携の取り組み
2013年11月	大阪府北部コミュニティカレッジ　「地域と大学（大学の地域戦略を知る）」
2014年 4月	はびきの市民大学　第1回「食の哲学　食べるとはどういうことか」
2014年 4月	はびきの市民大学　第2回「現代日本の食事情（１）」
2014年 5月	はびきの市民大学　第3回「現代日本の食事情（２）」
2014年 6月	はびきの市民大学　第10回「食と絵画／映画」
2014年 7月	はびきの市民大学　第11回「文学の中の食」
2014年 7月	はびきの市民大学　第12回「食の倫理学　何を食べてはいけないか」
2014年 9月	池田市「オーブ池田賞」選考委員
2014年 9月	茨木シニアカレッジ　「シニアのための地域連携」
2014年11月	茨木シニアカレッジ　「地域と大学　大学の地域戦略を知る」
2015年 1月	FM OSAKAの番組「おとなの文化村」にゲスト出演
2015年 2月	大阪府北部コミュニティカレッジ　「現代人の食意識 ―食の哲学・社会学」
2015年 4月～現在に至る	茨木市中心市街地活性化推進委員
2015年 5月	京丹波町ケーブルテレビのニュース番組「京丹波ウィークリー」で、京都府立須知高等学校での特別講義の様子が放映される
2015年 7月～現在に至る	茨木市中心市街地活性化協議会委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
地域創造学部地域創造学科	教授	善積　　京子	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
茨木市立男女共生センターローズWAMとの連携企画の授業	2014年11月27日 ～2014年12月11日	「人間学演習２」の科目において、茨木市立男女共生センターローズWAMと連携し、「大学生と学ぶ恋愛事情-これってＤＶ？」の題目で市民参加の公開授業を行った。第1回目（11月24日）はデートDV朗読劇の鑑賞、第２回目（12月4日）は善積が「デートＤＶにみる恋愛観」の講義を男女共生センターのワムホールで行い、第３回目（12月１１日）はローズWAMを拠点にデートDV防止活動に携わる市民グループの方が、追手門学院大学での「人間学演習２」の授業に参加し、中学生用に制作中のデートDV劇を披露し、受講している大学生とその作品について意見をだしあった。受講生は市民の方とデートDVについていろいろと意見を交換することで、非常な刺激を受け、デートDV に関する関心が高まり、良い成果を 収めた。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
離別と共同養育-スウェーデンの養育訴訟にみる「子どもの最善」	単著	2013年 2月	(世界思想社)		
Work-Life Balance in Japan: New Policies, Old Practices	共著	2013年10月	Worklife Balance: The Agency and Capabilities Gap(Oxford University Press)	Takahashi,Mieko, Saori Kamano, Tomoko Matsuda, Setsuko Onode	92-125頁
論文					
スウェーデンの家族変容と家族政策についての研究―養育訴訟における「子どもの最善」を焦点にして（査読付）	単著	2012年 6月	博士学位論文：大阪市立大学・大学院生活科学研究科		
スウェーデンの養育訴訟―「子どもの最善の利益」をめぐる父母の攻防（査読付）	単著	2012年 6月	ソシオロジ(174)		3-20頁
共働き家庭の父親のワーク・ライフ・バランス：三領域の潜在能力を焦点にして	単著	2014年 3月	追手門学院大学社会学部紀要(追手門学院大学社会学部)（８）		７７頁
国境を越えた子の連れ去りに関する実施法　－　日本とスウェーデン	単著	2015年 3月	追手門学院大学社会学部紀要(追手門学院大学)9		
その他					
「 スウェーデンの養育訴訟　－　＜子どもの最善＞と＜ジェンダー公平性＞からの考察」	-	2012年10月	日本法社会学会関西研究会支部(同志社大学今出川キャンパス)		
「家族問題は今」	-	2012年11月	メンズカウンセリング協会(ひと・まち　交流館京都)		
離婚後の親子引き離し：スウェーデン養育訴訟からみた日本の現状と今後	-	2012年11月	高槻ジェンダー研究ネットワーク(高槻市立総合市民交流センター)		
スウェーデンの養育訴訟：＜子どもの最善＞と＜ジェンダー公平性＞からの考察	-	2013年 5月	共同養育講演会(東京弁護士会)		

共働き家庭の父親のワーク・ファミリー・バランスー：三領域のケイパビリティを焦点にして	-	2013年10月	日本社会学会大会(慶応大学)	斧出節子・高橋美恵子・釜野さおり・松田智子	
スウェーデンの家族政策：離婚後の共同養育を中心に	-	2013年11月	政策形成に携わる職員支援研究会(厚生労働省会議室)		
書評に応えて	-	2014年 2月	ソシオロジ(社会学研究会) ５８(３)		
Balancing Work and-Family: Do Japanese Fathers Take Advantage of Policies?	-	2014年 7月	XVIII ISA World Congress of Sociology(yokohama)	Tomoko Matsuda, Mieko Takahashi, Setsuko Onode,	
Work Family Balance of Japanese Men in the Era of Globalization: Do their attitudes and practices change by working in EU countries?	-	2014年 7月	XVIII ISA World Congress of Sociology(yokohama)	Mieko Takahashi, Setsuko Onode, Tomoko Matsuda	
デートＤＶにみる恋愛観	-	2014年12月	(茨木市立男女共生センターローズＷＡＭ)		
多様な生き方ができる社会へ：結婚から考える	-	2014年12月	いこうらむカレッジ(東大阪市立男女共同参画センター・イコーラム)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1975年 4月～現在に至る	日本社会学会(国内学会)会員
1975年 4月～現在に至る	関西社会学会(国内学会)会員
1980年 4月～現在に至る	日本女性学会(国内学会)会員
1991年 4月～現在に至る	日本家族社会学会(国内学会)会員
2006年 4月～2014年 9月	放送大学客員教授として科目「現代世界の結婚と家族」を担当する。社会人に対して教育・指導。
2013年 5月	共同養育講演会・実行委員会主催の『共同監護と面会交流：アメリカ、そしてスウェーデン』において、講師を依頼され「スウェーデンの養育訴訟：＜子どもの最善＞と＜ジェンダー公平性＞からの考察」の題目で講演する。
2013年 8月 1日～現在に至る	日本学術振興会　国際事業委員会 書面審査員
2013年 8月 1日～現在に至る	日本学術振興会　特別研究員等審査会 専門委員
2013年 9月～現在に至る	日本家族社会学会(国内学会)会長
2013年11月	国立社会保障・人口問題研究所主催『政策形成に携わる職員支援研究会において、「スウェーデンの家族政策：離婚後の共同養育を中心に」の題目で講演する。
2013年11月～2013年12月	茨木市・茨木市立男女共同センターローズWAMと『大学生と学ぶ恋愛事情　―　これってデートDV？』を連携企画、講 義。
2014年 4月	朝日新聞「家族崩れず増えた：婚外子差別撤廃40年フランスを訪ねて」の記事に、家族社会学の専門家としてコメントが掲載される。
2014年11月～2014年12月	茨木市・茨木市立男女共同センターローズWAMと『大学生と学ぶ恋愛事情　―　これってデートDV？』を連携企画、講 義
2014年12月 1日～2015年11月30日	日本学術振興会・科学研究費委員会 専門委員
2015年 1月～現在に至る	茨木市男女共生センターローズＷＡＭ事業運営協議会の委員

社会学部

＜社会学科＞

上石　圭一　(131)
足立　重和　(135)
蘭　由岐子　(136)
上田　滋夢　(140)
内海　博文　(142)
小畑　力人　(145)
柏原　全孝　(147)
加藤　源太郎　(148)
木村　英樹　(149)
栗山　直子　(150)
佐々木　英一　(152)
城野　充　(153)
高垣　伸博　(154)
富田　大介　(155)
福本　賢太　(158)
藤吉　圭二　(160)
古川　隆司　(161)
三上　剛史　(165)
森　真一　(166)
横田　修　(167)

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	教授	上石　　圭一	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
連携大学（北京師範大学珠海分校）での学生による日本紹介とその後の討論および同学の附属学校での学生による日本紹介授業、北京聯合大学での学生間交流	2008年 4月 1日 ～2012年 3月31日	「比較制度論」（上石担当）ほか計3つの授業の連携で実施。学生を指導して日本紹介のビデオまたはパワーポイントを作らせた上で、秋に訪中し、連携大学（北京師範大学珠海分校教育学院）で学生に報告・討論させる（通訳も学生が担当）。また、新潟大学附属学校教員の協力を得ながら学生に日本紹介の授業案を作成させ、訪中の際に、北京師範大学附属学校で実際に授業を行わせる。また、北京では、北京聯合大学国際交流学院等において、学生間交流をさせた（平成20年度に国際共同・連携GP採択；平成19年度以降、新潟大学学長裁量教育プロジェクトに採択）。
演習（ゼミ）における共通教材と担当者会議による教員の集団的力量の向上	2013年 4月 1日 ～現在に至る	2013年度より、１年生演習において、担当者会議を開いて、予め共通教材を作成・検討するなどの打合せをした上で授業に臨み、終了後は、再び担当者会議を開いて、各クラスの様子や問題点、工夫などを出しあって授業の方法を集団的に検討している。またこの会議には、職員や担当外の教員も参加している。また2013年度講義は、担当外の教員1名が授業に参加するなど、教職協働で学生指導にあたった。2015年度からは、同様の手法を2年生の演習（基礎演習１・２）にも適用している。
講義科目への当日ブリーフレポート&LMSによる返却の導入（採点、コメントを付したうえで返却）	2014年 4月 ～現在に至る	2014年度前期より、日本国憲法の授業において、最初に具体的な事例をもとにした課題を出し、それに対する考えを書かせた上で、講義を行い、その講義をもとに授業の最後に最終的なレポートを書かせ、それを回収の上、採点してコメントを附して翌週返却する「当日ブリーフレポート方式」を用いた。秋学期からは、ルーブリックに基づいて採点し、LMSによる数日内の返却も実施。これにより、学生が予習をしてくるようになったほか（2014年度前期の調査では、何らかの予習をしてくる者3割強）、学生が身を入れて授業を聴くようになり、私語も激減した。2015年度以降は、他の講義科目（「社会問題論」）にも同手法を取り入れ、実施。
ルーブリックの作成・公表とそれに基づく評価	2014年 9月 ～現在に至る	2014年度秋学期、「日本国憲法」について、ルーブリックを受講生に公表するとともに、授業中に課した小レポート、定期テストは、このルーブリックに即して採点した。小レポートについては、１週間以内にＬＭＳにて返却するとともに、翌週の授業で現物を返却。これによって、学生が真面目に準備学習をするようになるとともに、採点に対する信頼感が高まった。同様の手法は、「表現演習」（2015年度からは「コミュニケーション演習」）において、受講生にスピーチをさせる際にも導入。2015年度からは、「社会問題論」を始めとする担当の全講義科目にルーブリックを導入している。
授業へのTBL（Team Based Learning）の導入	2014年 9月 1日 ～現在に至る	2014年度秋学期は、「日本国憲法D」において、アクティブ・ラーニングの手法の一つであるTeam Based Learning（TBL）を導入した。これによって、個人準備確認テストおよびグループ準備確認テストのために、受講生が予習をする割合が高くなった。2015年度は、2014年度の結果をもとに、基盤科目の「日本国憲法」２クラスと、専門科目の「社会問題論」でTBLを実施した。
１年生ゼミへのポートフォリオの導入	2015年 5月 ～現在に至る	1年生ゼミ(新入生演習・コミュニケーション演習）において、ゼミ生にポートフォリオを毎週作成・提出させ、「年間目標」とそれに基づいた「今半期の目標」「今月の目標」、また「一週間の行動履歴」を記載させた、翌週にコメントを附して返却（コピーは教員が保存）。また、秋学期冒頭には、成績を返却し、春学期の反省と秋書きの目標、今月の目標を書かせた。こうすることで、学生に計画を立てて目標を達成するために活動することを学ばせるとととともに、一連の資料を学生指導の資料とした。
2　作成した教科書、教材、参考書		
基礎演習に使用するテキストの作成	2014年 9月 ～2015年 3月	基礎演習において、共通テキストとして使用する教材を作成した。
木佐茂男・宮澤節生・佐藤鉄男・川嶋四郎・水谷規男・上石圭一『テキストブック現代司法　第６版』（日本評論社、2015年）	2015年 3月	現代司法の現状と課題を明らかにするテキストを作成した。ほとんど全面改訂であった。担当箇所は「１章１　紛争は誰でも経験する」「2章４　民事事件における日本人の方行動と法意識」「３章１　司法権の位置づけと仕組み」「４章１　日本の法律家」「４章３　裁判官」「6章３　司法への関心を持とう―司法は専門家だけのものではない」「現代司法年表」
宮澤節生・武蔵勝宏・上石圭一・大塚浩『ブリッジブック法システム入門　第3版』（信山社、2015年）	2015年 4月	法社会学の観点からの、日本の法システムについての入門的教科書の全面改定版。担当は「Unit3　市民にとっての地方自治とは」「Uit4　法曹とはどういう職業なのか」「Unit5　弁護士はどういう活動をしているのか」「Unit6　法務サービスと多種多様な法律家」「Unit12　民事訴訟の構造と動態」
新入生演習・コミュニケーション演習で使用する副教材の作成	2015年 4月 2日 ～現在に至る	社会学部の「新入生演習」、「コミュニケーション演習」で用いる教科書以外の共通教材について、毎回、小畑教授とともに作成した。
基礎演習テキストの抜本的見直し	2016年 1月 5日 ～2016年 3月31日	基礎演習で使用する共通テキストにつき、今年度の反省を行って学生の反応や理解が思わしくなかった者を差し替えるとともに、16年度から始まる新プログラムに関連する文献を追加するなど、抜本的に見直した。

阿部昌樹・和田仁孝編『新入生のためのリーガル・トピック５０』（法律文化社、2016年）	2016年 3月25日	時事的なトピックからの法学入門書。「Topic47　Mikado（みかど）のおことば：天皇の不自由」（138~139頁）を執筆。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
大学教育改革フォーラム in 東海2015のポスターセッションでの発表	2015年 3月 7日	名古屋大学で開催された大学教育改革フォーラムin東海2014にて、教職協働で実施したIRに関する自主研究会の成果の報告についてポスターセッションで報告を行った。 報告タイトル「追大発、教職協働事例報告　自主研究活動による分析手法の向上及び教学支援の試み」
４　その他教育活動上特記すべき事項		
平成23年度新潟大学学長裁量教育プロジェクト「多文化共生マインド具現化プロジェクト（２）」採択	2011年 4月 1日 ～2012年 3月31日	学生を指導して、環境問題、東日本大震災について調査させた上で、学生を引率して訪中し、北京師範大学珠海分校で、学生に発表させた後、両学の学生間で討論を行わせたり、北京師範大学附属南奥小学校で日本紹介の授業をさせた。この一連の過程により、学生の中国の社会文化制度への関心、語学学習への関心を高めることができた。2012年2月には北京師範大学教員を招聘して集中講義を実施した。成果は『2011年度学習社会ネットワーク課程国際交流授業報告書』にまとめられた。
教学IRデータの分析による学生指導改革	2013年12月 1日 ～現在に至る	IRコンソーシアム調査データ、民間業者の学生能力調査データ、学生の成績データを分析することを通して、「新入生演習」の指導の効果を確認したり、教務課社会学部担当職員と協働で、学生の成績のデータを分析し、留年・退学に繋がるおそれの高い学生を早期段階で予測し、重点的な指導に繋げている。
授業コンサルテーションの実施とそれに基づく授業改善	2014年 4月 1日 ～現在に至る	2014年度より毎学期、多人数受講の講義科目のほぼすべてで、教育開発センターの教員による授業コンサルテーションを実施（14年度前期・後期・15年度前期　「日本国憲法」、15年度前期「社会問題論」）。これにより学生から上がった意見を授業運営にフィードバックしている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『テキストブック現代司法　第6版』	共著	2015年 3月	(日本評論社)	木佐茂男・宮澤節生・佐藤鉄男・川嶋四郎・水谷規男・上石圭一	7-9, 53-65, 105-121, 167-174, 185-195, 286-297, 318-333頁
Setsuo Miyazawa, Hiroshi Fukurai, Kay-Wah Chan, & Mathias Vanhllebusch eds., *East Asia's Renewed Respect for the Rule of Law in the 21st Century: The Future of Legal and Judicial Landscape in East Asia*	共著	2015年 4月	(Brill Nijhoff)	◎Setsuo Miyazawa, Atsushi Bushimata, Keiichi Ageishi, Akira Fujimjoto, Rikiya Kuboyama, Kyoko Ishida	31-46頁
『ブリッジブック法システム入門　第3版』	共著	2015年 4月	(信山社)	宮澤節生, 武蔵勝宏, 上石圭一, 大塚浩	48-61, 64-79, 80-99, 100-110, 206-224頁
阿部昌樹・和田仁孝編『新入生のためのリーガル・トピック50』（法律文化社、2016年）	共著	2016年 3月	(法律文化社)	阿部昌樹・和田仁孝編	138-139頁
『高校から大学への法学　第２版』	共著	2016年 4月	(法律文化社)	君塚正臣編	1-14頁
論文					
「第62期弁護士の教育背景、業務環境、専門分化、満足感、及び不安感－第1回郵送調査第2報」	共著	2013年 3月	青山法務研究論集（６）	宮澤節生・藤本亮・久保山力也・武士俣敦・上石圭一・石田京子	35～235頁
「東京都内の司法過疎の実態について－小笠原を中心に」	共著	2013年 5月	小笠原研究年報 (36)	酒井享平・山上博信・上石圭一	35～55頁
「第62期弁護士第2回郵送調査第1報－調査の概要と記述統計」	共著	2014年 9月	青山法務研究論集 (9)	宮澤節生, 石田京子, 藤本亮, 武士俣敦, 上石圭一	67-137頁
第62期弁護士第2回郵送調査第2報：二変量解析から多変量解析へ	共著	2015年 3月	青山法務研究論集 10	宮澤節生, 藤本亮, 石田京子, 武士俣敦, 上石圭一	39-175頁
第62期弁護士の面接調査―第1報	共著	2016年 3月	青山法務研究論集 (11)	宮澤節生・石田京子・藤本亮・武士俣敦・上石圭一	61-165頁
その他					

「62期弁護士の収入と満足度」　（ミニシンポジウム・第62期弁護士のキャリアパス－2011年調査第1回ミニシンポ）	－	2012年 5月	日本法社会学会(京都女子大学)	宮澤節生，藤本亮，武士俣敦，久保山力也，上石圭一，石田京子	
「ゲーミング法教育の思想と行動」	－	2012年 5月	日本法社会学会(京都女子大学)	久保山力也、井門正美、荒川歩、松尾正博、松尾真悟、ユン・イルジュン、上石圭一	
「人権としての平和を考える」	－	2012年 6月	追手門学院大学　人権研修会等諸案内(36)		3頁
「釜ヶ崎と現代社会」	－	2012年11月	追手門学院大学　人権研修会等諸案内(37)		3頁
「2012年学界回顧　法社会学」	－	2012年12月	法律時報(日本評論社)84(13)		268～275頁
「社会的マイノリティと人権問題」	－	2012年12月	追手門学院大学人権啓発委員会誌　愛語(追手門学院大学)（１５）		１頁
Income, Job Satisfaction, and Concern for the Future	－	2013年 3月	the 3rd. East Asian Law and Society Conference(Shanghai Jiaotung University (Shanghai, China))		
「みんなちがって、みんないい」	－	2013年 3月	追大人権ビエンナーレ(追手門学院大学人権啓発委員会)(4)		3-5頁
「「ちょっとくらい」は大丈夫？」	－	2013年 4月	BRIDGE(追手門学院大学)(2)		17頁
Income, Job Satisfaction, and Concern for the Future	－	2013年 5月	Law & Society Association, Annual Meeting(Boston Sheraton Hotel, Boston, MA, US)		
「第62期弁護士の収入、満足感、不安感（ミニシンポジウム「第62期弁護士にキャリア・パス：2011年調査第2回ミニシンポ」）」	－	2013年 5月	日本法社会学会(青山学院大学)	宮澤節生、石田京子、久保山力也、藤本亮、武士俣敦、上石圭二	
Determinants of Career Trajectories of New Attorneys in Japan (3) How Much Do They Earn? Are They Satisfied? What Are Their Concerns? How Do Law Schools and Gender Matter?	－	2014年 5月	Law & Society Association Annual Meeting(Minneapolis Hilton Hotel & St. Thoms University, Minneapolis, Minnesota, US.)		
所得、満足度、および不安感の変化	－	2014年 5月	日本法社会学会学術大会(大阪大学)		
Income, Satisfaction, and Concern of New Lawyers in Japan	－	2015年 3月	International Symposium ”Longitudinal Studies on Lawyers’ Careers in East Asia”（青山学院大学)		
Income, Satisfaction, and Concerns of New Attorneys in Japan: How Do Educational Background and Gender Matter?	－	2015年 5月	Law and Society Association, Annual Meeting(The Westin Seattle, Seattle, WA, US)		
新人弁護士の所得、満足感、不安感	－	2015年 5月	日本法社会学会学術大会(首都大学東京)		
Income, Job Satisfaction, and the Concrern for the Future	－	2015年 8月	the 4th East Asian Law & Society Conference(Waseda University, Tokyo, Japan)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1990年 5月～現在に至る	日本法社会学会(国内学会)会員

3693

1991年 6月～現在に至る	日本犯罪社会学会(国内学会)会員
1999年 5月～現在に至る	警察政策学会(国内学会)会員
1999年10月～現在に至る	日本法社会学会(国内学会)関東研究支部運営委員
2000年10月～現在に至る	日本社会学会(国内学会)会員
2012年12月～現在に至る	The Law & Society Association(国際学会)会員
2015年 4月～現在に至る	「夢ナビ」にて、「法社会学」とは何かについて紹介
2015年 8月～現在に至る	The East Asia Law & Society Association(国際学会)会員
2015年 8月 1日～現在に至る	茨木市地域福祉推進審議会 委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	教授	足立　　重和	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
社会探偵学演習A 調査報告書	2014年 3月28日 ～2014年 3月28日	2013年度「社会探偵学演習A」を受講した学生には、「身近な集団や組織のエスノグラフィーを記述せよ」という課題のもと、約4000字程度のレポートを課した。本報告書は、その学生たちによる参与観察にもとづく調査レポート集である。
社会探偵学演習調査報告書（増補版）	2014年12月17日 ～2014年12月17日	2013年度「社会探偵学演習A」を受講した学生には、「身近な集団や組織のエスノグラフィーを記述せよ」という課題のもと、約4000字程度のレポートを課した。本報告書は、既に刊行した『社会探偵学演習A調査報告書』以後に提出した学生のレポート集をも盛り込んだ調査レポートの増補版である。
2014年度　卒論演習1・2A　卒業論文集	2015年 3月18日 ～2015年 3月18日	本書は、2014年度「卒論演習1・2A」（足立ゼミナール）に所属する4年生6名による卒業論文集である。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
語りが拓く地平―ライフストーリーの新展開	共著	2013年10月	(せりか書房)	山田富秋,好井裕明	61-77頁
論文					
郡上おどりの継承を考える	単著	2015年 3月	追手門学院大学社会学部紀要(追手門学院大学社会学部)(9)		141-153頁
その他					
語りとリアリティ研究の可能性―社会学と民俗学の接点から	-	2012年 5月	現代民俗学会(東京)		
郡上八幡　伝統を生きる―地域社会の語りとリアリティ	-	2012年 6月	まるはち人類学研究会第12回研究会(愛知県名古屋市)		
郡上おどりの継承を考える	-	2012年 8月	名古屋政経社研究会(愛知県名古屋市)		
「ソーシャルキャピタル」の事例と研究動向	-	2013年 7月	「人口減少社会における持続可能な地域モデルの構築に関する研究」プロジェクト(京都府京都市)		
書評・坂田勝彦著『ハンセン病者の生活史―隔離経験を生きるということ』	-	2013年 9月	社会学評論(日本社会学会・有斐閣)64(2)		315-316頁
同級生による頼母子講の相互扶助―岐阜県郡上市八幡町の事例から	-	2015年11月	日本村落研究学会(岐阜県郡上市和良町)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1992年～現在に至る	社会学研究会(国内研究会)同人
1992年10月～現在に至る	環境社会学会(国内学会)会員
1993年 5月～現在に至る	関西社会学会(国内学会)会員
1994年 7月～現在に至る	日本社会学会(国内学会)会員
2007年 9月～2013年 8月	関西社会学会(国内学会)『フォーラム現代社会学』専門委員
2011年10月～現在に至る	日本村落研究学会(国内学会)会員
2013年 3月～2015年 9月	日本社会学会(国内学会)『社会学評論』専門委員
2013年 6月～現在に至る	日本文化人類学会(国内学会)会員
2013年 6月～現在に至る	環境社会学会(国内学会)研究活動委員
2013年 6月～現在に至る	環境社会学会(国内学会)理事
2013年 8月	郡上おどりの継承を考える　（名古屋市）
2014年 1月～現在に至る	日本民俗学会(国内学会)会員
2014年 1月～現在に至る	社会学研究会(国内研究会)『ソシオロジ』編集委員
2015年 6月～現在に至る	環境社会学会(国内学会)研究活動委員長

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	教授	蘭　　由岐子	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
対話的授業の実践	1994年 4月 1日 ～現在に至る	担当授業において、コミュニケーションペーパーを適宜配布し、個別の疑問点、つぶやき、感想等を聴取し、次回の授業や関連箇所で積極的にとりあげ、学生と積極的に対話するようにつとめている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
日本財団学生ボランティアセンター寄付講座開講	2013年 4月 1日 ～現在に至る	一般社団法人日本財団学生ボランティアセンターの寄付講座として学部専門科目「人間学演習１」を開講している。テーマは「ハンセン病者の人生から学ぶ」である。ゲスト講師の選択および講義の依頼は、すべて蘭がおこない、当事者はじめ、社会学、歴史学、教育学におけるハンセン病問題研究の第一人者たちの講義を学生たちが受講できるようにしている。蘭のこれまでの研究活動の実績ゆえに可能になった寄付講座である。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ハンセン病　日本と世界―病い・差別・いきる	共著	2016年 1月	(工作舎)	ハンセン病フォーラム編　川本聖哉、サヘル・ローズ、山下道輔、黒崎彰、平沢保治、ドリアン助川、佐藤健太、蘭由岐子、加賀乙彦、廣川和花、谷岡聖史、武田徹、村上陽一郎ほか	110-119頁
論文					
日本赤十字血漿分画センター前史概略―北海道における血液事業の文脈から―	単著	2013年 3月	『「血液の安全性」の社会学的研究―「薬害HIV]の多声的記述』(平成22～24年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書)		47-54頁
Living with Ambivalence : The Experiences o japanese Hansen's Disease Survivors and their Families in the Era of Reconciliation（査読付）	単著	2013年 9月	The 18th International Leprosy Congress Presentations and Photos(International Leprosy Association)		136-136頁
ハンセン病者の医療ケアにおける困難をめぐって	単著	2013年10月	現代の社会病理(日本社会病理学会)(28)		21-39頁

ハンセン病問題の研究のあらたな地平へ―社会学における研究実践について	単著	2014年 9月	ハンセン病市民学会年報 2013(解放出版社)		182-188頁
その他					
「生きる」語りの分析　くらしの現場から 第1報：薬害HIV患者の病いの開示における葛藤と人とのつながり	-	2012年11月	第26回日本エイズ学会学 術集会・総会(慶應義塾大学日吉キャンパス：横 浜)	九津見雅美、山田富秋、伊藤美樹子、大村佳代子、蘭由岐子、藤原良次、森戸克則、花井十伍	
「生きる」語りの分析　くらしの現場から 第２報：恋愛、結婚の経験	-	2012年11月	第26回日本エイズ学会学 術集会・総会(慶應義塾大学日吉キャンパス：横 浜)	伊藤美樹子、大村佳代子、九津見雅美、山田富秋、蘭由岐子、藤原良次、森戸克則、花井十伍	
「生きる」語りの分析　くらしの現場から 第３報：HIV感染した血友病者のQOLとスティグマ	-	2012年11月	第26回日本エイズ学会学 術集会・総会(慶応義塾大学日吉キャンパス：横 浜)	山田富秋、九津見雅美、伊藤美樹子、大村佳代子、蘭由岐子、藤原良次、森戸克則、花井十伍	
「生きる」語りの分析　くらしの現場から 第４報：HIV感染した血友病者の身体感覚と医学的評価との齟齬	-	2012年11月	第26回日本エイズ学会学 術集会・総会(慶應義塾大学日吉キャンパス：横 浜)	大村佳代子、九津見雅美、伊藤美樹子、蘭由岐子、山田富秋、藤原良次、森戸克則、花井十伍	
和解と赦し―ハンセン病問題にみる〈加害－被害〉関係から	-	2012年12月	甲南大学人間科学研究所 公開研究会(甲南大学：神戸)		
ハンセン病回復者と家族	-	2013年 2月	2012年度ハンセン病問題講演会―ハンセン病回復者と家族・遺族 ハンセン病問題の核心に迫る(大阪市立阿倍野区民センター：大阪市)		
社会学における研究実践	-	2013年 5月	ハンセン病市民学会 分科会D ハンセン病問題研究の新たな地平へ―病者の「生」をとらえるために―(合志市)		
語りを聞くということ―‘宝’発掘のひとつの方法―	-	2013年 7月	第82回瀬戸内集談会		
Living with Ambivalence: The Experiences of Japanese Hansen's Disease Survivors and their Families in the Era of Reconciliation	-	2013年 9月	The 18th International Leprosy Congress(Brussels in Bergium)		

【葛藤編】インタビューから知った医師の姿―輸入血液製剤によるHIV感染問題調査（養老研）から	–	2013年10月	エイズ文化フォーラムin　京都　MERS企画「それぞれの薬害AIDS-当事者たちの姿と生きざま」 (同志社大学：京都市)		
人生に対する感じ方	–	2015年 3月	ヘモフィリア患者のライフスキル調査報告書【速報版】	伊藤美樹子、◎蘭由岐子	37-39頁
書評　好井裕明・山田富秋編『語りが拓く地平―ライフストーリーの新展開』	–	2015年 3月	社会学評論(日本社会学会) 65		613-614頁
「薬害教育」にむけた多声的「薬害」概念の提起	–	2016年 3月	2013～2015年度科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書	山田富秋、種田博之、佐藤哲彦、松岡一郎、本郷正武、蘭由岐子、中塚朋子、田代志門、新ヶ江章友、佐藤嗣道、花井十伍、若生治友、日笠聡	117-128頁
血友病患者が日々を過ごす知恵と苦心―ヘモフィリア患者のライフスキル調査報告書　その共有と継承 「生きなおす」声を聞く追跡調査報告書	–	2016年 3月	(特定非営利活動法人ネットワーク〈医療と人権 〉)	伊藤美樹子、井口高志、蘭由岐子、大達亮、大村佳代子、九津見雅美、城本友恵、中塚朋子、南山浩二	115-122頁、144-149頁
書評　北村健太郎著『日本の血友病者の歴史―他者歓待・社会参加・抗議運動』	–	2016年 5月	福祉社会学研究(福祉社会学会／学文社) (13)		159-163頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1981年 4月～現在に至る	日本社会学会(国内学会)会員
1981年 4月～現在に至る	関西社会学会(国内学会)会員
1991年10月～現在に至る	日本家族社会学会(国内学会)会員
1999年 4月～現在に至る	日本保健医療社会学会(国内学会)会員
2008年8月～2009年7月	日本学術振興会特別研究員審査委員会 審査委員
2009年 5月～2013年 5月	日本保健医療社会学会(国内学会)理事
2009年 6月～2016年3月	大阪HIV訴訟原告団厚生労働省委託調査「患者・家族調査」委員会委員
2009年11月～2012年11月	日本社会学会(国内学会)研究活動委員会委員
2011年 3月～2013年 9月	日本家族社会学会(国内学会)学会誌編集委員会委員
2013年 5月～2015年 5月	日本保健医療社会学会(国内学会)監事
2013年 5月～2016年 5月	関西社会学会(国内学会)理事
2013年 7月	第82回瀬戸内集談会　特別講演　語りを聞くということ ―‘宝’発掘のひとつの方法―
2013年 9月～現在に至る	日本家族社会学会(国内学会)理事（学会誌編集担当）
2013年10月	エイズ文化フォーラム　in　京都、MERS企画「それぞれの薬害AIDS-当事者たちの姿と生きざま」における講演。「【葛藤編】インタビューから知った医師の姿―輸入血液製剤によるHIV感染問題調査（養老研）から」
2014年11月～2014年11月	日本社会学会第87回大会における司会（神戸大学）

2015年 2月～2015年 2月	笹川記念保健協力財団主催・追手門学院大学共催講演会「ハンセン病問題を語り継ぐもの―マレーシア・中国・日本より」
2015年 5月～現在に至る	日本保健医療社会学会(国内学会)会長
2015年 7月～2016年 3月	SMHF Review Committee on grant applications for FY 2015 （笹川記念保健協力財団2015年度助成金審査委員会委員）

V　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無　（有）
社会学部社会学科	教授	上田　滋夢	

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
スポーツ社会学（授業評価4.6、学生理解度4.3）社会学としてスポーツを学ぶ意義、スポーツが社会に与える影響の2つの観点から、スポーツと現代社会、スポーツと体育、青少年とスポーツ、女性とスポーツ、高齢化社会とスポーツ、プロスポーツ、スポーツビジネス、大学スポーツなどを講義。	2015年4月～8月	本講座では、事前学習（PBL）、授業（ディスカッション＋質疑応答形式）、事後学習の３つの構造を用いた。事前学習ではテーマに関する問題点を1600字にてレポートし、授業前日指定時刻までに提出、小職が添削後、毎時返却。授業日にはその中で面白い論点のものをコピー配布し、ディスカッションの素とした。事後学習はテキストや資料の内容を必ず引用して、事後レポート（1600字以上）にして提出させた。これらのレポートは添削後、次の授業時に返却。毎週2回のレポートにて4000字を自ら書く習慣、記述、引用の作法等の修得を意図した。20人の受講生であったが全員が単位を修得することができた。
教養ゼミ（授業評価4.5、学生理解度4.2）本学独自の少人数講座。テーマは「スポーツ戦略論」戦術と戦略の違い、孫子の兵法の理解、兵法を応用した戦略計画の策定、戦略の実行（タッチラグビー）、戦略の修正（タッチラグビー）、戦略とはなにか、を講義。	2015年9月～2016年1月	本講座では、講義、ワークショップ、PBL、グランドにて実践などを用いたアクティブラーニングを行った。まずはワークショップを行い課題の発見。その課題解決のための実験的実践（グランドにてタッチラグビーを行い、チームを勝利に導く計画策定・修正・継続）をPBL手法にて行った。その後、講義にて理論的根拠を提示し、修正後に実践。最後は全14回を戦略策定と捉えた、計画、実行、分析、修正、課題の抽出に至るプレゼンテーションを行った。捉え難い戦略論の概論として理解度は高く、アクティブな状況の中でも理論的根拠を見つける作業を行うなどの高等教育での学修態度も修得させることができた。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
″Asian Sport Vision -Visible and Invisible″国立台湾体育運動大学主催、台湾政府行政院教育部招聘講演	2012年 9月10日	台湾行政院教育部と台湾体育運動大学の招聘により、大学教員ならびに大学院生以上を対象として講演を行った。東京、ソウル、北京でオリンピックが開催され、FIFAワールドカップ日韓大会がアジアで初めて開催された。これらアジアでの開催はスポーツ文化の昇華を意味している様に思われている。しかし、アジアのスポーツ文化はヨーロッパの階級構造やアメリカの資本主義経済を追従しているだけでなく、これらの顧客として構造化されているだけである。アジアは自らでスポーツ文化を育む必要性がある。国家の政策ならびに高等教育機関においては「みえる」部分だけでなく「みえないもの」を教育する義務があることを講演した。
PBL(課題解決型学習)を用いたグローバル人材教育環境に関わる調査報告書、林恒宏、上田滋夢（2015)大阪成蹊大学紀要	2015年 3月20日	本報告書は、近年大学教育において潮流となっている海外インターンシップ（IS）の効果において調査をしたものである。学生15名（3, 4年生）に対して2週間に渡り現地IS（シンガポール）を行い、朝、昼、晩に渡って意識の変化を調査した報告書である。インターンシップ型のアクティブラーニング（AL）は多様であり、期間、内容に応じて効果の差異がある。そこで、対象学生達の行動と意識変化、その業務内容を加えて調査し、結果として対象者全てがどの職務内容においても5日目以降に意識変化が生じ、8日目に職責への意識変化が見られた。すなわち、IS型のALは8日以上から効果が現れることが確認された。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
入学前教育のための学生リーダー教育	2015年10月～現在	本学では次年度入学予定者に対して、入学後に友人が作れない疎外感から不登校になる学生の逓減、高校とは全く異質な大学での学びへの移行、この２つの目的にて事前教育を行っている。これは、教員、職員、学生リーダーが共同でプログラムを実施するものである。小職は教職員側の責任者として、学生リーダー達の教育を行っている。目的は１）自らの学びの整理と将来への活かし方の学び、2)就職・キャリア活動の実践的教育である。具体的にはワークショップ・プログラムの作成、大学での学びの整理とそのプレゼンテーション方法、コミュニケーション・トレーニング等である。教える立場＝学ぶという図式をアクティブな手法を使って行っている。入学後の不登校者減と大学学修への滑らかな移行を担っている。
学生アスリート教育	2015年4月～現在	本学の強化指定クラブ学生（約400名)に対する学生アスリートとしての教育をプログラム化して実施。男女サッカー、アメリカンフットボール、男女ラグビーを中心に、大学での学修が如何にアスリート活動に必要であるのかをゼミ形式で行っている。また、アスリートは公的な存在であり、大学の存在価値と直結しており、一般学生の範となる行動をとる必要性をテーマとしている。スポーツのトレーニング同様に学生アスリートとしてのVision設定や学修とアスリート活動の計画策定、日々の記録、トレーニング理論を週一でレポートを書かせた。学修効果だけでなく、公共性意識、競技記録の向上も確認された。
ゼミ（2016年度は台湾研修）	2016年7月～現在	ゼミの研修旅行を定期化。社会学の学び（社会構造、社会調査）として、歴史、社会構造の事前調査を行い、ゼミ内プレゼンテーションにて問題点を抽出するPBL方式をへと導き、事前報告書を作成した。現地調査計画も自らで作成し、行動計画に則って現地調査を行った。帰国後、事前調査の修正と課題に対する分析、考察を踏まえた調査報告書を作成。今後もこの形式にて他国での調査・実習方式にて社会構造・社会調査の教育を行う計画である。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					

「機能性スパッツは,発育期少年の着地動作時におけるknee-inおよび膝屈曲確度を制動する」（査読付）	共著	2012年10月	「日本臨床スポーツ医学会誌」20(4)	◎長谷川聡，小林雅彦，宮坂淳介，伊藤太祐，吉岡佑二，藤田容子，河合春菜，田仲陽子，澁田紗央理，山田隆登，上田滋夢，柿木良介，松田秀一	154頁
「機能性スパッツは,発育期少年の股関節可動域を拡げ,スポーツパフォーマンスを改善させる」（査読付）	共著	2012年10月	「日本臨床スポーツ医学会誌」20(4)	◎小林雅彦，長谷川聡，宮坂淳介，伊藤太祐，吉岡佑二，河合春菜，田仲陽子，山田隆登，藤田容子，澁田紗央理，上田滋夢，松田秀一	156頁
「スポーツ指導者教育のパラダイムシフト-台湾の指導者教育からの考察-」	共著	2013年 3月	研究紀要(大阪成蹊大学マネジメント学部)10(1)	◎上田滋夢,呂桂花,百武江梨	103-119頁
「スポーツ競技統括団体の経営におけるガバナンスの始原的問題：UEFAのガバナンスからの考察」（査読付）	共著	2014年 2月	体育・スポーツ経営学研究(日本体育・スポーツ経営学会)27(1)	◎上田滋夢、山下秋二	35-53頁
「スポーツにおけるガバナンスの視座-EUとUEFAの関係構造にみられる三次元分析概念の考察-」（査読付）	単著	2014年 6月	「立命館産業社会論集」(立命館大学産業社会学部)50(1)		173-193頁
PBL(課題解決型学習)を用いたグローバル人材教育環境に関わる調査報告書	共著	2015年 3月	大阪成蹊大学紀要(大阪成蹊大学)1(1)	林　恒宏,上田滋夢	79-85頁
その他（学会発表等）					
Shaping into Paradigm of the Top-Level Sports Organization	単独発表	2013年 6月	The 9th Asian Association for Sports Management Conference, AASM2013(Kuala Lumpur, Malaysia)		
プロ・フットボールクラブのガバナンス(１)-Ｊクラブの組織形態の変容から観たガバナンスについて-	単独発表	2013年 8月	日本体育学会第64回大会(立命館大学びわこ・くさつキャンパス)		
OODA_ループ意志決定理論による“Winning Formula”の確率―勝利の ためのコーチング理論の試み―	単独発表	2014年 3月	第143回京都滋賀体育学会大会(京都大学)		
Study for Coaching Strategy Within The Framework of The U.S. Marines Strategic Behavioral Theory	単独発表	2014年 6月	The 4th World Conference on Science and Soccer(Portland, USA.)		
スポーツリーグの構造に見られるガバナンスの位相概念-米・欧・日のリーグ構造比較からの考察-	単独発表	2015年 3月	日本体育・スポーツ経営学会第38回大会(白鴎大学)		
ガバナンス構造の位相に見られる三次元分析概念の再考-米・欧・日のスポーツリーグの構造比較による考察	単独発表	2016年 3月	日本体育・スポーツ経営学会第39回大会(立命館大学大阪いばらきキャンパス)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2012年 4月～現在に至る	日本体育学会会員(国内学会)
2012年 4月～現在に至る	日本体育・スポーツ経営学会会員(国内学会)
2012年 4月～現在に至る	日本コーチング学会会員(国内学会)
2012年 4月～現在に至る	Asian Association for Sport Management(AASM)（国際学会）
2014年 4月～現在に至る	The European Association for Sport Management（EASM）（国際学会）
2015年 6月～現在に至る	The Association for the Study of Sport and the European Union(SORT&EU)　（国際学会）
2016年 4月～現在に至る	International Sociological Association（ISA）（国際学会）
2016年 5月～現在に至る	グローバル・ガバナンス学会（国内学会）
2016年 10月～現在に至る	戦略研究学会（国内学会）
2012年 6月～現在に至る	特定非営利活動法人AS.ラランジャ　会長
2015年10月～2015年12月	2015年　関西サッカーリーグ・カップ準優勝金鳥スタジアム他
2015年 9月～2016年2月	平成27年度大阪市経済戦略局スポーツ施設指定管理予定者　選定委員会座長
1998年 5月～現在に至る	スカパー　サッカー解説者・コメンテーター（FIFAワールドカップ並びにJリーグ中継）*300試合以上を解説・コメント
2012年 8月	関西テレビ「ANCHOR」ゲストコメンテーター出演ｘ2回（ロンドンオリンピック大会）
2012年 9月	国立台湾体育運動大学・台湾政府行政院教育部共催　講演会
2014年 6月	NHK大阪（関西圏）「ぐるっと関西おひるまえ」ゲストコメンテーター出演（FIFAワールドカップ・ブラジル大会）
2014年 6月	関西テレビ「ANCHOR」ゲストコメンテーター出演（FIFAワールドカップ・ブラジル大会）

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	准教授	内海　　博文	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
ゼミでの工夫	2008年 4月 ～現在に至る	学部生の教育では、学生が自らの関心に基づいて調べ、考え、表現できるようになること、および、関心の幅を広げることを重視している。ゼミではまず、たとえ拙くても個々の学生に、関心のあること、しゃべりたいと思えることを、発表してもらうことから始める。自分の知識や関心に一定の肯定的な意味があることを、学生自身に自覚してもらうためである。また、学年があがるとともに、自分の関心と自分で調査したデータに基づいた報告に移行してもらうように努めている。くわえて、学年があがるとともに、他人の発表に生産的なコメントや質問をすることを重視している。学生同士の学習を促し、関心の幅を広げるためである。以上を実行するために、ゼミでは、私的な関係性の良し悪しにかかわらず、学生たちの生産的な相互作用が生じるように、ゼミはゼミとして運営していくことも学習してもらっている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
内海博文編『現代社会を学ぶ：社会の再想像＝再創造のために』ミネルヴァ書房.	2014年 4月	社会学/人類学への招待のためのテキスト。現代社会を特徴づける12のトピックに関し、社会学/人類学の基礎知識、および、社会学的/人類学的な分析を示した12の章と、「社会学する/人類学する」ことを解説した2つの章、および、社会学史/人類学史を論じた1つの章からなる。内海は、編者を務めるとともに、「はしがき」、「序章　社会学/人類学への招待」、「第８章　生産：近代的分業とその意図せざる結果」、「第12章　争い：人間の自由とシステムの進化」、「第15章　学史：社会学と人類学の歴史」、「あとがき」を執筆。
徳永瑞子・内海博文編『国際看護学』，クオリティケア.	2014年 4月	看護師資格課程において新規に必須科目となった国際看護学に関する教科書。看護師、助産師、医師などが中央アフリカ共和国でのフィールドをもとにして、国際看護学に関する重要トピックについて解説した。内海は共編者を務めるとともに、第三部「近くはない、でもそう遠くでもない：専門家と非専門家のための柔軟性のレッスン」および 「おわりにかえて」を執筆。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
読売新聞記事　（33項）北摂版　「世界最貧国　中央アフリカ　知ろう」	2014年 5月13日	中央アフリカ共和国について知ってもらう活動を行っている中央アフリカについて考える会が、読売新聞から取材を受けた。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『国際看護学』	共著	2014年 4月	(クオリティケア)	徳永瑞子・内海博文編	1-207頁
『現代社会を学ぶ：社会の再想像＝再創造のために』	単著	2014年 4月	(ミネルヴァ書房)	内海博文編	1-434頁
Rethinking purposive consciousness: An analysis of sceptical fanaticism after Fukushima	共著	2014年10月	Rethinking Nature in Contemporary Japan(Edizioni Ca' Foscari)	Mariotti, Marcella, Toshio Miyake, & Andrea Revelant eds.,	39-54頁
『文明化と暴力：エリアス社会理論の研究』	単著	2014年12月	(東信堂)		1-233頁
『スクリブナー思想史大事典 全10巻』	共著	2016年 3月	(丸善)	スクリブナー思想史大事典翻訳編集委員会	728-734頁
論文					
「社会学とグローバリゼーション：エリアスのスポーツ研究を手がかりに」	単著	2014年 7月	『社会学史研究』(いなほ書房) (36)		
その他					
「社会学とグローバリゼーション：エリアスのスポーツ研究を手がかりに」	-	2013年 6月	日本社会学史学会大会シンポジウム「知識人とコモンマン」(日本)		
「距離の問題と変化の学習―近くはない、でもそう遠くでもない」	-	2013年 8月	社会変動論研究会「グローバリゼーションと社会変動」(大阪産業大学)		

3477

「言語を語る：言語と社会」（話し手：櫛引祐希子、聞き手：内海博文.）.	-	2013年 9月	(YogiYogi)		
「あってよかった 社会学」（話し手：内海博文、聞き手：櫛引佑希子)	-	2013年11月	(YogiYogi)		
「“Development”論の戦後史」	-	2014年 3月	社会変動論研究会(大阪産業大学)		
「子どもたちに食べさせてあげたい：中央アフリカ共和国からの緊急報告」	-	2014年 5月	(追手門学院大阪梅田サテライトセミナールーム)		
グローバリゼーションと大学：『シリーズ大学1　グローバリゼーション、社会変動と大学』（広田照幸・吉田文ほか編, 岩波書店, 2013）を手がかりに	-	2014年 6月	木曜の会(追手門学院大学)		
社会学的グローバリゼーション論・序説	-	2014年 8月	社会変動論研究会(大阪産業大学)		
（社会学の視点から国際看護学を読む）国際看護学のアイデンティティ：近代医療と文化の対立をこえて	-	2014年 8月	第1回国際看護学講習会「国際看護学をどう伝えるか」(マッシュアップスタジオ)		
現地の声に耳をすませて―国際看護ってなに？	-	2014年11月	中央アフリカについて考える会トークイベント(高槻教会右近会館)		
非専門家に開かれた学びの「想像＝創造」のための実践	-	2014年11月	第87回日本社会学会大会(神戸大学)	上田達・景山佳代子・白石真生・栃澤健史・中川理	
Asia Pacific Student Leaders Conference (APSLC) 2015について	-	2015年	Asia Pacific Student Leaders Conference (APSLC) 2015ゲスト講義		
「「社会の変化という夢」から見えてくること：現代において社会変動について語るということ2」	-	2015年	社会変動論研究会(大阪産業大学)		
「『アフリカで老いを生きる－看護師・助産師として人々と共に』著者 徳永瑞子さんトークイベント」	-	2015年	徳永瑞子さん出版記念トークイベント(YogiYogi)		
「それでも、私は恋している：写真で伝える中央アフリカ」	-	2015年	中央アフリカについて考える会(YogiYogi.)		
「国際看護学はどこまで現地の「文化」を尊重すればいいのか：国際看護学はたぶんそれほど特別ではなく、それなりに楽しくすらあるかもしれないことについて」	-	2015年	(東京医療保健大学東が丘・立川看護学部.)		
「大学教育をコンタクトゾーン（接触領域）として捉えなおす：地理学における空間論の展開をてがかりにして」	-	2015年	木曜の会(追手門学院大学)		
「聞かせて！「田中加津代さん！(NPO法人弱視の子どもたちに絵本を）　～見えにくい、見えない子どもたちにも絵本の楽しみを～」	-	2015年	YogiYogi聞かせてシリーズ(YogiYogi)		
「聞かせて！下郡さん、大貫さん　その２（ブルーリボン職員）」	-	2015年	社会福祉法人のぞみ福祉会・ブルーリボンの下郡さん・大貫さんによるトークイベント(YogiYogi)		
「聞かせて！下郡さん（ブルーリボン代表）」	-	2015年	社会福祉法人のぞみ福祉会・ブルーリボンの下郡さん・大貫さんによるトークイベント(YogiYogi)		

「表象への問いとそれが意味する若干のことがらについて：グローバリゼーション時代における個人と社会のためのエッセー」	-	2015年	第14回追手門学院大学アジア学科研究会(追手門学院大学図書館)		
「中央アフリカ共和国の現状について」	-	2015年 5月	「アフリカ友の会チャリティコンサート」(カトリック千里ニュータウン教会聖堂.)		
「第17回オシゴト動物園　人や土地の空気を伝える～テレビカメラマンのオシゴト、保山耕一さん（フリーランステレビカメラマン）」	-	2015年 6月	第17回オシゴト動物園(YogiYogi)		
Risk-ization of danger and globalization: another scenario of risk theory	-	2015年10月	13th Meeting of the GJSSS, Trust and Risks In Changing Societies(German Institute for Japanese Studies (DIJ))		
「空間の接触領域を再考する」	-	2015年11月	第88回日本社会学会大会　一般研究報告Ⅲ（テーマセッション）(早稲田大学)		
「中央アフリカについて考える会・第4回企画　なんでもない普通の生活が遠のいていく：看護師の見た中央アフリカ共和国」	-	2016年	中央アフリカについて考える会トークイベント(追手門学院大阪梅田サテライトセミナールーム)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2006年～現在に至る	NPO法人recip（地域文化に関する情報とプロジェクト）正会員
2008年 5月～現在に至る	European Sociological Association(RN29)(国際学会)会員
2008年 5月～現在に至る	Human Development & Capability Association: Multi-Disciplinary and People-Centred(国際学会)準会員
2011年～現在に至る	オシゴト動物園
2012年12月	第14回オシゴト動物園「誰もが働きやすい社会を目指して～就業・生活支援ワーカーのオシゴト」
2013年～現在に至る	千里アフリカ友の会支援グループ（SASG）事務局メンバー
2013年 1月	第1回オシゴト大サーカス（第15回オシゴト動物園）「かわばたあきこさん・つづみさおりさんに聞いてみよう！絵のおしごと編」
2013年 2月	「近くはない、でもそう遠くでもない―中央アフリカ共和国にかんする距離の問題」千里アフリカ友の会支援グループ主催勉強会「アフリカに学ぶ」, 於梅田カトリック教会.
2013年 3月	第２回オシゴト大サーカス「あなたの七つ道具、なんですか？ みんなで作るオシゴト道具カタログ編」
2013年 9月	「言語を語る：言語と社会」（話し手：櫛引祐希子、聞き手：内海博文）於YogiYogi.
2013年 9月	第16回オシゴト動物園「魔法使いのエンターテイメント～料理人のオシゴト」
2013年11月～2013年11月	「あってよかった 社会学」（話し手：内海博文）、聞き手：櫛引佑希子, YogiYogi.
2014年 5月	朝日新聞（30頁） タウン　学ぶ「緊急報告会－子どもたちに食べさせてあげたい」
2014年 5月	読売新聞　（33項）北摂版　「世界最貧国　中央アフリカ　知ろう」 －雑貨店主ら支援グループ17日、現地の窮状考える勉強会」
2014年 8月	内海博文, 2014, （講師）「（社会学の視点から国際看護学を読む）国際看護学のアイデンティティ：近代医療と文化の対立をこえて」第1回国際看護学講習会「国際看護学をどう伝えるか」, マッシュアップスタジオ.
2014年 8月～現在に至る	日本社会学会(国内学会)会員
2014年 9月	内海博文, 2014, トーク企画「教えて徳永さん！おまけに内海さん！」市営千里山東住宅集会所.
2014年11月	内海博文, 2014, 「現地の声に耳をすませて―国際看護ってなに？」中央アフリカについて考える会, 於高槻教会右近会館.
2015年	Asia Pacific Student Leaders Conference（APSLC）2015について
2015年	「『アフリカで老いを生きる－看護師・助産師として人々と共に』著者 徳永瑞子さんトークイベント」
2015年	「それでも、私は恋している：写真で伝える中央アフリカ」
2015年	「中央アフリカについて考える会・第4回企画　なんでもない普通の生活が遠のいていく：看護師の見た中央アフリカ共和国」
2015年	「国際看護学はどこまで現地の「文化」を尊重すればいいのか：国際看護学はたぶんそれほど特別ではなく、それなりに楽しくすらあるかもしれないことについて」
2015年	「空間の接触領域を再考する」
2015年	「聞かせて！「田中加津代さん！(NPO法人弱視の子どもたちに絵本を)」 ～見えにくい、見えない子どもたちにも絵本の楽しみを～」
2015年	「聞かせて！下郡さん、大貫さん　その２（ブルーリボン職員）」
2015年	「聞かせて！下郡さん（ブルーリボン代表）」
2015年 5月	「中央アフリカ共和国の現状について」
2015年 6月	「第17回オシゴト動物園　人や土地の空気を伝える～テレビカメラマンのオシゴト、保山耕一さん（フリーランステレビカメラマン）」

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	教授	小畑　　力人	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
キャリア教育の方法と実践	単著	2012年 9月	観光ホスピタリティ教育学会誌(6)		
社会人基礎力育成の方法と実践	単著	2012年 9月	観光ホスピタリティ教育学会、学会誌第６号(第６号)		
その他					
「大学選びのもう一つの着眼点－地元出身ランキングー」	－	2012年 4月	大学ランキング2012(朝日新聞社)		
学生の研究発表を指導	－	2012年 8月	東北亜観光研究学会(韓国・全州)		
結成呼びかけ人、学会設立（2013年７月）	－	2012年 9月	観光学術学会		
観光ホスピタリティ教育に於ける学士課程教育の構築	－	2012年11月	観光ホスピタリティ教育学会、2012年度研究会(東京、立教大学)		
学生の研究発表を指導	－	2013年 8月	東北亜観光研究学会(韓国・金泉)		
結成呼びかけ人、学会設立予定（10月）	－	2013年 8月	グローバル人材育成学会		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1975年 7月～現在に至る	日本教育学会(国内学会)会員
1989年 8月～現在に至る	高等教育問題研究会（ＦＭＩＣＳ）(国内学会)会員
1998年 7月～現在に至る	京都経済人クラブ幹事
2004年 4月～現在に至る	大学行政管理学会(国内学会)会員
2004年 7月～現在に至る	大学教育学会(国内学会)会員
2004年 7月～現在に至る	近畿大学付属工業高等専門学校　外部評価委員
2004年10月～現在に至る	旅行ビジネス研究学会(国内学会)会員
2005年 3月～現在に至る	日本リメディアル教育学会(国内学会)会員
2005年 6月～現在に至る	国立大学マネジメント研究会(国内学会)会員
2005年 7月～現在に至る	国際熊野学会(国内学会)会員
2006年 5月～現在に至る	日本観光研究学会(国内学会)会員
2007年 8月～現在に至る	日本観光ホスピタリティ教育学会(国内学会)会員
2008年 7月～現在に至る	東北亜国際観光研究学会(国内学会)会員
2009年 4月～現在に至る	追手門学院理事長・学長アドバイザー
2010年 3月～現在に至る	日本観光ホスピタリティ教育学会(国内学会)理事
2010年11月～現在に至る	ＮＰＯ日本カルチャーツーリズム理事長
2011年 3月～現在に至る	大阪経済法科大学評議員
2011年 3月～現在に至る	長野県飯田市「学輪IIDA」委員
2012年 4月～現在に至る	飯田市「学輪IIDA」飯田工業高校跡地利用プロジェクト代表
2012年 6月～現在に至る	日本観光ホスピタリティ教育学会(国内学会)副会長
2012年 7月	「大学改革と教職協働」講演（筑波学院大学FD・SD研修会）
2012年 7月～現在に至る	日本キャリア・デザイン学会(国内学会)申込中
2012年 7月～現在に至る	日本観光学術学会(国内学会)会員
2012年 9月	「大学の学生確保」講演（大阪私立短期大学協会研修会）
2012年 9月～現在に至る	キャリア・デザイン学会(国内学会)会員
2012年 9月～現在に至る	産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業GP　評価委員会委員長
2012年10月～現在に至る	東岸和田だんじり祭、「やらかす会」特別顧問として参加。
2012年10月	近畿大学付属工業高等専門学校「市民公開講座」、テーマ「観光と地域活性化」講演
2012年11月	熊野古道・中辺路活性化イベント「近露まるかじり体験」参加
2013年 1月～現在に至る	長野県飯田市「学輪IIDA」総会・公開シンポジウム、プロジェクト代表講演「リニア時代を展望した飯田に於ける大学院大学等設置構想」（於：飯田女子短期大学、参加：約250名）。
2013年 2月	「今日の大学改革課題―学士課程答申・大学改革プランを読む―」講演。（プール学院大学FD研修会）
2013年 3月	「戦後日本の大学史の一断面、四六答申から学士課程答申」講演（追手門学院大学学部長補佐研修会）

2013年 3月	大阪旅行業協会（OATA）総会、テーマ「急増する観光系大学・学部と人材育成」講演
2013年 9月～現在に至る	グローバル人材育成学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	准教授	柏原　　全孝	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
大喜利形式と班別対抗形式の融合によるグループ型導入教育の実践。	2011年 4月 1日 ～現在に至る	入学時の学生間の融和を促すことと大学教育へのスムーズな導入を図ることを目的に、「笑いの文化」を取り入れながらチームビルディングプロセスへそれと意識させることなく参画させる授業を行っている。
卒業論文指導における「論文体裁」に囚われない思考表現追求の実践。	2013年 4月 1日 ～現在に至る	論文の体裁を整えることの弊害を排し、金太郎飴型で量産される反復的内容（実質的なコピペ頻発）の卒業論文ではなく、自分の文体（スタイル）とともに思考と分析視点を鍛える指導を行っている。対話的な指導を重ねることに多くの時間とエネルギーを割いている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
ガチンコと八百長―大相撲のスポーツ社会学	単著	2013年 3月	追手門学院大学社会学部紀要 (7)		1-16頁
ゼミと教育的コミュニケーション―「ゼミナールの追手門」の実質化のために	単著	2014年 3月	教育研究所紀要(追手門学院大学教育研究所) (第32号)		55-64頁
判定者について：審判と判定テクノロジーをめぐる社会学的考察	単著	2015年 3月	追手門学院大学社会学部紀要(追手門学院大学社会学部) (9)		1-15頁
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1994年～現在に至る	関西社会学会(国内学会)会員
1996年～現在に至る	日本スポーツ社会学会(国内学会)会員
1998年～現在に至る	日本社会学会(国内学会)会員
2013年 5月	月刊宝島2013年5月号「なぜ人は「スマホで盗撮」してしまうのか？」、取材、コメント掲載

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	准教授	加藤　源太郎	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
授業内容のWEB公開	2003年 4月 ～2015年 3月	コンピュータを使用する実習科目の内容をWEBに公開し、授業時に利用するほか、学生の復習や補習用にいつでも見ることができる環境を提供している。
農業体験引率	2010年 6月 ～2014年11月	都市近郊農家の田んぼにおいて、田植えから稲刈りまでを実施し、農業そのものや農業問題の理解につなげる実践教育を行った。
ラジオプロジェクト引率	2013年10月 ～2014年 2月	和歌山放送内で番組を制作し放送するプロジェクトにおいて、和歌山放送スタッフ共に指導した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
授業内容のWEB公開	2003年 4月 ～2015年 3月	情報演習１（Wordを中心とした授業）、情報演習２（Excelを中心とした授業）、情報構成演習（HTMLを中心とした授業）、情報処理演習（Javascriptを中心とした授業）、ウェブデザイン演習（HTMLとスタイルシートを中心とした授業）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『法廷に立つ科学』	共著	2015年7月	(勁草書房)	監訳：渡辺千原・吉良貴之	25-42頁
『国際堺学を学ぶ人のために』	共著	2013年12月	(世界思想社)	木村一信、西尾宣明編	40-50頁
論文					
なし					
その他					
項目執筆『現代社会学事典』	-	2012年12月	(弘文堂)		37-38頁
現代社会における選択―進路・就活の困難	-	2013年 7月	マイナビ進学フェスタ(インテックス大阪)		
システム信頼の社会学的地平	-	2014年 6月	社会学史学会(尚絅学院大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1999年 4月～現在に至る	日本社会学会(国内学会)会員
1999年 4月～現在に至る	関西社会学会(国内学会)会員
2002年～現在に至る	STS NETWORK JAPAN(国内研究会)会員
2002年 4月～現在に至る	科学技術社会論学会(国内学会)会員
2013年 4月	社会学史学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無　（無）
社会学部社会学科	教授	木村　英樹	

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
『中国語入門Ⅰ(’14)』（全235頁）を出版	2014年 3月	宮本徹との共著、放送大学教育振興会より出版
『中国語入門Ⅱ(’14)』（全200頁）を出版	2014年 3月	宮本徹との共著、放送大学教育振興会より出版
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
人文知 1――心と言葉の迷宮	共著	2014年 7月	(東京大学出版会)	◎唐沢かおり・西村義樹・戸田山和久・木村英樹・渡部泰明・赤川学・小佐野重利・渡辺裕・大西克也	97-118頁
論文					
“指称”の機能――概念、実体および有標化の観点から	単著	2014年10月	中国語学(日本中国語学会) (261)		64-83頁
中国語疑問詞の指示特性――“什么”（なに），“谁”（だれ），“哪”（どれ）の機能対立――	単著	2015年10月	日中言語研究と日本語教育(好文出版) (8)		12-23頁
その他					
日中対照：視点と表現	-	2013年 8月	第5回中日対比言語学 シンポジウム(中国　福建省福州市)		
‘Referentiality’と‘Reality’：モノ・サマ・コトの現実性と有標化をめぐる問題	-	2013年10月	日本中国語学会第63回全国大会(東京)		
右か左か、東か西か――日中比較表現論――	-	2013年10月	常呂高校特別講座(北見市)		
日中比較語用論：「視点』と表現」	-	2014年 2月	立命館アジア太平洋大学言語教育センター２０１３年度ＦＤセミナー(別府市)		
こと・こころ・ことば	-	2014年 6月	第５回東京大学文学部公開講座(東京)		
「概念」と「実体」の文法的対立	-	2015年 3月	第8回白山中国学会(東京)		
ことばと「視点」	-	2016年 2月	大阪広告協会講演会(大阪市)		
感情と感覚の構文論	-	2016年 2月	中国語学講演会(東京都)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1980年 9月～現在に至る	日本中国語学会(国内学会)会員
1993年10月～現在に至る	国際中国言語学学会(国際学会)会員
2000年10月～現在に至る	日本言語学会(国内学会)会員
2012年10月～2015年 9月	日本言語学会(国内学会)評議員
2013年 4月 1日～現在に至る	愛知大学グローバル人材育成推進事業外部評価委員会 外部評価委員
2013年 4月 1日～現在に至る	杏林大学グローバル人材育成推進事業外部評価委員会 外部評価委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	准教授	栗山　　直子	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
毎回の授業において自作プリントの配布	2014年 4月 ～現在に至る	穴うめ式の自作プリントを配布し、書かせるようにすることで授業への集中力を持続させる。
FD研究会への参加	2014年 4月 1日 ～2015年 3月31日	FD研究会への参加
パワーポイント、映像資料を用いた視覚的学習	2014年 4月 1日 ～現在に至る	パワーポイント、映像資料を用いて視覚的な学習
公開授業に参加	2014年 4月 1日 ～2015年 3月31日	公開授業に４回参加した。
演習授業でのブレーンストーミング	2014年 4月 1日 ～現在に至る	演習授業においてブレーンストーミングを用いたグループ発表を行っている
図書館での文献検索と資料収集	2015年 4月 1日	3年生の演習授業で図書館に行き、卒業論文の文献収集方法の指導を行っている。
演習授業での個人発表のフィードバック	2015年 4月 1日 ～現在に至る	演習授業で個人発表をした際にそれぞれの評価を学生につけてもらい、感想文を発表者にわたしフィードバックをしている
2　作成した教科書、教材、参考書		
辞典執筆『子ども家庭福祉・保健用語辞典』資生堂社会福祉事業財団	2002年 3月 1日 ～現在に至る	「IPA」「オンブズマン」「子どもの権利ノート」「地域社会」「福祉情報」「無国籍児」
辞典執筆『社会福祉調査辞典』丸善出版	2014年 3月	「児童福祉」の項
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「オーストラリアを学ぶ」の担当の中で、直前に行った保育所の調査について外部に対して講演を行った	2013年 6月	オーストラリア研究所助成金を得て行った日豪共同調査「クイーンズランド州の特別支援教育」の結果をまとめ、それについて講演した。
授業の中で、「母親役割」に対する調査結果を発表した	2013年 6月 9日	「児童福祉論」のなかで「母親役割と育児困難」というテーマで調査をもとに講義を行った。
授業の中で、「母親の育児意識」に関する調査を発表した	2014年 6月	兵庫県下の保育所・幼稚園にて行った「母親の育児意識と困難に関する調査」の調査結果をもとに児童福祉論の授業の中で講義を行った。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
大阪電気通信高校の高校生への授業	2013年	「子どもの社会的位置づけの変化と家族」について講義を行った
羽衣学園高校への出張授業	2013年11月 3日	「オーストラリアの子どもの福祉」という授業を行った。
学生への生活指導	2014年 4月 1日 ～現在に至る	ゼミ内外においての学生に対する生活指導・生活相談

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
保育実践の手引き	共著	2013年 3月	(久美出版)	栗山昭子・栗原武志ほか	87-122頁
「子どもの健全育成と地域における子育て支援」『地域福祉論』	共著	2013年 3月	(保育出版社)	高内正子・高井由起子編	142-145頁
社会福祉用語辞典　9版	共著	2013年 3月	(ミネルヴァ書房)	山縣文治・柏女霊峰	20, 67, 79頁
ソーシャルワーク基本用語辞典	共著	2013年 6月	日本ソーシャルワーク学会編(川島書店)	日本ソーシャルワーク学会	10, 22, 23, 72, 73頁
『社会調査事典』丸善出版	共著	2014年 1月	社会調査事典(丸善出版、社団法人社会調査協会編)	細谷昴編	574-576頁
『子ども家庭福祉・保健用語辞典」	共著	2014年 3月	(資生堂社会福祉事業財団)	柏女霊峰編	34, 56, 68, 73, 76頁
科学研究費基盤研究C報告書『世代間交流による患児への遊び・学び支援プログラムの実践的研究』	共著	2014年 4月	『世代間交流による患児への遊び・学び支援プログラムの実践的研究』(ふくろう出版)	栗山昭子、山田理恵子、山岡テイほか	150-153頁
『社会福祉辞典」	共著	2014年 9月	『社会福祉辞典』(大月書店、日本社会福祉学会編)	高内正子・高井由起子編	142-145頁
論文					
「近代家族イデオロギーと母親規範」	単著	2016年3月	追手門学院大学社会学部紀要(追手門学院) 10		17-32頁

『幼稚園・保育園児の母親の母親役割意識に関する調査研究』（査読付）	単著	2012年 4月	子ども環境学会(子ども環境学会) 8(2)		
ニューサウスウェールズ州の保育	単著	2014年 3月	『オーストラリア研究』(オーストラリア研究所,追手門学院大学) (39)		
シドニーの乳幼児期の子育て支援	共著	2015年 3月	オーストラリア研究(追手門学院大学　オーストラリア研究所) (40)	大澤絵里、福島富士子、山岡テイ、栗山直子	12-27頁
近代家族と母親一朝の連続ドラマにみる近代家族イデオロギーー	単著	2015年 3月	追手門学院大学社会学部紀要(追手門学院大学社会学部) (9)		17-26頁
その他					
オーストラリアの家族をめぐる人権と法	-	2012年10月	オーストラリア学会第１５回地域研究会(追手門学院大学)		
クイーンズランドの特別支援教育に携わる教員の意識調査の日豪比較	-	2012年10月	日本社会福祉学会第60回全国大会(関西学院大学)		
母親役割のライフスタイルに関する調査研究	-	2012年11月	日本子育て学会第4回大会(神戸大学)		
クイーンズランドのインクルーシブ教育に関する一考察	-	2012年12月	オセアニア教育学会(玉川大学)		
サザエさんの家族と子育て	-	2013年10月	尼崎市市民協働局　水堂総合センター　教育講演セミナー(尼崎市)		
ニューサウスウェールズ州の保育サービス	-	2014年 3月	関西日豪協会春の講演会(中之島アゴラシオン)		
伊井義人編著『多様性を活かす教育を考える七つのヒントーオーストラリア・カナダ・イギリス・シンガポールの事例から』書評	-	2015年 3月	オーストラリア研究(オーストラリア学会) (29)		90-91頁
社会規範が母親に与える影響	-	2015年 6月	日本子ども家庭福祉学会(関西学院大学)		
世代間交流と子どもの暮らし	-	2015年10月	日本世代間交流学会第六回全国大会(追手門学院大阪城スクエア)	栗山直子、梶原伸介、河本周介、明尾圭造、石丸信明	
児童虐待の一要因としての世代間関係の欠如-児童虐待事例からの一考察-	-	2015年10月	日本世代間交流学会第六回全国大会(追手門学院大阪城スクエア)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1995年 6月～現在に至る	関西世代間交流研究会事務局
1996年 4月～現在に至る	日本地域福祉学会(国内学会)会員
1996年 6月～現在に至る	日本社会福祉学会(国内学会)会員
1998年～現在に至る	日本子ども環境学会(国内学会)会員
1998年 6月～現在に至る	日本社会学会(国内学会)会員
2000年 4月～現在に至る	日本子ども家庭福祉学会(国内学会)会員
2007年 4月～現在に至る	日本家庭教育学会(国内学会)会員
2008年～現在に至る	日本子ども虐待防止学会(国内学会)会員
2010年 6月～現在に至る	日本世代間交流学会(国際学会)会員
2010年 6月～現在に至る	日本世代間交流学会(国際学会)理事
2010年 9月～現在に至る	日本世代間交流学会　理事
2011年 4月～現在に至る	オーストラリア学会(国内学会)会員
2013年 6月～2015年6月	オーストラリア学会(国内学会)理事
2013年 6月～2015年6月	オーストラリア学会　理事
2014年 4月～2015年10月3日	日本世代間交流学会の第六回大会の開催校にあたっての実行委員長
2014年 9月～2015年 5月	日本子ども家庭福祉学会第16回大会の実行委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	教授	佐々木　英一	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
教科書編集執筆	2013年 5月	『日本と世界の職業教育』（法律文化社）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
諸外国の職業教育・訓練ードイツ	単著	2013年 1月	産業教育・職業教育学ハンドブック(大学出版)		226-230頁
日本と世界の職業教育	共著	2013年 5月	(法律文化社)	堀内達夫、佐々木英一、伊藤一雄、佐藤史人	
論文					
ドイツにおける後期中等教育後の教育機関における職業教育の現状	単著	2013年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 7		21-56頁
中教審高校教育部会における高校教育の質保証論議と高校専門教育」	単著	2013年 3月	追手門学院大学教職課程年報(追手門学院大学教職課程) (21)		19-30頁
生徒指導とキャリア教育の関係についての考察ー高校生のアルバイト活動を中心にー	単著	2014年 3月	追手門学院大学教職課程年報 (22)		1-14頁
ドイツにおける中等後職業教育・訓練（査読付）	単著	2014年 7月	技術教育研究(技術教育研究会) (73)		2-8頁
わが国における高等教育における職業教育に関する議論の動向（2）ー「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関」を中心にー	単著	2015年 3月	追手門学院大学教職課程年報(追手門学院大学教職課程) (23)		39-56頁
その他					
学校職場体験活動を考える視点	-	2013年12月	技術と教育(技術教育研究会) (480)		1-3頁
高校生の就職問題をどうとらえるか	-	2014年 5月	技術と教育(技術教育研究会) (485)		1-3頁
ドイツの職業教育	-	2014年11月	多様な働き方を支持する勉強会(東京　衆議院第2議員会館)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1973年 4月～現在に至る	日本教育学会(国内学会)会員
1974年 4月～現在に至る	教育史学会(国内学会)会員
1975年 4月～現在に至る	日本比較教育学会(国内学会)会員
1982年～現在に至る	日本産業教育学会(国内学会)会員
1982年10月～現在に至る	日本産業教育学会(国内学会)会員
2007年～2016年10月	日本産業教育学会(国内学会)理事
2009年 4月～現在に至る	全国社会保険労務士連合会総合研究機構主任件研究員
2010年 4月～現在に至る	労務理論学会(国内学会)会員
2010年 4月～現在に至る	全国社会保険労務士近畿地域協議会関西大学大学院入学試験の特別推薦制度に関する委員会委員
2013年10月～現在に至る	日本産業教育学会(国内学会)学会誌編集委員長
2013年10月～現在に至る	日本産業教育学会学会誌『産業教育学研究』誌編集委員長
2014年 3月～2014年 3月	テレビ番組制作協力（NHK BS Global Debate WISDOM（私たちに仕事を！）2014年3月29日放送

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	准教授	城野　　充	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
美学としてのトゥソフカ　―ソ連邦を崩壊させた美的共同体	単著	2015年 3月	追手門学院大学社会学部紀要(第9号)		
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1992年～現在に至る	日本マス・コミュニケーション学会(国内学会)会員
1997年～現在に至る	日本スラヴ東欧学会(国内学会)会員
2000年～現在に至る	関西社会学会(国内学会)会員
2014年 4月～現在に至る	京都祇園祭の蟷螂山保存会の主要メンバーの一人として、国の有形文化財の継承、保存活動に携わっている。2014年度は副使として山鉾巡行に参加。2015年度は正使として参加予定である。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	教授	高垣　伸博	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
現代社会とメディア講座　「伝えるということ」	－	2013年11月	（大阪経済法科大学）		
教養講座（企業講座）　放送業界の今を知る「～検証！テレビとラジオの役割・その狭間でアナウンサーは今～」	－	2014年 2月	（武庫川女子大学）		
ＭＢＳコラボ　市民公開講座深彫り話「関西の笑いと言葉と間」	－	2014年 2月	ＭＢＳコラボ　公開講座深彫り話（追手門学院梅田サテライト）		
放送業界の現状「テレビとラジオの役割その狭間でアナウンサーは？」	－	2014年 6月	（阪南大学）		
現代社会とメディア講座「企画書のできるまで」	－	2014年10月	（大阪経済法科大学）		
現代社会とメディア講座「放送の歴史と放送局とは」	－	2014年10月	（大阪経済法科大学）		
現代社会とメディア講座「番組が出来るまで」	－	2014年10月	（大阪経済法科大学）		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2015年 4月	日本笑い学会（国内学会）会員
2015年 6月	日本マス・コミュニケーション学会（国内学会）会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 社会学部社会学科	職名 准教授	氏名 富田　大介	大学院における研究指導 担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の 名　　称	単・ 共の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
待兼山少年 － 大学と地域をアートでつなぐ＜記憶＞の実験室 －	共著	2016年 3月	(大阪大学出版会)	橋爪節也、横田洋 編著	28-38頁
論文					
土方巽の心身関係論ー内と外の共通の環境（ミリュー）としての「器」ー（査読付）	単著	2012年12月	舞踊學(舞踊学会) (35)		43-52頁
その他					
ワークショップデザイナー育成プログラム	－		ワークショップデザイナー育成プログラム(大阪大学中之島センター)		
健常、障碍、機械、もろもろ ー音遊びの会が伝える「共生」の近未来像ー	－	2012年 5月	明倫art(京都芸術センター) (2012年6月)		6-6頁
『身体』をひらく芸術家	－	2012年 7月	明倫art(京都芸術センター) (2012年8月)		6-6頁
『一』とはどういうことか	－	2012年 9月	明倫art (2012年10月)		6-6頁
世界の演出の実験「プレゼンテーション」	－	2012年 9月	(森下スタジオ)		
即興の要件	－	2012年 9月	日本音楽即興学会(神戸大学)		
けのびにコメント	－	2012年10月	けのびにコメント(寺川ビル)		
トチアキタイヨウ新作『私は山なのではないか？』制作報告会	－	2012年11月	トチアキタイヨウ新作『私は山なのではないか？』制作報告会(京都芸術センター)		
想う力	－	2012年11月	明倫art(京都芸術センター) (2012年12月)		6-6頁
水盤舞台	－	2012年12月	Danceart(Dance Café) (37)		28-28頁
自然と都市と体、	－	2013年 1月	明倫art(京都芸術センター) (2013年2月)		6-6頁
許される場所ー改めて、ブラックボックスの意義ー	－	2013年 3月	明倫art(京都芸術センター) (2013年4月)		7-7頁
心体操の話	－	2013年 6月	北天満サイエンス・カフェ(北天満商店街（大阪）)		
Dance Fanfare Kyoto クロージング・トーク	－	2013年 7月	Dance Fanfare Kyoto vol.1		

未だ知らない持続に	-	2013年 7月	明倫art(京都芸術センター) (2013年8月)		3-3頁
劇は使える	-	2013年 9月	2013 フリンジ企画「使えるプログラム」(Vox Square)		
国際的パフォーマンスの制作とワークショップ	-	2013年 9月	劇場・音楽堂・美術館等と連携するアート・フェスティバル人材育成事業ー＜声なき声、いたるところにかかわりの声、そして私の声＞芸術祭ーオープニングセミナー(大阪大学21世紀懐徳堂スタジオ)		
生存のアルスー「心体操」についてー	-	2013年 9月	複雑系科学シンポジウム(大阪大学)		
新たな認知の回路、「似たの」、が教えること。	-	2013年10月	明倫art(京都芸術センター) (2013年11月)		3-3頁
私の研究テーマ	-	2013年11月	舞踊学会ニューズレター(舞踊学会) (5)		8-9頁
心体操の話	-	2014年 1月	十三サイエンス・カフェ(十三（大阪）)		
踊りを育てる	-	2014年 1月	明倫art(京都芸術センター) (2014年2月)		3-3頁
国際的パフォーマンスの制作とワークショップ	-	2014年 3月	劇場・音楽堂・美術館等と連携するアート・フェスティバル人材育成事業ー＜声なき声、いたるところにかかわりの声、そして私の声＞芸術祭ークロージングシンポジウム(大阪大学中之島センター)		
砂連尾さんのダンスの魅力、について。	-	2014年 3月	ダンス公演『愛のレッスン』ブックレット(一般社団法人Torindo)		14-17頁
ダンスという先端研究ー「京都から世界へ」ー	-	2014年 4月	明倫art(京都芸術センター) (2014年5月)		3-3頁
AIR（アーティスト・イン・レジデンス）	-	2014年 7月	劇場・音楽堂・美術館等と連携するアート・フェスティバル人材育成事業ー＜声なき声、いたるところにかかわりの声、そして私の声＞芸術祭IIーオープニング・セミナーー(大阪大学)		
ダンスの時間	-	2014年 7月	明倫art(京都芸術センター) (2014年8月)		3-3頁
dracom祭典2014「gallery (extra version)」ポストパフォーマンストーク	-	2014年 9月	dracom祭典2014「gallery (extra version)」(大阪府立江之子島文化芸術創造センター［enoco］)		
これからの身体表現-基礎編- 共生の身体技法	-	2014年12月	大阪藝術学舎2014年秋(大阪藝術学舎 大阪サテライトキャンパス)		
もよおす	-	2014年12月	enocoニュースレター(大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]) (4)		4-4頁
トークイベント　阪大石橋宿舎おみおくり・プロジェクト	-	2014年12月	トークイベント　阪大石橋宿舎おみおくり・プロジェクト(大阪市中央公会堂)		

HAIGAFURU ASH IS FALLINGポストパフォーマンストーク	-	2015年 1月	HAIGAFURU ASH IS FALLING(京都芸術センター)		
「アートと福祉の可能性」～地域発信、障害者と芸能をめぐって～	-	2015年 1月	エイブルフレンドフェスティバルin YOKOHAMA(象の鼻テラス（横浜）)		
AIR（アーティスト・イン・レジデンス)	-	2015年 3月	劇場・音楽堂・美術館等と連携するアート・フェスティバル人材育成事業－＜声なき声、いたるところにかかわりの声、そして私の声＞芸術祭－クロージングシンポジウム(大阪大学)		
CONTACT IMPROVISATION MEETING in JAPAN 6th	-	2015年 3月	CONTACT IMPROVISATION MEETING in JAPAN 6th(デザイン・クリエイティブセンター神戸)		
「国際的パフォーマンスの制作とワークショップ」「AIR アーティスト・イン・レジデンス」	-	2015年 3月	〈声なき声、いたるところにかかわりの声、そして私の声〉芸術祭Ⅰ,Ⅱ 2013-2014年度報告書(大阪大学大学院文学研究科)		24-35頁
「命」の身体感覚 ー HAIGAFURU/Ash is fallingに寄せて ー	-	2015年 6月	ダンスワーク		54-57頁
障碍／アート、その切り結ぶところ	-	2016年 2月	テクノロジーや障害がひらく新しいパフォーミングアーツの可能性(BankART Studio NYK)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2012年4月～現在	日本演劇学会(国内学会)会員
2003年4月～現在	美学会(国内学会)会員
2011年8月～現在	舞踊学会(国内学会)会員
2012年 8月～2012年11月	第28回京都賞学生フォーラム「グローバル化の限界を超える想像力：未来共生に向けて何を「学び」、何を「教える」のか ～ガヤトリ・C・スピヴァク教授を迎えて」実行委員会
2012年11月	クリッシー・ティラー ワークショップ
2013年 1月～2013年10月	KYOTOEXPERIMENT（京都国際舞台芸術祭）2013 フリンジ企画「使えるプログラム」 プロジェクト・メンバー
2013年 5月	体を動かしながらちょっと突っ込んで考えてみる会（MTM：Moving/Thinking/Meeting）vol.1「ダンスの技術」
2013年 6月	サイエンス・カフェ「健康体操＋α…『心体操』の話」
2013年 7月	体を動かしながらちょっと突っ込んで考えてみる会（MTM：Moving/Thinking/Meeting）vol.2「踊りと眼」
2014年 1月	サイエンス・カフェ「健康体操＋α…『心体操』の話」
2014年 3月	体を動かしながらちょっと突っ込んで考えてみる会 MTM（Moving/Thinking/Meeting）vol.3「体性感覚を、知る。」
2014年 5月	第3回OSIPP稲盛財団寄附講座公開セミナー&ラボカフェスペシャル「複数の感覚と想像力～他者理解を楽しむ？～」
2014年 6月～2015年 3月	からだトーク2014

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	教授	福本　賢太	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
社会人基礎力を高めるゼミプログラムの構築	2007年 4月 ～2015年 3月	教育上の最重要課題として、『ゼミ力』強化これまで取り組んできた。卒業研究生は7期（立命館大学2期・神戸夙川学院大学5期）167名となり、出身企業であるJTBグループ他、ホテル・テーマパーク等の観光関連産業、広告代理店・金融業・ブライダル産業へ人材を輩出してきた。社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）に関する考えを取り入れ、実践的な学内外の諸活動と理論的な研究諸活動を組み合わせ、自己管理力・コミュニケーション力・思考力を醸成する場（演習ゼミナール）を形成している。学生の主体性を育む2年間プログラムを構築した。
産官学地域連携による「主体的な学び」の場形成	2009年 4月 ～現在に至る	1.「六甲山系グリーンベルト整備事業」への参画（3年次対象、年2回実施：7月育樹・11月植樹） ＜平成21年度～現在に至る＞ 2. NPO法人「観光力推進ネットワーク・関西」学生連絡協議会の諸活動を運営支援 ＜平成20年5月～現在に至る＞ 3. 大学生が案内する「まち歩き事業」ＪＲグループ、兵庫県「あいたい兵庫デスティネーションキャンペーン」 ＜平成21年4月～6月＞ 4. 大学生が案内する「まち歩き事業」ＪＴＢグループ「関西まち歩き100選」 ＜平成22年4月～9月＞ 5.「平安時代の食の開発プロジェクト」正規科目外の学生プロジェクトにて対応 ＜平成23年7月～12月＞ 6. 神戸青年会議所主催「大学生が案内する乙仲アートツアー」の実施 ＜平成24年10月＞
体系的キャリア教育の実践	2015年 4月 ～現在に至る	体系的なキャリア教育（1回生～4回生）の考案と実践をしている。 ・キャリアガイダンス　（1回生春学期、キャリア形成にむけた基本的な考え方を学ぶ）【補助教員】 ・キャリア形成論１（2回生春学期、職業社会への理解と視野を広げる） ・キャリア形成論２（2回生秋学期、社会人講師講義から学生時代に養うべき力を学ぶ） ・キャリア形成論３（3回生春学期、就職へむけて自らに自信を持たせる） ・社会人の基礎　　（4回生秋学期、予測困難な時代の就業観を持たせる）
2　作成した教科書、教材、参考書		
『現代の観光事業』教材作成	2009年 4月 ～2015年 3月	観光事業の諸分野で活動・研究する共著者により、現代の観光事業の現状、またあるべき姿を理解することのできる入門書を作成した。観光産業の全体像を把握するために、「観光マーケティング論」（同志社女子大学現代社会学部2単位）「観光サービス産業人材論」（神戸夙川学院大学観光文化学部2単位）、各論では「旅行産業論」（神戸夙川学院大学観光文化学部2単位）で活用している。統計データについては、年々変わるため都度最新データを受講生へ提供した。
「全国高校生観光プランコンテスト大会」プランシート作成手引書作成	2014年 4月 ～現在に至る	高校教員・高校生からの要請を受け、「全国高校生観光プランコンテスト大会」プランシート作成に関する手引書を作成しホームページ上に公開している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
読売中高生新聞掲載	2015年 3月	「高校生発旅行プラン」全国高校生観光プランコンテスト関連
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
観光甲子園事業と観光教育に関する考察（査読付）	単著	2014年 3月	日本観光ホスピタリティ教育学会全国大会　研究発表論文集(日本観光ホスピタリティ教育学会)(13)		47-58頁
ゼミナール運営に関する実践報告―社会人基礎力育成の観点から―（査読付）	単著	2015年 2月	日本観光ホスピタリティ教育学会全国大会　研究発表論文集(日本観光ホスピタリティ教育学会)(14)		23-30頁

「みなと」再興に向けて～クルーズ/ベイ・ツーリズムでにぎわう交流拠点へ～	単著	2015年 7月	WEB観光政策フォーラム(株式会社ジェイクリエイト) (2015.7.16)		1-3頁
その他					
観光人材活用力養成講座	–	2012年12月	平成24年度実践事業セミナー(京都府和束町)		
観光ビジネス入門講座	–	2013年 9月	茶源郷和束ビジネス・カレッジ2013(京都府和束町)		
『観光甲子園』と観光教育	–	2014年 3月	地域産業活性化のための着地型観光プレーヤー人材育成事業報告会(神戸市)		
観光甲子園事業と観光教育に関する考察	–	2014年 3月	第13回　日本観光ホスピタリティ教育学会全国大会(福岡市)		
『インバウンド観光を考える』	–	2014年 5月	第11回　観光から観光立国・立圏を考える意見交換会(大阪市)		
観光甲子園事業と観光教育に関する考察	–	2014年 6月	第80回　旅行ビジネス研究学会(京都市)		
観光関連起業家養成講座	–	2014年11月	実践型地域雇用創造事業(京都府和束町)		
『観光甲子園』と地方創生	–	2015年 2月	敦賀市・敦賀高校協働事業(敦賀市)		
ゼミナール運営に関する実践報告―社会人基礎力育成の観点から―	–	2015年 2月	第14回　日本観光ホスピタリティ教育学会全国大会(東京)		
集客拠点としての「みなと」活用ーマーケティングの観点からー	–	2015年 8月	兵庫県港湾協会第56回通常総会(神戸市)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2001年 2月～現在に至る	旅行ビジネス研究学会(国内学会)会員
2005年 8月～現在に至る	日本観光研究学会(国内学会)会員
2006年 3月～現在に至る	日本観光ホスピタリティ教育学会(国内学会)会員
2007年 2月～現在に至る	東北亜観光学会(国際学会)会員
2007年 2月～現在に至る	東北亜観光学会(国際学会)理事
2008年 4月～現在に至る	NPO法人「観光力推進ネットワーク・関西」 理事
2008年 6月～2012年 6月	日本観光ホスピタリティ教育学会(国内学会)理事
2010年10月～現在に至る	全国高校生観光プランコンテスト大会実行委員長
2011年 8月～現在に至る	全国高校生観光プランコンテスト大会審査委員
2012年 6月～現在に至る	日本観光研究学会(国内学会)理事
2014年10月	2014京都丹波観光甲子園大会 審査委員
2015年 6月～現在に至る	日本キャリアデザイン学会(国内学会)会員
2015年 8月～現在に至る	洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部 特別本部員
2015年11月 6日～現在に至る	大津市次期観光交流基本計画策定に懇話会 座長

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	教授	藤吉　圭二	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Archives for Maintaining Community and Society in the Digital Age	共著	2013年 6月	(Koyasan University)	◎Keiji Fujiyoshi Tadaaki Fujitani, Anne Gilliland, Nanako Hayami, Izumi Hirano, Kazuhito Isomura, Sungman Koh, Artur Lakatos, Andrew J Law, Sue McKemmish, Natàlia Cantó Milà, Junta Okada, Vrunda Pathare	1-14頁
論文					
社会学の立場から考える「臨床」	単著	2012年 6月	日本臨床政治学会ニューズレター(日本臨床政治学会)(8)		12-16頁
電子政府定着への取組み―オーストラリア・ヴィクトリア州政府を事例として―（査読付）	単著	2013年 2月	高野山大学論叢(高野山大学)(48)		15-37頁
情報の共有と負担の共有―スウェーデンの情報公開制度とその背景―（査読付）	単著	2014年 2月	高野山大学論叢(高野山大学)(49)		89-112頁
組織における統制と活性化―高野山大学の規則整備・記録管理を事例として―（査読付）	単著	2015年 2月	高野山大学論叢(高野山大学)(50)		67-87頁
その他					
社会学の立場から考える「臨床」	-	2012年 4月	日本臨床政治学会2012年度東京大会　10周年記念シンポジウム―「臨床」について考える―(専修大学)		
What is a "Man" in the Modern Japan?	-	2013年 6月	The 40th World Congress of International Institute of Sociology(Uppsala University, Uppsala, Sweden)		
Revue du M.A.U.S.S. No 38紹介	-	2014年 4月	デュルケーム／デュルケーム学派研究会第29回(梅田ナレッジキャピタル、大阪)		
RC25 Roundtable. Language and Inequalites	-	2014年 7月	XVIII ISA World Congress of Sociology(Pacifico Yokohama, Yokohama, Japan)	Amado Alarcón, Frédéric Moulene	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
	なし

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	准教授	古川　　隆司	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
講義科目における対話型授業の実践	2007年 4月 ～現在に至る	教育実践に関する論文を参照
2　作成した教科書、教材、参考書		
『社会福祉の成立と課題』	2013年 4月	２０１５年度春学期開講科目「ソーシャルワーク論」の教科書
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
追手門学院高等学校	2014年10月24日	高等学校１年対象人権教育の企画立案・講義担当

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
司法福祉を学ぶ	共著	2013年 4月	(ミネルヴァ書房)	加藤博史・水藤昌彦編著	182-185頁
司法福祉	共著	2013年 8月	(法律文化社)	加藤幸雄・前田忠弘監修，藤原正範・古川隆司共編著	ⅰ-ⅳ，60-69，158-168，204-208頁
論文					
更生保護施設における福祉の連携	単著	2012年 6月	ホームレスと社会(明石書店) (6)		26-31頁
高齢犯罪者等の社会復帰支援の方法	単著	2012年10月	龍谷大学矯正・保護総合センター研究年報(龍谷大学矯正・保護総合センター，現代人文社) (2)		88-96頁
オーストラリアの犯罪者の社会内処遇とソーシャルワークの関係	単著	2012年12月	オーストラリア研究紀要(追手門学院大学オーストラリア研究所) (38)		45-54頁
ドイツにおける高齢犯罪者の現状と対応（１）	単著	2013年 3月	追手門学院大学社会学部紀要(追手門学院大学社会学部) (7)		63-72頁
高齢犯罪者の社会復帰について	単著	2013年 8月	犯罪と非行(日立みらい財団) (173)		83-96頁
「更生保護施設と社会福祉の連携」調査と展望	単著	2013年10月	龍谷大学矯正・保護総合センター研究年報(現代人文社) (3)		70-78頁
厳罰化とオーストラリアの刑事政策への影響	単著	2013年12月	オーストラリア研究紀要(追手門学院大学オーストラリア研究所) (39)		109-117頁
社会福祉・老年学からみた高齢者犯罪	単著	2014年 6月	警察學研究(立花書房)(67-6)		18-32頁
「働くこと」を教材とした人権教育の試み-高等学校と大学の連携を通して	単著	2015年 3月	追手門学院一貫連携教育研究所紀要(追手門学院一貫連携教育研究所) (1)		10-20頁
「大坂町奉行並松本寿大夫救民手宛米一件」の社会事業史的意義	単著	2015年 3月	追手門学院大学社会学部紀要(追手門学院大学社会学部) (9)		75-84頁
高齢犯罪者の社会復帰支援の取り組みの現状と課題-矯正と保護の連携を中心に-	単著	2015年 9月	犯罪と非行(公益財団法人　日立財団) (180)		55-69頁
ポーランドにおける「刑事司法と社会福祉の連携」	単著	2016年 3月	追手門学院大学社会学部紀要(追手門学院大学社会学部) (10)		53-64頁
その他					

「冥」の道理と実践者の「不安」	–	2012年 6月	日本キリスト教社会福祉学会第53回大会(和泉短期大学)		
上町にみる医療・福祉の原点	–	2012年 6月	はびきの市民大学「上町学」(大阪府羽曳野市ＬＩＣはびきの)		
教育講演　高齢犯罪者の現状と課題	–	2012年 6月	日本老年社会科学会第54回大会(佐久大学)		
更生保護の現場から−出所後の生活支援の現状と課題	–	2012年 7月	マッセ・市民セミナー絆「再生」セミナー(大阪市中央区，大阪歴史博物館)		
虐待・介護殺人事件の加害者支援に関する研究（3）	–	2012年 7月	日本高齢者虐待防止学会第9回大会(甲南女子大学)		
いざというときの福祉	–	2012年 8月	大阪府茨木市穂積地区福祉委員会研修会(大阪府茨木市，穂積コミュニテイセンター)		
司法福祉実践の方法に関する実証的研究（１）	–	2012年 8月	日本司法福祉学会第9回大会(東洋大学)		
ソーシャルワーク実践としての触法高齢者・障害者の社会福祉支援	–	2012年10月	日本社会福祉学会第60回秋季大会(兵庫県西宮市，関西学院大学)		
地域定着支援事業における福祉施設の受け入れについての一考察	–	2012年10月	日本社会福祉学会第60回秋季大会(兵庫県西宮市，関西学院大学)	江口賀子	
情報ギャップと司法ソーシャルワーク	–	2012年10月	日本犯罪社会学会第39回大会(一橋大学)		
高齢人口集住と都市再開発	–	2012年11月	日本社会学会第85回大会(札幌学院大学)		
認知症を知ろう，語ろう，そして支え合おう−家族と介護者の立場から−	–	2013年 4月	慢性期医療展2013(大阪市住之江区，インテックス大阪)		
上町学　阿倍野・帝塚山界隈（１）	–	2013年 5月	はびきの市民大学「上町学」(大阪府羽曳野市，ＬＩＣはびきの)		
上町学　阿倍野・帝塚山界隈（２）	–	2013年 6月	はびきの市民大学「上町学」(大阪府羽曳野市，ＬＩＣはびきの)		
実践を伝達する困難とイロニー	–	2013年 6月	日本キリスト教社会福祉学会第54回大会(ノートルダム清心女子大学)		
福祉的援護を要する人びとの犯罪と社会復帰支援	–	2013年 6月	社会貢献事業テーマ別事例検討会(大阪市中央区，大阪府社会福祉会館)		
特定課題セッション災害が「晒け出した構造的課題」をソーシャルワークは実践の反省につなげられるか	–	2013年 9月	日本社会福祉学会第61回秋季大会(北海道札幌市，北星学園大学)	荒井宏道(駒澤大学)・遠藤洋二（関西福祉科学大学）・野村恭代（大阪市立大学）	
社会復帰支援における倫理的課題	–	2013年10月	日本犯罪社会学会第40回大会(北海学園大学)		
高齢犯罪者の現状と課題	–	2013年12月	平成２５年度社会安全フォーラム(東京都千代田区，グランドアーク半蔵門)		
福祉的援護を要する罪を犯した人びとの社会復帰支援	–	2014年 1月	地域定着支援を考える研修会触法障がい者等「支援機関・団体交流会」(大阪府社会福祉会館)		
連携はなぜうまくいかないのか，どうすればうまくいくか	–	2014年 2月	大東市介護支援専門員協会平成26年度研修(大東市民会館)		
障がい者・高齢者虐待問題について	–	2014年 3月	平成２６年度淀川区障がい者・高齢者虐待防止等連絡会議研修会(大阪市淀川区役所)		
A socially Value about rehabilitation of elderly offender	–	2014年 7月	ISA Worrld Congless 2014(Yokohama)		
高齢犯罪者の社会復帰の条件に関する研究（１）	–	2014年10月	日本犯罪社会学会第41回大会(京都産業大学)		

Elderly as the presence of certain risk and the Independence in Japan	-	2014年11月	British Sociological Association(BSA) Ageing, Body and Society Study Group Conference 2014(London, British Library Conference Centre)		
新郡山地区防災アクションプラン研修会講師	-	2014年11月	茨木市新郡山地区福祉委員会研修会(新郡山公民館)		
社会的援護を要する高齢犯罪者等と社会福祉における動向	-	2014年11月	法務総合研究所研究部「高齢・障害犯罪者に関する総合的研究」研究会(法務省法務総合研究所)		
大学のスクールソーシャルワークにおける更生プログラム	-	2015年 3月	日本社会福祉学会関西部会2014年度研究大会(花園大学)		
茨木市ボランティアセンター「ボラコン！」コーディネーター	-	2015年 4月	茨木市ボランティアセンター「ボラコン！」(茨木市福祉文化会館)		
A Socially Value to Support and Rehabilitation to the Elderly Offenders in Japan	-	2015年 6月	International Conference on Criminology and Sociology(Holiday Inn Paris Gare Montparnasse)		
水尾地区防災アクションプラン研修会	-	2015年 6月	水尾地区福祉委員会防災研修会(茨木市水尾公民館)		
高齢犯罪者の「再犯に陥る状況」の理解	-	2015年 6月	日本老年社会科学会第57回大会(パシフィコ横浜)		
自分らしい「終活」とエンディング	-	2015年 7月	はびきの市民大学　日本社会の”近未来予想図”(LICはびきの)		
装いが生きがいを作る？　アンチエイジング	-	2015年 7月	はびきの市民大学　日本社会の”近未来予想図”(LICはびきの)		
犯罪・行方不明からみる地域社会の脆弱性と高齢者支援の課題	-	2015年 9月	日本社会福祉学会第62回秋季大会(久留米大学)		
Elderly as the presence of certain risk and the Isolation in Japan	-	2015年10月	The 10th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania 2015 Congress(The International Convention and Exhibition Center(Chiang-Mai, Thailand))		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1993年 6月～現在に至る	日本社会学会(国内学会)会員
1993年10月～現在に至る	日本社会福祉学会(国内学会)会員
1994年～現在に至る	日本老年社会科学会(国内学会)会員
2000年～現在に至る	介護福祉士登録
2003年～現在に至る	NPO法人寝屋川市民たすけあいの会，地域ケアセンター第三者委員
2003年10月～現在に至る	NPO法人寝屋川市民たすけあいの会地域ケアセンター 苦情解決第三者委員
2006年～2013年 3月	茨木市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画懇談会委員
2006年 4月～現在に至る	おおさか介護サービス相談センター専門相談員
2006年 6月～現在に至る	茨木市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画懇談会 委員
2007年 4月～現在に至る	おおさか介護サービス相談センター 専門相談員
2009年 5月～2013年 3月31日	社団法人大阪介護福祉士会 監事
2010年 4月～2014年 3月	大阪府国民健康保険団体連合会介護保険審査委員会 委員
2012年 8月～現在に至る	大阪府社会福祉協議会運営適正化委員会苦情解決小委員会委員
2012年 9月～現在に至る	日本司法福祉学会(国内学会)理事
2012年12月～現在に至る	日本更生保護学会(国内学会)会員
2013年 4月～2015年 7月	茨木市地域福祉推進審議会委員
2013年 4月 1日～現在に至る	公益社団法人大阪介護福祉士会 監事
2013年 4月 1日～現在に至る	茨木市地域福祉推進審議会 委員
2013年 9月～現在に至る	茨木市社会福祉協議会ボランティアセンター推進委員会委員長
2013年 9月～現在に至る	茨木市社会福祉協議会茨木市ボランティアセンター推進委員会 委員長
2013年10月～2014年 3月	日本社会福祉学会(国内学会)学会誌査読臨時委員
2014年 1月	毎日テレビ「Voice」特集の取材出演
2014年 5月～現在に至る	日本警察政策学会(国内学会)会員

2015年 7月～現在に至る	茨木市立総持寺いのち・愛・ゆめセンター支援方策検討会　委員
2015年 8月～現在に至る	日本老年社会科学会(国内学会)学会誌査読委員
2015年10月	日本経済新聞夕刊「認知症　事件の現場から②」コメント
2015年11月	中日新聞2015年11月10日「認知症責任応力どう判断」コメント
2016年 1月	毎日新聞　1月5日「「介護家族：認知症の母殺害 再起誓ったが 公的な心のケアを」コメント

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	教授	三上　剛史	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
社会学部新入生演習および表現演習の実施方法検討会議での教育実践方法の検討	2014年 4月 1日 ～2015年 1月13日	社会学部1年生向けの、新入生演習（春）、表現演習（秋）の共通シラバスによる統一授業を達成するために、実施のための検討会議に参加し、実践方法について検討した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
社会学部基礎演習共通テキスト作成	2014年10月 1日 ～2015年 3月31日	社会学部2年生向けの基礎演習に使用される春・秋学期用共通テキストの作成を行った。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
社会学的ディアボリズム	単著	2013年 4月	(学文社)		
モダニティの変容と公共圏	共著	2014年 1月	(京都大学学術出版会)	田中紀行、吉田純	31-56頁
3・11以前の社会学	共著	2014年 5月	(生活書院)	荻野昌弘、蘭信三	145-271頁
論文					
ディアボリックなものとシンボリックなもの	単著	2012年 3月	日仏社会学年報(日仏社会学会) (21)		33-43頁
リスクと監視と個人化の行方	単著	2013年 3月	科学研究費成果報告書		
リスク社会と“ディアボリックなもの”	単著	2013年 5月	フォーラム現代社会(関西社会学会) (12)		121-128頁
リスク社会と理論的シンボリズムの隘路	単著	2014年 4月	社会学研究(東北社会学研究会) (94)		29-54頁
シンボリック・メディアの形成とモダニティ	単著	2015年 3月	追手門学院大学社会学部紀要(追手門学院大学社会学部) (9)		85-100頁
その他					
社会学と近代性の概念	-	2012年 3月	丸山哲夫編　『現代の社会学』(ミネルヴァ書房)		82-83頁
リスク社会と“ディアボリックなもの”	-	2012年 5月	関西社会学会大会シンポジウム「3.11以前の社会学」(皇學館大學)		
社会学史というフロント	-	2012年 6月	社会学史研究(日本社会学史学会) (34)		87-91頁
リスク社会と理論的シンボリズムの隘路	-	2013年10月	東北社会学研究会大会シンポジウム(東北大学)		
ルーマンのリスク論再考	-	2014年 9月	科学社会学会第三回大会(東京大学)	小松丈晃、関谷翔、井口暁	
社会の余白で考える：モースの贈与論をめぐって	-	2014年11月	日仏社会学年報(日仏社会学会) (25)		53-88頁
ダブル・コンティンジェンシーと贈与	-	2015年 2月	ソシオロジ(社会学研究会) (182)		99-101頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1988年 4月～現在に至る	日本社会学史学会(国内学会)会員
1978年 4月～現在に至る	社会学研究会(国内学会)会員
2012年12月～現在に至る	科学社会学会(国内学会)会員
1978年 4月～現在に至る	関西社会学会(国内学会)会員
2010年 5月～2013年 5月	関西社会学会(国内学会)常任理事
2011年 6月～2014年 6月	日本社会学史学会(国内学会)学会長
2012年12月～現在に至る	科学社会学会(国内学会)常務理事
2014年 8月 1日～2015年 7月31日	日本学術振興会特別研究員審査会及び国際事業委員会 審査委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	教授	森　真一	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
どうしてこの国は「無言社会」となったのか	単著	2013年 1月	(産学社)		
友だちは永遠じゃない　-社会学でつながりを考える	単著	2014年11月	(筑摩書房)		
論文					
社会学するとはどういうことか	単著	2015年10月	ソシオロジ(社会学研究会) 60(2)		115-121頁
ネット社会のわるくち	単著	2015年11月	児童心理(金子書房) 69(16)		41-46頁
その他					
時代が求める「やさしさ」とは～現代の「やさしさ」と特徴と課題	-	2012年 4月	住まいと電化　2012年4月号(日本工業出版)		1-5頁
なぜ“コミュニケーション”なのか	-	2012年10月	平成24年度三重県高等学校生徒指導連絡協議会第1分科会		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1992年 5月～現在に至る	日本社会学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
社会学部社会学科	講師	横田　修	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
表現コミュニケーション（演劇ワークショップ１・２）	2015年春・秋学期より	今、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な力」、いわゆる「社会人基礎力」が求められている。この授業は、演劇ワークショップおよび集団での作品創作を通じて、課題発見力、計画力、創造性、主体性、コミュニケーション力、柔軟性などの「社会人基礎力」の能力要素を体得することを目指している。さらに、イベントのプロデュースの方法やワークショップの手法を、作品創作の過程で学ぶことができる。
2　作成した教科書、教材、参考書		
神奈川県立相模原青陵高等学校パフォーミングアーツ発表会 上演台本	2012年～2014年	パフォーミングアーツ発表会の実施に際し、以下の上演台本を作成。 「美女と野獣」原作・ボーモン夫人（2012年度） 「転校生」作・平田オリザ／潤色（2013年度） 「銀河鉄道の夜」作・平田オリザ／潤色（2014年度）
pafe.ＧＷＣ 第九回学習院女子大学パフォーミングアーツフェスティバル 上演台本 「女子大生100年日記」 その③「40歳の女子大生-女子学生2020-」	2013年11月	「女子大生100年日記」は、1920年、1970年、2020年の大学を舞台に3名のアーティストが創作した30分ほどの小作品を、会場を移動しながら鑑賞する演劇プログラム。学習院女子大学の学生達が立案した企画に向けて、３作目の上演台本を作成。 作品１.「放課後 女子大生1920」 作：古川健（劇団チョコレートケーキ） 作品２.「こうしてワタシは完全になる -1969年 ある女子大生が書いた日記より-」作・演出：小池竹見（双数姉妹） 作品３.「40歳の女子大生-女子学生2020-」 作・演出：横田修（タテヨコ企画）
桜美林大学　GALA Obirin 2014 スタッフ企画「不思議の国のアリス」上演台本	2014年5月	GALA Obirinとは桜美林大学芸術文化学群の学生が主体となり、企画・運営する舞台芸術祭。スタッフ企画は、スタッフワークに興味ある学生へのワークショップと、それに付随するカタチでの舞台公演がセットになった企画。舞台公演の上演台本を作成した。
pafe.ＧＷＣ 第十回学習院女子大学パフォーミングアーツフェスティバル 「鏡の国のアリス」上演台本	2014年11月	pafe.ＧＷＣとは、プロの演劇人と学習院女子大学の学生がタッグを組み企画運営する演劇フェスティバル。この年は学習院女子大学の学生達と演劇作品を創作し、前年に引き続き企画全般についてのアドバイザーも担当。プロのアーティストと共に、一般の鑑賞に堪えうる作品創作をする中で、学生達はアートの楽しさと厳しさの両面を体験することができる。尼ヶ崎彬教授の講義「国際文化交流演習Ⅱ（演劇）」にてゲスト講師も務めた。 主催：学習院女子大学
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
神奈川県立相模原青陵高等学校パフォーミングアーツ発表会	2012年～2014年	非常勤講師として担当した授業の発表会。生徒達は、本番と、本番に向けた稽古の中で、精一杯の舞台表現に挑戦する。その過程で、他者と協働する力を研きながら、自分のアタマで考えて実践することを学ぶ。 主催：神奈川県立相模原青陵高等学校
市民参加企画・群読音楽劇「銀河鉄道の夜」	2012年 8月～2014年8月	市民参加企画へ参画（演出助手）。学生と市民が交流する中で、普段出会う機会の少ない様々な立場の人たちと共同して豊かな関係性を築き、チームのために尽力する、社会人基礎力を磨く上で有意義な経験を積むことができる。平成25、26年度は文化庁の『大学を活用した文化芸術推進事業』に採択された。 主催：桜美林大学パフォーミングアーツ・インスティテュート 共催：公益財団法人相模原市民文化財団
東京演劇大学連盟 「わが町」	2013年9月	東京演劇大学連盟は、演劇大学における演劇の実技教育および舞台芸術創造の体系化構築をめざし、共同制作公演を実施するなど、実践的な舞台創作の機会を共有することを目指して、単一の大学の枠を越えた演劇系教員の横の繋がりから生まれた連盟である。「わが町」は、文化庁委託事業「平成25年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」による演劇系５大学が共同で演劇作品を製作するプロジェクトの第一弾であり、東京演劇大学連盟が推進する目玉プロジェクト。学生達は夏休みのすべてを稽古時間に充て、上質な舞台作品の創造に寄与し、さらに他大学の学生達との交流から、より広い視野を持って社会の中にある生きた演劇活動を体験することができる。桜美林大学の担当教員として、オーディションにより選抜された学生を率いて参画した。 主　　催　文化庁／日本大学 共　　催　東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 後　　援　東京演劇大学連盟
pafe.ＧＷＣ 第九回学習院女子大学パフォーミングアーツフェスティバル 「女子大生100年日記」	2013年11月	pafe.ＧＷＣとは、プロの演劇人と学習院女子大学の学生がタッグを組み企画運営する演劇フェスティバル。演劇作品を創作・提供し、さらに企画全般についてのアドバイザーも担当。学生達は、プロのアーティストの創作活動へ接しながらイベントの企画・進行を担当していく中で、本来アートの持つ「人々を繋げる力」を経験的に学習できる。尼ヶ崎彬教授の講義「国際文化交流演習Ⅱ（演劇）」にてゲスト講師も務めた。履修者はpafe.ＧＷＣサポートスタッフとして参加している。 主催：学習院女子大学

3781

桜美林大学　GALA Obirin 2014 スタッフ企画「不思議の国のアリス」	2014年5月	GALA Obirinとは桜美林大学芸術文化学群の学生が主体となって企画・運営する舞台芸術祭。スタッフ企画は、スタッフワークに興味ある学生へのワークショップと、それに付随するカタチでの舞台公演がセットになった企画。小さいながらも実際の演劇公演そのものを素材にレクチャーを実施することで、より実践的な学びの場が学生に提供される。舞台公演の作・演出を担当した。 主催： GALA Obirin 2014実行委員会
東京演劇大学連盟 「見よ、飛行機の高く飛べるを」	2014年9月	東京演劇大学連盟は、演劇大学における演劇の実技教育および舞台芸術創造の体系化構築をめざし、共同制作公演を実施するなど、実践的な舞台創作の機会を共有することを目指して、単一の大学の枠を越えた演劇系教員の横の繋がりから生まれた連盟である。「見よ、飛行機の高く飛べるを」は、文化庁委託事業「平成26年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」による演劇系５大学が共同で演劇作品を製作するプロジェクトの第二弾であり、東京演劇大学連盟が推進する目玉プロジェクト。学生達は夏休みのすべてを稽古時間に充て、上質な舞台作品の創造に寄与し、さらに他大学の学生達との交流から、より広い視野を持って社会の中にある生きた演劇活動を体感することができる。桜美林大学の担当教員として、オーディションにより選抜された学生を率いて参画した。 主　　催　文化庁／桐朋学園芸術短期大学 共　　催　東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 後　　援　東京演劇大学連盟
カナガワ リ・古典 プロジェクト　2014　江の島 関連企画・歴史ガイドツアー 「江の島道 タイムスリップ」	2014年 9月27日	かつて参詣客で賑わった江ノ島道を追体験する関連企画「江ノ島道タイムスリップ」のコーディネーターとして脚本を提供し出演者（学生）へ演技指導を行った。行政が芸術活動を通して市民生活を豊かにするべく活動を展開する機会に参画する中で、学生は芸術の社会的位置づけを経験的に学習することができる。 「カナガワ リ・古典 プロジェクト」とは、「マグカル（マグネットカルチャー）」事業の一環として、神奈川県にゆかりのある文化遺産を新しい発想で活用することで、現代を生きる文化芸術として”再（＝RE）”発信し、伝統文化の魅力を一人でも多くの方に体感していただくことを目指すイベント。 主催：かながわの伝統文化の継承と創造プロジェクト実行委員会
pafe.ＧＷＣ 第十回学習院女子大学パフォーミングアーツフェスティバル 「鏡の国のアリス」	2014年11月	pafe.ＧＷＣとは、プロの演劇人と学習院女子大学の学生がタッグを組み企画運営する演劇フェスティバル。この年は学習院女子大学の学生達と演劇作品を創作し、前年に引き続き企画全般についてのアドバイザーも担当。プロのアーティストと共に、一般の鑑賞に堪えうる作品創作をする中で、学生達はアートの楽しさと厳しさの両面を体験することができる。尼ヶ崎彬教授の講義「国際文化交流演習Ⅱ（演劇）」にてゲスト講師も務めた。 主催：学習院女子大学
pafe.ＧＷＣ 第十回学習院女子大学パフォーミングアーツフェスティバル 招聘公演・タテヨコ企画WEST「待たない人々」	2015年12月	pafe.ＧＷＣとは、プロの演劇人と学習院女子大学の学生がタッグを組み企画運営する演劇フェスティバル。この年は劇団の公演が招聘された。学生達は公演のサポートスタッフとして参画することで、プロの現場の楽しさと厳しさを体験的に学習することができる。尼ヶ崎彬教授の講義「国際文化交流演習Ⅱ（演劇）」にてゲスト講師も務めた。履修者はpafe.ＧＷＣサポートスタッフとして参加している。 主催：学習院女子大学
４　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
演劇の基礎	-	2013年 5月	演劇体験Ⅰ(神奈川県藤沢市)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1999年10月～現在に至る	劇団タテヨコ企画
2013年11月～現在に至る	pafe.ＧＷＣ 学習院女子大学パフォーミングアーツフェスティバル
2014年 4月～現在に至る	日韓ディレクターズMembership Training
2014年 9月～2014年 9月	歴史ガイドツアー 「江の島道 タイムスリップ」カナガワ リ・古典プロジェクト　2014　江の島

心理学部

＜心理学科＞

荒井　崇史　(169)
荒木　浩子　(172)
石王　敦子　(173)
乾　敏郎　(175)
浦　光博　(183)
大神田　麻子　(186)
金政　祐司　(188)
河﨑　美保　(192)
倉西　宏　(194)
駿地　眞由美　(196)
瀧端　真理子　(197)
田中　秀明　(199)
田邊　亜澄　(200)
辻　　潔　(201)
中鹿　彰　(202)
永野　浩二　(204)
中村　このゆ　(206)
馬場　天信　(209)
東　正訓　(212)
鋒山　泰弘　(215)
増井　啓太　(217)
三川　俊樹　(219)
溝部　宏二　(221)
吉村　晋平　(224)

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	講師	荒井　　崇史	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
心理学実験用プログラムの作成と活用	2010年 4月 1日 ～2012年 3月31日	筑波大学の学部学生や卒業論文執筆学生へのアドバイス及び補助として，InquisitやSuperLabなどの実験用プログラムを書く経験を有する。また，自分自身の研究についても，実際に実験研究を行う際にプログラムを書き，活用してきた。
Web（e-learning）による教材の公開	2011年 4月 1日 ～現在に至る	担当授業の各講義教材については，Web上で公開し，履修学生が自由に復習できるようにした。
2　作成した教科書、教材、参考書		
2016年度版　心理学検定　公式問題集　10［B領域：犯罪・非行］解説	2016年 3月31日 ～現在に至る	心理諸学会連合心理学検定局の主催する心理学検定の公式問題集にて，犯罪・非行領域出題の問題について解説を行い，学習者の理解を高めるための資料を作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
教育システム情報学会第5回研究会でのLMS開発に関する発表	2015年 1月10日	大阪産業大学にて開催された教育システム情報学会第5回研究会にて，本学LMS機能として開発したソフトウェアに関して連名にて発表を行った（原田章・荒井崇史・岩渕亜希子・杤尾 真一・長尾 俊明・平治彦（2015）時系列表示を中心とした、タブレット利用を前提とするLMSの開発　教育システム情報学会第5回研究会，大阪産業大学，2015年1月10日）
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
スタンダード社会心理学	共著	2012年12月	スタンダード社会心理学（サイエンス社）	＜執筆分担者＞遠藤公久，今野裕之，川上直秋，宮本聡介，日比野桂，荒井崇史，原奈津子，渡部麻美，相羽美幸，高橋尚也，大石千歳，藤桂，佐藤広英，宇井美代子，尾野裕美，道谷里英，関谷大輝，畑中美穂	83-92頁
2016年度版　心理学検定　公式問題集	共著	2016年 3月	（実務教育出版）	日本心理学諸学会連合心理学検定局	61-64頁
論文					
犯罪不安と一般的信頼との関連―犯罪被害に対する楽観視との比較を通して―（査読付）	単著	2013年 3月	犯罪心理学研究(日本犯罪心理学会) 50(1)		15-25頁
犯罪及び防犯に関する情報探索の規定因―インターネット上の情報探索―（査読付）	共著	2013年 6月	心理学研究(日本心理学会) 84(2)	荒井　崇史・藤　桂・吉田　富二雄	83-92頁
その他					
What causes the repetitive victimization of dating violence? From the perspective of social isolation and loneliness.	–	2012年 7月	20th International Society for Research on Aggression World Meeting,(University of Luxembourg)	Arai. T., Miura, E., & Yoshida, F.	
交際相手からの反復的暴力をもたらす要因―社会的孤立及び孤独感の観点からの検討―	–	2012年 9月	日本心理学会第76回大会(専修大学)	荒井崇史・三浦絵美・吉田富二雄	
女子大生の犯罪予防行動と犯罪被害	–	2012年 9月	日本犯罪心理学会第50回大会(大正大学)	島田貴仁・荒井崇史	
犯罪不安が対人関係に及ぼす影響	–	2012年 9月	日本犯罪心理学会第50回大会(大正大学)		
自転車利用者に対するひったくり防止カバー配布実験	–	2012年 9月	日本心理学会第76回大会(専修大学)	島田貴仁・荒井崇史	
交際相手からの暴力（Dating Violence）被害経験尺度の作成	–	2012年11月	日本社会心理学会第53回大会(筑波大学)	相羽美幸・荒井崇史	

犯罪情報への接触が犯罪不安に及ぼす影響―閾下接触の効果―	-	2012年11月	日本社会心理学会第53回大会(筑波大学)	荒井崇史・吉田富二雄	
『Dating Violence』の定義と測定をどう捉えるか？	-	2013年 9月	日本心理学会第77回大会(北海道コンベンションセンター)		
交際相手からの暴力の許容をもたらす要因―自尊感情及び自己犠牲的態度の観点からの検討―	-	2013年 9月	日本心理学会第77回大会(北海道（札幌コンベンションセンター）)		
大学生の犯罪者ステレオタイプに関する研究―刑務所出所者への排斥に注目して―	-	2013年 9月	日本犯罪心理学会第51回大会(大阪教育大学)	柳本理佐・荒井崇史	
対人コミュニケーションが犯罪不安に及ぼす影響	-	2013年 9月	日本犯罪心理学会第51回大会(大阪教育大学)		
The effects of anxiety about crime on interpersonal relationships.	-	2013年11月	The 69th Annual Meeting of the American Society of Criminology(Atlanta, Georgia)		
警察への信頼の規定要因の検討	-	2013年11月	日本社会心理学会第54回大会(沖縄国際大学)		
基調講演③　警察の情報発信と市民の行動―心理学的観点からのアプローチ	-	2014年	警察学論集 67(9)	警察政策研究センター	113-128頁
小学生をもつ母親の回復環境―ストレッサーとパーソナリティ傾向との関係―	-	2014年 3月	日本発達心理学会第25回大会(京都大学)		
小学生をもつ母親の回復環境とその選択に関わる要因の検討	-	2014年 3月	日本環境心理学会第7回大会(白鴎大学)		
Why do the victims accept the violence from the dating partner? From the perspective of loneliness and self-esteem.	-	2014年 5月	The 26th Annual Meeting of the Association of Psychological Science.(San Francisco, California.)		
What Causes the Dating Violence? Consideration from the Preventive Perspective.	-	2014年 6月	Asian Criminological Society 6th Annual Conference.(Osaka University of Commerce; Osaka, Japa)		
警察活動への接触が犯罪不安に及ぼす影響	-	2014年 7月	日本社会心理学会第55回大会(北海道大学)		
不平等意識が他者への信頼および敵意に及ぼす影響	-	2014年 9月	日本心理学会第78回大会(同志社大学)		
交際相手からの暴力（Dating Violence）被害の進展プロセス	-	2014年 9月	日本心理学会第78回大会(同志社大学)	相羽美幸・荒井崇史	
絶望感が怒り表出に及ぼす影響	-	2014年 9月	日本犯罪心理学会第52回大会(早稲田大学)		
自転車のツーロック行動の継続に影響する要因―脅威アピールによる犯罪予防行動の促進（5）―	-	2014年 9月	日本行動計量学会第42回大会(東北大学)	島田貴仁・荒井崇史	
計画的行動理論に基づく防犯行動促進要因の検討	-	2014年 9月	日本心理学会第78回大会(同志社大学)	菱木智愛・荒井崇史	
サクセスフル・サイコパスへの第一の条件―日本語版Self-Report Psychopathy Scale 短縮版の開発を通して―	-	2015年 9月	日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場)	柳田宗孝・荒井崇史・藤桂	
過去の暴力行為と暴力への潜在的態度との関連	-	2015年 9月	日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場)		
防犯行動促進要因の検討―計画的行動理論の観点からの検討―	-	2015年 9月	日本犯罪心理学会第53回大会(東北大学)		
Ⅲ　学会等および社会における主な活動					

年月	内容
2002年 6月～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員
2002年 6月～現在に至る	日本心理臨床学会(国内学会)会員
2003年 3月～現在に至る	日本カウンセリング学会(国内学会)会員
2007年 3月～現在に至る	日本犯罪心理学会(国内学会)会員
2007年 3月～現在に至る	日本社会心理学会(国内学会)会員
2008年 4月～現在に至る	Society for Personality and Social Psychology(国際学会)会員
2010年 4月 1日～現在に至る	公益財団法人　日工組社会安全研究財団　「ストーカーの被害実態に関する調査研究会」 研究会員
2011年 9月～2012年11月	日本社会心理学会(国内学会)第53回大会準備委員
2012年～現在に至る	日本環境心理学会(国内学会)会員
2012年 9月～2013年 9月	日本犯罪心理学会(国内学会)第51回大会準備委員
2012年11月	特別公開講座　追手門学院大学社会人教室　おうてもん塾【第２期】「心のカラクリを探求する　講師
2012年11月	防犯実務専科教養　犯罪情勢分析サブコース　講師（心理学から見た効果的な情報発信）
2013年 1月～現在に至る	American Psychological Association(国際学会)会員
2013年 6月	防犯実務専科教養　犯罪情勢分析サブコース　講師（心理学から見た効果的な情報発信）
2013年12月	2013年度高大連携プログラム　追手門学院大手前高校1年生対象　「大学での学び」
2014年～現在に至る	Association for Psychological Science(国際学会)会員
2014年 3月	社会安全・警察学研究所ミニシンポジウム　社会安全のための警察と市民の間の情報循環　コメンテーター（心理学の観点から）
2014年 3月	第3回全国青パトフォーラム　in　福岡　分科会講師（心理学的に見た活動評価）
2014年 3月	警察政策フォーラム　メディア社会における警察の情報発信―事件検挙等につながる市民との協働関係の構築に向けて―　基調講演（警察の情報発信と市民の行動：心理学的観点からのアプローチ）
2014年 6月	夢ナビLive　講師（犯罪の心理学）
2014年 6月～現在に至る	日本感情心理学会(国内学会)会員
2014年 6月	防犯実務専科教養　犯罪情勢分析サブコース　講師（心理学から見た効果的な情報発信）
2014年 9月	大阪電気通信大学高等学校模擬授業（高大連携事業）
2014年10月	特別公開講座　追手門学院大学社会人教室　おうてもん塾【第２期】「使える心理学」　講師
2014年11月	神戸家庭裁判所調査官研修　講師（非行・犯罪の社会心理学）
2014年12月	「茨木中高、大手前中高、大学の懇談会（AP科目の現況と課題～来年度に向けて）」への出席
2015年 1月～現在に至る	心理学諸学会連合検定局(国内その他)検定局員
2015年 4月 1日～2016年 3月31日	公益財団法人　日工組社会安全研究財団　「ストーカーの被害実態に関する調査研究会」 研究会員
2015年 5月～2016年 3月	公益財団法人　日工組社会安全財団　ストーカー事案の被害実態等に関する調査研究　研究会員
2015年 6月～2016年 6月	日本感情心理学会(国内学会)第24回大会準備委員
2015年 6月	防犯実務専科教養　犯罪情勢分析サブコース　講師（心理学から見た効果的な情報発信）
2015年 7月	第10回　高校生のための大学フェア大阪2015　講師（犯罪の心理学）
2015年 8月	2015（平成27）年度　追手門学院大学教員免許状更新講習　講師（学校教育で使える心理学）
2015年 9月	東京都青少年・治安対策本部　情報の発信・共有に関する検討会　講師
2015年10月	全国地域安全運動　茨木キャンペーン　講師（安全・安心まちづくりのポイント）
2015年10月	特別公開講座　追手門学院大学社会人教室　おうてもん塾【第２期】「まちづくり」講座　講師
2015年12月～現在に至る	日本犯罪心理学会(国内学会)研究委員
2016年 3月	フジテレビ「直撃LIVEグッディ！」

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	講師	荒木　　浩子	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
学生相談室年報　第22号　2011年度　追手門学院大学学生相談室	2012年12月	学生相談室の活動のまとめ、論文など
保護者のためのガイドブック	2013年 4月 ～2014年 3月	学生相談室から発行 学生の保護者向けに、学生対応や大学の組織などについてのガイドブック
教職員のためのガイドブック	2013年 4月 ～2014年 3月	追手門学院大学　学生相談室　から発行 学生対応についての教職員のためのガイドブック
学生相談室年報　第23号　2012年度　追手門学院大学学生相談室	2013年12月	学生相談室の活動のまとめと、論文など
学生相談室年報　第24号　2013年度　追手門学院大学学生相談室	2014年12月	学生相談室の活動のまとめと、論文など
学生相談室年報　第25号　2014年度　追手門学院大学学生相談室	2015年12月	学生相談室の活動のまとめと、論文など
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
自分の感覚に向き合うこと	単著	2015年 2月	創造の臨床事例研究(ＦＪＫ) 11		95-106頁
その他					
セラピストの気づき体験について	-	2013年 2月	創造の臨床事例研究 9		121-130頁
自分の感覚を明確化された20代女性との面接過程	-	2014年10月	日本箱庭療法学会　第28回大会(東洋英和女子大学)		
発達障害を抱える学生への支援	-	2014年12月	人権研修会　（学生相談室担当分）（追手門学院大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2003年～現在に至る	日本心理臨床学会(国内学会)会員
2004年～現在に至る	箱庭療法学会(国内学会)会員
2012年 9月～2012年10月	茨木市子ども育成部学童保育課学童指導員研修講師
2012年12月～2013年 8月	日本キャリア開発協会JCDA試験委員
2015年 4月～現在に至る	厚生労働科学研究費補助金：ＨＩＶ陽性者の心理的支援の重要性に関する検討　共同研究者
2016年 2月～2016年 2月	関西学生相談研究会27年度第2回大会を追手門学院大学にて開催

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	教授	石王　　敦子	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
書き込み式レジュメ	1997年 ～現在に至る	担当している全授業において毎回書き込み式レジュメを用意している。あらかじめレジュメを用意することで授業の全体の流れを把握させることができる。重要な点のみを書き込み式で書かせることによって、授業に集中させポイントを押さえることができる。また無駄な板書をさせることがないので、各自の学習進度がそろう。このレジュメは、授業評価においても評判がよい。
実験を取り入れた授業	1999年 4月 ～現在に至る	記憶や知覚を扱う認知心理学や一般心理学（心の科学）の授業では、簡単な実験を授業中にして、その働きを実感させることが多い。大人数や少人数に応じて、授業中に簡単にデータがとれように実験を工夫して作成している。学生には、「経験した方がわかりやすい」と好評である。
2　作成した教科書、教材、参考書		
PPTによる教材の作成:認知心理学	2013年 4月 1日 ～現在に至る	認知心理学の授業においてPPTを使用し、授業中の実験も簡単に行えるようにした。
PPTによる教材の作成：感情心理学	2013年 4月 1日	感情心理学の授業においてPPTを作成し、授業中の実験が簡単に行えるようにした。
心理学実験プログラムの作成	2013年 4月 1日	授業中に学生の理解を深めるために行う心理学実験の作成を多数行った。毎年新しい物を作成して付け加えている。
発達と教育の心理学	2014年 4月 1日	教職免許に必須の「発達と教育」領域についての教科書である、認知心理学領域を執筆した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
発達と教育の心理学	共著	2014年 4月	(八千代出版株式会社)	三浦正樹・高木典子・三溝雄史・石王敦子	109-136頁
論文					
子育て支援－子どもの安全を考える－	共著	2013年 3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要	石王敦子・落合正行	62-74頁
老年期における発達心理学的諸問題	共著	2013年 3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要（９）	落合正行・石王敦子	73-83頁
認知発達理論の変遷１－Piaget理論から新Piaget派理論まで－	共著	2013年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 ７	落合正行・石王敦子	１-１９頁
2014　乳児期における認知構築過程―核となる知識の獲得メカニズムの検討―	共著	2014年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 8	落合正行・石王敦子	13-30頁
二言語併用者の自伝的記憶	単著	2014年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 8		1-12頁
二つのことばを話す心	単著	2015年 3月	追手門学院大学心の教育研究所紀要 1		105-120頁
認知発達理論の変遷２－理論説から合理的構成主義まで－	共著	2015年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 9	◎落合正行・石王敦子	１-20頁
その他					
方向課題におけるストループ干渉	–	2012年 9月	日本心理学会第76回大会(専修大学)		
ストループ干渉干渉研究の現在	–	2013年 9月	日本心理学会第77回大会(北海道医療大学)	九州大学：箱田祐司、佐々木めぐみ、神戸大学：嶋田博之、芦高勇気	
表情課題におけるストループ干渉	–	2014年 9月	日本心理学会第78回大会(同志社大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1986年～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員
1986年～現在に至る	日本教育心理学会(国内学会)会員
1989年～現在に至る	日本発達心理学会(国内学会)会員
1993年～現在に至る	関西心理学会(国内学会)会員

2000年～現在に至る	日本基礎心理学会(国内学会)会員
2004年～現在に至る	日本認知心理学会(国内学会)会員
2004年 4月～現在に至る	関西心理学会(国内学会)委員
2012年 4月～2013年 3月	日本教育心理学会(国内学会)教育心理学年報編集委員
2013年 4月～2014年 3月	日本教育心理学会(国内学会)教育心理学年報副編集長
2013年 5月	臨床発達心理士指定科目「言語」講習会講師
2013年12月	追手門学院大学教育研究所「こころの教育」連続講演会で講演「二つのことばを話すこころ」 2013年12月20日13:30～15:00　於：大阪城スクエア
2014年 1月～現在に至る	日本発達心理学会(国内学会)発達心理学研究編集委員
2014年 4月～2015年 3月	日本教育心理学会(国内学会)教育心理学年報編集長

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	教授	乾　敏郎	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
脳科学からみる子どもの心の育ち－認知発達のルーツをさぐる	単著	2013年10月	(ミネルヴァ書房)		
認知心理学ハンドブック	共著	2013年12月	(有斐閣)	栗生修司らほか250名	2-5, 268-269頁
誠信心理学辞典	共著	2014年 9月	(誠信書房)	朝倉暢彦らほか145名	104-106頁
発達科学ハンドブック 8 脳の発達科学	共著	2015年 6月	(新曜社)	榊原 洋一, 小西 行郎, 森口 佑介, 齋藤 大輔, 瀧 靖之, 田中 悟志, 櫻井 芳雄, 入戸野 宏, 田邊 宏樹, 野村 理朗, 浅川 伸一, 野口 泰基, 船曳 康子, 嶋田 容子, 松田 佳尚, 皆川 泰代, 幕内 充, 佐藤 徳, 齋木 潤, 梅田 聡, 仲渡 江美, 月浦 崇, 田中 恭子, 清水 俊明, 和田 博美, 高橋 雄介, 安藤 寿康, 友田 明美, 藤原 広臨, 村井 俊哉, 小枝 達也	276-283頁
知識ベース	単著	2016年 2月	(一般社団法人電子情報通信学会)		21-27頁
『認知発達研究の理論と方法－私の研究テーマとそのデザイン』	単著	2016年 5月	(金子書房)		
論文					
3次元物体認識に関わる景観予測機能のモデル化.	共著	2012年11月	電子情報通信学会技術研究報告(一般社団法人電子情報通信学会) 112(298)	植野徹, 朝倉暢彦, 笹岡貴史	51-56頁
単文の意味的統合過程における脳波ダイナミクス.	共著	2012年12月	電子情報通信学会技術研究報告 112(345)	荒井翔真, 岩渕俊樹, 水原啓暁, 朝倉暢彦	89-94頁
イメージの生成と変換の脳内機構（査読付）	単著	2013年 1月	イメージ心理学研究(日本イメージ心理学会) 11(1)		1-8頁
How vision affects kinematic properties of pantomimed prehension movements. （査読付）	共著	2013年 2月	Frontiers in Psychology 4(44)	Fukui, T.	1-8頁
Toward a unified framework for understanding the various symptoms and etiology of autism and Williams syndrome. （査読付）	単著	2013年 2月	Japanese Psychological Research 55(2)		99-117頁

A functional MRI study of a picture-sentence verification task: evidence of attention shift to the grammatical subject. (査読付)	共著	2013年 4月	NeuroReport 24(6)	Iwabuchi, T., Ohba, M., Ogawa, K.	298-302頁
Utilization of visual feedback of the hand according to target view availability in the online control of prehension movements. (査読付)	共著	2013年 8月	Human Movement Science 32(4)	Fukui, T.	580-595頁
Role of the dorsolateral prefrontal cortex in recognizing hand actions performed in social contexts: a functional MRI study. (査読付)	共著	2013年10月	NeuroReport 24(14)	Shibata, H., Ogawa, K.	803-807頁
2次元心的回転における大域的ならびに局所的処理機構	共著	2013年12月	電子情報通信学会技術研究報告(一般社団法人電子情報通信学会) 113(374)	知念浩司,朝倉暢彦,笹岡貴史	63-68頁
Dynamic parieto-premotor network for mental image transformation revealed by simultaneous EEG and fMRI measurement. (査読付)	共著	2014年2月	Journal of Cognitive Neuroscience 26(2)	Sasaoka, T., Mizuhara, H.	232-246頁
Eye-hand coordination in on-line visuomotor adjustments. (査読付)	共著	2014年 5月	Neuroreport 25(7)	Abekawa, N., Gomi, H.	441-445頁
他者意図推定における自己・他者視点切り替え機構の検討.	共著	2014年11月	電子情報通信学会技術研究報告(一般社団法人電子情報通信学会) 114(326)	鈴木佐知歌,朝倉暢彦	67-72頁
心の理論のベイジアンネットワークモデル	共著	2014年11月	電子情報通信学会技術研究報告(一般社団法人電子情報通信学会) 114(326)	西尾直也,朝倉暢彦	73-78頁
聴覚フィードバックの遅延順応実験による吃音者の聴覚フィードバックと内部予測の問題の検討.	共著	2014年11月	電子情報通信学会技術研究報告(一般社団法人電子情報通信学会) 114(326)	飯村大智,朝倉暢彦,笹岡貴史	85-90頁
言語理解を可能にする左半球ネットワーク. (査読付)	単著	2014年12月	神経心理学(日本神経心理学会) 30(4)		284-295頁
An inferior temporal cortex model for object recognition and classification. (査読付)	共著	2014年12月	Scientific and Technical Information Processing 41(6)	Efremova, N. A	362-369頁
三次元物体認知における二つのプロセスの統合モデル	共著	2015年 7月	電子情報通信学会技術研究報告(一般社団法人電子情報通信学会) 115(148)	内田　昌希, 朝倉　暢彦	19-24頁
他者の行動推定と言語における階層性: fMRI実験による検討	共著	2015年 7月	電子情報通信学会技術研究報告(一般社団法人電子情報通信学会) 115(148)	岩渕　俊樹	25-30頁

Use of early phase online vision for grip configuration is modulated according to movement duration in prehension. (査読付)	共著	2015年 8月	Experimental Brain Research	Fukui, T	2257-2268頁
A computational model for aperture control in reach-to-grasp movement based on predictive variability. (査読付)	共著	2015年12月	Frontiers in Computational Neuroscience	Takemura, N., Fukui, T., and Inui, T	電子版のため頁なし http://dx.doi.org/10.3389/fncom.2015.00143
円滑なコミュニケーションを支える3つの機構と自閉症発症機構（査読付)	単著	2016年 2月	LD研究(日本LD学会) 25(1)		29-31頁
文理解における情報統合の脳内メカニズム：皮質脳波（ECoG）による検討	共著	2016年 3月	電子情報通信学会技術研究報告(一般社団法人電子情報通信学会) 115(514)	岩渕俊樹,平井真洋,横田英典,櫻田武,渡辺英寿	195-200頁
背景にある室内空間要因が対人認知に及ぼす影響: 初対面の人物に対する印象形成を対象として（査読付)	共著	2016年 5月	環境心理学研究(日本環境心理学会) 4(1)	石川敦雄,西田恵,渡部幹,山川義徳,楠見孝	1-14頁
その他					
新生児が親の顔を見るしくみ　連載　ヒトの認知発達ルーツをさぐる（五)	-	2012年 4月	究(ミネルヴァ書房)		11-16頁
自らの行動が生む外界の変化を学習する　ー随伴性と社会性　連載　ヒトの認知発達ルーツをさぐる（六)	-	2012年 5月	究(ミネルヴァ書房)		11-16頁
Natural object recognition with the view-invariant neural network.	-	2012年 6月	The Fifth International Conference on Cognitive Science(Russia)	Efremova, N., Asakura, N.	
予測的な運動機能と自己意識(1) ヒトの認知発達のルーツをさぐる(七)	-	2012年 6月	究(ミネルヴァ書房)		11-16頁
単文の意味的統合過程における脳波ダイナミクス	-	2012年 6月	日本認知心理学会第10回大会(岡山)	荒井　翔真, 岩渕　俊樹, 水原　啓暁, 朝倉　暢彦	
心的回転に関わる景観予測機能のGRBFネットワークモデル	-	2012年 6月	日本認知心理学会第10回大会(岡山)	植野 徹, 朝倉 暢彦	
物体の心的回転における運動学および動力学的拘束	-	2012年 6月	日本認知心理学会第10回大会(岡山)	朝倉　暢彦	
複文の構造処理に関する神経ネットワークの検討：fMRI研究	-	2012年 6月	日本認知心理学会第10回大会(岡山)	岩渕俊樹, 小川健二	
視点変換・心的回転に関わる脳内基盤の検討：fMRI研究.	-	2012年 6月	日本認知心理学会第10回大会(岡山)	笹岡　貴史	
予測的な運動機能と自己意識(2) ヒトの認知発達のルーツをさぐる(八)	-	2012年 7月	究(ミネルヴァ書房)		11-16頁

予測的な運動機能と自己意識(3) ヒトの認知発達のルーツをさぐる(9)	-	2012年 8月	究(ミネルヴァ書房)		11-16頁
イメージ生成と変換の脳内機構	-	2012年 9月	日本イメージ心理学会(仙台)		
予測的な運動機能と自己意識(4) ヒトの認知発達のルーツをさぐる(十)	-	2012年 9月	究(ミネルヴァ書房)		11-16頁
円滑な問主観的インタラクションを可能にする神経機構	-	2012年 9月	こころの未来(京都大学こころの未来研究センター)(9)		14-17頁
Cortical mechanisms underlying the processing of Japanese hierarchically embedded sentence structure.	-	2012年10月	The Fourth Annual Neurobiology of Language Conference(Spain)	Iwabuchi, T., Ogawa, K.	
Like-meシステムと模倣(1) ヒトの認知発達のルーツをさぐる(十一)	-	2012年10月	究(ミネルヴァ書房)		11-16頁
統合失調症の世界を形成する脳内メカニズム	-	2012年10月	日本精神病理・精神療法学会(福岡)		
認知-行為を支える脳のしくみ	-	2012年10月	近畿作業療法学会(大阪)		
Like-meシステムと模倣(2) ヒトの認知発達のルーツをさぐる(十二)	-	2012年11月	究(ミネルヴァ書房)		11-16頁
different-from-meシステム(1) ヒトの認知発達のルーツをさぐる(十三)	-	2012年12月	究(ミネルヴァ書房)(12)		11-16頁
身体化による認知と自閉症スペクトラム	-	2012年12月	日本感覚統合学会研究大会(京都)		
different-from-meシステム(2) ヒトの認知発達のルーツをさぐる(十四)	-	2013年 1月	究(ミネルヴァ書房)		11-16頁
言葉の芽生え (1)連載 ヒトの認知発達ルーツをさぐる (十五)	-	2013年 2月	究(ミネルヴァ書房)		11-16頁
言葉の芽生え(2)連載 ヒトの認知発達ルーツをさぐる (十六)	-	2013年 3月	究(ミネルヴァ書房)		11-16頁
身体的自己と他者理解を可能にする神経機構	-	2013年 3月	身心変容技法研究		83-86頁
認知発達過程再考.連載 ヒトの認知発達ルーツをさぐる (十七)	-	2013年 4月	究(ミネルヴァ書房)		10-15頁

Shared and different neural bases involved in perspective-taking and mental rotation: An fMRI study.	-	2013年 6月	Neuro2013(Kyoto)	Sasaoka, T.	
The cortical mechanisms for the processing of hierarchical structure in comprehension of complex sentences: An fMRI study.	-	2013年 6月	Neuro2013(kyoto)	Iwabuchi,T., Ogawa,K.	
単文の意味理解における位相ロッキングの機能的役割：EEG研究.	-	2013年 6月	日本認知心理学会第11回大会(茨城)	岩渕 俊樹, 荒井 翔真, 水原 啓暁, 朝倉 暢彦	
印象形成に対する背景空間の影響	-	2013年 6月	日本認知心理学会第11回大会(茨城)	石川 敦雄, 西田 恵, 山川 義徳, 渡部 幹	
日本語行為文における Action-sentence Compatibility Effect.	-	2013年 6月	日本認知心理学会第11回大会(茨城)	山村 祐介, 熊田 孝恒	
景観予測に基づき物体回転を学習するGRBFモデル	-	2013年 6月	日本認知心理学会第11回大会(茨城)	朝倉 暢彦, 植野 徹	
物体固有軸の曖昧性が心的回転に与える影響.	-	2013年 6月	日本認知心理学会第11回大会(茨城)	知念 浩司, 朝倉 暢彦, 笹岡 貴史	
行為の理解と文の意味理解―その脳内機構と発達障害―	-	2013年 6月	認知発達理論分科会第40回例会(大阪)		
視点変換・心的回転に関わる脳内基盤の検討 : fMRI研究(II	-	2013年 6月	日本認知心理学会第11回大会(茨城)	笹岡 貴史	
身体化による認知と自閉症スペクトラム（査読付）	-	2013年 8月	作業療法ジャーナル 47(9)		984-987頁
眼と腕の協調関係によって変化する視覚運動制御の情報処理	-	2013年 9月	第7回Motor Control研究会(東京)	安部川 直稔, 五味 裕章	
高次認知機能にも運動制御機能が重要	-	2013年10月	日本認知心理学会公開シンポジウム(京都)		
Effect of response alternatives on rapid on-line manual adjustments with different eye-hand coordination.	-	2013年11月	The Society for Neuroscience 43th Annual Meeting(U.S.A)	Abekawa N., Gomi H.	
催眠と瞑想の脳内機構(その1)	-	2014年 3月	身心変容技法研究 (3)		104-108頁
Neural mechanisms of embodied sentence comprehension: concrete/abstract understanding, perspective shift, and hierarchical processing.	-	2014年 5月	The 7th Conference on Language, Discourse, and Cognition(Taiwan)		

シミュレーション説に基づく心の理論のモデル	-	2014年 6月	日本認知心理学会第12回大会(宮城)	西尾　直也, 朝倉　暢彦	
ヒトのミラーニューロンシステム（査読付）	-	2014年 6月	BRAIN and NERVE 66(6)		647-653頁
吃音者の発話制御メカニズムの特性：順応による研究.	-	2014年 6月	日本認知心理学会第12回大会(宮城)	飯村　大智, 朝倉　暢彦, 笹岡　貴史	
心の理論における階層性の処理に関する検討	-	2014年 6月	日本認知心理学会第12回大会(宮城)	岩渕　俊樹	
行動系列の観察による他者の意図推定 I－迷路課題による検討－	-	2014年 6月	日本認知心理学会第12回大会(宮城)	鈴木　佐知歌,　朝倉　暢彦	
行動系列の観察による他者の意図推定II －動的ベイジアンネットワークによる定式化－	-	2014年 6月	日本認知心理学会第12回大会(宮城)	朝倉　暢彦,　鈴木　佐知歌	
視点取得機能に関わる脳内基盤の検討：fMRI研究	-	2014年 6月	日本認知心理学会第12回大会(宮城)	笹岡　貴史	
認知発達のルーツ：その後の展開	-	2014年 6月	認知発達理論分科会第43回例会(京都)		
聴覚フィードバックの遅延順応実験による吃音者の発話運動制御機構の検討	-	2014年 8月	日本吃音・流暢性障害学会第2回大会(埼玉)	飯村　大智, 朝倉　暢彦, 笹岡　貴史,	
脳科学における発達障害の理解	-	2014年10月	教育展望 60(10)		5-18頁
発達プロセスの認知脳科学的解明	-	2014年10月	日本認知心理学会公開シンポジウム(京都)		
他者意図推定における自己・他者視点切り替え機構の検討.	-	2014年11月	電子情報通信学会NC研究会(宮城)	鈴木 佐知歌, 朝倉　暢彦	
心の理論のベイジアンネットワークモデル	-	2014年11月	電子情報通信学会NC研究会(宮城)	西尾　直也, 朝倉　暢彦	
聴覚フィードバックの遅延順応実験による吃音者の聴覚フィードバックと内部予測の問題の検討	-	2014年11月	電子情報通信学会NC研究会(宮城)	飯村 大智, 朝倉 暢彦, 笹岡 貴史	
like-meシステムとdifferent-from-meシステムによる共感 －その構造と発達－	-	2015年 3月	日本発達心理学会第26回大会(東京)	橋彌和秀, 明和政子, 亀田達也, 小嶋秀樹, 金沢創	
自己を成立させる神経機構とその発達	-	2015年 3月	『私』の発達を考える発達科学・認知神経科学・人工知能・発達記号論の視座からの理論的検討(東京)	杉村伸一郎, 明和政子, 小島康次, 月本洋, 中垣啓, 加藤義信	
自由エネルギー原理に基づく催眠と瞑想の統一理論	-	2015年 3月	身心変容技法研究 (4)		176-183頁
三次元物体認知における二つのプロセスの統合モデル	-	2015年 7月	電子情報通信学会NC研究会(徳島)	内田昌希, 朝倉暢彦	
他者の行動推定と言語における階層性：fMRI実験による検討	-	2015年 7月	電子情報通信学会NC研究会(徳島)	岩測俊樹	
若い人達とともに	-	2015年 7月	情報学広報No.17(京都大学大学院情報学研究科)		3-4頁

皮質脳波（ECoG）を用いた文理解における脳活動ダイナミクスの検討	−	2015年 9月	第39回日本神経心理学会学術集会(札幌)	岩測俊樹, 平井真洋, 横田英典, 棲田 武, 渡辺英寿	
円滑なコミュニケーションを支える3つの機構と自閉症発症機構	−	2015年10月	日本LD学会第24回大会(福岡)		
文理解における情報統合の脳内メカニズム：皮質脳波（ECoG）による検討	−	2016年 3月	電子情報通信学会NC研究会(東京)	岩測俊樹,平井真洋,横田英典,櫻田 武,渡辺英寿	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1976年 4月～現在に至る	電子情報通信学会(国内学会)会員
1978年～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員
1980年～現在に至る	日本神経眼科学会(国内学会)会員
1991年～2015年	日本神経眼科学会(国内学会)評議員
1997年～現在に至る	日本神経心理学会(国内学会)会員
2000年～現在に至る	日本ヒト脳機能マッピング学会　運営委員
2000年 4月～現在に至る	日本ヒト脳機能マッピング学会(国内学会)会員
2000年 4月～現在に至る	日本ヒト脳機能マッピング学会(国内学会)運営委員
2002年～現在に至る	日本神経心理学会(国内学会)編集委員
2003年～現在に至る	日本神経心理学会(国内学会)理事
2003年 4月～現在に至る	日本認知心理学会(国内学会)会員
2006年 4月～現在に至る	電子情報通信学会(国内学会)ヒューマンコミュニケーショングループ　アドバイザリ委員
2007年 4月～2013年 3月	文部科学省　情報科学技術委員会　委員
2008年～2014年	第21期日本学術会議　連携会員
2009年 4月～現在に至る	日本認知心理学会(国内学会)常務理事
2010年 4月～現在に至る	日本高次脳機能障害学会(国内学会)会員
2010年 4月～現在に至る	日本高次脳機能障害学会(国内学会)代議員
2012年 4月	予測とイメージ化に関する脳内メカニズム　（ＮＥＸＣＯ中日本本社会議室）
2012年 4月	健康なこころを支える脳のしくみ　（京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホール　京都）
2012年 4月～現在に至る	日本発達神経科学学会(国内学会)会員
2012年 4月～現在に至る	日本発達神経科学学会(国内学会)理事
2012年 9月	イメージ生成と変換の脳内機構（東北大学　片平さくらホール　仙台）
2012年10月	統合失調症の世界を形成する脳内メカニズム（九州大学　福岡）
2012年10月	認知-行為を支える脳のしくみ（大阪国際交流センター　大阪）
2012年12月	自己意識とイメージ（京都大学稲盛財団記念館　京都）
2012年12月	身体化による認知と自閉症スペクトラム（京都テルサ　京都）
2013年 1月	コミュニケーションを支える三つの脳内機構（豊洲センタービル 10Fセミナールーム　東京）
2013年 6月	行為の理解と文の意味理解―その脳内機構と発達障害―（追手門学院大阪梅田サテライトゼミ室　大阪）
2013年 6月～現在に至る	電子情報通信学会(国内学会)ソサエティ論文誌編集委員会　査読委員
2013年 8月	1歳までの認知発達の神経基盤　（京都大学稲森財団記念館3F大会議室　京都）
2013年 8月	ことばを理解する脳の仕組み　（京都大学総合研究8号館3階NSホール　京都）
2013年 8月	円滑なコミュニケーションを支える脳機構に関する諸問題（京都教育大学1号館B棟2階B6教室　京都）
2013年 9月	角回の機能について考える（名古屋大学大学院医学系研究科　愛知）
2013年 9月	高次認知機能と身体性　（京都大学稲森財団記念館3F大会議室　京都）
2013年10月	高次認知機能にも運動制御機能が重要（京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール　京都）
2013年11月	他者を知り、共鳴する脳　（こころ塾2013　第4回「分かり合うこころ」　京都大学稲森財団記念館3F大会議室　京都）
2013年11月	円滑なコミュニケーションを実現する3つのシステム　（NTT厚木研究開発センター　神奈川）
2013年11月	言語・非言語コミュニケーションの神経機構　（京都大学稲森財団記念館3F大会議室　京都）
2014年 1月	コミュニケーションを支える三つの脳内機構　（豊洲センタービル10Fセミナールーム　東京）
2014年 1月	瞑想と催眠の脳内機構　（上越教育大学　自然棟309室　新潟）
2014年 2月	瞑想と催眠のメカニズムの認知神経科学　（京都大学稲盛財団記念館　京都）
2014年 2月	脳科学からみる子どもの心の育ち～最新の脳科学が子どもの発達の秘密を解き明かす～　（海南文化館 大会議室　徳島）
2014年 3月	自閉症神経機構の統一理論（東京大学駒場キャンパス ENEOSホール　東京）
2014年 4月～現在に至る	日本発達心理学会(国内学会)会員
2014年 4月～現在に至る	日本発達心理学会(国内学会)認知発達理論文化会幹事
2014年 4月	言語・非言語コミュニケーションの脳内機構：感性イノベーションへの応用　（広島大学霞キャンパス広仁会館2F大会議室　広島）
2014年 6月	認知発達のルーツ：その後の展開（京都大学芝蘭会館別館　京都）
2014年 8月	脳科学から見る発達障害　（浜離宮朝日ホール　東京）
2014年 8月	脳科学における発達障害の理解　（アルカディア市ヶ谷　東京）
2014年 9月	コミュニケーション機能の神経機構と発達障害　（京都大学こころの未来研究センター　京都）
2014年 9月	身体性の脳内機構：体でわかることの大切さ　（京都大学こころの未来研究センター　京都）
2014年10月	初期認知発達研究の現状と展望　（東京大学武田ホール(武田先端知ビル5F)　東京）
2014年10月	発達する脳内ネットワークと発達障害　（仙台国際センター　宮城）
2014年10月	発達プロセスの認知脳科学的解明　（京都女子大学　京都）
2014年10月	瞑想と催眠の脳内機構Ⅱ　（上越教育大学　新潟）

3778

2014年11月	1歳までの認知発達の神経基盤　（京都大学こころの未来研究センター　京都）
2014年11月	あの人のことがわかる心のはたらきー他者理解の脳内機構とその障害ー　（ホテル福岡ガーデンパレス　福岡）
2014年11月	他者を知り、共鳴する脳と発達障害　医療専門職対象(4)（京都大学こころの未来研究センター　京都）
2014年11月	他者を知り、共鳴する脳と発達障害　教員対象(B-2)（京都大学こころの未来研究センター　京都）
2014年11月	言語・非言語コミュニケーションの神経機構　（京都大学こころの未来研究センター　京都）
2014年11月	身体性の脳内機構：体でわかることの大切さ　教員対象(B-1)（京都大学こころの未来研究センター　京都）
2014年11月	高次認知機能と身体性　（京都大学こころの未来研究センター　京都）
2014年12月	コミュニケーションを支える三つの脳内機構　（エッサム本社ビル3階グリーンホール　東京）
2014年12月	自由エネルギー原理に従う高次認知機構とその発達　（北海道大学医学部学友会館フラテ・ホール　北海道）
2015年～2016年	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
2015年～2016年	日本神経心理学会(国内学会)第40回日本神経心理学会学術集会プログラム委員
2015年～現在に至る	日本認知心理学会(国内学会)認知心理学叢書　編集委員
2015年	金沢工業大学外部評価委員
2015年 2月	前頭前野と大脳基底核の役割　（森ノ宮病院2Fウッディホール　大阪）
2015年 2月	感情研究の現在：自己存在感との関係について（京都教育大学B棟2階　B5教室 京都）
2015年 2月	脳の発達メカニズムと発達障害　（神戸市勤労会館　兵庫）
2015年 3月	like-meシステムとdifferent-from-meシステムによる共感 ーその構造と発達ー（東京大学本郷キャンパス　東京）
2015年 3月	自己を成立させる神経機構とその発達　『私』の発達を考える　発達科学・認知神経科学・人工知能・発達記号論の視　座からの理論的検討」（東京大学本郷キャンパス　東京）
2015年 4月～現在に至る	日本高次脳機能障害学会(国内学会)理事
2015年 4月	言語理解を可能にする左半球ネットワーク（自治医科大学　埼玉）
2015年 4月	認知機能のシステム的理解ーHelmholtzの手の上で40年　（コンポン研究所　愛知）
2015年 5月	ヒトの社会性の発達とその脳内機構（トヨタ自動車名古屋本社　愛知）
2015年 6月	円滑なコミュニケーションを支える神経機構とその疾患　（清水テルサ・テルサホール　静岡）
2015年 8月	2014年度社会認知神経科学の展開の成果概要　（産業技術記念館ホールC　名古屋）
2015年 8月	あの人の心がわかる脳の仕組み（追手門学院大学　大阪）
2015年 8月	脳科学からみる子どもの心とことばの育ち～最新の脳科学がことばの発達の謎を解き明かす～（阿南市文化会館・夢ホール　徳島）
2015年 9月	日本心理学会第79回大会
2015年 9月	第39回日本神経心理学会総会
2015年 9月	自閉症の発症機序と共感障害の脳内機構　（東北大学片平さくらホール　宮城）
2015年10月	共感脳と他者理解：その機構と発達障害　（NTTデータ本社豊洲ビル　東京）
2015年10月	円滑なコミュニケーションを支える3つの機構と自閉症発症機構　（福岡国際会議場　福岡）
2015年10月	円滑なコミュニケーションを支える脳内機構（京都大学稲盛財団記念館3階大会議室　京都）
2015年10月	行為の生成と他者理解、分離表象の脳内メカニズム　（神戸新聞松方ホール　兵庫）
2015年10月	認知機能の発達とその脳内機構（京都大学稲盛財団記念館3階大会議室　京都）
2015年11月	体で学ぶ神経機構：潜在学習（京都大学稲盛財団記念館3階大会議室　京都）
2015年11月	言語・非言語コミュニケーションの神経機構　（京都大学稲盛財団記念館3階大会議室　京都）
2015年11月	認知、感情と身体性：感情の役割とその神経機構（京都大学稲盛財団記念館3階大会議室　京都）
2016年 3月	コミュニケーション基礎機能の神経基盤再考 第8回感性脳工学研究会セミナー（広島大学霞キャンパス感性イノベーション拠点　広島）
2016年 3月	言語・非言語コミュニケーション機能の脳内基盤（九州大学大学院人文科学研究院　福岡）

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	教授	浦　光博	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Psychopathy, reward, and punishment. In M. Balconi (Ed.) Psychology of rewards.	共著	2012年11月	(Nova Sience Publishers.)	Masui, K., Nomura, M., & Ura, M.	55-86頁
ケアとコミュニティ	共著	2014年 4月	(ミネルヴァ書房)	大橋謙策（編著）	69-86頁
社会心理学の新展開	共著	2014年 3月	(北大路書房)	高木修、大坊郁夫、竹村和久、安藤清志、柴内康文、神山 進、浦　光博	71-90頁
新社会心理学：心と社会をつなぐ知の統合	共著	2014年 3月	(北大路書房)	野村理朗、唐沢かおり、北村英哉、堀毛一也、浦光博、山口裕幸、村本由紀子、沼崎誠	93-111頁
無縁社会のゆくえ－人びとの絆はなぜなくなるの？	共著	2015年 1月	(誠信書房)	高木修・竹村和久他	104-115頁
論文					
Is dorsal anterior cingulate cortex activation in response to social exclusion due to expectancy violation?: An fMRI study. (査読付)	共著	2012年 7月	Frontier of Evolutionary Neuroscience 4	Kawamoto, T., Onoda, K., Nakashima, K., Nittono, H., Yamaguchi, S., & Ura, M.	1-10頁
Cognitive, affective, and motivational changes during ostracism: An ERP, EMG, and EEG study using a computerized Cyberball task. (査読付)	共著	2013年	Neuroscience Journal Article ID 304674	Kawamoto, T., Nittono, H., & Ura, M.	1-11頁
When a smile changes into evil: Pitfalls of smiles following social exclusion. (査読付)	共著	2013年	International Journal of Psychological Studies. in press. 5(3)	Kawamoto, T., Araki, M., Ura, M.	21-27頁
Differential Responses of Independent and Interdependent People to Social Exclusion. (査読付)	共著	2013年 3月	International Journal of Psychological Studies 5(2)	Nakashima, K., Kawamoto, T., Isobe, C., & Ura.	22-31頁
Dissimilar effects of task-relevant and interpersonal threat on independent-interdependent self-construal in individuals with high self-esteem. (査読付)	共著	2013年 3月	Asian Journal of Social Psychology. 16	Nakashima, K., Yanagisawa, K., & Ura, M.	50-59頁

集団アイデンティティの変動過程における集団タイプの調整効果（査読付）	共著	2013年 3月	心理学研究 84(2)	中島健一郎・礒部智加衣・相馬敏彦・浦　光博	162-168頁
The effects of general trust on building new relationships after social exclusion : An examination of the "Settoku-Nattoku Game". (査読付)	共著	2013年 4月	Asian Journal of Social Psychology. 16	Yanagisawa, K., Nishimura, T., Furutani, K., & Ura, M.	133-14頁
Family socioeconomic status modulates the coping-related neural response of offspring. (査読付)	共著	2013年 6月	Social Cognitive and Affective Neuroscience. 8(6)	Yanagisawa, K., Masui, K., Furutani, K. Nomura, M., Yoshida, H., & Ura, M.	617-622頁
Social exclusion mediates the relationship between psychopathy and aggressive humor style in noninstitutionalized young adults. (査読付)	共著	2013年 7月	Personality and Individual Differences. 55	Masui, K. Fujiwara,H., & Ura, M.	180-184頁
How does higher in-group social value lead to positive mental health? An integrated model of in-group identification and support. (査読付)	共著	2013年 9月	Asian Journal of Social Psychology.	Nakashima, K., Isobe, C., & Ura, M.	in press頁
Non-conscious neural regulation against mortality concerns. (査読付)	共著	2013年 9月	Neuroscience Letters 552	Yanagisawa, K., Kashima, E. S., Moriya, H., Masui, K., Furutani, K., Nomura, M., Yoshida, H., & Ura, M	35-39頁
課題動機と有能感に着目した自己制御メカニズムの検討	共著	2013年11月	心理学研究 84(５)	寺田未来・浦　光博	477-487頁
断酒しているアルコール依存症者に対する一般住民の態度変容に向けた取り組み―教育的介入の効果と持続性の検討（査読付）	共著	2014年	行動科学 52	岡田ゆみ・浦　光博	75-85頁
断酒しているアルコール依存症者に対する人びとの理解・態度とその影響要因に関する研究（査読付）	共著	2014年	民族衛生 80	岡田ゆみ・浦　光博	87-97頁
断酒しているアルコール依存症者に対する人びとの理解・態度に関する研究 ―学生を対象とした教育的介入効果の検討	共著	2014年	広島国際大学看護学部ジャーナル 11	岡田ゆみ・浦　光博	3-12頁
Social exclusion induces early-stage perceptual and behavioral changes in response to social cues (査読付)	共著	2014年 9月	Social NeuroScience 9	Kawamoto, T., Nittono, H., & Ura, M.	174-185頁
Assured rewards facilitate non-intervention in unfair situations by high psychopathy individuals. (査読付)	共著	2014年12月	International Journal of Psychological Studies 6	Masui, K., Iriguchi, S., & Ura, M.	56-67頁
Intrapersonal and interpersonal processes of social exclusion (査読付)	共著	2015年 2月	Frontiers in Neuroscience 9(62)	Kawamoto, T., Nittono, H. & Ura, M.	1-11頁

Positive Thinking Impairs Subsequent Self-Regulation: Focusing on Defensive Pessimists and Optimists (査読付)	共著	2015年 6月	Journal of Educational and Developmental Psychology 5(2)	Terada, M.& Ura, M.	28-38頁
Trait rejection sensitivity is associated with vigilance and defensive response rather than detection of social rejection cues (査読付)	共著	2015年10月	Frontiers in Psychology 6	Kawamoto, T., Nittono, H., & Ura, M.	1-14頁
Aggressive humor style and psychopathy: Moderating effects of childhood socioeconomic status. (査読付)	共著	2016年 3月	Translational Issues in Psychological Science 2(1)	Masui, K. & Ura, M.	46-53頁
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1981年～現在に至る	日本グループ・ダイナミックス学会(国内学会)会員
1981年～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員
1981年～現在に至る	日本社会心理学会(国内学会)会員
1985年～現在に至る	産業・組織心理学会(国内学会)会員
1994年～2014年	中国四国心理学会(国内学会)会員
1998年 4月～現在に至る	産業・組織心理学会(国内学会)理事
2012年 7月～2014年 3月	広島市防災会議 専門委員
2012年11月～2015年10月	日本心理学会(国内学会)編集委員
2013年 4月～2015年 3月	日本社会心理学会(国内学会)常任理事(編集担当)
2015年 4月～現在に至る	日本社会心理学会(国内学会)理事

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無　（有）
心理学部心理学科	准教授	大神田　麻子	

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
子どもはどのようにロボットをコミュニケーションの相手と見なすようになるのか　板倉昭二・北崎充晃（編著）　「ロボットを通して子どもの心を探る―ディベロップメンタル・サイバネティクス」	単著	2013年 9月	（ミネルヴァ書房）		137-161頁
質問のやりとりというコミュニケーション　板倉昭二（編著）　「発達科学の最前線　―進化する発達科学ー」	単著	2014年 3月	（ミネルヴァ書房）		101-126頁
論文					
Differences in response bias among younger and older preschoolers: Investigating Japanese and Hungarian preschoolers. （査読付）	共著	2012年11月	Journal of Cross-Cultural Psychology 43	Okanda, M., Somogyi, E., & Itakura, S.	1325-1338頁
Three- and 4-year-old children's response tendencies to various interviewers. （査読付）	共著	2013年 9月	Journal of Experimental Child Psychology 116	Okanda, M., Kanda, T., Ishiguro, H., & Itakura, S.	68-77頁
Understanding violations of Gricean maxims in preschoolers and adults	共著	2015年 7月	Frontiers in Psyxhology	Okanda, M., Asada, K., Moriguchi, Y., & Itakura, S.	
その他					
Do Japanese children say yes to adult interviewers in video?	-	2012年 7月	The 22nd Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioural Development(Shaw Conference Center, Edmonton, Alberta, Canada)	Okanda, M. & Itakura, S.	
Do Japanese and Hungarian 3- to 5-year-olds exhibit response biases to incomprehensible yes-no questions?	-	2013年 1月	2013 Budapest CEU Conference on Cognitive Development(Radisson Blu Béke Hotel, Budapest, Hungary)	Okanda, M. & Somogyi, E.	

就学前児は「本当？」と聞かれた際に回答を翻すのか？ ―3歳児と5歳児の被暗示性質問に対する反応傾向―	-	2013年 3月	日本発達心理学会第23回大会(青山学院大学 (東京))	大神田麻子・板倉昭二	
Do preschoolers exhibit a yes bias to complex yes-no questions regarding to their knowledge?	-	2013年 8月	18th Conference of the European Society for Cognitive Psychology(ELTE University Congress Center, Budapest, Hungary)	Okanda, M. & Itakura, S.	
日本の子どもはなぜ「分からない」反応を好むのか？ ―日本の大人による「分からない」反応の評価について―	-	2015年 3月	日本発達心理学会第26回大会(東京大学 (東京))		
How do preschoolers answer yes-no questions?	-	2015年 9月	The British Psychological Society, Developmental Section & Social Section Annual Conference(The Palace Hotel, Manchester)		
就学前児のコミュニケーション能力の発達	-	2015年 9月	日本心理学会第79回大会(愛知県)		
就学前児の反応バイアス	-	2016年 5月	日本発達心理学会第27回大会(北海道大学 (札幌))		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2004年～現在に至る	日本赤ちゃん学会(国内学会)会員
2008年 8月～現在に至る	日本発達心理学会(国内学会)会員
2015年 5月～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員

V　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	教授	金政　　祐司	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
少人数制（ゼミ等）の授業運営における工夫	2011年 4月 1日 ～現在に至る	ゼミやFA演習などの少人数制の科目では、個人の興味や関心を社会へと繋げていく（学生が就職活動などで社会と深く関わっていく際の動機づけを促す）教育の実践を試みている。たとえば、学生が自ら能動的に思考することを促進させるためのトレーニングとして、日常的な問題や疑問（「あなたは年功序列制の会社と成果主義の会社のどちらに入社したいか？」など）について、学生同士で話し合う機会を提供している。その際、まず、個人で問題の選択肢に付随するメリットとデメリット双方を考えて回答用紙に記述してもらい、それを踏まえて、どちらの選択肢を取るかについての自分の意見を決定してもらう。その後、選択肢のメリットとデメリットを書いている回答用紙を持ち寄って集団で議論を行わせている。これは新しい視点の獲得や自分とは異なる立場に対する理解の深化、他者の意見を聞く自分の意見をきちんと表出するといった対人関係で必要とされる技術の向上にも繋がるものと考えられる。
講義形式の授業運営における工夫	2011年 4月 1日 ～現在に至る	毎講義、B4サイズの裏表を使用した穴埋め式の授業資料を用意し、現在何に関する授業が展開されているのかについて、視覚的、聴覚的にわかりやすく学生の理解を促すように努めている。講義の内容で視覚的な材料を用いて説明を行った方が良いと思われる場合には、パワーポイントなどを使用し、学生の興味を損なわないような講義構成を行っている。また、出席確認を兼ねて、ミニッツ・ペーパーを実施し、学生から授業内容についての疑問、質問を収集し、妥当な疑問や質問に対しては、次の講義でそれらに対応している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
パーソナリティ心理学ハンドブック	2013年 4月	18章．パーソナリティと対人関係　4節．　愛着スタイルの個人差 最初にBowlbyの愛着理論について紹介するとともに、愛着関係の特徴や要素についての説明を行った。次に、Ainsworthらのストレンジ・シチュエーション法について言及し、幼児期における愛着の個人差についての解説を行った。その後、成人の愛着理論に関する説明を行いながら、青年・成人期の4つの愛着スタイルとそれらの特徴、さらに、愛着スタイルの根底にあるとされる愛着二次元について解説した。最後に、青年・成人期の愛着スタイルが親密な関係ならびに個人の適応に及ぼす影響に関して先行研究を引きながらその解説を行った。 B4判、総頁数768、担当部分Pp.560-566（7頁）
現代社会と応用心理学2　クローズアップ恋愛	2013年 9月	トピック6　大人の恋愛の成り立ち 最初に、人が愛という感情を獲得した理由について、進化心理学的な観点から説明を行い、その後、恋愛や夫婦関係における愛の質的な変化をアタッチメントの観点から解説した。具体的には、乳幼児期のアタッチメントと青年・成人期のアタッチメントの共通点について説明すると共に、青年・成人期のアタッチメントの形成過程についての解説を行った。その後、青年・成人期のアタッチメントの個人差に触れ、さらに、青年・成人期のアタッチメントの機能についての説明を行った。 A5判、総頁数235、担当部分Pp.62-71（10頁）
他人の心理学	2015年 4月	他者を見て疑問に思うことがらや自身が意図せずに取ってしまう不適応な行動などについて、主に社会心理学の観点から研究知見を紹介し、初学者でもわかりやすいように図や絵を交えながら解説を行った。Part1では、「あなたのまわりの困った人たちの心理」、Part2では「ちょっと面倒くさい人たちの心理」、Part3では「日常生活で見られるさまざまな行動心理」、Part4では「ファッションや趣味からわかる心理」、Part5では「恋愛シーンにおける心理」、Part6では「ビジネスシーンにおける心理」、Part7では「女同士・男同士のコミュニケーションにおける心理」について解説を行っている。 B5判、総頁数271
対人社会心理学の研究レシピ：実験実習の基礎から研究作法まで	2016年 2月	担当章　第6章　親密な対人関係の測定 愛情の三角理論を題材とし、実習等での親密な対人関係の調査研究の行い方について具体的な例やデータを示しながら解説を行った。まず、愛情に関するこれまでの研究のレビューを行うとともに、愛情の三角理論について先行研究での結果を交えながら、その説明を行った。次に、質問紙の構成を例示した。その後、収集したデータの分析の仕方や統計ソフトの扱い方、また、図表によるデータの提示の仕方について、レポート作成時の注意点を踏まえながら解説を行った。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数

3658

著書					
パーソナリティ心理学ハンドブック	共著	2013年 3月	(福村出版)	二宮克美・浮谷秀一・堀毛一也・安藤寿康・藤田主一・小塩真司・渡邊芳之(編)	B4判、総頁数768、担当部分 Pp. 560-566 (7頁)
発達心理学事典	共著	2013年 5月	(丸善出版)	日本発達心理学会(編)	A5判、総頁数692、担当部分 Pp. 204-205. & pp. 490-491 (4頁)
APA心理学大辞典	共著	2013年 9月	(培風館)	繁枡算男・四本裕子 (監訳)	B5判、総頁数1056、担当部分 50項目の訳
現代社会と応用心理学 2　クローズアップ恋愛	共著	2013年 9月	(福村出版)	大坊郁夫・谷口泰富(編)　日本応用心理学会(企画)	A5判、総頁数235、担当部分 Pp. 62-71 (10頁)
青年期発達百科事典	共著	2014年 4月	(丸善出版)	子安増生・二宮克美 (編訳) 青年期発達百科事典編集委員会 (編集)	B5判、担当部分　愛着Pp. 1-8 (8頁)
他人の心理学	単著	2015年 4月	(ナツメ社)		
対人社会心理学の研究レシピ: 実験実習の基礎から研究作法まで	共著	2016年 2月	(北大路書房)	大坊郁夫・谷口淳一・金政祐司・木村昌紀・石盛真徳・太幡直也・上出寛子・小林知博・日向野智子・栗林克匡・五十嵐 祐・横山ひとみ・吉澤寛之・磯友輝子・後藤 学・村山 綾・毛 新華・清水裕士・藤原 健	B5判、総頁数315、担当部分 Pp64-67 (4頁), Pp. 68-83 (16頁)
論文					
内的作業モデルが表情刺激の情動認知に与える影響 (査読付)	共著	2012年 6月	心理学研究(日本心理学会) 83(2)	島義弘・福井義一・金政祐司・野村理朗・武儀山珠美・鈴木直人	75-81頁
相互支援が関係満足度ならびに精神的健康に及ぼす影響についての青年期の恋愛関係と中年期の夫婦関係の共通性と差異 (査読付)	単著	2012年 9月	発達心理学研究(日本発達心理学会) 23		298-309頁
青年・成人期の愛着関係での悲しき予言の自己成就は友人関係でも成立するのか？ (査読付)	単著	2013年11月	パーソナリティ研究(日本パーソナリティ心理学会) 22(2)		168-181頁
自己ならびに他者への信念や期待が社会へのイメージと将来への時間的展望に及ぼす影響 (査読付)	単著	2014年11月	社会心理学研究(日本社会心理学会) 30(2)		108-120頁
その他					
社会イメージ尺度の作成―大学生の抱く社会のイメージについて―	-	2012年 9月	日本心理学会第76回大会(専修大学)		
委員会企画シンポジウム：パーソナリティ心理学の未来を探して	-	2012年10月	日本パーソナリティ心理学会第21回大会(島根県民会館)	【企画者】学会活性化委員会・大会準備委員会【司会】加藤弘通【話題提供者】小塩真司・岡田涼・文野洋・市村美帆・佐々木淳・国里愛彦・吉澤寛之・太幡直也・金政祐司・松島公望・桂瑠以・大久保智生・武田美亜・鈴木公啓【指定討論者】渡邊芳之・北村英哉	
自己と他者の異性関係流動性の認知が適応に与える影響	-	2012年11月	日本社会心理学会第53回大会(筑波大学)	谷口淳一・金政祐司	
青年期の愛着スタイルが社会イメージに及ぼす影響	-	2012年11月	日本社会心理学会第53回大会(筑波大学)		
青年期の愛着スタイル、社会イメージ、将来への時間的展望	-	2013年 3月	日本発達心理学会第24回大会(明治学院大学)		
Adult attachment styles social images and time perspectives toward future.	-	2013年 7月	The 13th European Congress of Psychology(Stockholm)		

Do perceptions of relational mobility in opposite-sex relationships affect mental health?	-	2013年 7月	The 13th European Congress of Psychology(Stockholm)	Taniguchi, J. & Kanemasa, Y.	
Adult attachment styles, social images, and time perspectives toward future in undergraduates and working people.	-	2013年 8月	10th Biennial Conference of Asian Association of Social Psychology(Yogyakarta)		
委員会企画シンポジウム：恋愛の終わりを考える－別れの予感から立ち直りまで－	-	2013年10月	日本パーソナリティ心理学会第22回大会(江戸川大学)	【企画者】日本パーソナリティ心理学経常的研究交流委員会【司会】天野陽一【話題提供者】立脇洋介・牧野幸志・山下倫美【指定討論者】金政祐司	
社会へのイメージと就労動機―大学生ならびに社会人との比較から―	-	2013年10月	日本パーソナリティ心理学会第22回大会(江戸川大学)		
ワークショップ：関係外の要因から見た恋愛関係	-	2013年11月	日本社会心理学会第54回大会(沖縄国際大学)	【企画者】谷口淳一【司会者】谷口淳一【話題提供者】増田匡裕・鬼頭美江・相馬敏彦【指定討論者】五十嵐祐・金政祐司	
社会へのイメージと幸福感－大学生と社会人ならびに男性と女性の比較検討－	-	2013年11月	日本社会心理学会第54回大会(沖縄国際大学)		
Social images and subjective well-being in undergraduates, late adolescence working people, and early adulthood working people	-	2014年 7月	28th International Congress of Applied Psychology(Paris)		
母親の養育と青年期の愛着機能が探索行動と幸福感に及ぼす影響	-	2014年 7月	日本社会心理学会第55回大会(北海道大学)		
恋愛に対するネガティブな態度尺度の作成	-	2014年 9月	日本グループ・ダイナミックス学会第61回大会(東洋大学)	谷口淳一・金政祐司	
The effects of perceptions of parenting and attachment-function on exploration and adjustment in early adults	-	2015年 2月	The 16th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology(Long Beach, USA)		
アタッチメントとセクシャリティの認知心理学	-	2015年 7月	認知心理学会第13回大会(東京)	【企画者】遠藤利彦【司会】遠藤利彦【話題提供者】坂口菊恵・高橋翠・金政祐司【指定討論者】遠藤由美	
The effects of perceptions of parenting and attachment-function on exploration and adjustment	-	2015年 8月	11th Biennial Conference of Asian Association of Social Psychology(Philippine Cebu city)		
The effects of the negative attitude toward romantic love on mental and physical health	-	2015年 8月	11th Biennial Conference of Asian Association of Social Psychology(Philippine, Cebu city)	Junichi Taniguchi, Tezukayama University	
母親の養育態度と青年期の愛着機能が探索行動ならびに適応性に及ぼす影響 (2)	-	2015年10月	日本グループ・ダイナミックス学会第62回大会(奈良)		
関係不安と誇大性自己愛が攻撃性に及ぼす影響 ―周囲の他者からの受容度を媒介要因として―	-	2015年10月	日本社会心理学会第56回大会(東京)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2000年～現在に至る	Asian Association of Social Psychology(国際学会)会員

2000年～現在に至る	日本グループ・ダイナミックス学会(国内学会)会員
2000年～現在に至る	日本社会心理学会(国内学会)会員
2001年～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員
2001年～現在に至る	日本感情心理学会(国内学会)会員
2004年～現在に至る	日本パーソナリティ心理学会(国内学会)会員
2006年～現在に至る	日本発達心理学会(国内学会)会員
2008年10月～2012年11月	日本パーソナリティ心理学会(国内学会)パーソナリティ研究常任編集委員
2011年 4月～2013年 3月	日本心理学会(国内学会)日本心理学会地方別代議員（近畿）
2013年 4月～現在に至る	日本社会心理学会(国内学会)社会心理学研究編集委員
2013年 6月	NHK オトナのトビラＴＶ「恋愛トラブル」
2013年 7月	「第8回 高校生のための大学フェア大阪」での模擬授業
2013年10月	NHK BSプレミアム「恋愛ゼミ」「＃3この人ムリかも、と思った瞬間」
2013年10月	大阪家庭裁判所堺支部自庁研修　「愛着と非行－青年期のリスク行動を取り巻く要因－」
2013年11月	NHK BSプレミアム「恋愛ゼミ」「＃4恋のサプライズ！」
2013年11月	公開講座・おうてもん塾にて講師を務める。第2期「心を科学する」第5講「人はどうして騙されるのか？」
2013年11月	朝日放送「キャスト」　「特集　人はなぜ踊るのか」
2014年 1月～現在に至る	日本発達心理学会(国内学会)発達心理学研究編集委員
2014年 5月	朝日新聞　「好きと嫌いの境界線」（5月24日夕刊）
2014年 6月	朝日カルチャーセンターにて「好きと嫌いの境界線－大人のための恋愛心理学」というトピックで講座を行う
2014年 7月	孫の力9月号　「孫との恋愛はいつまで続くのか？」
2014年 8月	NHK総合・大阪　「週末応援ナビあほやねん！すきやねん！」
2014年 9月	NHK総合・大阪　「週末応援ナビあほやねん！すきやねん！」
2014年10月	朝日カルチャーセンターにて「人はどうして騙されるのか？」 というトピックで講座を行う
2014年11月	NHK総合・大阪　「週末応援ナビあほやねん！すきやねん！」
2014年12月	NHK総合・大阪　「週末応援ナビあほやねん！すきやねん！」
2014年12月	大商学園高校講演会　「生徒・子どものやる気を高めるコミュニケーション」
2015年 4月～現在に至る	ストーカー事案の被害実態等に関する調査研究会（日工組社会安全財団が主催）
2015年 9月	オレンジページ「からだの本(Vol 2)」の「他人の「トリセツ」心理学」
2015年12月	Eテレ・NHK総合　「趣味どきっ！恋する百人一首」　第2回　許されざる恋
2015年12月	NHKテレビテキスト「趣味どきっ！」
2015年12月	朝日新聞　青春トーク　識者談話に寄稿。
2016年 1月	読売テレビ「す・またん＆ＺＩＰ！」「ヒガンバナ×ＺＩＰ」のショートドラマを監修

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	准教授	河﨑　　美保	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
児童期の子どもの発達と学び：算数．『0歳～12歳児の発達と学び: 保幼小の連携と接続に向けて』清水 益治・森 敏昭（編著）,北大路書房	2013年 5月	本書は乳児・幼児・児童の発達を，保育所・幼稚園における保育や小学校における授業とのつながりを示しながら記したものである。特に分担執筆した第4章「児童期の子どもの発達と学び」においては，主要教科それぞれの視点に立つと，子供がどのように発達していくのか，またそのプロセスに応じてどのような関わりが必要であるかを示しており，「教育心理学」や「発達心理学」を学ぶための教材として適していると考えられる
三宅なほみ（監修）・益川弘如・望月俊男（監訳），Patrick Griffin, Barry McGaw,& Esther Care著『21世紀型スキル：新たな学びと評価』(pp. 77-157.)	2014年 4月	21世紀の社会に必要なスキルの学びと評価を開発・実践するためにインテルなどテクノロジー企業の呼びかけにより立ち上がった多国間の産官学パートナーシップによるプロジェクトATC21Sによる白書の翻訳書である。21世紀型スキルに対し「ゴールから逆算する方法」「新しいコンピテンスの創成」という異なるアプローチを対比的に論じ学習の場に知識構築環境を実現することを提案する「第5章知識構築のための新しい評価と環境」を分担翻訳した。
「第8章 海外における取り組み―実践的な開発研究と理論構築への挑戦」：「学びのデザイン：学習科学」大島 純・益川弘如（編著）　ミネルヴァ書房　印刷中　共著者：大浦弘樹・河﨑美保	2016年	海外の学習科学研究拠点におけるWISEやOISEのKnowledge Forumといった主要プロジェクトの動向について執筆した。
「コラム15 協調的学びの評価」：「教育認知心理学の展望」子安増生・楠見 孝・齊藤　智・野村理朗（編）　ナカニシヤ出版　平成28年3月25日　担当部分1ページ（p. 237）	2016年 3月25日	21世紀型スキルの一つとして協調的問題解決能力が注目され，国際学力比較調査において評価が試みられる中，心理学，学習科学研究において協調的な学びがどのように評価されてきたかについて執筆した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
大学一般教養の物理授業における古典的スパイラル授業の実践効果，大学教育研究フォーラム個人研究口頭発表部会16，樋口勝一・武田裕紀・河﨑美保	2016年 3月18日	文科系中堅私立総合大学における一般教養科目の物理の授業方法について、提案とその実践効果を授業アンケートの結果に基づき報告した。
「一般教養の古典的スパイラル授業を受講した私立文科系大学生の物理の問題正答率の分析」日本物理学会第71回年次大会研究発表，樋口勝一・武田裕紀・河﨑美保	2016年 3月19日	文科系中堅私立総合大学における一般教養科目の物理の授業方法について、提案とその実践効果を理解度のテスト結果に基づき報告した。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『複数解法提示による算数の学習促進効果―混み具合比較課題を用いて』	単著	2013年 3月	(ナカニシヤ出版)		
児童期の子どもの発達と学び：算数．『0歳～12歳児の発達と学び: 保幼小の連携と接続に向けて』(pp. 131-140.)	共著	2013年 5月	(北大路書房)	清水 益治・森 敏昭（編著）	131-140頁
三宅なほみ（監修）・益川弘如・望月俊男（監訳），Patrick Griffin, Barry McGaw,& Esther Care著『21世紀型スキル：新たな学びと評価』(pp. 77-157.)	共著	2014年 4月	(北大路書房)	河﨑美保・齋藤萌木・大浦弘樹・舘野泰一（訳）	77-157頁
論文					
認知心理学からみた授業づくり	-	2012年 7月	京都市小学校教育心理研究会夏季研修会		
協調的言語活動の充実を図る授業において教師が経験する困難：学習指導案とのずれの分析.	-	2012年11月	日本教育心理学会第54回総会(琉球大学)		
協調的言語活動の充実を図る授業において教師が経験する困難（2）：発言者数の分析	-	2013年 8月	日本教育心理学会第55回総会(法政大学)		

自主シンポジウム「学級規模研究における教育心理学的アプローチ」における指定討論	-	2013年 8月	日本教育心理学会第55回総会(法政大学)	企画・話題提供：山森光陽・萩原康仁　指定討論：縣拓充・犬塚美輪・大久保智生・岡田涼・河﨑美保・河野麻沙美・寺本貴啓・松沼光泰	
人の学びの心理学	-	2013年10月	特別公開講座追手門学院大学社会人教室おうてもん塾「心を科学する」（第2講，2013/10/8)		
成功を超える力	-	2013年10月	教育研究(初等教育研究会) 68(10)	河﨑美保・白水 始	18-21頁
２１世紀をよりよく生きる資質・能力の育成（7）２１世紀をよりよく生きるのに必要な資質・能力を育てる方法－学習科学の諸成果	-	2014年	指導と評価 2014年 10月号 (No.718) 60(10)	白水始・河﨑美保	42-44頁
学級規模を生かした授業を「つくる」研究を	-	2014年 3月	国立教育政策研究所		
協調的な学びを取り入れた授業の実践を支える教師の信念	-	2014年11月	日本教育心理学会第56回総会(神戸)	河﨑美保・益川弘如	
教師の過度な支援なく解法を対話検討することによる未来の学びへの接続	-	2014年11月	日本教育心理学会第56回総会(神戸)	益川弘如・遠藤育男	
授業改善に繋がる協調問題解決の比較分析（自主企画シンポジウム「協調問題解決能力評価は教育改善に繋がるか」における話題提供)	-	2015年 8月	日本教育心理学会第57回総会(新潟コンベンションセンター)	益川弘如・河﨑美保・遠藤育男・丸井　純	
異なる考えから理解を深める協調問題解決授業のデザイン(2)―能動的な比較参照を保証するアクティブラーニングへ―	-	2015年 8月	日本教育心理学会第57回総会(新潟コンベンションセンター)	益川弘如・河﨑美保・遠藤育男・丸井　純	
異なる考えから理解を深める協調問題解決授業のデザイン（1）―課題と発話の分析に基づく必要な支援の検討―	-	2015年 8月	日本教育心理学会第57回総会(新潟コンベンションセンター)	河﨑美保・益川弘如・遠藤育男・丸井　純	
学習研究への心理学的アプローチ：問題解決型算数授業の検討	-	2015年10月	神戸大学大学院人間発達環境学研究科「教育基礎研究道場」(神戸大学大学院人間発達環境学研究科)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2003年 4月～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員
2003年 5月～現在に至る	日本教育心理学会(国内学会)会員
2005年～現在に至る	AERA (American Educational Research Association) (国際学会)会員
2005年 3月～現在に至る	日本認知科学会(国内学会)会員
2006年10月～現在に至る	日本発達心理学会(国内学会)会員
2009年 5月～現在に至る	日本数学教育学会(国内学会)会員
2013年 3月～2014年 3月	日本発達心理学会(国内学会)発達心理学会準備委員会学外委員
2013年10月～2014年 3月	国立教育政策研究所「教育課程の編成に関する基礎的研究」（国際研究班Ⅱ）に係る委員（研究協力者）
2013年10月～2013年10月	特別公開講座追手門学院大学社会人教室おうてもん塾「心を科学する」（第2講「人の学びの心理学」，2013年10月8日）
2013年12月～2016年 1月	日本発達心理学会(国内学会)ニューズレター委員
2014年 4月～2015年 3月	国立教育政策研究所平成26年度プロジェクト研究「教員養成等の改善に関する調査研究」所外委員（教育方法の革新を踏まえた教員養成プログラム研究チーム）
2014年 7月～現在に至る	静岡大学大学院教育学研究科附属 学習科学研究教育センター (RECLS)　学外協力研究員
2015年	国立教育政策研究所による「PISA2015年協同問題解決能力の評価の枠組み」翻訳出版における翻訳校閲
2015年11月～現在に至る	International Society of the Learning Sciences(国際学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	講師	倉西　宏	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
他分野の視覚的・映像的方法を用いた授業の実施	2007年 4月 1日 ～現在に至る	他分野の内容や芸術に関する視覚的・映像的素材を用いて幅広い世界観から専門領域を理解していけるよう教材を準備して行っている。
体験型の学習	2007年 4月 1日 ～現在に至る	個人や集団での体験型のワーク等によって、実体験をもとに理解が進められるようにしている。発達障害の疑似体験や心理検査、心理療法の技法等も、学生の状態などの配慮を行いながら可能な範囲で体験を提供し、体験的に知ることができるようにしている。
学生との相互的やりとりのある授業	2007年 4月 1日 ～現在に至る	毎回講義の最後に感想と質問を書く時間を提供している。そしてその翌回の講義において、その返答を試みる。その返答に対して再度質問や感想が返ってくるようにし、相互交流がうまく促される関係性の維持を意識している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
遺児における親との死別の影響と意義―病気遺児、自死遺児、そして震災遺児がたどる心的プロセス―	単著	2012年12月	風間書房		
臨床風景構成法―臨床と研究のための見方・入り方―　第5章「声を失った女性が歌と楽器の奏でを取り戻すまで―彼岸を思うありよう―」	共著	2013年 8月	誠信書房	岸本寛史、山　愛美、多田和外、佐渡忠洋、真下幸三、成田慶一、中辻四朗、鈴木壮、渡辺和美、長坂正文、平尾和之	84-98頁
自殺をケアするということ：「弱さ」へのまなざしからみえるもの（新・MINERVA福祉ライブラリー）	共著	2015年 6月	ミネルバ書房	木原活信・引土絵未・尾角光美・大倉高志・金子絵里乃・山村りつ・市瀬晶子・李善恵	56-74頁
論文					
大学生の自殺予防教育プログラムに向けた『悩みとその対処方法』に関する調査―相談することへの抵抗感に着目して（査読付）	共著	2014年12月	人間福祉学研究 7(1)	山村りつ・市瀬晶子・引土絵未・木原活信・大倉高志・李善恵・尾角光美・高仙喜	115-127頁
大学生の「悩みとその対処方法」に関するアンケート調査とその結果―自殺予防のための方策を探る―（査読付）	共著	2015年12月	人間福祉学研究 8(1)	山村 りつ・市瀬晶子・引土絵未・倉西宏・木原活信・大倉高志・李善恵・尾角光美・高仙喜	103-119頁
心理療法における「交換」と「贈与」の原理から見た「料金」の働き	単著	2016年 3月	追手門学院大学心の相談室紀要 (12)		12-17頁
その他					
障がいを有する小学生男児へのプレイセラピー	-	2013年12月	心身臨床学研究会(京都)		
援助者が抱える葛藤・援助者間で生じる力動の治療的理解	-	2014年 4月	2014年京都文教大学子ども臨床通信		
阪神淡路大震災遺児における 時間の周辺	-	2014年 7月	心身臨床学研究会(京都)		

青年期を迎えた遺児へのグリーフケアグループの意義－死別体験への取り組みにおける心的変化の可能性－	－	2014年 8月	第33回日本心理臨床学会秋季大会(横浜)	大日方薫・小林昌幸・藤井芽衣子	
バウムテストの実際	－	2015年 9月	2015年臨床実践で用いる心理査定勉強会(京都文教大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2004年 7月～現在に至る	日本心理臨床学会(国内学会)会員
2005年 7月～現在に至る	日本箱庭療法学会(国内学会)会員
2009年 4月～現在に至る	日本死の臨床研究会(国内学会)会員
2009年 4月～現在に至る	日本自殺予防学会(国内学会)会員
2009年 4月～現在に至る	日本集団精神療法学会(国内学会)会員
2009年 4月～現在に至る	社会福祉法人四天王寺福祉事業団　四天王寺太子学園　臨床心理士
2012年 9月～現在に至る	カウンセリングルーム＊オータム　室長
2013年 4月～現在に至る	日本ユング心理学会(国内学会)会員
2014年 4月～現在に至る	京都学園大学大学院　大学院生　スーパーヴァイザー

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	准教授	駿地　　眞由美	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
「赤ちゃんの発達」に関する映像資料の作成	2014年 9月	「子ども学」の授業において使用する、赤ちゃんの発達に関する映像資料を作成した。
体験型ワークショップ教材の作製	2014年 9月	「ライフスタイル演習」で使用する、自己理解・他者理解・自己と他者との関係性の理解に関する教材を作成した。
心理検査に関する補助教材の作成	2014年 9月	心理検査をより身近に感じられ、かつ、理解を深められるための教材を作成した。
英語文献講読に関するワークシートの作成	2014年 9月	学生の理解をより促すためのワークシートを作成した。
質問紙調査法についての資料作成	2014年 9月	質問紙調査を円滑に進めるためのコツや、統計ソフト使用のためのマニュアルを作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
古代ギリシャにみる「癒しのトポス」と現代の心理療法（２）―コス島・アスクレピオンに関するフィールドワーク―	単著	2013年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 7		79-91頁
年次段階を踏んだ授業改善	単著	2013年 3月	追手門学院大学心理学部／心理学研究科FD・自己評価 7		
青年期における〈成長する〉及び〈老いる〉ことに対するイメージの研究	単著	2013年 3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター研究成果報告書		104-120頁
病の体験による生活・生き方の変化に関する基礎的研究（査読付）	共著	2014年 3月	京都文教大学臨床心理学部研究報告 6	駿地眞由美、馬場天信、深尾篤嗣、濱野清志、金山由美、村川治彦	117-127頁
一般成人における「病の体験」に関する基礎調査－自由記述を通してみる「病の体験」－（査読付）	共著	2015年 3月	京都文教大学臨床心理学部研究報告 7	金山由美・駿地眞由美・濱野清志・馬場天信・村川治彦・深尾篤嗣・千秋佳代	31-42頁
一般成人における「病の体験」の実態調査（査読付）	共著	2015年 3月	京都文教大学臨床心理学部研究報告 7	馬場天信・駿地眞由美・深尾篤嗣・濱野清志・金山由美・村川治彦・千秋佳代	51-70頁
女性乳がん体験者の生活にまつわる語りの分析－計量テキスト分析を用いて－	単著	2015年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 9		21-48頁
その他					
疾患別「病の体験」の基礎研究－呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌系患者に対する質的インタビュー調査	-	2013年 9月	日本健康心理学会第26回大会(北海道)	村川治彦・馬場天信・駿地眞由美	
遺伝子という言語	-	2014年 8月	心理臨床の広場(日本心理臨床学会) (13)		18-19頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1998年 8月～現在に至る	日本心理臨床学会(国内学会)会員
2002年 1月～現在に至る	京都府　AIDS/HIV派遣カウンセラー
2002年 1月～現在に至る	精神鑑定・心理検査員
2006年 4月～現在に至る	神戸市立中央市民病院倫理委員会委員
2012年 4月～現在に至る	日本ユング心理学会(国内学会)会員
2015年 5月～現在に至る	箱庭療法学会(国内学会)会員

V　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	教授	瀧端　　真理子	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
学芸員課程年報Musaの編集発行	2001年 3月 ～2014年 3月	毎年年度末に、学芸員課程年報Musaを単独で編集発行している。この年報には、実習受入先学芸員、本学での博物館学関連授業担当者等からの寄稿論文の他、当該年度の実習生による実習ノートの抜粋、最終レポートを掲載しており、この年報を博物館実習参加年度の前年度に、実習参加を希望する学生全員に配布・説明することにより、実習先選択や実習ノート記入の際の参考教材としている。
博物館学芸員課程年報Musa29号扉の編集発行 2014	2015年 3月	毎年年度末に、学芸員課程年報Musaを単独で編集発行している。この年報には、実習受入先学芸員、本学での博物館学関連授業担当者等からの寄稿論文の他、当該年度の実習生による実習ノートの抜粋、最終レポートを掲載しており、この年報を博物館実習参加年度の前年度に、実習参加を希望する学生全員に配布・説明することにより、実習先選択や実習ノート記入の際の参考教材としている。 2015年3月にはMusa第29号を発行した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
博物館実習の現状と課題～『三方よし』の実習は実現可能か（平成25年度滋賀県博物館協議会第1回研修会）	2013年 9月12日	平成25年度滋賀県博物館協議会第１回研修会にて以下のような内容の講演を行った。大学で「理想の学芸員」を養成できる教育をしているか？ 　講義科目では、理想を講義することが努力目標だが、実践（実技）は、個々の学生の適性とトレーニング期間の問題があり、教員が実技が出来たとしても学生に定着するかは別の問題である。刻々と変わる社会情勢と技術革新には終わりがなく、絶えず知識・技術を更新して行く必要があることを様々な実例をもとに述べた。
学芸員養成課程における大学と博物館の連携方策を考える	2015年 5月30日	2015年度JMMA近畿支部・九州支部合同研究会　徹底討論 『学芸員養成課程における大学と博物館の連携方策を考える』　2015年5月30日 JMMA（日本ミュージアム・マネージメント学会）、JMMA近畿支部、JMMA九州支部（会場：桃山学院大学梅田サテライト）
4　その他教育活動上特記すべき事項		
ゲスト講師の招聘と、講演内容の機関リポジトリ化による公開	2013年12月 2日 ～現在に至る	2013年12月2日、本学附属図書館での職員研修講師として、国立国会図書館関西館電子図書館課の水野翔彦氏を紹介し、3限の時間帯に図書館ラーニングコモンズにて開催された職員研修に、「社会教育概論2」受講生を授業の一環として参加させた。また2限「社会教育課題研究Ⅱ」の授業に、水野氏をお招きし、受講生に水野氏のキャリア形成を質疑応答形式でお話いただいた。また、図書館研修の内容を、水野氏に「国立国会図書館における電子図書館サービスについて」として寄稿いただき、学芸員課程年報Musa第28号に掲載、機関リポジトリ化し、学生はじめ誰でもアクセス可能な学習素材として公開した。 http://ci.nii.ac.jp/nrid/9000243769895

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
社会教育・生涯学習辞典	共著	2012年11月	(朝倉書店)	社会教育・生涯学習辞典編集委員会編	483-484、501-502、129、267、頁
社会教育・生涯学習辞典	共著	2012年11月	(朝倉書店)	社会教育・生涯学習辞典編集委員会編	483-484、501-502、129、267、頁
論文					
アメリカ合衆国の博物館入館料に関する調査（1）	単著	2014年 3月	Musa（博物館学芸員課程年報）第28号(追手門学院大学博物館研究室) (28)		11-69頁
日本の動物園・水族館は博物館ではないのか？ ―博物館法制定時までの議論を中心に―	単著	2014年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 8		33-51頁
アメリカ合衆国の博物館入館料に関する調査(2)	単著	2015年 3月	Musa　博物館学芸員課程年報(追手門学院大学博物館研究室) (29)		25-71頁
その他					
日本の博物館はなぜ無料でないのか？	-	2012年 6月	全日本博物館学会第38回研究大会(東京（明治大学）)		
大阪市における博物館政策の変遷とその要因	-	2012年10月	日本社会教育学会第59回研究大会(釧路（北海道教育大学釧路校）)		

コルチュラ島の”マルコ・ポーロの塔”と”モレシュカ”	-	2013年 3月	博物館学芸員課程年報 Musa27号		扉頁
那覇の農連市場と世界のマーケット	-	2013年 5月	民家集落セミナー(日本民家集落博物館)		
日本の動物園・水族館は博物館でないのか？	-	2013年 6月	全日本博物館学会第39回研究大会(東京（明治大学）)		
社会教育計画（博物館経営の実際)	-	2013年 8月	平成25年度社会教育主事講習(神戸大学)		
博物館実習の現状と課題～『三方よし』の実習は実現可能か～	-	2013年 9月	平成25年度滋賀県博物館協議会第1回研修会(滋賀)		
小規模館運営の現状と課題―社会構造の変化と博物館をめぐる法制度改革の動向を踏まえて―	-	2014年 2月	第10回四国ミュージアム研究会(愛媛県今治市)		
ICOM上海大会でのMINOMミーティングに参加して	-	2014年 3月	歴史学と博物館のあり方を考える会創立20周年記念誌 現場から2(歴史学と博物館のあり方を考える会)		80-81頁
リオ・デジャネイロの”Museu da Maré”と”ファヴェーラ”	-	2014年 3月	博物館学芸員課程年報 Musa第28号		扉頁
第７室（午後）学習文化活動	-	2014年 3月	社会教育学研究 50(１)		122-122頁
資料の現地保存の歴史とこれから～新アクロポリス博物館やスラムの博物館から考える～	-	2014年 5月	民家集落セミナー		
アメリカ合衆国における博物館入館料の傾向と無料入館制度を支える多様な仕組み	-	2014年 6月	全日本博物館学会第40回大会(東京)		
四国四県に見る人口・財政上の課題と博物館存続への展望	-	2014年 9月	日本社会教育学会第61回研究大会(福井)		
エクスプロラトリウムと「霧箱（cloud chamber)」	-	2015年 3月	Musa 博物館学芸員課程年報(追手門学院大学博物館研究室) (29)		扉頁
ニュージーランドの多様な現地保存と震災の爪跡～ジーランディア、アカロア湾、クライストチャーチ、フェリミード歴史公園	-	2015年 5月	日本民家集落博物館　民家集落セミナー(大阪府)		
フィールドワークの失敗：主体性・閉鎖性・超えるべき個人的限界	-	2015年 5月	「応答の人類学」第19回研究会＋科研第5回 2015年5月29日(大阪府)		
科研費獲得のための戦略的方策	-	2015年 6月	平成27年度　青森中央学院大学科研費研修会講師(青森県)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1981年～現在に至る	人文地理学会(国内学会)会員
2000年～現在に至る	全日本博物館学会(国内学会)会員
1992年～現在に至る	日本社会教育学会(国内学会)会員
2000年 5月～現在に至る	茨木市立文化財資料館運営審議会委員
2006年 2月～2014年 2月	茨木市環境審議会委員
2010年12月～2012年11月	独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
2012年 4月～現在に至る	日本民家集落博物館運営協議会委員
2012年10月～2013年 3月	公益財団法人大阪市博物館協会外部評価委員
2013年 5月	日本民家集落博物館　民家集落セミナー講師「那覇の農連市場と世界のマーケット」
2013年 5月	茨木市市制施行65周年記念表彰（功労表彰）
2013年 8月	社会教育主事講習（於神戸大学）「社会教育計画（博物館経営の実際）」
2013年 9月	日本社会教育学会第60回大会自由研究発表第7室（午後）「学習文化活動」司会担当
2014年 2月	第10回四国ミュージアム研究会記念講演「小規模館運営の現状と課題―社会構造の変化と博物館をめぐる法制度改革の動向を踏まえて-」
2014年 5月	日本民家集落博物館　民家集落セミナー講師「資料の現地保存の歴史とこれから～新アクロポリス博物館やスラムの博物館から考える～」
2014年 7月～2015年 3月	公益財団法人大阪市博物館協会外部評価委員
2014年12月～2015年11月	独立行政法人日本学術振興会　科学研究費委員会専門委員
2015年 1月	人文地理学会(国内学会)2015年度大会準備委員会委員
2015年 5月	日本民家集落博物館　民家集落セミナー講師　「ニュージーランドの多様な現地保存～ジーランディア、アカロワ湾、クライストチャーチ、フェリミード歴史公園

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	准教授	田中　　秀明	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
スポーツ精神生理学 山崎勝男(監) 田中秀明（担当:共著，範囲:認知の生理学的機序　pp38-50.　・　動作発現機序（運動制御）　pp51-57.　・　運動の発現に関わる事象関連電位　pp113-127.）	共著	2012年11月	(西村書店)	山崎勝男(監) 田中秀明（担当:3・4・11章）	(3章　pp38-50.4章　pp51-57.　11章　pp113-127.）
スポーツ心理学大事典　山崎勝男(監訳) 田中秀明（担当:翻訳，範囲:運動スキル獲得における付加的フィードバック　pp67-90.　・　意図的な運動行動を調べるための統合モデリングアプローチ　pp113-134.）	共著	2013年11月	(西村書店)	山崎勝男(監訳) 田中秀明（担当:4・6章）	(4章　pp67-90.6章　pp113-134)
論文					
写真と絵で提示した顔の人物同定 -事象関連脳電位を指標として-	単著	2015年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 9		
食品サンプル画像の認知に関する社会神経科学的研究	単著	2016年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 10		
その他					
有意味視聴覚刺激の一致、不一致時の情報処理過程の検討　- ERPを指標として-	-	2012年11月	日本基礎心理学会第31回大会(福岡)	北村篤士・田中秀明・片山順一	
写真と絵で提示した顔の人物同定　-事象関連電位を指標として-	-	2013年 9月	日本心理学会第77回大会(北海道)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1998年 4月～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員
1998年 4月～現在に至る	日本生理心理学会(国内学会)会員
2000年 4月～現在に至る	日本臨床神経生理学会(国内学会)会員
2004年 4月～現在に至る	日本認知心理学会(国内学会)会員
2008年 4月～現在に至る	関西心理学会(国内学会)会員
2014年 3月～現在に至る	日本生理心理学会　査読者
2015年11月	私立学校施設整備費補助金　補助対象事業「高密度センサ128 チャンネル脳波計測システム」

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	特任助教	田邊　亜澄	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
注意をコントロールする脳―神経注意学からみた情報の選択と統合（社会脳シリーズ 3）	共著	2013年 8月	(新曜社)	編者：苧阪直行，分担執筆：苧阪直行，越野英哉，坪見博之，源健宏，松吉大輔，廣瀬信之，木原健，田邊亜澄.	205-225頁
論文					
Raise two effects with one scene: scene contexts have two separate effects in visual working memory of target faces. （査読付）	共著	2014年 5月	Frontiers in Psychology 5(400)	◎Tanabe-Ishibashi, A., Ikeda, T. & Osaka, N.	-doi: 10.3389/fpsyg.2014.00400 頁
その他					
For female eyes only: Comparing the effects of enlarging eyes and irises on facial attractiveness.	-	2012年 8月	34th Annual meeting of the Cognitive Science Society(Sapporo, Japan)	Tanabe-Ishibashi, A., Takahashi, M., Katsuhara, M., Kuraguchi, K. & Ashida, H.	
Butcher bears shop: Neural basis of implicit association between faces and scenes.	-	2013年 8月	18th Meeting of the European Society for Cognitive Psychology(Budapest, Hungary)	Tanabe-Ishibashi, A., Ikeda, T., Sawamoto, N., Fukuyama, H. & Osaka, N.	
Comparison of semantic feature norms in Japanese and English	-	2015年 3月	the inaugural International Convention of Psychological Science(Amsterdam, The Netherlands)	Tanabe-Ishibashi, A., Ishibashi, R., & Saito, S.	
How does updating work in the N-back task?	-	2016年 7月	the 6th International Conference on Memory(Budapest, Hungary)	Tanabe-Ishibashi, A., Ishibashi, R., & Saito, S.	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
なし	

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	准教授	辻　　潔	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
「心理検査法演習２」の科目において、各種投影法の体験・討論・発表のシステムを開発した。	2006年 4月 1日 ～現在に至る	心理臨床実践において心理テストとして、また心理療法の手段として用いられる投影技法（コラージュ技法、箱庭、風景構成法など）を実際に体験し、それらについて考察するための課題を作成し、テーマを絞って受講者が討論し、その結果を発表するというシステムを作成し授業で実践している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
ライフスタイル演習２において、初対面状況にどう対処するかの重要性を明らかにし、その工夫を検討する課題を作成した。	2007年 4月 1日 ～現在に至る	人は成長する中で徐々に生活空間が広がり、青年期以降人生をよりよく過ごす上で、「初対面」という状況に上手く対応することが重要となることを確認し、またそこでの日本人および青年期の一般的心理的特性を明らかにし、様々な心理学の知恵がその対応に役立つことを体験を踏まえながら演習参加者が理解・検討するプログラムを作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1992年 8月～現在に至る	日本心理臨床学会(国内学会)会員
1999年 4月～現在に至る	日本人間性心理学会(国内学会)会員
2000年 4月～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員
2012年 9月～現在に至る	公益財団法人　関西カウンセリングセンター　評議員
2013年10月	おうてもん塾「日常生活の中のこころを科学する」講師

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	教授	中鹿　　彰	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2013年 2014年 2015年	毎講義終了時に、その講義を通じて、その日のテーマについて考えたこと、授業への質問・意見･感想をレポートとして自由に書いてもらっている。全体での質問は難しくても、このレポートを通じて個別に学生は、分からないことや教員への要望も比較的自由にその都度表明できる。次回の授業で要望や質問へのフィードバックを行っており、同時に教員は毎回、講義のテーマに関する学生の達成度や反応を具体的につかむことができる。学生にとっては、記述力の向上、講義でのモチベーションの維持、復習などに役立てられる。講義および演習における教材や授業資料などの情報提供手段として、パワーポイントを活用しながら視覚的に提示し、学生の興味を引きながらより具体的に現象がとらえられるように配慮した授業活動を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2013年 2014年 2015年	テキストや参考図書から、その授業でポイントとなる点を抜き出して、また、パーワーポイントを印刷したものを資料として作成して学生に配布するようにしている。このため、学生にとっては、講義中重要な点を的確に、効率よく理解することと、授業終了後の復習としても役立てられる。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
	2013年 2014年 2015年	アカデミック・アドバイザーとして、大学生活、成績、進路についての相談を受ける。特に新入生に対しては、大学での過ごし方、授業の受け方、単位取得についてのアドバイスを行う。また、演習の授業では発達障害に関わるボランティア活動を重視して、学生が実際に現場に出て行き、社会的体験を増やすことを目標としている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
情緒障害児短期治療施設における虐待事例の検討―養育能力不足から虐待に至った母親への支援―（査読付）	単著	2012年 7月	臨床発達心理実践研究(日本臨床発達心理士会)7巻		110－118頁
地域、学校における発達障害の理解と今後の課題	単著	2013年 3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター研究成果報告書		74-80頁
特別支援教育開始後の教育現場における発達障害理解	単著	2013年 3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター研究成果報告書		63-73頁
学校における発達障害理解の現状と今後の課題	単著	2014年 3月	地域支援心理研究センター紀要第10号		61-71頁
被虐待児との心理療法過程	単著	2015年 3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要第11号		63-71頁
その他					
ジェンダーコンシャスなアプローチ（７）－福祉臨床にみるジェンダー－	-	2012年 9月	日本心理臨床学会第31回大会(愛知学院大学（愛知県日進市）)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1983年 4月～現在に至る	日本心理臨床学会(国内学会)会員
2006年 4月～現在に至る	日本発達心理学会(国内学会)会員
2009年 4月～現在に至る	日本児童青年精神医学会(国内学会)会員
2010年 4月～現在に至る	日本人間性心理学会(国内学会)会員
2010年 4月～現在に至る	日本福祉心理学会(国内学会)会員
2012年 4月～現在に至る	日本ユング心理学会(国内学会)会員
2012年 6月	茨木市立郡幼稚園研修会講師
2013年 4月～現在に至る	大阪府立春日丘高校学校協議会委員 委員長
2013年 4月～2014年 3月	大阪府立春日丘高校学校協議会委員
2013年 9月	茨木市教育研究会幼稚園第2部会研修会講師
2013年10月	おうてもん塾「心を科学する」講師
2014年 4月～2015年 3月	大阪府立春日丘高校学校協議会委員

2014年 5月	大阪府立北摂つばさ高等学校研修会講師
2014年 7月	大阪府立茨木支援学校研修会講師
2014年12月	追手門学院大学人権研修会講師
2015年 2月	追手門学院大学地域支援心理研究センター主催公開講座講師
2015年 4月～現在に至る	大阪府立春日丘高校学校協議会委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	准教授	永野　　浩二	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
茨木市の小学校教育について	2013年 6月	市内の小学校長ほか関係者に改善点等をコメント
茨木市内の小学校教育について	2014年 2月	市内の小学校長ほか関係者に小学校教育の改善点をコメントした
茨木市内の小学校教育について	2014年 7月 2日	市内の小学校長ほか関係者に小学校教育の改善点をコメントした
茨木市教育委員会教育相談へのアドバイス	2014年 9月26日	茨木市教育委員会主催の事例検討会において、教育相談員へアドバイスを行う
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
人間性心理学ハンドブック	共著	2012年 9月	(創元社)	日本人間性心理学会編	324頁、334頁
feelingをベースとする共感的理解	共著	2015年 8月	ロジャーズの中核三条件　共感的理解　カウンセリングの本質を考える3(創元社)	三國牧子・本山智敬・坂中正義編	41-56頁
Adopting a Person-Centered Approach to Adolescent School Non-attendance in Japan	共著	2015年 9月	he Person-Centered Approach in Japan: Blending a Western Approach with Japanese Culture(PCCS BOOKS)	Makiko,Mikuni. ed.	1-28頁
「心と体が求める20のこと」　「一致ワーク（ひとりを味わうワーク）」	共著	2015年 9月	フォーカシング健康法 こころとからだが喜ぶ創作ワーク集(誠信書房)	森川友子編	156-163頁
論文					
FMS（The Focusing Manner Scale）改訂版の作成および信頼性と妥当性の検討	共著	2014年 9月	九州産業大学国際文化学部紀要(九州産業大学国際文化学会) ５８	森川友子・福盛英明・平井達也	117-135頁
傾聴トレーニングの実践報告－ゆるやかな構造の中から生まれた自主的な学び－	共著	2014年12月	追手門学院大学地域支援心理研究センター附属心のクリニック紀要(追手門学院大学地域支援心理研究センター附属　心のクリニック) 11	石倉篤・田中雄大・堀川優衣・山本幸代	42-56頁
日常におけるフォーカシング的態度に関する文献リスト（1995～2014）	共著	2015年 3月	追手門学院大学心理学部紀要(追手門学院大学心理学部) 9	永野浩二・福盛英明・森川友子・平井達也	57-68頁
その他					
パーソン・センタード・セラピーの傾聴によりクライアントに起こる動き	-	2013年 9月	日本人間性心理学会第32回大会(大正大学)	企画者：中田行重　話題提供者：森川友子・大石英史・村山尚子・永野浩二　　指定討論者：村山正治	
関係におけるdoing体験とpresence体験	-	2013年 9月	日本人間性心理学会第32回大会(大正大学)		
幸せな働き方・生き方の創造	-	2014年 3月	創元社セミナー		
体験は心理臨床実践に何をもたらすのか	-	2014年 9月	日本心理学会第78回大会(同志社大学)	興津真理子・永野浩二・川畑直人・早樫一男・馬場天信・佐藤豪	
クライエントのSelf in presenceを促進するセラピストの関わり	-	2014年10月	日本人間性心理学会第33回大会(南山大学)		
パーソン・センタード・セラピーによりクライアントおよびセラピストの内面で起こる動き	-	2014年10月	日本人間性心理学会第33回大会(南山大学)	企画者：中田行重　話題提供者：永野浩二・大石英史・森川友子・村山尚子　指定討論者：村山正治	

ライフストーリー・レビュー	–	2014年10月	日本人間性心理学会第33回大会(南山大学)	高松里・井内かおる	
メンタルヘルスケア技法	–	2014年11月	平成26年度第11 回心理相談専門研修(大阪労働衛生総合センター)		
幸せな働き方の創造	–	2015年 2月	創元社セミナー		
体験過程尊重尺度（FMS）の意味と可能性		2015年9月	日本人間性心理学会第34回大会（聖カタリナ大学)	永野浩二・福盛英明・森川友子・平井達也	
体験過程を尊重する態度と大学生の生活の質・コミュニケーション　ーFMS18を用いてー		2015年9月	日本人間性心理学会第34回大会（聖カタリナ大学)	福盛英明・永野浩二・森川友子・平井達也	
パーソン・センタード・セラピーのライブセッションによる意味の検討		2015年9月	日本人間性心理学会第34回大会（聖カタリナ大学)	永野 浩二・村山 正治・中田 行重・村山 尚子・森川友子・大石 英史	
「働き方」をワークする―「幸せな働き方・生き方の創造ワークショップ」実践報告―		2015年9月	日本人間性心理学会第34回大会（聖カタリナ大学)	高松里・永野浩二・平井達也	
「日常生活におけるフォーカシング的態度」について考える		2015年9月	日本心理臨床学会第34回大会(神戸国際展示場)	企画者：永野浩二・福盛英明・森川友子・平井達也　司会者：永野浩二・平井達也　話題提供者：永野浩二・森川友子・青木剛・上西裕之・平井達也　指定討論者：池見陽・福盛英明	
職場のメンタルヘルスの第一次予防　～職場が元気になる効果的アプローチ～　人間性心理学の立場から		2015年12月	第23回日本産業ストレス学会（京都テルサ)	座長：村田理恵・中西一郎　シンポジスト：中田ゆかり・永野浩二・吉岡美千子　指定発言：島津明人	
フォーカシング的態度が心理的ストレス反応や仕事のモチベーションに及ぼす影響ついての一考察		2015年12月	第23回日本産業ストレス学会（京都テルサ)	内田陽之・永野浩二・福盛英明・平井達也・森川友子・山根英之・水本正志・岩佐浩・吉岡千晶・黒木仁美・森口次郎	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1989年～現在に至る	日本人間性心理学会(国内学会)会員
1989年～現在に至る	日本心理臨床学会(国内学会)会員
2001年～現在に至る	日本学生相談学会(国内学会)会員
2004年 4月～現在に至る	日本トラウマ・ストレス学会(国内学会)会員
2006年 4月～2007年 3月　2015年3月～現在に至る	WAPCEPC World Association for Person-centered and Experiential Psychotherapy and Coungeling(国際学会)会員
2012年 4月～2013年 3月	男女共生センターローズWAM　「DV理解と支援についての連続講座」第1回＆最終回を担当
2012年 4月～2015年3月　2016年4月～現在に至る	茨木市男女共生センターローズWAM　スーパーバイザー
2013年 4月～現在に至る	茨木市教育委員会（教育センター）ケース検討会コメンター
2014年 2月	追手門学院大学　地域支援心理研究センター　公開講座（第3回）「問題行動の中に見られる子どもの能力と手を結ぶには」

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	教授	中村　　このゆ	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
発達心理学辞典	共著	2013年 5月	(丸善出版株式会社)	日本発達心理学会編	326-327頁
摂食障害　あいうえお辞典	共著	2013年10月	(コスモス・ライブラリー)	中村このゆ・福田唯・村田進監修、NPOあかりプロジェクト編	149-150頁
まっ、いっか！摂食障害ー当事者のまなざしからー	共著	2014年 4月	(晃洋書房)	◎中村このゆ、村田いづ実、阪本徳子、森下美和	124-165頁,167-173頁
Jungian Coversations with Feminism and Society in Japan. in Huskinson, L.,Stein,M.(eds) *Analytical Psychplogy in a Changing World*.London and New York:Routledge.	単著	2014年 8月	Routledge		89頁-103頁
論文					
心が疲れやすい子どもたち　気遣いが過ぎる友達関係	単著	2013年 2月	児童心理(金子書房) 67(2)		33-38頁
地域子育て支援との連携実践研究(3)院生相談員への教育的効果から	共著	2013年 3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 (9)	◎*中村このゆ*、赤坂直紀，秋山睦,三平真理,小林三千緒	42-49頁
地域子育て支援に関する実践的研究	単著	2013年 3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター研究成果報告書(追手門学院大学地域支援心理研究センター)		12-19頁
Goddess Politics:Analytical Psychology and Japanese Myth（査読付）	単著	2014年 1月	Psychotherapy and Politics International(Wiley Online Libarary) 11(3)		234-250頁
Eating Disorder Examination Quesionnaire(EDE-Q): Norms for Undergraduate Japanese Women（査読付）	共著	2014年 9月	European Eating Disorders Review 22	Yoshiyuki Nakai, Kazuo Nin, Mitsuo Fukushima, Konoyu Nakamura, Shunichi Noma, Satoshi Teramukai, Ataru Taniguchi,Stephen Wonderlich	439-442頁
Q&A 小学生の発達相談　心と体　太ることを気にし過ぎています	単著	2014年12月	児童心理(金子書房) 68(18)		116-120頁
地域支援心理研究センター2014年度公開講座（第3回）2015.2.14 摂食障害　当事者の視点から	単著	2015年2月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 (12号別冊)		36-51頁
スーザン・ローランド著　ユング：フェミニスト改定版(1)	単著	2015年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 9		109-133頁

スーザン・ローランド著　ユング：フェミニスト改定版(2) 第2章,2章注,訳注	単著	2016年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 10		83-105頁
その他					
Jungian Conversations with Feminism and Society in Japan	-	2012年 7月	The Fourth International Academic Conference of Analytical Psychology& Jungian StudiesJung's Analytical Psychology in Conversation with a Changing World(Universidade Catolia Portuguese, Faculdade de Filosofia （ポルトガル、ブラガ）)		
地域子育て支援に関する実践的研究(1)つどいの広場「きらりっこ」	-	2012年 9月	日本心理臨床学会第31回秋期大会(愛知学院大学)	◎森川志生・新村誠・中川久代・箭野佐代子・中村このゆ	
地域子育て支援に関する実践的研究(2)心理臨床的援助を中心に	-	2012年 9月	日本心理臨床学会第31回秋期大会(愛知学院大学)	◎森川志生・新村誠・中川久代・箭野佐代子・中村このゆ	
摂食障害回復者の語りにみる回復モデルの検討	-	2012年 9月	日本心理臨床学会第31回秋期大会(愛知学院大学)	◎森下美和・中村このゆ	
経験者・当事者・関係者による摂食障害者回復支援のためのNPO活動	-	2012年10月	第16回日本摂食障害学会・学術集会(東京)	◎村田いづ実・中村このゆ	
摂食障害　歴史、現状、要因、治療	-	2012年11月	アジア第1回災害後心理援助検討会（第4回中日災害後事例検討会）(北京、北京大学)		
ジェンダーコンシャスなアプローチ(8)－精神力動的心理療法にみるジェンダー指定討論	-	2013年 8月	日本心理臨床学会第32回秋期大会(横浜市)	自主シンポジウム　企画・司会・指定討論者中村このゆ、話題提供者　葛西真記子・松田真理子・田中誉樹	
摂食障害　歴史、要因、中国の現状、治療	-	2013年 8月	第4回国際表現療法学会(蘇州第一高等学校)		
摂食障害の歴史、原因、治療－最近の中国の現時と合わせて	-	2013年 8月	第4回表現性心療法学会トラウマと表現　ワークショップ(蘇州、蘇州第一高等学校)		
経験者・当事者・関係者による摂食障害者回復支援のためのNPO活動―ウェブでの支えあい活動	-	2013年11月	第17回日本摂食障害学会・学術集会(神戸)	◎村田いづ実・中村このゆ	
養護教諭の摂食障害に関する認知度の研究	-	2013年11月	第17回日本摂食障害学会・学術集会(神戸)	田中友理・中村このゆ	
いいんじゃない！自分流子育て	-	2014年 3月	東大阪市子育て支援事業若江岩田みんなの広場きらりっこ講演会(若江岩田みんなの広場きらりっこ)		
Archetypal Images in Japanese Anime:'Space Bttleship *Yamato*(Star Blazers)	-	2014年 6月	IAJS Conference, Rebirth and Renewal(Arizona State Universtiy, Mercado Campus, Phoenix, Arzona U.S.A)		
ジェンダーコンシャスなアプローチ(9)-臨床実践現場に見るジェンダー観指定討論	-	2014年 8月	日本心理臨床学会第33回秋季大会(パシフィコ横浜)	話題提供者仲倉高広,渋川瑠衣	
摂食障害ーやせ礼賛社会とジェンダーの視点から	-	2014年 9月	第14回日本認知療法学会、第18回日本摂食障害学会学術集会合同学会(大阪国際会議場)	教育講演	
経験者・当事者・関係者による摂食障害者回復支援のためのNPO活動-支援者育成プログラム	-	2014年 9月	第14回日本認知療法学会・第18回日本摂食障害学会・学術合同学会　融合と創造(大阪国際会議場)	村田いづ実,中村このゆ	

カウンセリング基礎概論	-	2014年11月	NPO法人あかりプロジェクトセルフヘルプグループセミナー		
我が子への声かけ、上手なほめ方・叱り方	-	2015年 3月	若江岩田みんなの広場きらりっこ講演会(大阪府東大阪市岩田町4-3-22希来里ビル)		
Sailor Moon,Feminine Images and Social Status	-	2015年 7月	the Fourth Joint Coference of the International Association for Analytical Psychology and the Internatinal Association for Jungain Studies(Yale University,)		
摂食障害	-	2015年 8月	第5回国際表現療法学会(蘇州第一高等学校)		
ジェンダーコンシャスなアプローチ(10)一心理臨床家養成におけるジェンダーの視点一指定討論	-	2015年 9月	日本心理臨床学会秋季大会第34回秋季大会(神戸市神戸国際展示場)	話題提供者：酒井律子,岡本智子,興津真理子	
男性摂食障害患者における性役割と自尊感情の関連について	-	2015年10月	第19回日本摂食障害学会学術集会(福岡市博多区パピヨン24ガスホール)		
経験者・当事者・関係者による摂食障害社回復支援のためのNPO活動一支援者育成プログラムの問題点と課題	-	2015年10月	第19回日本摂食障害学会学術集会(福岡市博多区パピヨン24ガスホール)	村田いづ実,中村このゆ	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2005年～現在に至る	日本摂食障害学会(国内学会)評議員
2008年 4月～現在に至る	NPO法人若江広場みんなの広場顧問（NPO法人化は2013年度から）
2010年 6月～現在に至る	NPO法人あかりプロジェクト顧問（NPO法人化は2013年度から）
2012年 6月	「カウンセリングに関するレクチャー及びワーク」平成24年度あかりプロジェクトリカバリーフレンドセミナー講師,於宇治市ゆめりあうじ
2013年 3月	「イヤイヤ期をどう乗り越えるか」東大阪市子育て支援事業若江岩田みんなの広場きらりっこ講演会講師,於若江岩田みんなの広場きらりっこ
2013年 6月	「カウンセリング基礎概論」平成25年度NPO法人あかりプロジェクトリカバリーフレンドセミナー講師,於宇治市ゆめりあうじ
2013年 9月	「深層心理学から見る対人関係のコツ」追手門学院大学校友会四国支部講演会講師,於　旧善通寺偕行社
2013年10月	「食べることは生きること～摂食障害から見えるもの～」東大阪市立男女共同参画推進財団平成25年度イコーラム・カレッジ「現代社会を読み解く」⑤講師,於東大阪市男女共同参画センター
2013年11月	「深層心理学から見る対人関係」特別公開講座追手門学院大学社会人教室おうてもん塾講師,於追手門学院大阪梅田サテライト
2013年11月	「自助グループ援助専門家との『ほどよい関係』」独立行政法人医療福祉機構社会福祉振興助成事業SEED講演会拒食・過食を乗り越えてPart 6～当事者にできること～講師,於京都市男女共同参画センター「ウィングス京都」
2014年 3月	「いいんじゃない！自分流子育て」　NPO法人若江岩田きらりっこ主催講演会講師、於若江岩田みんなの広場きらりっこ
2014年 4月～2015年 3月	日本摂食障害学会(国内学会)第18回摂食障害学会学術集会副大会長
2014年 4月～現在に至る	臨床心理士養成大学院協議会代議員
2014年 5月	「『まいっか！摂食障害』中村このゆ編著」下野新聞
2014年 5月	「『まいっか！摂食障害』中村このゆ編著」宮崎日日新聞
2014年 5月	「『まいっか！摂食障害』中村このゆ編著」神戸新聞
2014年 6月	「摂食障害　生み出す社会に警鐘一誰にでもなる可能性が　臨床心理学者と当事者が本　編著者中村このゆ追手門学院大教授に聞く」京都新聞
2014年 6月	「摂食障害どう克服　自己肯定感とり戻して　向き合う家族にも支えを　当事者と学者など本に」朝日新聞京都版
2014年 7月	いじめ・虐待について
2014年 9月	第14回日本認知療法学会・第18回日本摂食障害学会学術集会合同学会副大会長
2014年 9月	第18回日本摂食障害学術集会シンポジウム　「摂食障害のCBTの実際」座長
2014年 9月	第18回日本摂食障害学術集会シンポジウム「摂食障害患者を支える医療者たち～医師と他職種の連携について～」座長
2014年10月	The International Association for Jungian Studies(IAJS)(国際学会)Executive Committee Member
2015年 2月	摂食障害　当事者の視点から
2015年 3月	我が子への声かけ、上手なほめ方・叱り方
2015年 8月	～青少年の健康教育～「摂食障害理解とかかわり方」
2015年 9月	母と娘の再出発　摂食障害乗り越えて「父親不在」の育児女同志疲弊　皆で語り合い、心ほぐす
2015年10月	一般演題1「心理」座長
2015年11月	被害者支援に対する心理支援
2016年 2月	描画法を通して深める自己理解・他者理解
2016年 3月	我が子への声かけ、上手なほめ方・叱り方
2016年 4月～現在に至る	The International Association for Jungian Studies(IAJS)(国際学会)Programn Committee for 2018 International Conference at South Africa

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	准教授	馬場　　天信	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
ロールプレイ体験を積極的に取り入れた臨床心理学の実践教育	2007年 4月 1日 ～現在に至る	「心理療法演習」、「臨床心理面接演習」の科目では4名1グループによるロールプレイ演習を継続的に行い、教員からのフィードバックやグループ内でのシェア（カウンセラー役割、クライエント役割、観察者役割）を通して、他者の話を上手に聴くことができるよう教育方法を工夫した。毎回の授業で組むグループ構成は常に変えるようにし、授業ごとに全ての役割を経験し、そこで感じたことや体験したことを言語化するよう工夫した。また、ロールプレイで話す内容は模擬事例ではなく、生の体験（普段のストレスについて、これまでの自分、将来について、家族など）とし、時間は8分、シェアに10分とした。
自己の体験を他者と触れ合い、共有を積極的に取り入れた初年次教育	2007年 4月 1日 ～現在に至る	「新入生演習」、「ライフスタイル演習」という初年次の授業では、自己への気づきとともに、それらを他者と共有し、触れ合うことができるよう教育方法を工夫した。具体的には、他己紹介課題、エンカウンターグループ、落し物課題、ライフコース図作成、香りと音楽から感じたことを描画し他者と共有する課題など、独自の触れあう課題を作成し、毎回の授業ではグループごと、あるいは、二人１組となってシェアを繰り返すよう工夫した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
解釈仮説から記号化の意味を理解するロールシャッハ・テスト教材の作成（改訂2015度版）	2007年 4月 ～現在に至る	ロールシャッハ・テストの学習は機械的に記号化スキルを習得するだけでは何も得られるものはない。そこで、ロールシャッハ・テストを教える大学院の「投映法特論」用にそれぞれ独自の資料教材の冊子（全部で60頁）を作成し、初回授業時に配布した。記号化についての解説のみならず、研究者や臨床家によって、その記号にどのような解釈仮説が付与されているかを複数記載し、記号化の段階から、個々人のありよう（パーソナリティ特徴）を読み取ることができるような資料教材である。この資料は大学院生に好評であり、他大学院の集中講義でも使用しており、2014年度版については包括システムの反応内容解釈指標を新たに改訂追加した教材を作成した。
ケースフォーミュレーション教材（改訂2015年度版）	2007年 9月 ～現在に至る	「メンタルケア演習」における授業では、学生の興味関心に応じたテーマを発表させ、適宜コメントするが、それだけではその事例についてどのように対応するかを話し合うことは難しい。そこで、学生の発表テーマが決まった時点で、そのテーマに即した仮想事例を複数作成し、該当内容の発表後に、8～10名を1グループとしてその事例についてどのように対応すべきか話し合いをさせた。この課題は、教育・福祉、医療、産業という主要３領域に関係するもので、テーマは不登校から、発達障害への対応、危機介入や職場ストレスへの認知行動療法的アプローチなどを含む課題である。各テーマごとに短い3事例を作成し（合計12事例程度とその解答例がのっている冊子）、そこで自分であればどのように対応するかを考えさせる教材である。毎年改訂を行っているが、2014年度版は教科書出版を前提に、事例の他に授業での解説資料追加作成して冊子として配布し授業教材として全クラス共通で使用している。
「精神分析学」の穴埋め回答付きの入門教科書冊子の作成　2015	2010年 4月 ～現在に至る	精神分析学では、事前に読んで来てもらうための全部で60頁程度からなる教科書冊子を作成し、穴埋めとその回答も最後につけたものを授業で配布して授業を行っている。いずれ教科書としての出版を考えているものであるが、毎年改訂を行っている。事前学習ができることや、試験勉強で重要か所の穴埋めを確認できることなど、学生には好評である。
『心理学概論　第二版』	2014年 4月10日	第１版を大幅に改定し、著者や監修者や編集者も変更して、新しい教科書として改訂して作成した。筆者は2つの章で、精神分析に関する理論とアレキシサイミア、タイプA、タイプC、レジリエンス、健康行動に関する内容を執筆した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
大学院生の外部実習先への引率と個別指導	2014年 4月 ～現在に至る	臨床心理実習の学外実習の挨拶と次年度対応や院生の指導について、宇治おうばく病院の担当学生（小松）の毎週の個別指導と年に2回の次週先への訪問を行った。
大学院生の外部実習先への引率と個別指導	2015年 3月12日	大学院生の外部実習（宇治おうばく病院）の窓口担当者として、三好君と大坪君を引率して、挨拶と依頼や実際の実習内容の調整などを行った。
卒業論文指導と論文投稿	2015年 3月20日	本学大学院に進学したゼミ生2名について、2015年度心理学論集（査読付き）へ投稿をさせ論文掲載となった。心理学論集は指導教員は連名となれないため単独での論文執筆となっているが、卒業研究からあわせて論文完成まで指導を行った（赤根、中川の2名）
卒論提出者8名（心理学部ゼミ内で最大）	2015年 3月20日	卒論提出者30数名のうち、馬場ゼミにおいて卒業論文を提出した者は8名と心理学部内で最も多く、かつ、卒業論文の判定成績において80点以上が5名と高い評価を得た。ゼミ生が18名と多い中でこれらの達成をだせていることは一定の評価を得てしかるべきかと思われる。

大学院生の外部実習先への引率と個別指導	2016年 3月 2日	大学院生の外部実習（宇治おうばく病院）の窓口担当者として、大坪君と中川さんを引率して、挨拶と依頼や実際の実習内容の調整などを行った。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
心理学概論［第2版］（執筆箇所：第9章 パーソナリティ　第2節　精神力動的な捉え方　pp.232-238.　第12章 健康 第3節 個人の特性や習慣と健康 pp.351-357.）	共著	2014年 4月	(ナカニシヤ出版)	岡市廣成、山内弘嗣、鈴木直人、内山一郎、畑敏道、馬場天信他、25名	232-238-351-357頁
論文					
肥満症患者の心理的特徴とチーム医療介入の実際	共著	2012年10月	心身医学(三輪書店) 52	◎馬場天信・佐藤豪・齋籐瞳・木村穣・中川明仁	937-944頁
アレキシサイミア傾向者の家族システムと家族内感情体験の特徴について　――Family System Testを用いた検討――	共著	2014年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 8	◎馬場天信・興津真理子・中西美和	53-65頁
病の体験による生活・生き方の変化に関する基礎的研究（査読付）	共著	2014年 3月	臨床心理学部研究報告 6	◎駿地眞由美・馬場天信・深尾篤嗣・濱野清志・金山由美・村川治彦	117-128頁
一般成人における「病の体験」の実態調査―年代・性別による特徴―（査読付）	共著	2015年 3月	臨床心理学部研究報告(京都文教大学) 7	◎馬場天信・駿地眞由美・深尾篤嗣・濱野清志・金山由美・村川治彦・千秋佳代	51-70頁
一般成人の「病の体験」に関する基礎的研究　――自由記述を通してみる「病の体験」――（査読付）	共著	2015年 3月	臨床心理学部研究報告 7	◎金山由美・駿地眞由美・濱野清志・馬場天信・村川治彦・深尾篤嗣・千秋佳世	31-42頁
肥満治療へのチーム医療介入の意義およびフォーミュラ食使用者の心理的特徴（査読付）	共著	2015年 3月	行動科学 53(2)	◎中川明仁，木村穣，吉内佐和子，宮内拓史，松島典子，馬場天信，佐藤豪	165-172頁
肥満治療のチーム医療	共著	2015年11月	心身医学 55(11)	◎木村穣,馬場天信,佐藤豪,齋藤瞳	1229-1233頁
頭痛に対する破局的思考と症状受容が症状重篤度に及ぼす影響　――アレキシサイミアの観点を含めての検討――	共著	2016年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 10	◎馬場天信，南浦由佳	61-82頁
その他					
「甘え－甘えさせ」尺度の開発	-	2012年 9月	日本心理臨床学会第31回大会発表論文集,360.（愛知学院大学）	松岡英明・馬場天信	
共感性の変化プロセスに関する基礎的研究－イメージスクリプトを用いた情報量増加が感情状態変化に与える影響－	-	2012年 9月	日本心理臨床学会第31回大会発表論文集，647.（愛知学院大学）	森川なつ花・馬場天信	
感情を調整することの意味について考える	-	2012年10月	(追手門学院大阪城スクエアー)		
対人関係論の鍵概念を取り上げる②　－解離モデル：「未構成の経験」という考え方	-	2012年12月	精神分析的心理療法フォーラム1回大会(神戸（甲南大学）)	企画者：家次安子　司会者：馬場天信　話題提供者：宮田智基・野原一徳・長川歩美　指定討論：川畑直人	
アレキシサイミアと自己愛パーソナリティ、ストレスコーピング、ストレス反応との関連性	-	2013年 6月	第54回日本心身医学会総会ならびに学術講演会抄録集，596.(パシフィコ横浜)		
自己愛傾向がストレス処理過程に及ぼす影響について　―誇大型と過敏型からの比較検討―	-	2013年 8月	日本心理臨床学会発表論文集,469.(横浜パシフィコ)	榎並小百合・馬場天信	

対人関係精神分析の鍵概念②　―解離モデル：『未構成の経験』という考え方―	–	2013年 9月	日本心理臨床学会第32回大会論文集, 720.(パシフィコ横浜)	企画者：家次安子・馬場天信 司会者：川畑直人　話題提供者：長川歩美・野原一徳・宮田智基	
対人関係論の鍵概念を取り上げる③－『エナクトメント』への気づきと新しい体験－」	–	2013年12月	第2回　精神分析的心理療法フォーラム(京都（京都文教大学）)	企画者：宮田智基　話題提供者：野原一徳、今井たよか、長川歩美　指定討論者：川畑直人 司会者：馬場天信	
アレキシサイミア傾向者の過剰適応行動と消化器症状との関連性について	–	2014年 6月	第55回日本心身医学会総会ならびに学術講演会(幕張メッセ国際会議場（千葉）)		
肥満のチーム医療	–	2014年 6月	第55回日本心身医学会総会ならびに学術講演会(千葉幕張メッセ)	木村穣・馬場天信・藤井彩・松島典子・吉内佐和子・宮内拓史・佐藤豪	
体験は心理臨床実践に何をもたらすのか（指定討論）	–	2014年 9月	日本心理学会第78回大会(同志社大学（京都）)		
キャンセルを続けながらも心的現実に触れ始めた男性との面接経過	–	2014年10月	日本精神分析学会第60回大会(国際会議場（福岡）)		
アレキシサイミアのアタッチメントスタイル特徴について　―Attachment Style Interviewからの検討―	–	2015年 9月	日本心理臨床学会第34回秋季大会発表論文集, 489(神戸国際会議場)	馬場天信・頭師有里・林もも子	
口頭発表（シンポジウムB）の指定討論者	–	2015年 9月	日本心理臨床学会第34回秋季大会発表論文集, 59(神戸国際会議場)	馬場天信	
対人関係精神分析の鍵概念③　―「エナクトメント」への気づきと新しい体験―（自主シンポジウム）	–	2015年 9月	日本心理臨床学会第34回大会大会論文集, 685(神戸国際会議場)	企画：宮田智基・家次安子　司会：馬場天信　話題提供者：野原一徳・今井たよか・長川歩美	
小学校時代の食卓経験が青年期の摂食障害傾向に及ぼす影響	–	2015年 9月	日本心理臨床学会第34回秋季大会発表論文集, 580(神戸国際会議場)	平岡薫・馬場天信	
非類似の他者に対する共感性と態度の研究―個別性とストレスコーピングの視点からの検討―	–	2015年 9月	日本心理臨床学会第34回秋季大会発表論文集, 411(神戸国際会議場)	古川弘子・馬場天信	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1997年 4月～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員
1997年 5月～現在に至る	日本健康心理学会(国内学会)会員
1997年 5月～現在に至る	日本心身医学会(国内学会)会員
1998年 4月～現在に至る	日本ロールシャッハ学会(国内学会)会員
1998年12月～現在に至る	日本心理臨床学会(国内学会)会員
2000年～現在に至る	日本感情心理学会(国内学会)会員
2000年 4月～現在に至る	日本心療内科学会(国内学会)会員
2003年 4月～現在に至る	日本パーソナリティ心理学会(国内学会)会員
2004年 4月～現在に至る	同志社中学生活指導部顧問
2006年 1月～現在に至る	日本精神分析学会(国内学会)会員
2010年 5月～2013年 5月	日本感情心理学会(国内学会)理事
2010年 6月～2012年 5月	日本心身医学会(国内学会)近畿支部代議員
2012年 4月～現在に至る	日本精神分析的心理療法フォーラム(国内学会)会員
2013年12月	精神分析的心理療法フォーラム　分科会の司会
2014年 7月～現在に至る	日本心理学会(国内学会)専門別代議員（第3部門）
2014年 9月	体験は心理臨床実践に何をもたらすのか（指定討論）　日本心理学会第78回大会
2014年 9月	日本心理学会大会企画シンポジウムの指定討論者
2015年 3月～現在に至る	セブンシステム（株）とのメンタルヘルス業務提供担当者（顧問）
2015年 6月	第4回　精神分析的心理療法フォーラム
2015年 9月	口頭発表（シンポジウムB）の指定討論者　日本心理臨床学会第34回秋季大会発表論文集, 59
2015年 9月	対人関係精神分析の鍵概念③　―「エナクトメント」への気づきと新しい体験―（自主シンポジウム司会）　日本心理臨床学会第34回大会大会論文集, 685

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	教授	東　　正訓	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
実社会との連携による学生参加型演習の試み	2009年 9月 ～現在に至る	ビジネスリサーチ演習で、一般企業と連携して、テレビＣＭ、会社イメージなどの計量心理学的分析を指導し、企業担当者の前で報告させている。
WEBCLASSをもちいた大人数教室における双方向授業方法の開発	2014年 ～現在に至る	「社会心理学」において、①授業時間内で実験デモを行い、結果をWEBCLASSで集計し、時間内に提示し、結果について、議論し、レポートを作成させる、②主要概念や用語や主要研究に関する小テストをWEBCLASSで行い、知識の定着と達成度を評価し、即時的に到達度をフィードバックする授業手法を開発し、実践中である。
WEBCLASSをもちいた「心理測定法」の授業時間内でのクリッカークイズの運用	2015年 4月 1日	心理統計法、多変量解析法など文科系学生にとって理解が困難な課題に対して、学習内容をスモールステップで即時的に把握するためのクリッカークイズの導入を試験的に始めた。基礎統計、標準化、正規分布、換算値の特徴、回帰分析まで作っているが、因子分析法などの高度な技法に関する理解度チェック問題がむつかしすぎるので改善を要する。
WEBCLASSを用いた「心理学研究法」における双方向型授業の実践	2015年 9月18日 ～現在に至る	「心理学研究法」において、①授業時間内で研究事例を読んで、読み取った結果をWEBCLASSで集計し、時間内に提示し、結果について、議論し、レポートを作成させる、②主要概念や用語や主要研究に関する小テストをWEBCLASSで行い、知識の定着と達成度を評価し、即時的に到達度をフィードバックする授業手法を開発し、実践中である。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「授業改善をどのように行っているか」班の報告（心理学部FD・自己評価委員会年報「自己評価」2010年度所収）	2013年 3月31日	2010年度第2回心理学部FD談話会報告における班でのディスカッション内容をまとめ、考察した。
学業達成の改善：記憶とモチベーション	2013年 3月31日	追手門学院大学地域支援心理研究センター研究成果報告書に投稿された論文である。公教育で学習技術習得のための授業機会はほとんどないことに鑑み、高大連携プログラムとしての提供および大学生の学習スキル開発の教育実践のための解説論文である。
授業改善に関する論考の公表	2013年 3月31日	大学の授業改善―実践からの省察―　追手門学院大学教育研究所紀要31号，82-91
4　その他教育活動上特記すべき事項		
ライフスタイル演習２の統括	2006年 4月 ～現在に至る	2006年に開設した心理学部の基幹科目である2年次配当のライフスタイル演習２の授業のスケジュール、班分けと教室配当、オリエンテーション、成績処理と提出の統括を担当している。
ビジネスリサーチ演習の統括（シラバス作成、成績評価）	2006年 9月 ～現在に至る	ビジネスリサーチ演習の統括
ビジネスリサーチ演習における企業と連携した応用心理学的演習の指導	2015年 9月 ～2016年 1月21日	㈱大阪ガスの行動観察研究所およびマーケティング推進部PRチームと連携して、実際の企業活動における広報に関する改善を目指した学生参加型の研究（ハグミュージアム来訪者増のための館内サービスの行動観察、HP画面の視線解析、企業スローガンの計量言語心理学的分析）をおこない、大阪ガスの関係者の前で、研究報告会をおこなった。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
大学の授業改善―実践からの省察―	単著	2013年 3月	追手門学院大学教育研究所紀要 (31)		82-91頁
2012年衆院選における労働組合員および一般有権者の投票行動の分析	単著	2014年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 ８		
労働組合員の投票参加傾向の規定因-2007年参院選および2009年衆院選時のデータにもとづいて-	単著	2014年 3月	追手門学院大学心理学論集 （２２）		1-12頁
その他					

速度違反に対する規範、態度、背景要因の影響―計画的行動理論にもとづくモデル構築―	-	2012年12月	交通科学研究会(大阪府)	藤本　忠明・内山　伊知郎・坂口　哲司・山口　直範	
高速道路の広報キャンペーンにかかわる心理学的メカニズム	-	2012年12月	高速道路の交通安全技術講習会(東京都港区南麻布)		
第48回共同調査・前編(2012年衆議院選挙)組合員政治意識総合調査報告 3－8．10年参院選×12年衆院選投票先の判別分析(1) ～ (3)，33－35. 3－9．民主党への支持要因を探る因果モデル(1) ～ (3)，36－38.	-	2013年 2月	(国際経済労働研究所)		33－38頁
学業達成の改善：記憶とモチベーション	-	2013年 3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター研究成果報告書		
安全運転管理者等法定講習特別講義	-	2013年 9月	安全運転管理者講習会特別講義(寝屋川市市民総合センター)		
安全運転管理者等法定講習特別講義	-	2013年10月	安全運転管理者講習会(門真市市民文化会館)		
心理学の”ホンマ”の話し	-	2013年10月	おうてもん塾(追手門学院大学梅田サテライト)		
2012年衆院選における有権者の政治的態度と投票行動	-	2013年11月	日本社会心理学会第53回大会(沖縄国際大学)		
飲酒運転に対する規範、態度、背景要因の影響―計画的行動理論にもとづくモデル構築―	-	2013年12月	交通科学研究会研究発表会(大阪市梅田第1ビル内大阪市立大学文化交流センター・ホール)	藤本　忠明・内山　伊知郎・坂口　哲司・山口　直範	
第48回共同調査 後編（2013年参議院選挙）組合員政治意識総合調査 ４－１．比例区投票先の判別分析 ４－３．民主党支持の因果モデル	-	2014年 2月	第48回共同調査 後編（2013年参議院選挙） 組合員政治意識総合調査(社団法人　国際労働研究所)		39-42頁
2013年参院選における有権者の政治的態度と投票行動	-	2014年 7月	日本社会心理学会第55回大会(北海道大学札幌キャンパス)		
信号無視に対する規範、態度、背景要因の影響―計画的行動理論と習慣概念にもとづくモデル構築―	-	2014年12月	交通科学研究会研究発表会(大阪市立大学文化交流センター・ホール)	藤本　忠明・内山　伊知郎・坂口　哲司・山口　直範	
安全運転キャンペーンを効果的にすすめるために―理論と実践例―	-	2015年 2月	高速道路と自動車 (EXPRESSWAYS　AND AUTOMOBILES) 58(２)		3-6頁
2014年衆議院選挙 組合員政治意識総合調査報告書＜補 論＞ 第１章 労働組合の政治活動に対する組合員の意識　2-5. 第２章 民主党支持を規定する要因とモデル　6-10.　公益社団法人 国際経済労働研究所	-	2015年 4月	2014年衆議院選挙 組合員政治意識総合調査報告書(社団法人　国際経済労働研究所)		
高速道路の広報キャンペーンに関わる心理学的メカニズム―居眠り運転防止ポスターを題材にして	-	2015年10月	高速道路の交通安全に関する講習会(東京都港区南麻布)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1995年～現在	日本交通心理学会(国内学会)会員
1987年～現在	日本心理学会(国内学会)会員
1987年～現在	日本社会心理学会(国内学会)会員

1986年～現在	関西心理学会(国内学会)会員
1993年 4月～現在に至る	交通科学研究会(国内学会)会員
2006年 4月～現在に至る	交通科学研究会(国内学会)編集委員
2007年 4月～2013年 3月	安全運転管理者等法定講習特別講義講師と教材テキスト作成
2011年 7月～現在に至る	交通科学研究会(国内学会)理事
2011年11月～2013年 3月	「高速道路の円滑な利用に向けた運転者への広報検討委員会委員
2013年 3月	学業達成の改善：記憶とモチベーションと題した高大連携用講義内容の解説論文
2014年10月	おうてもん塾にて、「ビジネスに役立つ心理学」講演
2015年 4月	日本応用心理学会(国内学会)会員
2015年 8月～2016年 3月	「高速道路での居眠り運転防止に向けた効果的な対策に関する調査研究委員会」委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	教授	鋒山　　泰弘	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「大学教育の多様な実態から考える学校教育の課題」というテーマで発表	2014年11月16日	京都教育文化センターにおいて、教育課程・学力研究会という京都の小中高大の会員で構成されている研究会で発表。
クラスの『困った子ども』に寄り添う教育と学力形成を考える	2015年 6月21日	2015年度 京都教育センター学力・教育課程研究部会6月公開研究会。会場：京都教育文化センター
地域再生の課題から教育について考える	2015年11月15日	京都教育センター学力・教育課程研究会11月公開研究会（会場：京都教育文化センター）
国際化時代を生きる学力とは	2015年12月20日	京都教育文化センター第46回研究集会第3分科会（会場：京都教育文化センター）
4　その他教育活動上特記すべき事項		
教員採用試験に受かった卒業生に対する助言・指導	2015年 2月 1日 ～2015年 2月25日	心理学部の卒業生で大阪府の小学校教員採用試験に受かった者に、仕事が始まるまでの期間にしておくべき学習内容と方法、文献について指導・助言を行った。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
教師になること、教師であり続けること	共著	2012年 9月	(勁草書房)	山﨑雄介他	224-241頁
論文					
現代イギリスにおける「固定的能力」観を克服する教育実践の特質	単著	2013年 3月	追手門学院大学教職課程年報 （２１）		1-18頁
「大津中２いじめ自殺事件」と教科外活動における教師の共同の課題	単著	2013年 6月	教科外活動と到達度評価(全国到達度評価研究会　教科外教育分科会) (14)		8-13頁
中学校における教師の共同の課題―「大津中２いじめ自殺事件」と「学びの共同体づくり」から考える	単著	2014年 3月	『追手門学院大学教職課程年報』(追手門学院大学教職課程) (22)		15-26頁
2014年イングランドのナショナルカリキュラム改訂の検討ー日本の次期学習指導要領改訂の課題と関連づけてー	単著	2015年 3月	追手門学院大学教職課程年報 (23)		15-24頁
「育成すべき資質・能力」をめぐる論議とカリキュラム改革の課題―2014年イングランドのナショナルカリキュラムの改訂をめぐる論点―	単著	2015年 9月	『日英教育研究フォーラム』 (19)		23-28頁
2015年度「教育実習の記録」から読み取る指導の課題	単著	2016年 3月	追手門学院大学教職課程年報 （２４）		45-54頁
その他					
書評ダイアン・ハート（著）、田中耕治（監訳）『パフォーマンス評価入門―真正の評価論からの提案―』	-	2012年11月	教育目標・評価学会紀要 (22)		
現代イギリスにおける「能力決定観」を克服する教育実践の特質	-	2012年11月	教育目標・評価学会第23回大会(東洋大学)		
授業に活かす教育評価の考え方と技法	-	2013年 5月	静岡県総合教育センター教科等指導リーダー研修会(静岡県)		

教育実践に活かす評価	-	2013年 8月	福岡県看護協会教務主任養成講習会(福岡県)		
歴史教育のカリキュラム設計とパフォーマンス評価―日本とイギリスの比較にもとづいて―	-	2014年 6月	日本カリキュラム学会第25回大会(関西大学)		
イングランドの2014年ナショナルカリキュラム改訂をめぐる教科教育の目標・評価規定の課題	-	2014年 9月	日英教育学会第23回大会(常葉大学)		
教育評価をめぐる論点と課題―ヒューマンサービスにおける評価の役割―	-	2015年 6月	(作新学院大学)		
E.FORUMスタンダードの改訂に向けて（社会）	-	2015年 8月	E.フォーラム（(京都大学)		
書評 西岡加名恵・石井英真・田中耕治（編）『新しい教育評価入門－人を育てる評価のために―』	-	2015年11月	(教育目標・評価学会紀要)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1990年11月～現在に至る	教育目標・評価学会(国内学会)会員
1991年7月～現在に至る	日本カリキュラム学会(国内学会)会員
1985年4月～現在に至る	日本教育学会(国内学会)会員
1985年4月～現在に至る	日本教育方法学会(国内学会)会員
1985年4月～現在に至る	関西教育学会(国内学会)会員
2005年 8月～現在に至る	全国到達度評価研究会会長
2013年 4月～現在に至る	京都教育センター・学力・教育課程研究会代表
2013年 6月 1日～2016年 3月31日	文部科学省：「高等学校における『多様な学習成果の評価手法に関する調査研究』評価・推進委員会」 評価・推進委員
2014年11月～現在に至る	教育目標・評価学会(国内学会)代表理事
2015年 4月～2016年 3月	文部科学省助成：2015年度「高等学校における『多様な学習成果の評価手法に関する調査研究』評価・推進委員会」委員
2015年 8月～現在に至る	E.FORUMスタンダードの改訂に向けて（社会）
2015年11月	教育目標・評価学会第26回大会「課題研究：社会科で習得させる知識・理解と価値観・行動の指導と評価」指定討論者

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	特任助教	増井　啓太	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
脳画像でみる精神疾患	共著	2013年 6月	(新興医学出版社)	増井啓太・福井裕輝	194-197頁
論文					
Social exclusion mediates the relationship between psychopathy and aggressive humor style in noninstitutionalized young adults. (査読付)	共著	2013年 7月	Personality and Individual Differences 55	Keita Masui, Hiroshi Fujiwara, Mitsuhiro Ura	180-184頁
Family socioeconomic status modulates the coping-related neural response of offspring. (査読付)	共著	2013年 8月	Social Cognitive and Affective Neuroscience 8	Kuniaki Yanagisawa, Keita Masui, Kaichiro Furutani, Michio Nomura, Hiroshi Yoshida, Mitsuhiro Ura	617-622頁
Non-conscious neural regulation against mortality concerns. (査読付)	共著	2013年 9月	(Neuroscience Letters) 552	Kuniaki Yanagisawa, Emiko S Kashima, Hiroki Moriya, Keita Masui, Kaichiro Furutani, Michio Nomura, Hiroshi Yoshida, Mitsuhiro Ura	35-39頁
Assured rewards facilitate non-intervention in unfair situations by high psychopathy individuals. (査読付)	共著	2014年11月	International Journal of Psychological Studies 6(1)	Keita Masui, Shouichi Iriguchi, Mitsuhiro Ura	56-64頁
日本語版Dark Triad Dirty Dozen (DTDD-J) 作成の試み (査読付)	共著	2015年 8月	パーソナリティ研究 24	田村紋女・小塩真司・田中圭介・増井啓太・Jonason, P. K.	26-37頁
Aggressive humor style and psychopathy: Moderating effects of childhood socioeconomic status (査読付)	共著	2016年 3月	Translational Issues in Psychological Science(American Psychological Association) 2(1)	Keita Masui, Mitsuhiro Ura	46-53頁
その他					
死の顕現化に伴う脳内処理過程と文化的世界観防衛の関連	-	2012年 9月	日本グループ・ダイナミックス学会第59回大会(京都)	柳澤邦昭・嘉志摩江身子・守谷大樹・増井啓太・古谷嘉一郎・野村理朗・吉田弘司・浦光博	
Psychopathic traits moderate the devaluing of personal relationships due to reduced social acceptance.	-	2013年 1月	The 14th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology(New Orleans)	Keita Masui, Mitsuhiro Ura	

Social exclusion mediates the relationship between psychopathy and aggressive humor style in noninstitutionalized young adults.	-	2013年 7月	The Biannual Meeting of the International Society for the Study of Individual Differences(Barcelona)	Keita Masui, Hiroshi Fujiwara, Mitsuhiro Ura	
不公正な状況への介入行動に及ぼすサイコパシーの影響の検討	-	2013年 9月	日本心理学会第77回大会(札幌)	増井啓太・浦光博	
不公正な状況への非介入に及ぼすサイコパシー特性と賞罰の影響	-	2013年10月	日本パーソナリティ心理学会第22回大会(千葉)	増井啓太・入口将一・浦光博	
社会的支配志向性の性差に及ぼすサイコパシーの影響	-	2014年 7月	日本社会心理学会第55回大会(札幌)	増井啓太・横田晋大	
日本語版Dark Triad Dirty Dozenの信頼性および妥当性の検討	-	2014年 9月	日本心理学会第78回大会(京都)	増井啓太・田村紋女・小塩真司・田中圭介・Jonason, P. K.	
外国人への排外的態度とパーソナリティとの関連－サイコパシー，社会的支配志向性，共感性との関連の検討―	-	2014年10月	日本パーソナリティ心理学会第23回大会(山梨)	増井啓太・横田晋大	
男性戦士としてのサイコパス：衆目下での集団葛藤状況における協力行動の検討	-	2014年11月	日本人間行動進化学会第7回大会(神戸)	横田晋大・増井啓太	
Personal nostalgia mediates influences of the avoidant attachment style on psychopathy in non-clinical adolescents.	-	2015年 6月	The 6th Biennual Meeting of the Society for the Scientific Study of Psychopathy(Chicago)		
Dark Triadパーソナリティ特性と飲酒との関連－飲酒効果予期の調整効果の検討－	-	2015年 7月	日本パーソナリティ心理学会第24回大会(札幌)		
サイコパシーと戦略的利他性	-	2015年 9月	日本心理学会第79回大会(名古屋)		
社会的カテゴリーが顔認知に及ぼす影響－事象関連電位による検討－	-	2015年 9月	日本心理学会第79回大会(名古屋)	増井啓太・寺澤悠理・柴田みどり・佐藤安里紗・辻　幸樹・福田春奈・梅田　聡	
Relationship between the Dark Triad personality and the transition in forming interpersonal impression	-	2016年 7月	The 31st International Congress of Psychology(Yokohama)	Keita Masui, Mari Henmi, Nobuhiko Kijima, Satoshi Umeda	
他者への印象の推移に及ぼすDark Triad の影響	-	2016年 9月	日本パーソナリティ心理学会第25回大会(吹田)		
犯罪加害者への非難に及ぼす加害者の性質とサイコパシーの影響	-	2016年 9月	日本社会心理学会第57回大会(西宮)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2008年 4月～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員
2009年 1月～現在に至る	日本認知心理学会(国内学会)会員
2010年 4月～現在に至る	Association for Psychological Science(国際学会)会員
2010年 9月～現在に至る	Society for Personality and Social Psychology(国際学会)会員
2010年10月～現在に至る	日本社会心理学会(国内学会)会員
2012年 1月～現在に至る	日本パーソナリティ心理学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	教授	三川　　俊樹	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
大学生のためのキャリアガイドブック　Ver.2	2016年 2月	大学4年間を通して主体的に自らの人生の選択・設計ができるように、大学生の社会的・職業的自立と自律的生き方を目的とした、大学時代に学ぶべき哲学を有したガイドブックの改訂版。最新のデータに基づいて内容を改訂した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
産業カウンセリングー産業カウンセラー養成講座テキスト	共著	2012年10月	(社団法人　日本産業カウンセラー協会)	社団法人　日本産業カウンセラー協会（編）	464-493頁
論文					
キャリア教育・キャリア形成支援の効果測定	単著	2013年 3月	進路指導(日本進路指導協会) 86(１)		3-12頁
高等学校におけるキャリア教育・職業教育の効果に関する研究―キャリアデザイン力尺度の開発	共著	2013年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 7	三川俊樹・石田典子・神田正惠・山口直子	57-77頁
スーパービジョンに関する一考察－日本産業カウンセリング学会のスーパーバイザー養成・訓練を担当して	単著	2015年 3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 （１１）		72-86頁
高等学校におけるキャリア教育・職業教育の効果に関する研究（２）―キャリアデザイン力尺度の再検討	共著	2015年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 9	三川俊樹・石田典子・神田正惠・山口直子	69-84頁
勉強につまずいている子を支える教師－カウンセリングとコンサルテーションの積極的な活用を！	単著	2015年 7月	児童心理(金子書房)		75-80頁
スーパービジョンに関する一考察（２）－スーパービジョンの課題とスーパーバイザーの機能	単著	2016年 3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 (12)		64-73頁
その他					
再考、学校教育相談の固有性・独自性（その１）－隣接領域（生徒指導とキャリア教育）との異同の検討を通して　（キャリア教育と学校教育相談との異同）	-	2014年11月	日本教育心理学会第56回総会(神戸)	藤原忠雄・小林幹子・大野精一・西山久子・都丸けい子・新井肇・金山健一・今西一仁・中原美惠	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1985年4月～現在に至る	日本カウンセリング学会(国内学会)会員
2005年4月～現在に至る	日本キャリア教育学会(国内学会)会員
1990年4月～現在に至る	日本学生相談学会(国内学会)会員
2006年11月～現在に至る	日本教育カウンセリング学会(国内学会)会員
1985年4月～現在に至る	日本教育心理学会(国内学会)会員
1999年4月～現在に至る	日本産業カウンセリング学会(国内学会)会員

1993年4月～現在に至る	日本青年心理学会(国内学会)会員
1998年 5月～2013年 5月	日本学生相談学会(国内学会)理事
2006年10月～現在に至る	日本キャリアデザイン学会(国内学会)会員
2008年 4月～現在に至る	日本カウンセリング学会(国内学会)常任編集委員
2009年 9月～2016年 3月	キャリア・コンサルティング技能検定の指定試験機関技能検定委員
2009年 9月～2012年 8月	日本教育カウンセリング学会(国内学会)理事
2010年 7月～現在に至る	茨木市社会教育委員の会議　委員／議長
2010年 9月～2013年 8月	日本カウンセリング学会(国内学会)理事
2010年11月～2012年10月	日本キャリア教育学会(国内学会)副会長
2011年 9月～2014年 9月	日本産業カウンセリング学会(国内学会)副会長
2012年 2月～現在に至る	日本教育カウンセリング学会(国内学会)編集委員
2012年 3月～2016年 3月	文部科学省初等中等教育局　緊急スクールカウンセラー等派遣事業（２）進路指導・就職支援体制強化事業審査委員会　書面審査委員
2012年 7月～現在に至る	茨木市青少年問題協議会／専門部会　　委員（協議会）／委員長（専門部会）
2012年 9月～2015年 8月	日本教育カウンセリング学会(国内学会)常任理事
2012年10月～2014年 9月	日本キャリアデザイン学会(国内学会)理事
2012年10月～2014年11月	日本キャリア教育学会(国内学会)会長
2013年 4月 1日～現在に至る	一般社団法人　学校心理士認定運営機構　資格認定委員会 委員
2013年 6月～現在に至る	なみはや　福祉会　（評議員）
2013年12月 1日～現在に至る	NPO　日本教育カウンセラー協会 評議員
2014年 5月～現在に至る	茨木市中央公民館運営審議会　委員
2014年 7月～現在に至る	茨木市教育委員会事務管理執行状況の点検および評価
2014年11月	おうてもん塾　（特別公開講座）
2015年 5月～2015年 6月	独立行政法人教員研修センター　平成27年度キャリア教育指導者養成研修
2015年 8月	大阪市聴覚特別支援学校　キャリア教育研修
2015年 8月	教員免許更新講習　「学校教育で使える心理学」
2015年 9月	日本産業カウンセリング学会第20回大会・自主シンポジウム　「スーパービジョンの受け方を学ぶ」
2015年10月	福岡県教育センター　キャリア教育研修
2015年12月	大阪教育カウンセラー協会　養成講座フォローアップ研修
2016年 2月	内閣官房内閣人事局　平成27年度　管理職のための職場メンタルヘルスセミナー
2016年 2月	西鳥取公民館講座　「カウンセリング講演会」

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
心理学部心理学科	教授	溝部　　宏二	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
レジュメ	2008年 ～現在に至る	精神医学
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
弁証法的「臨床心理実習」指導 ―「技と知」：指定討論での提言も含めて―	2012年 9月14日	日本心理臨床学会　第31回秋季大会
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Psychological changes in the process of Naikan therapy -what we learn from the results of psychological tests-	共著	2013年10月	Naikan Therapy - Techniques and principlws for use in clinical practis	T.Takemoto, T.Maeshiro, N.Tsujita, K. Nagayama, N.Tatsumi, R.Kadoya, K.Mizobe, K.Kawai, S.Horii, M.Sengoku, Y.Miki, Y.Komto, S.Tashiro, T.Takemoto, K.Kawai	89-106頁
論文					
軽度発達障害児に対する療育的集団遊戯療法―指示を意識した遊戯療法に対する臨床心理士養成大学院生の戸惑い―	共著	2012年12月	追手門学院大学心のクリニック紀要 (9)	阿部亮太、天田大樹、木下千春、京井志帆、申　悠史、仲本謙太、野村有里	10-27頁
思春期の脳と心―精神科医のミタ不登校・ひきこもり・家庭内暴力―	単著	2013年 3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 (9)		
臨床心理士が行う「療育としての集団遊戯療法」への道 -「枠」の中で治療者が抱えるべきNegative Capability-	共著	2013年12月	追手門学院大学地域支援心理センター附属心のクリニック紀要 10	溝部宏二、阿部亮太、大久保映里、小山万理子、坂本咲恵、眞銅景子、須藤峻太郎、堂　周平、向井麻菜、吉村幸恵	9-32頁
統合的遊戯療法を模索して　～主体性を育むプログラムの確立～	共著	2014年12月	追手門学院大学心のクリニック紀要(追手門学院大学地域支援心理研究センター) 11	溝部宏二、岡本崇志、北かずみ、志村智徳、眞銅景子、田中雄大、塚本瞭、平岡　薫、村中誠司、飛与田順子	21-42頁
不登校・ひきこもり・インターネット依存に家族ができること	単著	2015年 3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要(追手門学院大学地域支援心理研究センター) 11		30-49頁
統合的遊戯療法を模索して2.～主体性を育むプログラムの確立～	共著	2016年 3月	追手門学院大学心の相談室紀要 (12)	溝部宏二、池田正樹、岡本嵩志、加藤宏明、田中雄大、塚本瞭、春田実早紀、藤井崇弘、末代咲恵、松原彩乃、弓削久子、長谷川裕子、佐藤倫子	27-35頁
その他					
療育と遊戯療法の狭間にて ―「障害モデル」と「心理臨床モデル」―	-	2012年 4月	大阪市家庭児童相談員研修会		
「分からない！」から始まる親子関係 ―思春期のこころと脳(NO)、そして身体―	-	2012年 7月	「不登校生・高校中退者のための学校相談会」第5回		

弁証法的「臨床心理実習」指導 ー「技と知」：指定討論での提言も含めてー	–	2012年 9月	日本心理臨床学会　第31回秋季大会(名古屋)	原賀学、白井祐浩、姫島源太郎	
臨床心理士の立場から	–	2012年10月	第２４回内観療法ワークショップ(京都市)		
「ボクの気持ちもわかってよ―不登校の脳とこころ―」	–	2013年 1月	「不登校生・高校中退者のための学校相談会」第6回		
医療教育モデルと心理臨床モデルの邂逅　－発達障害者支援における心理臨床の意義-」	–	2013年 4月	京都文教大学子ども臨床研究会研修会(宇治市)		
不登校・いじめにみる思春期のこころと脳-裏と表：甘え、妬み、そして恐れる-	–	2013年 7月	「不登校生・高校中退者のための学校相談会」第7回(大阪市)		
サイコセラピーとしての内観の活用	–	2013年12月	第20回関西アルコール関連問題学会(奈良市)		
「ひきこもりに家族ができること－私は少数派の味方（見方）です－」	–	2014年 2月	家族会主催講座(吹田市)		
「ひきこもり－家族にしかできないこと－」	–	2014年 9月	家族会主催講座(吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館)		
子どもの“味方”になる“見方”のコツ	–	2015年 1月	高校中退者・不登校の為の進学相談会(大阪)		
ロクデナシの私の『底』に汝を観るコト～罪と恥の彼岸、『原恩』の自覚～（大会長講演）	–	2015年 5月	第38回　日本内観学会大阪大会(大阪府大阪市)		
病院で働く人のメンタルヘルス～自分を守るための技術：「本音」と「建前」を知る～	–	2015年 5月	メンタルヘルス研修会(大阪府堺市)		
心のクリニック分室開所にあたって～心理学が地域社会に貢献出来る事～	–	2015年 7月	地域支援心理研究センター分室・附属心のクリニック分室開所式(大阪府茨木市)		
発達/知的障害の特性と関わり方のコツ～子どもの味方（見方）になるには～　立派な親に成れないと悩む「ふつう」のお母さんへ	–	2015年 9月	高槻支援学校PTA講演会・学習会(大阪府高槻市)		
「諦め」から始まる本音の「ひきこもり」支援	–	2015年10月	吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館にて家族会主催講座(大阪府吹田市)		
精神科医からみる自殺者の心理と対策（うつ病を中心として）	–	2016年 1月	第2回高槻市自殺対策庁内連絡会及び研修会(大阪府高槻市)		
子育て支援にいかす精神医学」～保護者の精神疾患に対する知識と対応～	–	2016年 2月	平成27年度　大阪市こども青年局家庭児童談員月例研修会(大阪府大阪市)		
アナタの知らないうら（こころ）の世界　～なぜ人は「絆」を求めるのか～	–	2016年 3月	追手門学院大学創立50周年記念事業地域支援心理研究センター分室附属心の相談室分室開設記念シンポジウム「孤立・無縁社会を生き抜く」(大阪府茨木市)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1990年 4月～現在に至る	日本心身医学会(国内学会)会員
2000年～現在に至る	日本内観医学会(国内学会)会員
2000年～現在に至る	日本内観学会(国内学会)会員
2002年 4月～現在に至る	日本精神神経学会(国内学会)会員
2002年10月～現在に至る	日本内観医学会(国内学会)評議員
2007年 4月～現在に至る	日本心理臨床学会(国内学会)会員
2007年 4月～現在に至る	日本精神分析学会(国内学会)会員
2012年 6月～現在に至る	日本内観学会(国内学会)評議員
2012年10月～2013年 3月	軽度発達障害児のための集団遊戯療法「にこにこ教室」開催（春と秋に10回ずつ：茨木市障害福祉センターと連携）
2012年12月	朝日新聞クロスレヴュー　エヴァンゲリオン新劇場版Q　「逃げたい若者の心をつかむ」

2013年 4月～2014年 3月	高槻市自殺未遂者支援事業　事例検討会スーパーヴァイザー
2013年 6月	「不登校は親子関係を見つめなおす機会です」　サンケイリビング社発行の雑誌「リビングセレクション2014」に寄稿
2013年 7月～2013年 8月	「無料発達相談会」開催（茨木市教育委員会後援）
2013年10月～2014年 3月	軽度発達障害児のための集団遊戯療法「にこにこ教室」開催（春と秋に10回ずつ：茨木市障害福祉センターと連携）
2013年11月	地域支援心理研究センター　第9回公開シンポジウム企画運営および司会
2014年 1月～2014年 2月	「無料発達相談会」開催（茨木市教育委員会後援）
2014年 2月	地域支援心理研究センター公開講座「子どもたちの健やかな育ちのために（3）」を企画運営司会および講演
2014年 4月～2015年 3月	高槻市自殺未遂者支援事業　事例検討会スーパーヴァイザー　4回/年
2014年 7月～2014年 8月	地域支援心理研究センターにて「無料発達相談会」開催（後援　茨木市教育委員会）
2014年10月～2014年10月	第17回日本内観医学会奈良大会　内観療法の新たな可能性を探る（シンポジウム座長）
2014年10月～2014年12月	軽度発達障害児のための集団遊戯療法「にこにこ教室」開催（秋に10回：茨木市障害福祉センターと連携）
2014年11月	地域支援心理研究センター講演会「発達障害の理解と支援」を企画運営・司会
2014年11月～2014年12月	放送大学生の卒業論文口頭試問に副査
2014年12月	奈良女子大　学部・修士・博士の研究発表会におけるゲストコメンテーター
2015年 1月	「不登校生・高校中退者のための学校相談会」不登校相談会にて講演（サンケイリビング新聞社主催）2015年1月「不登校親子のこころと脳～」
2015年 1月～2015年 2月	地域支援心理研究センター公開講座「子どもたちの健やかな育ちのために（4）」を企画運営・司会
2015年 2月～2015年 3月	地域支援心理研究センターにて「無料発達相談会」開催（後援　茨木市教育委員会）
2015年 4月～2016年 3月	高槻市自殺未遂者支援事業　事例検討会スーパーヴァイザー　4回/年
2015年 7月～2015年 8月	地域支援心理研究センターにて「無料発達相談会」開催（後援　茨木市教育委員会）
2015年10月～2016年 1月	軽度発達障害児のための集団遊戯療法「にこにこ教室」開催（10回＋振り返り面接：茨木市障害福祉センターと連携）
2015年12月	地域支援心理研究センター講演会「親子に笑顔が戻るコミュニケーション」
2016年 2月～2016年 2月	地域支援心理研究センターにて「無料発達相談会」開催（後援　茨木市教育委員会）
2016年 3月	追手門学院大学創立50周年記念事業地域支援心理研究センター分室附属心の相談室分室開設記念シンポジウム「孤立・無縁社会を生き抜く」

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無　（有）
心理学部心理学科	講師	吉村　晋平	

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Sadness Enhances the Experience of Pain and Affects Pain-Evoked Cortical Activities: An MEG Study.（査読付）	共著	2012年 4月	The journal of pain	Yoshino A, Okamoto Y, Onoda K, Shishida K, Yoshimura S, Kunisato Y, Demoto Y, Okada G, Toki S, Yamashita H, Yamawaki S	628-635頁
Sex differences in neural activation to ambiguous facial expression in happy and sad context.（査読付）	共著	2012年10月	Perceptual and motor skills	Kinoshita A, Okamoto Y, Okada G, Demoto Y, Kunisato Y, Yoshimura S, Onoda K, Kamachi M, Yamawaki S	349-359頁
Effects of depression on reward-based decision making and variability of action in probabilistic learning.	共著	2012年12月	Journal of behavior therapy and experimental psychiatry	Kunisato Y, Okamoto Y, Ueda K, Onoda K, Okada G, Yoshimura S, Suzuki S, Samejima K, Yamawaki S	1088-1094頁
The neurocognitive effects of aripiprazole compared with risperidone in the treatment of schizophrenia.（査読付）	共著	2012年12月	Hiroshima journal of medical sciences	Sato G, Yoshimura S, Yamashita H, Okamoto Y, Yamawaki S	75-83頁
Cognitive behavioral therapy for depression changes medial prefrontal and ventral anterior cingulate cortex activity associated with self-referential processing.（査読付）	共著	2013年 2月	Social cognitive and affective neuroscience	Yoshimura S, Okamoto Y, Onoda K, Matsunaga M, Okada G, Kunisato Y, Yoshino A, Ueda K, Suzuki SI, Yamawaki S	487-493頁

The Degree of Early Life Stress Predicts Decreased Medial Prefrontal Activations and the Shift from Internally to Externally Guided Decision Making: An Exploratory NIRS Study during Resting State and Self-Oriented Task (査読付)	共著	2013年 5月	Frontiers in Human Neuroscience 7(339)	T Nakao,T Matsumoto,M Morita,D Shimizu,S Yoshimura,G Northoff,S Morinobu,Y Okamoto,S Yamawaki.	紙媒体が存在せず電子ジャーナルしかないものはページ数がない
Distinctive neural responses to pain stimuli during induced sadness in patients with somatoform pain disorder: An fMRI study (査読付)	共著	2013年 6月	NeuroImage: Clinical 2	Yoshino A, Okamoto Y,Yoshimura S, Shishida K,Toki S, Doi M, Machino A,Fukumoto T, Yamashita H, Yamawaki S.	782-789頁
Resting state low-frequency fluctuations in prefrontal cortex reflect degrees of harm avoidance and novelty seeking: an exploratory NIRS study (査読付)	共著	2013年12月	Frontiers in System Neuroscience 7(115)	T Nakao,T Matsumoto,M Morita,D Shimizu,S Yoshimura,G Northoff,S Morinobu,Y Okamoto,S Yamawaki.	紙媒体が存在せず電子ジャーナルしかないものはページ数がない
Hippocampal activation during associative encoding of word pairs and its relation to symptomatic improvement in depression: A functional and volumetric MRI study. (査読付)	共著	2014年 1月	Journal of Affective Disorders 152-154	Toki S, Okamoto Y, Onoda K, Matsumoto T, Yoshimura S, Kunisato Y, Okada G, Shishida K, Kobayakawa M, Fukumoto T, Machino A, Inagaki M, Yamawaki S.	462-467頁
Visual imagery while reading concrete and abstract Japanese kanji words: An fMRI study (査読付)	共著	2014年 2月	Neuroscience Research 79	Hayashi A, Okamoto Y, Yoshimura S, Yoshino A, Toki A, Yamashita H, Matsuda F, Yamawaki S	61-66頁
Distinctive spontaneous regional neural activity in patients with somatoform pain disorder: A preliminary resting-state fMRI study (査読付)	共著	2014年 3月	Psychiatry Research: Neuroimaging 221(3)	A Yoshino,Y Okamoto,Y Kunisato,S Yoshimura,R Jinnin,Y Hayashi,M Kobayakawa,M Doi,K Oshita,R Nakamura R,K Tanaka,H Yamashita,M Kawamoto,S Yamawaki.	246-248頁
Possible involvement of rumination in gray matter abnormalities in persistent symptoms of major depression: An exploratory magnetic resonance imaging voxel-based morphometry study. (査読付)	共著	2014年 6月	Journal of affective disorders 168	Machino, A., Kunisato, Y., Matsumoto, T., Yoshimura, S., Ueda, K., Yamawaki, Y., ... & Yamawaki, S	229-235頁
Neural Basis of Anticipatory Anxiety Reappraisals (査読付)	共著	2014年 7月	PloS one	Yoshimura, S., Okamoto, Y., Yoshino, A., Kobayakawa, M., Machino, A., & Yamawaki, S	紙媒体が存在せず電子ジャーナルしかないものはページ数がない
The dorsolateral prefrontal network is involved in pain perception in knee osteoarthritis patients (査読付)	共著	2014年10月	Neuroscience letters	Hiramatsu, T., Nakanishi, K., Yoshimura, S., Yoshino, A., Adachi, N., Okamoto, Y., ... & Ochi, M	109-114頁

fMRI Study of Social Anxiety during Social Ostracism with and without Emotional Support (査読付)	共著	2015年 5月	PloS one	Nishiyama, Y., Okamoto, Y., Kunisato, Y., Okada, G., Yoshimura, S., Kanai, Y., ... & Onoda, K.	紙媒体が存在せず電子ジャーナルしかないものはページ数がない
Toward Probabilistic Diagnosis and Understanding of Depression Based on Functional MRI Data Analysis with Logistic Group LASSO (査読付)	共著	2015年 5月	PloS one	Yu Shimizu , Junichiro Yoshimoto, Shigeru Toki, Masahiro Takamura, Shinpei Yoshimura, Yasumasa Okamoto, Shigeto Yamawaki, Kenji Doya	紙媒体が存在せず電子ジャーナルしかないものはページ数がない
社交不安のサブタイプとビデオフィードバックによる認知機能の変化の検討 (査読付)	共著	2015年 5月	不安症研究 6(2)	村中誠司 山田紗稀 吉村晋平	52-62頁
Effectiveness of group cognitive behavioral therapy for somatoform pain disorder patients in Japan: A preliminary non-case-control study (査読付)	共著	2015年 7月	Psychiatry and Clinical Neurosciences	Atsuo Yoshino, Yasumasa Okamoto, Mitsuru Doi, Masaru Horikoshi, Kyoko Oshita, Ryuji Nakamura, Naofumi Otsuru, Shinpei Yoshimura, Keisuke Tanaka, Koki Takagaki, Ran Jinnin, Hidehisa Yamashita, Masashi Kawamoto, Shigeto Yamawaki	762-763頁
Multiple co-clustering based on nonparametric mixture models with heterogeneous marginal distributions	共著	2015年10月	(arXiv preprint)	Tomoki Tokuda, Junichiro Yoshimoto, Yu Shimizu, Shigeru Toki, Go Okada, Masahiro Takamura, Tetsuya Yamamoto, Shinpei Yoshimura, Yasumasa Okamoto, Shigeto Yamawaki, Kenji Doya	紙媒体が存在せず電子ジャーナルしかないものはページ数がない
その他					
Machine learning of fMRI data predicts treatment response to psychotherapy	-	2013年 6月	Neuro 2013(京都市)	Yoshimura S, Shimizu Y, Okamoto Y, Toki S, Takamura M, Yoshimoto J, Doya K, Yamawaki S	
認知行動療法の脳イメージング研究の成果と今後の展望	-	2013年 8月	第13回日本認知療法学会・日本行動療法学会第39回大会(東京都)	吉村晋平	
社交不安のサブタイプによる認知機能の変化の検討	-	2014年 2月	第６回日本不安障害学会(東京都)	村中誠司，山田紗稀，吉村晋平	
抑うつ気分が時間認知に及ぼす影響　-時間作成課題を用いた検討-	-	2014年 9月	第１４回日本認知療法学会(大阪国際会議場)	吉村晋平　松野祐一	
うつ病に対する認知行動療法による内側前頭前野-前帯状回間の機能的結合性の変化について	-	2015年 9月	日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場)	吉村晋平　岡本泰昌　松永美希　国里愛彦　小野田慶一　鈴木伸一　山脇成人	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2011年4月	日本神経科学学会(国内学会)会員
2011年11月	日本不安障害学会(国内学会)会員
2015年12月	認知は人の心の問題を説明できるか？ 金沢大学人文学類シンポジウム　シンポジスト

国際教養学部

＜アジア学科＞
淺野　純一　(227)
磯貝　健一　(228)
櫛引　祐希子　(229)
小松　久恵　(231)
承志　(233)
正信　公章　(234)
筒井　由起乃　(235)
永吉　雅夫　(237)
松家　裕子　(239)
南出　眞助　(241)
山口　公一　(243)
李　慶国　(245)
＜国際教養学科＞
井ノ口　淳三　(247)
貞光　宮城　(249)
佐藤　恭子　(251)
新谷　好　(253)
真銅　正宏　(255)
平尾　日出夫　(257)
福島　孝博　(258)
J.HERRICK　(260)
増崎　恒　(261)
R.E.MILLER　(263)

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部アジア学科	教授	淺野　　純一	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
秀吉伝説序説と『天正軍記』	共著	2012年 4月	(和泉書院)	奥田尚　他	P13-25
論文					
なし					
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1989年～現在に至る	日本中国学会(国内学会)会員
1990年～現在に至る	東方学会(国内学会)会員
2001年 4月～現在に至る	ciec(コンピュータ利用教育学会) (国内学会)会員
2007年10月～現在に至る	ciec(コンピュータ利用教育学会) (国内学会)会誌編集委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部アジア学科	教授	磯貝　　健一	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
「アジア社会演習2」「アジアフィールドワーク2」（マレーシア）における現地アンケートの準備、実施、分析指導	2014年 4月 1日 ～現在に至る	標記授業において、小松久恵講師と共同で学生が自身の調査テーマを決定し、この調査テーマにもとづく英文アンケートを現地でとり、帰国後にこれを分析して期末レポートを作成する、という流れを定着させた。これにより、学生が個々に問題を設定し、現地でのアンケート調査にもとづき、自分自身でこの問題にたいする解答を発見する、という授業形態が確立した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
アジア学科の学び	2014年 3月31日	新入生演習にて使用
アジアの学び2015	2015年 3月31日	アジア学科教員の共同執筆による学科1、2年生向けテキスト
アジアの学び2016	2016年 2月25日	アジア学科教員の共同執筆による学科1、2年生向けテキスト
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
大江泰一郎・堀川徹・磯貝健一編『シャリーアとロシア帝国』	共著	2014年 3月	(臨川書店)	大江泰一郎、堀川徹、磯貝健一共編	第5章「シャリーア法廷裁判文書の作成システム」、130-165頁
論文					
近代中央アジア・イスラーム法廷文書の世界	単著	2013年 2月	歴史と地理　世界史の研究(山川出版社) (661)		21-30頁
The Judicial Documents Produced in the Shari`a Courts of Russian Turkestan	単著	2014年 3月	追手門学院大学国際教養学部紀要7		
その他					
20世紀初頭の中央アジア・イスラーム法廷における紛争解決過程について	-	2012年 6月	第11回中央アジアの法制度研究会(京都)		
カーディーとタズキラ―ロシア領中央アジアのシャリーア法廷裁判文書の作成過程―	-	2013年 7月	「近世イスラーム国家と多元的社会」2013年度第1回研究会(東京)		
ロシア帝国領中央アジア・シャリーア法廷における裁判文書作成プロセス	-	2013年 7月	第1回近代中央ユーラシア比較法制度史研究会(京都)		
19世紀から20世紀初頭の中央アジアにおける不動産の売買と運用	-	2013年11月	開発途上国における経済発展と所有権」研究会(東京)		
ロシア帝政期中央アジアのシャリーア法廷裁判文書に見える家族内紛争	-	2015年 4月	史学研究会例会(京都)		
史料としての帝政期中央アジアのシャリーア法廷判決台帳	-	2015年 6月	第5回近代中央ユーラシア比較法制度史研究会(京都)		
Waqf as a Sustainer of Educational Activity: A Sixteenth Century Waqf for a Bukharan Madrasa	-	2015年12月	Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations(Tokyo)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1991年 4月～現在に至る	史学研究会(国内学会)会員
2010年 4月～現在に至る	おうてもん塾　公開講座
2015年 4月～現在に至る	内陸アジア史学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部アジア学科	講師	櫛引　　祐希子	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2012年から現在	2011年から担当する授業では、各回の内容に応じた配布資料にそって講義を実施している。また、2012年から担当している『国語学史』においては図書館に所蔵している辞書類を利用したアクティブラーニングを実践している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2015年3月	所属するアジア学科の教員による新入生用の教科書『アジアの学び』（非売品）において「アジアの言語」の執筆を担当した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
「太閤の語史」　『秀吉伝説序説と『天正軍記』』	共著	2012年 4月	(和泉書院)	奥田尚　永吉雅夫　浅野純一　山口公一　武田秀夫	61-80頁
『とうほく方言の泉　ことばの玉手箱　＜上＞＜中＞＜下＞』	共著	2013年 9月	(河北新報出版センター)	小林隆・志村文隆・櫛引祐希子・遠藤仁・武田拓・澤村美幸	該当頁の記載できない
論文					
方言による支援活動（査読付）	単著	2013年 3月	『国語学研究』52(東北大学大学院文学研究科国語学研究室)		
東日本大震災の被災者と方言	単著	2015年 1月	追手門学院大学国際教養学部紀要8号(追手門学院大学国際教養学部)（８）		
方言を撮る―方言研究と映像の出会い―（査読付）	単著	2015年 9月	『方言の研究１』(ひつじ書房)1		229-248頁
「沖縄県首里方言の指小辞「グヮー」」	単著	2016年 1月	『追手門学院大学国際教養学部紀要』 9号(9)		11-22頁
その他					
方言による支援活動	-	2012年 9月	第30回　社会言語科学会大会(東北大学)		
昭和30年代の東北でおこなわれた共通語指導教育― 青森県弘前市の小学校における「方言札」をめぐるインタビュー　―	-	2013年 3月	『追手門学院大学教職課程年報』21(追手門学院大学教職課程)		
古くから使われてきた茨木言葉　茨木の方言についてみんなで考えよう	-	2013年 9月	(茨木市市民活動センター)		
国語教育における「方言」－方言研究との比較を通して－	-	2013年12月	『アジア学科年報』(追手門学院大学　国際教養学部)(7)		
東北地方における指小辞「コ」の地域差	-	2014年 5月	第98回 日本方言研究会(東京　早稲田大学)		
被災地の方言を撮る―方言研究者による映像アーカイブ―	-	2014年 9月	第34回社会言語科学会(立命館アジア太平洋大学)		
「飴っこ」・「飴ちゃん」・「Bombonica」の指小辞	-	2014年12月	『アジア学科年報８』(追手門学院大学国際教養学部アジア学科)８		28-35頁
「異なる分野」から国語教師をめざす―2014年度の国語科教育実習事前指導報告―	-	2015年 3月	追手門学院大学教職課程年報(追手門学院大学)（２３）		1-6頁

消滅の危機にある日本語の指小辞に関する研究	–	2015年 3月			
追大をフィールドにして「言葉」を調査する―日本語ゼミの活動報告―	–	2015年 3月	アジア観光学年報第16号(追手門学院大学国際教養学部アジア学科)(16)		
方言の字幕について考える―「方言でやっぺ！名取閑上版桃太郎」を例に―	–	2015年 5月	日本語学会 2015年度春季大会(関西学院大学)		
「国語という教科の教育実習事前指導」	–	2016年 3月	『追手門学院大学教職課程年報』24(24)		1-6頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1998年～現在に至る	日本文芸研究会(国内研究会)会員
1998年～現在に至る	日本語学会(国内学会)会員
1999年～現在に至る	日本方言研究会(国内研究会)会員
2010年 5月～2013年 3月	『河北新報』の「とうほく方言の泉」で木曜日の執筆を担当
2011年～現在に至る	全国大学国語教育学会(国内学会)会員
2011年 9月～現在に至る	「東北と大阪を繋ぐ情報紙　IMONIKAI（いもにかい）」（大阪市社会福祉協議会）で「方言の交差点―東北弁と大阪弁が出会う場所―」を担当
2013年～現在に至る	社会言語科学会(国内学会)会員
2013年 7月	NHK仙台「クローズアップ東北　被災地を支える”方言の力”」に出演（7月26日放送）
2013年 8月	朝日新聞（東北版）「東北弁　やっぱいいべ」の取材協力・コメント掲載
2013年 9月～2013年 9月	YogiYogi絵本村　トークイベント＜「ことば」をかたる～言葉と社会～＞企画者・語り手として参加（9月22日）
2013年 9月	茨木市市民活動センター　「古くから使われてきた茨木言葉　茨木の方言についてみんなで考えよう」に講師として参加
2013年12月～2014年 1月	茨木市市民活動センター事業「追手門学院大学国際教養学部アジア学科　アジアの風景写真展」の企画・参加（2013年12月10日から2014年1月12日開催）
2014年 3月	大阪市社会福祉協議会　企画　「3.11のつどい」　方言をテーマに避難者とフリートーク
2014年 4月～現在に至る	市民活動　「中央アフリカについて考える会」メンバー
2014年 5月～2014年 5月	読売新聞（大阪版）「世界最貧国　中央アフリカ　知ろう」に取材協力・インタビュー掲載（5月13日朝刊）

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部アジア学科	講師	小松　久恵	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
＜アジアの学び＞	2014年 4月 ～現在に至る	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『コンタクト・ゾーンの人文学４』アメリカ人が描いた20世紀初めインドの輪郭――Mother India (1927)を読む	共著	2013年 3月	(晃洋書房) 4	奥山直司、田中雅一（編） 三田牧、中村平、エイムズ・クリストファー、エイムズ唯子、小松久恵、田辺明生、松川恭子、東聖子、梅本響子、河上幸子、奥山直司、渡辺文	83-100頁
'Delineating contours:portrayal of regional powers in British Asian immigrant literature' in Shinichiro Tabata(ed), *Eurasia's Regional Powers Compared--China, India, Russia*	共著	2015年	(Routledge)	Shinichiro Tabata (ed), Akira Uegaki, Fumiki Tahara etc.	191-204頁
「輪郭を描き出す――英国南アジア系移民文学に見る地域大国像」『越境者たちのユーラシア』	共著	2015年	(ミネルヴァ)	山根聡・長縄宣博（編）、吉村貴之、岡奈津子、小松久恵　他	182-203頁
女が「私」を描くとき	共著	2015年	シリーズ現代インド(東京大学出版) 5	栗屋利江・井坂理穂・井上貴子（編）	229-248頁
論文					
「質実剛健」 あるいは 「享楽豪奢」：1920－30年代北インドにおけるマールワーリー・イメージをめぐる一考察（査読付）	単著	2013年 2月	現代インド研究 (3)		131-151頁
Speaking about Desi; The Sense of Belonging in Contemporary British-Asian Writers	単著	2013年 3月	Comparative Studies on Regional Powers No.13(SRC, Hokkaido University)		97-107頁
「現代英国南アジア系文学にみる帰属意識の変容」	単著	2014年 3月	追手門学院大学国際教養学部アジア学科年報		
現代インドにおける「大衆小説」とその受容	単著	2016年3月	平成25年度～27年度科学研究費挑戦的萌芽研究「現代インド英語文学とグローバル化する英語」研究報告書		26-40頁
その他 学会発表					
Too Asian, Not Asian Enough: Study on Contemporary British Asina Writings	-	2013年 4月	Association for Borderlands Studies(Denver, USA)		
現代英国の南アジア系移民に見る自己表象の多様性――ムスリム、女性を中心に	-	2014年11月	公開講座市民アカデミア 2014		

Who is the British Muslim?; Transformation of Identity in Contemporary British Asian Writings	-	2015年 7月	The 9th International Cobnvention of Asia Scholars(Adelaide, Australia)		
南アジア移住商人（マールワーリー）の研究、 1920－30年代に焦点をあてて	-	2015年 9月	日本南アジア学会第28回全国大会(東京大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2008年 4月～現在に至る	日本南アジア学会(国内学会)会員、2014年より英文叢書・刊行助成委員
2012年 2月～現在に至る	British Association for South Asian Studies(国際学会)会員
2014年 11月	公開講座「市民アカデミア」　大阪経済法科大学　東京麻布セミナーハウス
2016年6月～現在に至る	日本移民学会（国内学会）会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部アジア学科	准教授	承　志	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
東洋史概説1,2学生授業参照用のPPT	2012年 4月 1日 ～現在に至る	本講義では、政治や文化を中心に時代の特色を捉えることを目的とする。中国の歴史を先史時代から金代まで視野に入れて、考古発掘や映像資料を用いて解説する。これらを通じて、現代のわれわれが考えている「中国」の意味を吟味する。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
満漢合璧文書・官印について―清朝と満洲語の運命―	共著	2013年11月	梅村坦・江上綏『文字から見る歴史と文化―江上波夫蒐集品を中心に―』(山川出版社)	小沼孝博	115-119頁
十八世紀準[口+葛]爾十六大鄂拓克―以一件満文奏摺為中心―	単著	2014年 7月	『満蒙档案與蒙古史研究』(上海古籍出版社)		137-204頁
ソロン・ダクタナイ=ニルの根源	単著	2014年12月	『アジア学科年報』(第8号)		32-45頁
阿睦爾撒納「叛乱」始末考（上）	単著	2015年 1月	『追手門学院大学国際教養学部紀要』(8)		41-73頁
マンジュ語地図とシベリア古地図との出会い（査読付）	単著	2015年 5月	『国語国文』８４（５）		118-154頁
満文档案所見厄魯特源流（査読付）	単著	2015年 6月	『衛拉特研究』1		1-15頁
その他					
満文『吉林九河図』研究	単著	2013年 7月	首届国際満文文献学術研討会(中国北京・中国人民大学清史研究所満文文献研究中心)		
マンジュ語「吉林九河図」と国境碑	単著	2013年11月	内陸アジア史学会2013年度大会(龍谷大学)		
マンジュ語「吉林九河図」と国境碑	単著	2013年11月			
定邊左副將軍墨爾根額爾得尼雙親王阿睦爾薩納“叛亂”始末考	単著	2013年12月	2013 中央研究院明清研究國際學術研討會(台湾台北市)		
満文档案與尼布楚条約定界碑―以満文地図為中心―	単著	2014年 8月	古文献研究室学术报告(中国北京市)		
満文档案初見厄魯特源流	単著	2014年12月	衛拉特学·托忒学研究回顧與展望学術研討会(中国北京市)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1996年 4月～現在に至る	満族史研究会(国内学会)会員
1997年 4月～現在に至る	東洋史研究会(国内学会)会員
2000年 4月～現在に至る	史学研究会(国内学会)会員
2012年 6月	ラストエンペラーの母語は何語だったのか？（日時：2012年6月19日　場所：大阪城スクエア）
2013年 6月	「ネルチンスク条約の幻影」（日時：2013年6月27日「おうてもん塾」　場所：追手門学院　大阪梅田サテライト）
2013年10月～2013年10月	滋賀県立玉川高等学校　出張授業「台湾について」
2013年11月～現在に至る	内陸アジア史学会(国内学会)会員
2013年12月～2014年 1月	「アジアの風景」写真展（茨木市民活動センター）
2014年12月～2014年12月	モンゴル移動式住居ゲルの展示
2015年 4月～2015年 5月	追大緑地のゲルで行われた「アジア写真展」

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部アジア学科	教授	正信　　公章	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
学外授業	2000年 ～現在に至る	週末に開講する授業で，しばしば学外に出て日本にみられるインド文化の諸要素を実地に体感させる。
映像資料の活用	2010年 ～現在に至る	日本文化とは異質なインド文化全般について体験的に学習させることには困難をともなう。この点を補うべく教室では、吟味した映像資料を講義内容に絡めてできる限り活用している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
アジア学科教材『アジアの学び』（2014年発行）編集・執筆	2014年 3月	アジアへの初学者に、日本を含むアジア（広くはオーストラリア、さらには国際世界の全体を含む）についての基礎知識や基本的理解を得させることを目的とし、アジア世界を自然環境、産業、言語、宗教、国と地域等の諸相から説明する第１部「アジアの基礎知識」、新入生を主たる対象とし、大学生として習得すべきさまざまな技術を身につけさせることを目的とする第２部「アジアの学び　実践例」、アジアの基礎を学んだ学生が、今後どのような方向を目指して学習、研究をつづけていくのかといった際の指針を各専門分野の立場から説き示すことを目的とする第３部「アジア学習のみちしるべ」からなる学科共通テキスト試行版。
アジア学科教材『アジアの学び 2015』（2015年発行）編集・執筆	2015年 3月25日	前年発行の試行版に掲載の諸編にくわえ、分野のさらなる充実を図り、あらたに数編を増補し、また利用者の便宜を図るべく巻末に、アジア関連の用語集、文献案内、工具サイト、対象地域図等をあらたに付した。
アジア学科教材『アジアの学び 2016』（2016年発行）編集・執筆	2016年 2月	第２部「アジアの学び　実践例」について、今回、対象を新入生に限らず、広くアジア関係の各種授業での教育・指導の実践例を追補するなど、前年発行の『アジアの学び 2015』に掲載の諸編にくわえ、分野のさらなる充実を図り、全体としてあらたに数編を増補した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
アジアの都市と農村	共著	2013年10月	(和泉書院)	追手門学院大学国際教養学部アジア学科編	89－99頁：都市名称「マーマッラブラム」について
論文					
王名アティヤンタカーマについて	単著	2012年12月	アジア学科年報(追手門学院大学アジア学科)(6)		44-50頁
石と想念ー「プーサラール聖人伝」のパッラヴァ王をめぐってー	単著	2013年 3月	アジア観光学年報(追手門学院大学アジア学科)（１４）		81-87頁
パナマライ祀堂刻文における定法の寿ぎについて	単著	2013年12月	アジア学科年報(追手門学院大学アジア学科)(7)		38-45頁
アイヤディガルについて	単著	2014年 3月	アジア観光学年報(追手門学院大学アジア学科)（１５）		49-60頁
ダンディン年代考	単著	2015年12月	アジア学科年報(追手門学院大学アジア学科)(9)		1-15頁
ソーマースカンダ像とラージャスィンハ	単著	2016年 3月	アジア観光学年報(追手門学院大学アジア学科)（１７）		95-104頁
その他					
南インド、歴史の旅	-	2013年 5月	おうてもん塾(追手門学院 大阪梅田サテライト)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1978年 7月～現在に至る	日本印度学仏教学会(国内学会)会員
1987年 4月～現在に至る	日本宗教学会(国内学会)会員
1993年12月～現在に至る	インド思想史学会(国内学会)会員
1994年 4月～現在に至る	追手門学院大学東洋文化学会、現アジア学会(国内学会)会員
1995年10月～現在に至る	日本南アジア学会(国内学会)会員
2013年12月～2014年 1月	茨木市市民活動センター事業「追手門学院大学国際教養学部アジア学科　アジアの風景写真展」会場での解説　この写真展は、アジア学科の教員たちがアジア各地で撮影した写真を茨木市市民活動センターの協力で一般公開したものである。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部アジア学科	准教授	筒井　　由起乃	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
画像，図表を活用したヴィジュアル教材の作成	2014年 9月 ～現在に至る	
2　作成した教科書、教材、参考書		
アジアの学び２０１５（「アジアの自然環境と農業」）の執筆	2015年 2月 ～2015年 3月	
アジアの学び２０１５（「フィールドワークで学ぶ」）の執筆	2015年 2月 ～2015年 3月	
アジアの学び２０１５（「工具サイト」）の執筆	2015年 2月 ～2015年 3月	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『アジアの都市と農村』	共著	2013年10月	(和泉書院)	＜編者＞追手門学院大学国際教養学部アジア学科 ＜共著者＞浅野純一，楠山修作，伊原澤周，大谷敏夫，永吉雅夫，櫛引祐希子，南出眞助，山口公一，正信公章，近藤治，加賀谷寛，有吉宏之，筒井由起乃，武田秀夫，高橋文治，松家裕子，李慶国，田口宏二朗，奥田尚，武田秀夫	143-153頁
論文					
ベトナムの幼児教育をめぐって―フィールドワークからのアプローチ	単著	2013年 3月	アジア観光学年報 14		88-99頁
ベトナムの社会変化と幼児教育のIT化（査読付）	単著	2013年12月	コンピュータ&エデュケーション(コンピュータ利用教育学会) 35		18-24頁
Nghien cuu dac trung phan bo va đac diem cua he thong cac truong mam non, mau giao thanh pho Hue（査読付）	共著	2014年10月	Hoi nghi Khoa hoc Dia ly lan thu 8 Khoa hoc Dia ly Viet Nam(Nha xuat ban Dai hoc su pham TP Ho Chi Minh)	Nguyen Thi Ha Thanh,TSUTSUI Yukino, Bui Thi Thu	1402-1409頁
ベトナム幼児教育の基礎-北ベトナム時代の展開から-	単著	2014年11月	アジア学科年報 (8)		1-17頁
その他					
ベトナムの「ことば」	-	2012年 6月	特別公開講座おうてもん塾「アジアのことば」(追手門学院大阪城スクエア)		
「子どもの人権」に未来を思う	-	2012年12月	追手門学院大学人権啓発委員会会誌　愛語 (15)		5頁
ベトナムの就学前教育にみる社会変化	-	2012年12月	アジア学科年報 6		160-163頁
「シェルパ」の活用―アジア学科の「共育システム」―	-	2013年 3月	国際教養学部自己評価第6号（2011-2012）		
オーストラリアのベトナム系住民―メルボルン・シドニー・アデレードにおけるフィールドワーク報告―	-	2013年 7月	オーストラリア研究所公開研究会(追手門学院大学)		
オーストラリア・シドニーにおけるイタリア系住民	-	2015年 3月	日本地理学会春季学術大会(日本大学)	吉田道代、堤　純、松井圭介、葉 倩瑋、筒井由起乃	

オーストラリア首都キャンベラにおける中国系住民の社会空間構造	–	2015年 3月	日本地理学会春季学術大会(日本大学)	葉 倩瑋、筒井由起乃、松井圭介、堤　純、吉田道代	
南オーストラリア州アデレードにおけるベトナム社会の形成	–	2015年 3月	日本地理学会春季学術大会(日本大学)	筒井由起乃，松井圭介，堤　純，吉田道代，葉 倩瑋	
聖地ウルルとアウトバックにおける宗教ツーリズム	–	2015年 3月	日本地理学会春季学術大会(日本大学)	松井圭介、堤　純、吉田道代、葉 倩瑋、筒井由起乃	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1997年～現在に至る	人文地理学会(国内学会)会員
1999年～現在に至る	日本地理学会(国内学会)会員
1999年～現在に至る	東南アジア学会(国内学会)会員
2002年～現在に至る	地理科学学会(国内学会)会員
2002年～2012年	日本村落研究学会(国内学会)会員
2015年～現在に至る	地理空間学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部アジア学科	教授	永吉　　雅夫	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
アジアの学び２０１５	2015年3月25日	アジア学科の学生がアジアを学ぶ上でのハンドブック的な性格を持たせて、学科教員の執筆になるもの。序「アジア」を学ぶみなさんへ、第一部アジアの基礎知識、第二部アジアの学び実践例、第三部アジア学習のみちしるべ、付録（用語集、文献案内、工具サイト）。
アジアの学び２０１６	2016年2月25日	アジア学科の学生がアジアを学ぶ上でのハンドブック的な性格を持たせて、学科教員の執筆になるもの。序「アジア」を学ぶみなさんへ、第一部アジアの基礎知識、第二部アジアの学び実践例、第三部アジア学習のみちしるべ、付録（用語集、文献案内、工具サイト）。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
歌舞伎顔見世鑑賞会の実施	2000年12月 ～現在に至る	南座における顔見世興行へ学生を引率し、歌舞伎の舞台鑑賞をさせる。
江戸音曲の世界　常磐津節	2005年 7月 ～現在に至る	常磐津節について、人間国宝常磐津一巴太夫、巴瑠幸太夫を招いて、その語りと解説の機会を、日本文学関係の授業の特別授業として実施する。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
秀吉伝説序説と『天正軍記』	共著	2012年 4月	（和泉書院）	追手門学院大学アジア学科編	論考編のはじめに10－１２。清水宗治自害前後―江戸・明治の太閤伝説一端１０３－１２４
アジアの都市と農村	共著	2013年10月	（和泉書院）	追手門学院大学アジア学科編	「リンゴの唄」と上海の堀田善衛45－66頁
追手門学院の自校教育	共著	2014年 2月	（丸善出版）	寺崎昌男／梅村修監修	82-94頁
論文					
追跡、石川五右衛門第一回見聞された事実と浮世草子	単著	2014年 3月	追手門学院大学国際教養学部紀要(7)		１２８－１１３頁
追跡、石川五右衛門第三回　近松門左衛門『傾城吉岡染』	単著	2015年 3月	アジア学科年報(追手門学院大学国際教養学部アジア学科)（８）		１―２２頁
追跡、石川五右衛門第二回　松本治太夫正本『石川五右衛門』	単著	2015年 3月	追手門学院大学国際教養学部紀要(追手門学院大学国際教養学部)（８）		７５－８８頁
室生犀星の昭和十二年前後――小説『大陸の琴』を中心に	単著	2015年12月	追手門学院大学国際教養学部『アジア学科年報』(アジア学会)（９）		１-２６頁
追跡、石川五右衛門　第四回　並木宗輔『釜淵双級巴』	単著	2016年 1月	追手門学院大学国際教養学部紀要(追手門学院大学国際教養学部)（９）		９８-８３頁
その他					
上町と近世の芸能１浪花の侠客気質――『夏祭浪花鑑』	-	2012年 7月	はびきの市民大学(大阪府羽曳野市)		
上町と近世の芸能２しんとく丸の世界――『摂州合法辻』を中心に	-	2012年 7月	はびきの市民大学		
上町台地と文学（１）夫婦心中、脚色二題	-	2013年 4月	はびきの市民大学		
上町台地と文学（２）「あずま夷」の大坂見聞録	-	2013年 5月	はびきの市民大学		

3051

俳句でたどる日本の近代	–	2013年 7月	おうてもん塾(追手門学院梅田サテライト)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1981年4月～現在に至る	日本文学協会(国内学会)会員
1976年4月～現在に至る	神戸大学国語国文学会(国内学会)会員
2007年4月～現在に至る	追手門学院大学アジア学会(国内学会)会員
2010年 5月～現在に至る	「ことば文化科」に係る特別授業
2012年 7月	上町と近世の芸能１、浪花の侠客気質『夏祭浪花鑑』（はびきの市民大学
2012年 7月	上町と近世の芸能２、しんとく丸の世界『摂州合法辻』を中心に（はびきの市民大学）
2013年 4月	上町台地と文学１、夫婦心中、脚色二題（はびきの市民大学）
2013年 5月	上町台地と文学２、「あずま夷」の大坂見聞録（はびきの市民大学）
2013年 7月	俳句でたどる日本の近代（おうてもん塾）

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部アジア学科	教授	松家　　裕子	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
映画を用いた読解・会話ふたつの能力を同時に向上させるための中国語教育	2014年10月 1日 ～2016年 3月31日	読解力と実践的会話力の両方を同時に向上させるための、映画のシナリオを用いた教育。授業外学習として、辞書を引いて翻訳をすることと、毎回の重要なフレーズおよび単語を覚えることを課し、教室では暗誦の小テストを実施、また、朗読を適宜課して、中国語能力の総合的な向上を図った。
短期留学者のための中国語スピーチ試験の実施	2015年10月 1日 ～2016年 3月31日	「中国語現地演習」（1ヶ月の中国語学留学）について、その成果を、参加者が実感したり示したりする機会がこれまでなかったことから、これとセットになる大学で実施する科目「中国語文化演習」において、中国語スピーチ作成を課してこれを『アジア観光学年報』に掲載するとともに、これを暗誦してスピーチをすることをもって試験とした。
2　作成した教科書、教材、参考書		
講義科目におけるワークシート形式の講義資料作成	2004年 4月 1日 ～現在に至る	講義資料を、受講者に集中を促すために、空欄や課題を付したワークシート方式としている。あわせて、学習意欲および学習効果の向上を図るために、これをほぼ毎回回収して評価を与えている。
アジアの学び	2014年 3月	アジア学科共通テキスト
中国語教材・映画『五朵金花』シナリオ	2014年 4月 1日 ～2015年 3月31日	中国映画『五朵金花』（1959）は読解力と会話力の向上および中国事情の理解ために恰好の映画であると判断したが、シナリオがなかったため、映画全編の書き起こしを行った。整理にあたっては、李慶国教授に点検をお願いした。
アジアの学び　2015	2015年 3月	アジア学科共通テキスト。第3部「アジア学習のみちしるべ」中、「中国文学へのお誘い　－ふしぎな物語りから―」執筆。および、「用語集」編集。
アジアの学び2016	2016年 2月	アジア学科共通テキスト。第3部「アジア学習のみちしるべ」中、「中国文学へのお誘い　－ふしぎな物語りから―」執筆。および、「用語集」編集。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『アジアの都市と農村』	共著	2013年10月	（和泉書院）	追手門学院大学国際教養学部アジア学科編、楠山修作・伊原沢周･大谷敏夫･永吉雅夫・櫛引祐希子・南出眞助・山口公一・正信公章・近藤治・加賀谷寛・有吉宏行・筒井由起乃・武田秀夫・高橋文治・松家裕子・李慶国・田口宏二朗・奥田尚著	213-241頁
『世界人名大辞典』	共著	2013年12月	（岩波書店）	岩波書店編集部編、アイダル・オーアン・青木雅浩・松家裕子ほか計617名	233, 234-235, 437, 435, 455, 461, 477, 963, 1197, 1506-1507, 1534, 1604, 1652, 2172, 2620, 2625, 3169, 3170, 3339頁
『仰止集　王運熙先生逝世周年紀念論集』	共著	2016年 2月	（上海古籍出版社）	復旦大学中国語言文学系・復旦大学中国語言文学研究所編、黄霖・楊明・呉承学・帰青・松家裕子ほか著	254-265頁
論文					
婺劇観劇記　―２０１２年２月・浙江省遂昌	単著	2013年 3月	アジア観光学年報第14号		
紹興の小目連『太平宝巻』―安昌鎮大和班の宣巻調査から―	単著	2013年10月	『桃の会論集』（桃の会）六集		201-218頁
『太平宝巻』全本宣巻調査報告―２０１３年・紹興安昌鎮大和班―	単著	2014年 3月	中国江南唱導文藝研究―上演・テキスト・信仰―　科学研究費　課題番号２３５２０４４５　研究報告書		

紹興宣卷の調査報告―現代中国における唱導文藝のひとつのありかた―（査読付）	単著	2014年 3月	説話・伝承学(説話・伝承学会) (22)		
潘金蓮為何攬鏡自照？ －《金瓶梅詞話》第三十八回〈二犯江兒水〉探析－ （藤奈津紀譯）	単著	2014年 4月	小南一郎教授古稀頌壽紀念 桃之宴 －京都桃會與漢學新詮－(新文豐出版公司)		
《太平寶卷》的六種文本 －兼論民間手抄本之價值－	単著	2014年10月	《中國寶卷國際討論會暨中國俗文學學會2014年會 會議論文集》(揚州大學文學院、中國俗文學學會)		
その他					
顧希佳著　紹興・安昌の宣卷調査	-	2011年12月	（追手門学院大学）アジア学科年報(追手門学院大学国際教養学部アジア学科) （５）	松家裕子・仇俊	40-79頁
紹興の小目連『太平宝卷』	-	2013年 3月	桃の会例会(楽友会館，京都大学，京都府京都市左京区)		
紹興宣卷の調査報告―現代中国における唱導文藝のひとつのありかた	-	2013年 4月	説話・伝承学会大会(静岡文化芸術大学，静岡県浜松市)		
紹興宣卷の上演・テキスト・信仰　―『太平宝卷』の例―	-	2014年 2月	中国古典小説研究会関西例会(キャンパスプラザ京都，京都府京都市)		
《太平寶卷》的六種版本 －兼論民間手抄本之價值－	-	2014年10月	中國寶卷國際研討會暨中國俗文學學會２０１４年會(揚州，江蘇，中國)		
紹興宣卷と『太平宝卷』―上演・抄本・石印本―	-	2015年 7月	中国文学会(京都、日本)		
中国訳詩抄一　現代中国の詩人・楊鍵詩三首	-	2015年12月	（追手門学院大学）アジア学科年報(追手門学院大学国際教養学部アジア学科) (8)		52-58頁
金華道情調査報告　―二〇一二年三月・二〇一四年三月―	-	2015年12月	（追手門学院大学）アジア学科年報 （９（通巻30））		88-101頁
インドの市場とピーパルの木またはインドボダイジュ	-	2016年 3月	（追手門学院大学）アジア観光学年報 (17)		122-130頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1984年～現在に至る	日本中国学会(国内学会)会員
1988年～現在に至る	東方学会(国内学会)会員
2004年～現在に至る	説話・伝承学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部アジア学科	教授	南出　　眞助	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
「オーストラリアを学ぶ」において学外講師を招いた特別授業の企画・準備・実施	2004年 4月 1日 ～2015年 3月31日	2014年度は「オーストラリアを学ぶ」において、オーストラリア大使館関係者やディジュリドゥ演奏者を招いた特別授業の企画・準備・実施を行った。
学長事務室（当時）「里山プロジェクト」の立ち上げと実践	2012年 4月 1日 ～現在に至る	「里山プロジェクト」を立ち上げ、校地が所在する長浜市菅浦地区に関して、学生・教職員を交えた現地見学会と地元との情報交流を実践した。
「新入生演習」における先輩学生の指導補助	2015年 4月 6日 ～2015年 7月13日	「新入生演習」におけるグループディスカッションなどに２・３回生に参加してもらい、大学生活のあり方などの意見交換に役立てている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
教科書『アジアの学び２０１５』の分担執筆	2014年 4月 1日 ～2015年 3月31日	アジア学科編の教科書『アジアの学び２０１５』の一部を分担執筆した。
教科書『アジアの学び２０１６』の分担執筆	2015年 4月 1日 ～2016年 3月31日	アジア各国の地理的概況とリファレンスサイトについて内容を改訂した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
「オーストラリア研究のためのリファレンス・サイト」第二版の構築	2014年 4月 1日 ～2015年 3月31日	2012年に本学図書館が開設した「オーストラリア研究のためのリファレンス・サイト」の内容を改訂し第二版を構築する主導的役割を担った。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
アジアの都市と農村	共著	2013年10月	(和泉書院)	淺野純一ほか18名	79-83頁
近世測量絵図のＧＩＳ分析	共著	2014年 1月	(古今書院)	◎出田和久、南出眞助	239-256頁
三角浦の文化的景観調査報告書・保存活用書	共著	2014年 3月	(宇城市教育委員会)	幸田亮一	86-105頁
菅浦の湖岸集落景観保存活用計画報告書	共著	2014年 3月	（長浜市教育委員会）	金田章裕ほか12名	129,167-132,171頁
アジアの学び　２０１５	共著	2015年 3月	(追手門学院大学国際教養学部アジア学科)	正信公章ほか	5-13,57-58頁
論文					
西オーストラリア州フリーマントル港の特質	単著	2012年12月	追手門学院大学オーストラリア研究紀要(追手門学院大学オーストラリア研究所) (38)		25-30頁
その他					
近世茨木町の空間構造	-	2012年 4月	２０１２年度追手門学院　春の公開講座「おうてもん発　わがまち茨木、再発見！」(茨木市)		
古地図にみる上町台地―「両側町」の成立と展開―	-	2012年 5月	はびきの市民大学(羽曳野市)		
追手門学院大学「オーストラリア研究のためのリファレンスサイト」構築の意義と問題点	-	2015年 6月	２０１５年度オーストラリア学会研究大会(慶應義塾大学)	阿部良子・永田舞	
金田章裕著『叢書・地球発見15　タウンシップ―土地利用計画の伝播と変容』	-	2015年 6月	歴史地理学(歴史地理学会) 57(3)		36-38頁
Perceived structure of the city: a case study of Kyoto from 794 to the nineteenth century	-	2015年 7月	International Conference for Historical Geographers(London, UK)	Kinda Akihiro	
１９世紀末のロンドン港のドック建設をめぐって	-	2015年11月	２０１５年　人文地理学会大会(大阪大学)		

ロンドン港近代化研究の視角	–	2015年12月	アジア学科年報(追手門学院大学) 9		133-137頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1973年11月～現在に至る	人文地理学会(国内学会)会員
1975年 4月～現在に至る	日本地理学会(国内学会)会員
1976年 6月～現在に至る	歴史地理学会(国内学会)会員
1987年10月～現在に至る	条里制・古代都市研究会(国内学会)会員
1989年 6月～現在に至る	オーストラリア学会(国内学会)会員
1990年 6月～現在に至る	史学研究会(国内学会)会員
1995年 6月～現在に至る	歴史地理学会(国内学会)評議員
2000年 3月～現在に至る	条里制・古代都市研究会(国内学会)評議員
2007年 6月～2013年 5月	オーストラリア学会(国内学会)理事
2010年11月～2014年10月	人文地理学会(国内学会)評議員
2011年 4月～現在に至る	滋賀県長浜市文化的景観活用委員会
2011年 4月～現在に至る	長浜市文化的景観活用委員会 委員
2012年 3月～現在に至る	文化庁文化審議会文化財分科会第三専門調査会 委員・委員長代理
2012年 5月～2014年 4月	文化庁文化審議会世界文化遺産・無形文化遺産部会世界文化遺産特別委員会 委員
2012年11月～2014年10月	人文地理学会(国内学会)理事
2013年 4月～2015年 3月	独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（審査委員） 審査委員
2013年 5月～現在に至る	熊本県宇城市三角西港保存活用委員会 委員
2013年 6月～現在に至る	史学研究会(国内学会)理事
2015年 6月～現在に至る	滋賀県高島市文化的景観保全活用委員会 委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部アジア学科	准教授	山口　　公一	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
追手門学院大学国際教養学部アジア学科編『アジアの学び』	2014年 3月	新入生対象のテキスト『アジアの学び』において「これから歴史を学びたい人へ－日本と韓国・朝鮮地域を中心に－」を執筆した。
追手門学院大学国際教養学部アジア学科編『アジアの学び2015』	2015年 3月	新入生対象のテキスト『アジアの学び』において「これから歴史を学びたい人へ－日本と韓国・朝鮮地域を中心に－（改訂版）」ほかを執筆した。
これから歴史を学びたい人へ－日本と韓国・朝鮮地域を事例に－（三訂版）	2016年 2月	追手門学院大学国際教養学部アジア学科編『アジアの学び2016』
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『新史太閤記』にはなぜ朝鮮侵略が描かれなかったのか（追手門学院大学アジア学科編『秀吉伝説序説と『天正軍記』』）	共著	2012年 4月	追手門学院大学アジア学科編『秀吉伝説序説と『天正軍記』』（和泉書院）	追手門学院大学アジア学科編（奥田尚、武田、永吉雅夫、淺野純一、櫛引祐希子、山口公一執筆）	26-50頁
＜辞典項目執筆＞「帝国」日本と植民地	共著	2012年 7月	『戦後歴史学用語辞典』（東京堂出版）	木村茂光監修・歴史科学協議会編	296-297頁
石川県立図書館所蔵小倉文庫の海外神社史料について（追手門学院大学国際教養学部アジア学科編『アジアの都市と農村』）	共著	2013年10月	追手門学院大学国際教養学部アジア学科編『アジアの都市と農村』（和泉書院）	追手門学院大学国際教養学部アジア学科編、淺野純一ほか19名執筆	85-87頁
＜論文＞「植民地朝鮮における「国家祭祀」の整備過程」（君島和彦編『近代の日本と朝鮮-「された側」からの視座-』東京堂出版、2014年）	共著	2014年 9月	東京堂出版	君島和彦編、大串潤児ほか9名執筆	第2章担当（73-119頁）
＜翻訳書＞李泰鎮＋安重根ハルピン学会編著『安重根と東洋平和論』	共訳	2016年 9月	日本評論社	勝村誠（監訳）・米澤清恵（共訳）	第2部第3章（徐勇論文「日本の拡張主義と安重根の東洋平和論」）担当（227-250頁）
論文					
敗戦直後の海外神社－朝鮮を例に－	単著	2014年12月	アジア学科年報(8)		
「文明」と「野蛮」の自他認識－近代日本の他者表象－	単著	2015年12月	アジア学科年報(追手門学院大学国際教養学部アジア学科)(9)		57-87頁
その他					
石川県立図書館所蔵小倉文庫の海外神社史料について	-	2012年12月	『アジア学科年報』(6号)		168-169頁
＜書評＞樋浦郷子著『神社・学校・植民地－逆機能する朝鮮支配－』（京都大学学術出版会、2013年）	-	2013年 7月	朝鮮史研究会関西部会7月例会(中津センタービル)		
＜コメント＞徐禎完報告（「近代能楽史と植民地能楽史－語られない戦時期の能楽史－」）へのコメント	-	2013年 8月	韓日共同学術会議（第16回日韓歴史共同研究シンポジウム）「韓国と日本の歴史認識」（翰林大学校（韓国）国際会議室）		
帝国日本はなぜ朝鮮に神社を建てたのか？	-	2013年10月	第4回歴史教育研究会(國學院大學渋谷キャンパス若木タワー)		

日韓歴史共通教材の課題と教材案－近現代史分野－「帝国日本は、なぜ朝鮮に神社を建てたのか？－『帝国』日本の神社政策－」	－	2014年 1月	日韓国際シンポジウム「日韓歴史共通教材の新たな地平を目指して－日韓歴史共通教材の射程－」(國學院大學20周年記念1号館1101教室)		
これから歴史を学びたい人へ－日本と韓国・朝鮮地域を事例に－	－	2014年 3月	追手門学院大学国際教養学部アジア学科編『アジアの学び』(追手門学院大学国際教養学部アジア学科)		
戦時期朝鮮における神社研究の諸論点	－	2014年 3月	「日中戦争・アジア太平洋戦争期朝鮮社会の諸相」研究会(京都大学人文科学研究所)		
＜書評＞樋浦郷子著『神社・学校・植民地－逆機能する朝鮮支配－』（京都大学学術出版会、2013年）	－	2014年 3月	朝鮮史研究会編『朝鮮史研究会会報』190号		
なぜ帝国日本は、朝鮮に神社を建てたのか？－「帝国」日本の神社政策－（リライト版）	－	2014年 8月	日韓歴史共通教材案報告集 (No.1)	2	117-128頁
帝国日本は、なぜ朝鮮に神社を建てたのか？－「帝国」日本の神社政策－（リライト版）	－	2014年 8月	日韓合同研究会(韓国ソウル・韓国放送通信大学校)	○田中暁龍・國分麻里・小瑤史朗・小林知子・小松伸之・鈴木哲雄・山口公一・山崎雅稔	
近代日本の他者表象－「文明」と「野蛮」の自他認識－	－	2014年10月	第3回アジア学科共同研究会(追手門学院大学附属図書館ラーニングコモンズ)	アジア学科教員ほか	
「不敬」言動にみる戦時期朝鮮人のメンタリティー	－	2015年 2月	日韓歴史研究者ワークショップ「流言飛語」の時代－戦時期朝鮮社会の実像を探る－(京都大学人文科学研究所本館１階セミナー室)		
これから歴史を学びたい人へ-日本と韓国・朝鮮地域を事例に-（改訂版）	－	2015年 3月	アジアの学び2015(追手門学院大学国際教養学部アジア学科)		128-135頁
＜コメント＞金泰勲報告「近代「朝鮮仏教」の読み方-許永鎬の認識を事例として-」を聞いて	－	2015年 3月	朝鮮史研究会会報(朝鮮史研究会) (199)		
＜書評＞青野正明『「帝国神道」の形成－植民地朝鮮の神社政策と国家神道の論理』（岩波書店、2015年）	－	2015年11月	朝鮮史研究会関西部会11月例会(河合塾セレスタ館3階会議室)		
＜史料紹介＞『昭和十七年度府尹郡守会議報告書綴』（韓国・国家記録院所蔵）	－	2015年12月	「戦時期朝鮮社会の諸相」研究会(京都大学人文科学研究所1階会議室)		
＜教材案＞核と沖縄から考える日本の民主主義	－	2016年 1月	日韓合同研究会(國學院大學渋谷キャンパス)		
これから歴史を学びたい人へ－日本・韓国・朝鮮地域を事例に－（三訂版）	－	2016年 2月	アジアの学び2016(追手門学院大学国際教養学部アジア学科・丸善雄松堂)		138-146頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1994年～現在に至る	東京歴史科学研究会(国内学会)会員
1998年～現在に至る	朝鮮史研究会(国内研究会)会員
1998年～現在に至る	歴史科学協議会会員
2001年 4月～現在に至る	東京歴史科学研究会(国内学会)委員
2006年～現在に至る	歴史学研究会(国内研究会)会員
2007年～現在に至る	同時代史学会(国内学会)会員
2007年～現在に至る	日本植民地研究会(国内学会)会員
2008年～現在に至る	大阪歴史科学協議会(国内学会)会員
2010年10月～現在に至る	朝鮮史研究会(国内研究会)関西部会幹事
2012年 7月	追手門学院大学社会人講座「おうてもん塾」講師
2013年 6月	追手門学院大学社会人教室「おうてもん塾」講師

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部アジア学科	教授	李　　慶国	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
専修中国語初級講読という授業で中国語ソフトウェアChinese　Writeの入力方法などを習得する	2002年10月 ～現在に至る	2002年よりパソコン教室は中国語ソフトの利用できる環境を整えてきてから中国語ソフトウィアの利用方法や中国語情報処理を積極的に中国語の授業で取り入れ、教えている。中国語ピンインとローマ字の相違点、簡体字と繁体字の区別、中国語文章の書式、メールのやり取りの学習だけではなく、学生の学習意欲の向上や中国語検定試験へ挑戦にもよく役に立つ。
専修中国語上級会話TA導入	2011年 4月 ～現在に至る	2011年より中国人留学生の院生をTAとして上級会話の授業に手伝ってもらっている。日本人の学生のコミュニケーションの実戦力の養成に大変よい効果がある。
大学院授業の「中国文学演習」教科書を作成する	2015年 4月 1日 ～現在に至る	中国近現代学術論文選（1）、（2）を編集し、「中国文学演習」という授業に使用する
2　作成した教科書、教材、参考書		
現代中国語教程・初級会話編	1996年 4月 ～現在に至る	白帝社より出版された中国語初級用のテキストで出版されてから2年後重版することになった。各課の構成は本文・新しい語句・補充語句・ポイント・練習問題の５つの部分からなっている。
現代中国語教程・中級会話編	1997年 4月 ～現在に至る	本書は全12課、3つの単元から構成されている。新しい語句と補充語句を合わせて約1000語を収めた。本書は中国での留学生活を想定し、様々な場面を設定し、実用的、典型的、模範的な会話を選んで、作成した中級レベルのテキストである。
彎彎的柳眉河	1998年10月 ～現在に至る	本書は12課から構成された中国語中級レベルの講読テキストである。各課は本文・解説・表現と例文からなっている。
＜アジアの学び＞・中国近代文学を学ぼうー清末民初における「小説界革命」と「新小説」を覗いてみよう	2014年 4月	中国近代文学の概況を紹介し、中国近代文学を学び、研究することの楽しさを味わってもらうことを念頭に置いて書いたものである。
アジアの学び　２０１５	2015年 3月25日	１、中国近代文学を学ぼうー清末民初における「小説界革命」と「新小説」を覗いてみようー ２、文献案内（編集） ３、用語集（項目「アヘン戦争」、「改革開放」、「解放軍」、「五四運動」、「小説（中国）」、「中体西用」、「文化大革命」を担当）
アジアの学び　２０１６	2016年 2月25日 ～現在に至る	１、中国近代文学を学ぼう―清末民初における「小説界革命」と「新小説」を覗いてみよう ２、付録・文献案内（新版）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
地誌としての「龍井」ー『延吉県志』と『龍井県志』をめぐって	単著	2013年10月	アジアの都市と農村ー奥田尚・重松伸司両先生退休記念論集(和泉書院)（共著）	武田秀夫、南出眞助、永吉雅夫、松家裕子、正信公章、櫛引祐希子、筒井由起乃、山口公一等	２４３-２５８頁
論文					
関於『延吉県志』、『龍井県志』的研究筆記（１）	単著	2012年12月	アジア学科年報 通巻第２７(第６号)		５１-６３頁
清末白話啓蒙運動與『啓蒙通俗報』	単著	2013年 1月	追手門学院大学国際教養学部紀要 通号４８(第6号)		1-16頁
呉禄貞與『延吉邊務報告』－（上）関於『延吉県志』、『龍井県志』的研究筆記（２）	単著	2013年12月	アジア学科年報(追手門学院大學国際教養学部アジア学科) ２８(７)		６５-７４頁
莫言的文学王国―「高密東北郷」的建構與転覆	単著	2014年 1月	国際教養学部紀要(追手門学院大学国際教養学部) ４９(７)		７７-８８頁
呉禄貞與『延吉邊務報告』（下）―関於『延吉県志』、『龍井県志』的研究筆記（二）―	単著	2014年12月	アジア学科年報 (８)		

従『小学国語讀本』看三十年代文化啓蒙與「党義」的内容特色―以民国教育部審定的『新課程標準適用・小学国語讀本』（民国22年）為例―	単著	2016年 1月	追手門学院大学国際教養学部紀要(追手門学院大学国際教養学部) 通号51(9)		69-82頁
その他					
試比較中日初高中語文教科書中的「古典」	-	2012年10月	遼寧師範大学文学院古典文学研究会(遼寧省大連市)		
眞の学問を探求する姿勢ーシンポジウム「新世紀中国古代文学研究的回顧與反思」に参加して	-	2013年 3月	アジア観光学年報 (第14号)		113-115頁
森田思軒訳『十五少年』と梁啓超訳『十五小豪傑』の比較研究	-	2013年 8月	第三回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム(中国・延吉)		
試比較中日「磨針」伝説之異同―以李白、竇子明、眞武等與日本的空海、菅原道眞的「磨針」伝説為例ー	-	2014年 5月	「伝統與再生――漢学国際学術検討会」(台湾)		
呉禄貞と日本―呉禄貞に関する伝記史料をめぐって―	-	2015年 8月	第四回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム(中国延吉市)		
中日朝韓の国際的な学術交流―「第四回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム」に参加して	-	2016年 3月	アジア観光学年報(追手門学院大学国際教養学部アジア学科) (17)		105-107頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1989年4月～現在に至る	京都大学文学部中国文学会(国内学会)会員
1992年10月～現在に至る	日本中国学会(国内学会)会員
1992年10月～現在に至る	日本東方学会(国内学会)会員
1993年 4月～現在に至る	茨木市生涯学習センター講師
2012年 2月～2012年 4月	日本現代中国学会（早稲田大学教授小川利康編集長）に依頼され、１本の論文査読を担当した。
2012年 6月～2012年 7月	追手門学院大学社会人教室　おうてもん塾　国際教養学部の外国語イントロ講座～アジアのことば編～中国語はおもしろいー外来語の話からー
2013年 2月～2013年 3月	香港教育学院と蘇州大学「語文及国際漢語教育改革的深化工作研究」国際シンポジウム論文集う編集委員会に依頼され、論文審査委員会の委員を担当、1本の論文を査読した。王家倫・何文勝編『深化語文教育改革的思考與実践』（東 南大学出版社、2012年12月出版）海外審査委員（日本）担当。
2013年 8月	延邊大学外国語学院・日本学研究所主編『第３回中・日・韓・朝言語文化比較研究国際シンポジウム分会場座長を担当した。
2013年12月～2014年 1月	延邊大学外国語学院・日本学研究所主編『第３回中・日・韓・朝言語文化比較研究国際シンポジウム論文集』審査委員担当、３本の論文を査読した。
2015年 8月	延邊大学外国語学院・日本学研究所主編『第４回中・日・韓・朝言語文化比較研究国際シンポジウム分会場座長を担当した。
2015年11月	延邊大学外国語学院・日本学研究所主編『第4回中・日・韓・朝言語文化比較研究国際シンポジウム論文集』審査委員 担当、４本の論文を査読した。（平成27年12月まで）

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部国際教養学科	教授	井ノ口　淳三	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
学力を育てる教育学	2013年 6月	教育学の課題としての学力問題について、学習指導要領の変遷や授業づくり、指導要録、学校改革など様々な観点から検討した。青年期の発達課題をふまえ、大学の社会的使命と学力形成の課題について論じた。PISAによるリテラシーの提起など最新の動向についても説明した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
学力を育てる教育学[第２版]	共著	2013年 6月	(八千代出版)	田中耕治・井ノ口淳三	１８７-２０２頁
教育方法学ハンドブック	共著	2014年10月	(学文社)	日本教育方法学会	１２２－１２５頁
論文					
『世界図絵』第３章「天空」の挿絵についての覚書	単著	2013年 3月	追手門学院大学心理学部紀要 ７		９３-１０２頁
大学における教養教育とコメニウスのPansophiaの理念（査読付）	単著	2014年10月	日本の教育史学(教育史学会) ５７		
その他					
「『世界図絵』第3章「天空」の挿絵に関する一考察―1658年初版の挿絵を中心にして―」	-	2012年10月	日本教育方法学会第48回大会(福井大学)		
On the image of teacher in the exhibition at school museum	-	2013年 6月	15th International Symposium on School Life and School Museums & Collections(Ljubljana)		
Were the textbooks of J.A.Comenius interefered by the political power?	-	2013年 8月	35th International Standing Conference for the History of Education(Latviya university)		
大学における教養教育とコメニウスのPansophiaの理念	-	2013年10月	教育史学会第５７回大会(福岡大学)		
War and peace in textbooks in J.A.Comenius	-	2014年 6月	36th International Standing Conference for the History(London university)		
コメニウスのパンパイディア再読	-	2014年 8月	日本教育学会第73回大会(九州大学)	太田光一	
道徳教育のあり方と教育方法学の立場	-	2014年10月	日本教育方法学会第50回大会(広島大学)	子安潤	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1973年 8月～現在に至る	日本教育学会(国内学会)会員
1974年10月～現在に至る	教育哲学会(国内学会)会員
1975年10月～現在に至る	教育史学会(国内学会)会員
1996年 9月～現在に至る	ドイツ・コメニウス学会(国際学会)会員
2001年 3月～現在に至る	関西チェコ／スロバキア協会 副会長
2005年 9月～現在に至る	日本教師教育学会(国内学会)会員
2008年 9月～現在に至る	教育思想史学会(国内学会)会員
2009年 9月～2014年 9月	日本教師教育学会(国内学会)理事

2009年10月～現在に至る	日本教育方法学会(国内学会)会員
2009年10月～現在に至る	日本教育方法学会(国内学会)常任理事
2011年 4月～現在に至る	総合人間学会(国内学会)会員
2011年 8月～現在に至る	日本教育学会(国内学会)理事
2014年 8月	日本教育学会第73回大会(国内学会)シンポジウムの司会
2014年 8月	日本教育学会第７３回大会　ラウンドテーブル　企画と司会
2014年10月	日本教育方法学会第50回大会(国内学会)シンポジウムの司会
2014年10月	日本教育方法学会第５０回大会課題研究　コーディネーターと司会

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部国際教養学科	准教授	貞光　　宮城	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
初年次教育（読み・書き・プレゼン）	2008年 4月 ～現在に至る	英語コミュニケーション学科１年生を対象とした初年次教育の授業。４色ボールペンを利用した読解、要約、さらに展開などを行い、日本語の読み書きを訓練する。練習問題形式で、文語／口語の区別、てにをは、主述の一貫性などを確認する。レポート作成のテーマ決定から、図書検索、段落構成、執筆、書式設定などを段階的に行い、無理なくレポートが完成することを目指す。引き続き自分のレポートをもとにプレゼンの訓練を行う。そのために、要約、レジメ作成、図式化、スライド作成、発表、互いのプレゼンの評価を行う。
英文読解（音読）	2008年 4月 ～現在に至る	英語コミュニケーション学科の１年生以上を対象とした専門科目。英語音読の訓練を行う。やさしめの教材（A4で2毎程度）を準備し、春・秋学期を通じ、毎時間同じ教材を約30分音読する。音読方法も徐々にレベルアップしていくように、活字を見ながら1文ごとに音読から始め、最終的には活字なしでシャドーイングを行う。CALL教室を使用し、自分の発音を録音しCDと比較するなど、個別に練習できるように音声教材などを提供する。
講義＋討論＋小論文	2008年 4月 ～現在に至る	英語学への導入授業である。春学期に世界の英語、英語史、社会言語学、コミュニケーション論を行い、秋学期に音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論を扱う。講義２回の後、小テストを行う。小テストでは基本的な概念の確認と、学生間で討論をし、その結果を小論文にする。討論の内容は、講義で得た知識を活かして身近な言語現象から深く考え進めるように設定している。
ゼミ（特論演習）	2009年 4月 ～現在に至る	英語コミュニケーション学科３年生以上を対象とし、英語学系（意味論）のゼミ（2年一貫）を担当する。特に、認知言語学的な考え方から、英単語の意味ネットワークの分析を行う。１年目にあたるこの授業では辞書の調査から研究の基礎を学びはじめる。言語分析の基本として、認知言語学の手法を学ぶ。
ゼミ（卒業演習）	2010年 4月 ～現在に至る	英語コミュニケーション学科３年生以上を対象とした、英語学系（意味論）のゼミの2年目である。特に、前年度から始めている各自の研究内容を互いに発表し合い、研究を発展させ、レポートを改訂していくことを目指す。春学期は、各自の研究内容をプレゼンするが、小グループ内でのプレゼンからクラス全体へのプレゼンへ、紙のレジメからスライドでのプレゼンへと、徐々に訓練していく。秋学期は、学生同士お互いのレポートを読み合い、さらに深く研究内容の改訂を進め、レポートを仕上げていく。
英文読解（多読）	2010年 4月 ～現在に至る	英語多読のトレーニングを導入。グレイディットリーディングや絵本、児童書等を教材として採用し（図書館と連携）、やさしい英語で書かれた薄い洋書をたくさん読む。授業中の読書トレーニングとして、制限時間内にどれだけ集中し読めるかを実践する。学生は読書記録を付け、授業外にも多読を続ける。年間100冊以上の洋書を読めるよう、個人個人に読書指導をする。独自の読書記録サイトを開設し、インターネットを通して学生の読書量を把握するとともに、各学生とのコミュニケーションも取れるようにしてある。
2　作成した教科書、教材、参考書		
講義用スライドと学生用ノートの作成	2008年 4月 ～現在に至る	年間の授業計画をねり、各回の授業内容をパワーポイントのスライドで表示し、講義を行う。スライド内容を授業ノートとして印刷配布しているが、授業内容のメモが取れない学生のために、プリントはスライド内容の穴埋め方式とし、メモを取りながら講義が聴けるよう工夫している。スクリーンも２枚使用し、ノートを取るのが遅い（スライドの展開が早過ぎる）場合に対応している。
読書記録用e-learningサイトを構築	2010年 4月 ～現在に至る	多読トレーニングのための読書記録をWeb上で付けられるようサイトを構築した。学生は面倒な冊数や語数の計算をせずに記録を付けることができ、また、教員からの読書指導もサイトを通じてできる。さらに、読んだ図書を通じて学生同士でもコミュニケーションが取れるように工夫した。(http://www.net-study.org/reading/index.asp)
TOEICトレーニング用教科書の教授用資料	2012年 6月 ～2014年 2月	Miles Craven、宮崎充保著『Valuable Clues for the TOEIC Test』（成美堂）の教授用資料（300ページを超える）を執筆。TOEICを初めて受ける学習者から730点程度までの学習者を対象とした大学英語教育向けの教科書。各PARTごとに学習を進め、学習者が帰納的にTOEIC受験のポイントをつかんでいけるように工夫している。
英文リーディングトレーニング用教科書	2012年 6月 ～現在に至る	宮崎充保・貞光宮城著『Read, Read, Read』（仮）成美堂。速読のトレーニングを具体的に提案し、リーディング力をつけることを目的とした大学英語教育向けの教科書。読む速さと読解力の両立に着目し、単なる速読技術の紹介に終わらず、具体的なトレーニング方法を提示し、それを実践することで読む力をつけてもらうことを目指している。（2014.11.5現在執筆中）

英文リーディングトレーニング用教科書（e-learning用Web教材）	2015年 4月 ～現在に至る	宮崎充保・貞光宮城著『Read, Read, Read』（仮）成美堂。速読のトレーニングを具体的に提案し、リーディング力をつけることを目的とした大学英語教育向けの教科書。読む速さと読解力の両立に着目し、単なる速読技術の紹介に終わらず、具体的なトレーニング方法を提示し、それを実践することで読む力をつけてもらうことを目指している。その教科書傍用のe-learning用Web教材を出版社と共同で執筆・開発中である。（2016.6.6 現在執筆中）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
英語多読授業のすすめ	2014年12月22日	追手門学院大学英語教育プロジェクト主催 5402教室
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
English Entrance Exams: Does Comprehension Matters?	共著	2013年 3月	追手門学院大学 英語文化学会論集(22)	Ross Eric Miller, Yuko Hakozaki, Miyagi Sadamitsu, Yasuko Sato	1-10頁
英日翻訳における転移修飾表現の分析 ―認知言語学的翻訳論の観点から―	単著	2013年 3月	追手門学院大学 国際教養学部紀要 (6)		17-26頁
英文多読トレーニングを授業に導入する際の疑問について ―「やさしい英文では意味がない」のか？―	単著	2014年 3月	追手門学院大学教育研究所紀要 (32)		
日英翻訳における転移修飾表現の分析 ―認知言語学的翻訳論の観点から―	単著	2015年 3月	追手門学院大学 国際教養学部紀要		
She'll Be Right as a Living Fossil: A Study of Expletive Pronoun she in Present-day Australian English	単著	2016年 3月	追手門学院大学 国際教養学部紀要 (9)		1-10頁
その他					
「オーストラリア英語」	-	2013年 1月	2012年度追大講座		
Craven, Miles and Mitsuyasu Miyazaki, Valuable Clues for the TOEIC Test, 教授用解答と解説	-	2014年 3月			

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1998年 4月～現在に至る	日本英語学会(国内学会)会員
1998年11月～現在に至る	関西言語学会(国内学会)会員
2001年 8月～現在に至る	日本認知言語学会(国内学会)会員
2001年11月～現在に至る	大阪大学英文学会(国内学会)会員
2004年 5月～現在に至る	日本英文学会(国内学会)会員
2005年 3月～現在に至る	福岡認知言語学会(国内学会)会員
2008年 7月～現在に至る	British Association for Applied Linguistics(国際学会)会員
2009年 7月～現在に至る	Free Linguistics Conference(国際学会)会員
2010年 4月～現在に至る	日本多読学会(国内学会)会員
2015年 7月～現在に至る	Australian Linguistics Society(国際学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部国際教養学科	教授	佐藤　　恭子	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
コーパスを用いたデータ駆動型学習の導入	2007年 4月 1日 ～現在に至る	英語学関連の授業において、コーパスを用いて用例を収集する手法を導入している。インターネット上で無料で利用できるコーパスから始め、コーパスの基礎的理解が得られた後、学内でのみ使用できるコーパス（BNC）を用いている。そして、得られた大量のデータ（用例）から、言語の使用ルールを、学生自身が読み取ることができる力を帰納的手法により身につけることを目指している。
授業への意見、要望に対応するための授業アンケート	2008年 4月 1日 ～現在に至る	学期末に行う大学一斉のアンケートとは別に、担当科目について、毎回授業アンケートを実施し、学生からの疑問、質問、要望に対して即座に対応している。具体的には、毎回自由記述の感想を書いてもらい、次週にはそれに対するコメントなどを書いて学生へ返却している。また多く見られた意見や、要望などは、授業内で全体に回答を行い、クラス運営になるべく早く取り入れ、改善する姿勢を見せている。
就職活動支援のためのゼミ活動	2009年 4月 1日 ～現在に至る	4年ゼミの学生による就職活動体験報告会を年に2回実施している。4年のゼミ生が就職活動について、3年のゼミ生に経験談を語り、就職活動の支援を行う。これは3，4年生の交流の場としても機能している。さらに、具体的なスキルとして、自己PRの方法やプレゼンテーションの実際などを学生自らが示し、３年生への指導を行う活動も取り入れている。
e-learningを用いた自律的学習の促進	2010年 4月 1日 ～現在に至る	e-learning教材を対面授業と組み合わせながら使用している。使用教材は2010年度から2012年度の３年間は、所属学科で作成した共通の文法問題を用いたが、2013年度はLongman Interactive English、2014年度は「ぎゅっとe」を用いた。学生には学習記録を毎回の学習ごとに記入してもらい、学習の進捗状況を把握できるようにした。そして記載された内容から、学習上の問題点や学習習慣の実態を観察した。授業の最終回には学生ごとに、個別面談を行い、個別対応を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『英語心理動詞と非対格動詞の習得は何故難しいのか』	単著	2013年 1月	(渓水社)		90頁
「英語学習者はe-learningをどう使っているのか　ー自律学習におけるメタ認知ストラテジー能力の養成に向けて」	共著	2014年 2月	(渓水社)	佐藤恭子・権瞳・アランベセット・有馬淑子	担当:全体の企画、立案及び１章「学習ビリーフと学習ストラテジー」（pp. 3-11）と5章「実践編：学習記録とメタ認知ストラテジー」（pp. 47-59）。
非対格動詞の受身化の誤用はなぜ起こるのか	単著	2015年 3月	(渓水社)		
論文					
「自律学習におけるメタ認知ストラテジーの指導に向けてー「学習記録」と「授業アンケート」の実践ー」	共著	2013年 3月	追手門学院大学教育研究所紀要 (31)		40-49頁
「英語文法能力の習得実態調査　―「能力記述文（can-do statements)」の作成へ向けて―」	単著	2013年 3月	追手門学院大学学習支援・教育開発センター年報 (3)		21-28頁
「英語非対格動詞の受身化の誤用における文脈の影響について」	単著	2013年 3月	(追手門学院大学『英語文化学会論集』) (22)		11-30頁
An Empirical Study of Learners Behavior and Use of Learning Materials in CALL	共著	2013年12月	Poole Gakuin University Journal(Poole Gakuin University) 54	Kwon H., Y. Sato	67-81頁
自由学習状況におけるe-learning継続時間の規定要因	共著	2013年12月	人間文化研究(『京都学園大学) (３１)	◎有馬淑子、アラン・ベセット、権瞳、佐藤恭子	13-26頁

段階的な英語文法指導を目指した習熟実態の検証	単著	2016年 3月	(追手門学院大学『英語文化学会論集』)(25)		15-26頁
その他					
CALL学習における学習行動の実証的研究	-	2012年 8月	第52回外国語教育メディア学会（LET）全国研究大会(甲南大学)	◎権瞳、佐藤恭子	
メタ認知ストラテジーの養成へ向けた学習記録の活用	-	2012年 8月	日本リメディアル教育学会(立命館大学)	◎佐藤恭子、権瞳、アランベセット、有馬淑子	
英語非対格動詞の受身化の誤用について	-	2013年 8月	外国語教育メディア学会（LET） 第53回全国研究大会(文京学院大学)		
文脈における使役主（原因）の存在と非対格動詞の受身化の関係について	-	2013年12月	関西英語語法文法研究会第27回例会(関西学院大学)		
学習発達段階を考慮した英語文法事項配列の検討	-	2014年 3月	大学教育研究フォーラム第２０回大会(京都大学)		
ニューラルテスト理論を用いた英語文法能力調査	-	2016年 3月	大学教育研究フォーラム第２2回大会(京都大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
	日本学術振協会　科学研究費委員会 審査委員
1988年 4月～現在に至る	外国語教育メディア学会(国内学会)会員
1994年 4月～現在に至る	英語コーパス学会(国内学会)会員
1998年 4月～現在に至る	大学英語教育学会(国内学会)会員
2001年 4月～現在に至る	関西英語教育学会(国内学会)会員
2002年 4月～現在に至る	日本第二言語習得学会(国内学会)会員
2002年 4月～2004年 3月	関西英語教育学会(国内学会)事務局幹事
2003年 4月～2005年 3月	大学英語教育学会(国内学会)関西支部研究企画委員
2005年 4月～2009年 3月	大学英語教育学会(国内学会)関西支部事務局幹事
2012年 4月～現在に至る	大学英語教育学会(国内学会)紀要編集委員
2013年 4月～現在に至る	大学基準協会大学評価分科会評価委員
2014年 6月～2014年11月	平成２６年度科学研究費委員会委員（審査第三部会人文学小委員会）
2015年 6月～2015年11月	平成２６年度科学研究費委員会委員（審査第三部会人文学小委員会）

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部国際教養学科	教授	新谷　　好	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
インターネットの利用とパワーポイントの使用	2006年 4月 ～現在に至る	インターネットを利用し、英語の運用能力やコンピュータスキルの向上を指導している。 また、パワーポイントを使用し、講義内容の要点を整理してわかりやすい授業を目指している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
「英文学概論１」の教材作成	2006年 4月 ～現在に至る	以下のように、「英文学概論１」の教材作成を行った。 第　1回　授業紹介（文学のテーマ） 第　2回　Beowulf　+ The Canterbury Tales (1387-1400) 第　3回　Romeo and Juliet (?1595) 第　4回　Robinson Crusoe (1719) 第　5回　Gulliver's Travels (1726) 第　6回　Pride and Prejudice (1813) 第　7回　Frankenstein (1818) 第　8回　A Christmas Carol (1843) 第　9回　Jane Eyre (1847) 第10回　Wuthering Heights (1847) 第11回　Basil (1852) 第12回　North and South (1854-5) 第13回　Alice's Adventure in Wonderland(1865) 第14回　Black Beauty (1877) 第15回総括
「英文学概論２」の教材作成	2006年 4月 ～現在に至る	「英文学概論２」の教材を以下のように作成した。 第 1回　The Strange Case of Dr Jekyll and Mr Hyde (1886) 第 2回　Tess of the d'Urbervilles (1891) 第 3回　An Ideal Husband (1895) 第 4回　Dracula (1897) 第 5回　The Hound of the Baskervilles (1901-02) 第 6回　Peter Pan (1905) 第 7回　Pygmalion (1907) 第 8回　A Room with a View (1908) 第 9回　The Apple Tree (1916) 第10回　Lady Chatterley's Lover (1928) 第11回　Death on the Nile (1937) 第12回　The Third Man (1950) 第13回　The Lion, the Witch and the Wardrobe (1950) 第14回　Charlie and the Chocolate Factory (1964) 第15回総括
「英米の文化・文学」の教材作成	2006年 4月 ～2014年 3月	以下のような内容の半期講義「英米の文化・文学」の教材作成を行った。 第 1回　　授業紹介と英国の歴史の概略 第 2回　　ヴィクトリア朝時代（1837-1901）の特徴 第 3回　　英国の児童文学1(ビアトリクス・ポッターの世界) 第 4回　　『ピグマリオン』と『マイ・フェア・レディ』 第 5回　　ラファエロ前派の画家たち 第 6回　　女優像とエレン・テリー 第 7回　　ギルバート、サリヴァン、カートとジャポニスム 第 8回　　『帝』と『ペイシェンス』 第 9回　　女性の教育とキャンベル卿夫妻の離婚裁判 第10回　　警察の歴史と切り裂き魔ジャック事件 第11回　　「宿命の女」、サロメ像の変化と検閲、ビアズリー 第12回　　英国の児童文学2（『不思議の国のアリス』、『ピーター・パン』） 第13回　　英国の児童文学3（『チャーリーとチョコレート工場』、ハリー・ポッターの世界） 第14回　　貴族、バリーと『アドミラブル・クライトン』 第15回　総括
「特論演習１，２」の英語・日本語字幕作成	2010年 ～現在に至る	映画『ピーター・パン』の英語字幕（Lesson 1～28）を作成し、対訳の日本語訳を追加し、リスニング教材ともなるように配慮した。
「卒業演習１，２」の英語・日本語字幕作成	2013年 ～現在に至る	映画『ナルニア国物語：ライオンと魔女』の英語の字幕（Lesson 1～28)を作成し、対訳として日本語を追加し、リスニング教材ともなるように配慮した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
英国世紀末文化とオスカー・ワイルド	単著	2013年 2月	(英宝社)		
論文					
オスカー・ワイルドの短編小説について	単著	2014年 3月	『国際教養学部紀要』(追手門学院大学教養学部)(７)		４３-５５頁
書簡に見るオスカー・ワイルド（２）	単著	2014年 3月	英語文化学会論集(追手門学院大学英語文化学会)(２３)		３９-５５頁
オスカー・ワイルドの「W・H氏の肖像画」について	単著	2015年 1月	追手門学院大学国際教養学部紀要(Otemon Gakuin University)(8)		13-23頁
『パデュア公爵夫人』について	単著	2015年 3月	追手門学院大学英語文化学会論集(24)		21-30頁
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1988年～現在に至る	日本ワイルド協会(国内学会)会員
1988年～現在に至る	日本英文学会(国内学会)会員
1998年～現在に至る	神戸市外国語大学英米学会(国内学会)会員
2006年～現在に至る	日本英文学会関西支部(国内学会)会員
2007年 4月～現在に至る	日本ワイルド協会(国内学会)理事
2011年 4月～2015年 3月	日本ワイルド協会(国内学会)副会長
2013年11月～2013年11月	日本ワイルド協会第38回大会を大阪城スクエアで開催し、総合司会を務めた。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部国際教養学科	教授	真銅　正宏	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
グループ学習とプレゼン能力開発による口頭発表技術向上と映像化による反復学習の組み合わせ	2015年 4月 1日 ～現在に至る	日本語ワークショップの授業において、日本語の運用能力向上と、日本文化の発信力向上のために、グループ学習により、調査内容を小演劇またはパワーポイント資料にまとめ、口頭発表を行うが、その際、発表に関しては、社団法人日本プレゼン・スピーチ能力検定協会の技術を援用した。また口頭発表の都度、撮影し、これを後に再生確認することで、反復学習を行い、より精密な能力向上の方法を実践する。
2　作成した教科書、教材、参考書		
作品の論点と文学性および社会的課題への敷衍のためのPPT作成	2015年 4月 1日 ～現在に至る	毎回一作ずつの文学作品を読むに際し、毎回の小レポートの課題でもある、作品の論点と、独自の文学性、および、それら論点や特徴の、社会的な課題への応用可能性について、毎回講義用PPTを作成している。最終的には、150作品程度のPPT集が出来上がる予定である。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
社団法人日本プレゼン・スピーチ能力検定協会2級	2014年10月23日 ～現在に至る	社団法人日本プレゼン・スピーチ能力検定協会の2級コースの全課程を修了した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ふるさと文学さんぽ京都	共著	2012年11月	(大和書房)	共同執筆者多数。	監修
項目執筆　京都近代文学事典	共著	2013年 5月	京都近代文学事典(和泉書院)	共同執筆者多数。	136,147,251-252,297-298-320-322頁
項目執筆　東北近代文学事典	共著	2013年 6月	東北近代文学事典(勉誠出版)	共同執筆者多数。	665-672頁
項目執筆　王志松・島村輝編『日本近現代文学研究』　「永井荷風」	共著	2013年 8月	王志松・島村輝編『日本近現代文学研究』(外語教学与研究出版社（中国）)	王志松・島村輝編、共同執筆者多数。	179-184頁
偶然の日本文学	単著	2014年 9月	(勉誠出版)		1-251頁
分担執筆　日本近代文学館編『近代文学草稿・原稿研究事典』　「永井荷風」	共著	2015年 2月	日本近代文学館編『近代文学草稿・原稿研究事典』(八木書店古書出版部)	日本近代文学館編、共同執筆者多数。	283-287頁
論文					
阿波の人形師を書く―小説における人物造型の方法と歴史上の人物への視線―	単著	2013年 3月	同志社国文学　駒木敏教授退職記念号 (78)		117-129頁
「不審庵」と『千家正流茶の湯客の心得』	単著	2013年 6月	太宰治研究 (21)		82-92頁
兎を飼う―毛皮のなめらかさと人間関係のざらつき―	単著	2013年11月	人文学 (192)		181-196頁
産児調節・避妊・堕胎―谷崎潤一郎「卍」における隠された触感―	単著	2014年 3月	文化学年報 (193)		340-360頁
立体造形と触覚―「盲獣」の触覚的彫刻と「人間椅子」の技巧―	単著	2014年 3月	人文学 (193)		163-180頁
明治大正期の商業都市大阪における文学と金―メセナという視点から―	単著	2014年 5月	文学　特集「お金と文学」		53-68頁
宮本輝「骸骨ビルの庭」の中の三つの時間	単著	2016年 1月	国際教養学部紀要(追手門学院大学国際教養学部) (9)		112（1）-100（13）頁
その他					

日本近代文学の根幹要素―西洋文化と江戸文学の交雑―	–	2012年 7月	台湾大学人文社会高等研究院「日本韓国研究統合プラットホーム」人文社会科学討論会(台湾・台北市台湾大学)		
文学研究と国語教育	–	2012年 9月	『数研国語通信つれづれ』(数研出版) (22)		2-7頁
異文化移入における文学の役割	–	2012年12月	「風雨の40年―新アジア主義というコンテクストにおけるアジア文化の協調的建設の道を目指して」国際シンポジウム(中国・広東市広東外語外貿大学)		
学界時評・二〇一二年を中心に	–	2013年 5月	日本近代文学 (88)		164-170頁
近代の日本人旅行者が見た世界の食文化	–	2013年 6月	京都外国語大学大学院特別講演会(京都)		
書評・木村陽子著『安部公房とはだれか』	–	2013年 8月	『週刊読書人』		
日本近代文学研究の転換期	–	2013年12月	海洋大学講演(中国・青島)		
翻刻・谷口和三郎「明治三十年和泉艦ニテ航海日記」	–	2014年 3月	同志社国文学 (80)	佐藤貴之・グレゴリー・ケズナジャット・福岡弘彬・李春草・林麗婷・真銅正宏	121-141頁
書評・ダニエル・ストラック著『近代文学の橋』	–	2014年10月	『週刊読書人』		
O gênero literário sansakuki ou anotações de passeio: a cidade de Tóquio e a obra Hiyori geta: Anotações de passeios pelos bairros de Tóquio, de Kafū Nagai	–	2015年	da Costa organizaçã o Modernizaçã o urbana e cultura contemporânea(di á logos Brasil-Japao Terracota São Paulo)	Andrea Yuri Flores Urushima, Raquel Abi-Sâmara, Murilo Jardelino, others	
書評・石原千秋著『なぜ『三四郎』は悲恋に終わるのか	–	2015年 4月	『週刊読書人』		
末永航氏講演「ダンヌンツィオの国へ―大正教養世代のイタリア旅行」について	–	2015年 9月	村松真理子編『ダンヌンツィオに夢中だった頃―生誕150周年記念展(東京・京都2013-2014)と研究の最前線』(東京大学教養学部イタリア地中海研究コース)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1988年 5月～現在に至る	日本近代文学会(国内学会)会員
1989年 2月～現在に至る	日本文学協会(国内学会)会員
1989年 7月～現在に至る	昭和文学会(国内学会)会員
2002年 4月 1日～現在に至る	昭和文学会 幹事
2006年 4月 1日～現在に至る	日本近代文学会 評議員
2013年 4月 1日～2015年 3月31日	日本近代文学会 編集委員会委員
2014年 3月	コメンテーター、講演・末永航「ダンヌンツィオの国へ―大正教養世代のイタリア旅行」(8日、於京都大学総合博物 館)

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部国際教養学科	教授	平尾　日出夫	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
英語リーディング3、4	2013年	英文を和訳することなく、ディクテーションとコンプリヘンションクエスチョンを中心に展開する英文読解授業。教科書:VOAニュースが伝える世界の争点
英語特論2	2015年	コンピュータを利用しコンテントベースで、英語中級、上級者の読解力をグループワークで行うPBLにより独立した学習者に養成することを目指す。使用ソフトウェア:リーディングラブ
2　作成した教科書、教材、参考書		
リーディング・ラブ	2015年	追手門学院大学における教育開発奨励制度により、パラグラフ構造の理解とスキミング、スキャニングの実習に重点を置いたグループワーク型リーディング用コースウェアの開発と実証を行った。(助成金額50万円)
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
英語学習教材アーカイブ	2012年12月17日	日本における独習での英語学習環境の向上を目指した、初級、中級、上級のレベル別の学習教材データベースである。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
VOAニュースが伝える世界の争点	単著	2013年 1月	(英宝社)		
論文					
Three Complex Prepositions with *and*（査読付）	単著	2013年 3月	International Journal of English Linguistics 3(2)		25-31頁
Up Above as a Complex Preposition（査読付）	単著	2014年 1月	English Linguistics Research(Sciedu Press) 3(1)		12-17頁
その他					
英語学習教材アーカイブ	-	2012年12月			
英語学習教材アーカイブの公開	-	2013年 3月	e-learning教育学会(大阪大学豊中キャンパス)		
複合前置詞*down below*	-	2014年 3月	フレイジオロジー研究会第9回例会(大阪府大阪市関西学院梅田キャンパス)		
英語学習教材アーカイブの授業での利用	-	2014年 5月	２０１４年度春季研究大会(岡山県岡山市)		
インターネット教材を使った留学生に対する遠隔学習	-	2015年 6月	2015年度研究大会(神戸学院大学・ポートアイランとキャンパス)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1982年 5月～2015年 3月	日本英文学会(国内学会)会員
1990年 3月～現在に至る	外国語教育メディア学会(国内学会)会員
2005年 8月～現在に至る	関西英語教育学会(国内学会)会員
2008年 4月～現在に至る	大学英語教育学会(国内学会)会員
2013年 1月～現在に至る	e-Learning 教育学会(国内学会)会員
2013年 4月～現在に至る	英語コーパス学会(国内学会)会員
2014年 8月	外国語教育メディア学会第54回全国研究大会　総会司会

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部国際教養学科	准教授	福島　　孝博	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
jQueryを学ぶためのWeb教材の作成	2015年 4月 1日	JavaScriptのライブラリの１つであり、Web制作技術として利用されるjQueryを学ぶための教材、英語の学習を想定したWeb教材を作成し、担当科目である「情報科学各論２」（秋学期）にて使用した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
テレビの緊急報道番組に付与されたリアルタイム字幕および字幕中の地名に関する調査	単著	2013年 2月	追手門学院大学国際教養学部紀要(6)		49-57頁
テレビCMに付与された字幕の評価（査読付）	単著	2015年 7月	映像情報メディア学会誌69(8)		J248-J252頁
How Hearing Impaired People View Closed Captions of TV Commercials Measured By Eye-Tracking Device（査読付）	共著	2015年 9月	Online Journal of Communication and Media Technologies Special Issue(September 2015)	Takashi Yasuda, Dai Nippon Printing Co., Ltd., Japan Mika Oda, Dai Nippon Printing Co., Ltd., Japan	43-52頁
その他					
Research on The Usefulness of Closed Captions on TV Commercials (4)- Analyses of Closed-Captioned TV Commercials in terms of Caption Speed and Caption Readability -	共著	2012年10月	The 4th International Conference for Universal Design in Fukuoka(Fukuoka, Japan)	Shigeki Inoue (Hakuhodo Universal Design)	
テレビCMに付与された字幕の評価	単著	2014年 9月	映像情報メディア学会年次大会(大阪大学)		
字幕のNAB方式とARIB方式の視聴研究から	単著	2015年 2月	字幕CM制作実践セミナーin大阪(追手門学院梅田サテライト)		
Effects of Closed Captions for TV Commercials Measured by Eye-Tracking Device	共著	2015年 5月	The 4th International Conference on Communication, Media, Technology and Design(ドバイ（アラブ首長国連邦）)	Takashi Yasuda, Mika Oda	
IPTVを使った字幕付与	単著	2015年12月	第一回メディア・アクセシビリティと IPTVシンポジウム(情報通信技術委員会（TTC） 2階)		
「字幕付きＣＭに望むこと～広告界への期待」	単著	2016年 3月	第２回「字幕付きＣＭセミナー（大阪開催）」(電通関西支社12Fホール)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
年月	内容
1996年～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員
1996年～現在に至る	言語処理学会(国内学会)会員
1998年～現在に至る	電子情報通信学会(国内学会)会員
2007年～現在に至る	e-Learning教育学会(国内学会)会員
2011年～現在に至る	映像情報メディア学会(国内学会)会員
2012年 4月 1日～2013年 3月31日	電子情報通信学会　ソサエティ論文誌編集委員会 査読委員
2013年 4月 1日～2014年 3月31日	電子情報通信学会　ソサエティ論文誌編集委員会 査読委員
2014年 4月 1日～現在に至る	電子情報通信学会　ソサエティ論文誌編集委員会 査読委員
2014年10月 1日～現在に至る	IPTVアクセシビリティコンソーシアム 設立委員
2015年 2月～2015年 2月	字幕CM制作実践セミナーin大阪　開催
2015年 7月	大学における国際交流
2016年 3月	IPTVを使った字幕付与

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部国際教養学科	教授	Jeffrey　Herrick	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
″Alice’s Analysis″ and Other Poems	単著	2014年 3月	英吾文化学会(23)		7-16頁
″Signal to Noise″ and ″Norito″（査読付）	単著	2014年 9月	The Antioch Review(Antioch College) 72(4)		705-707頁
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1991年 4月～現在に至る	追手門学院大学　英語文化学会(国内学会)会員
2011年 4月～2014年 3月	追手門学院大学　英語文化学会(国内学会)会長

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部国際教養学科	准教授	増崎　　恒	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
実務経験者とコラボした授業の実践	2008年 4月 1日 ～2014年 3月31日	元ＮＨＫ記者を授業に呼び、学生の日本語文章作法の一助とした。
2　作成した教科書、教材、参考書		
授業理解のための各種補助プリントの作成	2008年 4月 ～現在に至る	新入生演習の授業プリント、アメリカ史、米文学概論の補助プリント、英語リーディング、英語ライティング等の補助プリント、を作成し、学生の授業理解の一助としている。
『Hospitality English for Carreers at Hotels』	2015年 2月	ホテルというサービスの現場において使用される適切な英語を、「おもてなし」（hospitality）という観点を加味して日本人英語学習者に習得させることを意図した英語教科書。金星堂より刊行。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
交換留学生の研修旅行における引率	2008年 4月 ～2013年 3月	インドのグジャラート大学からの交換留学生の研修旅行の引率（広島、神戸方面）を担当。引率では英語通訳ほかを担当。
実践英語科目と連動した学科行事「京都通訳ガイド体験」にかかる学生引率	2015年12月 6日	授業担当教員が非常勤講師のため、学科専任教員の代表として同業務に従事し、通訳案内士の方と学生の間の橋渡しを行った。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『アメリカスのまなざし―再魔術化される観光―』	共著	2014年12月	（天理大学出版部）	関雄二、藤巻正巳、桑原久男、井上昭洋、小林貫徳、矢持善和、増崎恒、牛島万、古川義一、初谷譲次、杓谷茂樹、北森絵里、古畑正富、森田成男	158-75頁
『Hospitality English for Carreers at Hotels』	共著	2015年 2月	（金星堂）	◎岩井千春、増崎恒、野澤和典	本人の分担箇所の明示は不可
論文					
「英語文学研究と英語教育の接合―Ernest Hemingwayの “Cat in the Rain” (1925) を事例として―」	単著	2013年 1月	追手門学院大学国際教養学部紀要 （６）		59-78頁
「Henry Flemingは何者か？―Stephen CraneのThe Red Badge of Courage (1895) を『ビジネス』という観点から再読する―」	単著	2013年 2月	追手門学院大学ベンチャービジネス・レビュー （５）		21-33頁
「逃亡者の帰還―Stephen CraneのThe Red Badge of Courage (1895) に見る19世紀末的な中産階級意識―」	単著	2014年 1月	追手門学院大学国際教養学部紀要 (7)		23-44頁
「アフリカ」から読むStephen Crane―19世紀末米国におけるツーリズム（リスト）とスラム街―	単著	2016年 1月	追手門学院大学国際教養学部紀要(追手門学院大学国際教養学部) （９）		23-40頁
その他					
「広告（advertisement）を『読む』―米文学研究者の視点から、ベンチャービジネスに役立つヒント―」	-	2012年11月	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所　土曜セミナー		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
年月	内容
1998年 6月～現在に至る	中・四国アメリカ文学会(国内学会)会員
2000年 6月～現在に至る	日本英文学会中国四国支部(国内学会)会員
2002年 5月～現在に至る	日本アメリカ文学会(国内学会)会員
2006年 4月～現在に至る	日本英文学会関西支部(国内学会)会員
2010年 4月～現在に至る	日本英文学会(国内学会)会員
2011年 6月～現在に至る	大学英語教育学会 (JACET) (国内学会)会員
2013年 8月～2013年 8月	英単語の謎を解く―importantは実は重要じゃない (オープンキャンパスにおけるミニ講義の担当)
2014年 9月～現在に至る	日本ウィリアム・フォークナー協会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
国際教養学部国際教養学科	准教授	Ross　Eric　Miller	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
Communication　2013	2013年 4月 1日 ～2014年 3月31日	I incorporate a variety of authentic materials, in particular, TED talks, and make materials related to the subjects being presented.
Computers and English Education	2013年 4月 1日 ～現在に至る	I make a varitety of handouts that help student with the study of English and the usage of computers。
Computers and English Research　2013	2013年 4月 1日 ～現在に至る	I create a varitey of materials that help students with English langauge learning, computer skills, and using the internet for research purposes.
Sotsugyo Enshuu	2013年 4月 1日 ～現在に至る	I have made all of my own materials to enhance language learning through the use of authentic materials (books, tv, movies, and the internet).
Tokuron Enshuu　2013	2013年 4月 1日 ～現在に至る	I have made all of my own materials to enhance language learning through the use of authentic materials (books, tv, movies, and the internet).
Vancouver Seminar	2013年 4月 1日 ～2014年 3月	I have made a varitey of materials to help students in the pre-departure phase, while in country, and a project for them to complete upon their return to Japan.
Writing 1A	2013年 4月 1日 ～2013年 8月31日	I made all of my own materials to teach this first year writing class.
Communication　2014	2014年 4月 ～2015年 3月	I incorporate a variety of authentic materials, in particular, TED talks, and make materials related to the subjects being presented.
Computers and English Research　2014	2014年 4月 ～2015年 3月	I create a varitey of materials that help students with English langauge learning, computer skills, and using the internet for research purposes.
Vancouver Seminar Memory book 2014	2014年 9月 ～2015年 3月	This is a book that students fill out to capture all aspects of their experience while studying abroad in Vancouver.　Sections include: Daily Memory, Restaurants, Sight Seeing, Culture, etc..
Writing 3/4A	2015年 4月 1日 ～現在に至る	I make all of the writing lesson materials, and incorporate an online aspect to the class so that students can access and submit materials electronically.
英語発音クリニックＡ	2015年 4月 1日 ～現在に至る	In addition to the textbook, I incorporate original materials and make use of an online aspect to the class so that students can access and submit materials electronically.
Academic English 特論	2016年 4月 1日 ～現在に至る	For this graduate school class, I provide the student with lessons designed specifically for her interests and needs.
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
English Entrance Exams: Does Comprehension Matter?	共著	2013年 3月	追手門学院大学英語文化学会論集第２２号	Y. Hakozaki, M. Sadamitsu, Y. Sato	pp.1-10
Experience Abroad: Developing an Enhanced Study Abroad Program（査読付）	単著	2014年 1月	(Hawaii International Conference on Education)		(pp. 539-557)
Likert or Leave 'Em: Does Scale Size Matter	共著	2014年 3月	追手門学院大学英語文化学会論集第２３号	D. Levin	pp. 57-68
Likert or Leave 'Em: does scale size matter? A look at non-English majors	共著	2015年 3月	Toyohashi University of Technology: The Lark Hill, (37)	D. Levin	39-50頁

A Pocketful of Education: Mobile Technology in the EFL Classroom. (査読付)	単著	2015年10月	In Proceedings of E-Learn: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and		1537-1543頁
その他					
Experience Abroad: Developing an Enhanced Study Abroad Program	-	2014年 1月	Hawaii International Conference on Education(Honolulu, Hawaii, USA)		
Study Abroad: Enriching the Memory	-	2014年 5月	Tasked Based Learning and Teaching in Asia Conference(Osaka, Japan)		
Talk to Me: Pronunciation Practice with an iPhone	-	2015年 7月	International Conference on Education (ICE2015)(Kuala Lumpur, Malaysia)		
A Pocketful of Education: Mobile Technology in the EFL Classroom	-	2015年10月	World Conference on E-Learning(Kona, Hawaii, USA.)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2005年 4月～現在に至る	Japan Association for Language Teaching(国内学会)会員
2010年11月～2012年11月	Judge for Ibaraki City Speech Contest
2013年 3月	産経新聞(夕刊) 文化欄に「記憶より探求させる教育」（ヴィスワット先生と共著）を掲載
2013年 9月～現在に至る	CATESOL (California TESOL)(国際学会)会員
2015年 5月～現在に至る	Association for the Advancement of Computing in Education (AACE)(国際学会)会員
2015年 5月～現在に至る	The International Society for Technology in Education (ISTE®)(国際学会)会員

基盤教育機構

池田　輝政　(265)
梅村　修　(266)
大串　恵太　(269)
加村　隆英　(270)
岸岡　奈津子　(271)
齊藤　一誠　(273)
水藤　龍彦　(274)
田上　正範　(275)
武田　裕紀　(278)
巽　樹理　(279)
辰本　頼弘　(280)
千葉　英史　(281)
豊島　眞介　(282)
秦　敬治　(283)
樋口　勝一　(286)
松井　健　(290)
村上　亨　(293)

V　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
基盤教育機構	教授	池田　輝政	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
学会報告書(共)「対話する学びのコミュニティを大学人はどのようにつくりだすのか」大学教育学会誌、第37巻、第2号	2015年11月	授業観のパラダイムシフトを授業実践に反映する教師の学びのコミュニティづくりの必要性を投稿
学会発表「対話する学びのコミュニティを大学人はどのようにつくりだすのか」第37回大学教育学会ラウンドテーブル（長崎大学）	2015年6月	授業観のパラダイムシフトを授業実践に反映する教師の学びのコミュニティづくりの必要性を提起する発表
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
「私立大学の戦略プランニング・プロセス組織化の現状と課題」（査読付）	共著	2013年	大学行政管理学会(16)	鶴田弘樹、池田輝政、中島英博	53-61頁
「学びの質文化をつくる大学のカリキュラム・デザインーロスキレ大学の事例ー」	共著	2014年	大学・学校づくり研究紀要(名城大学)(6)	中島英博、池田輝政	63-70頁
「学位授与方針から設計するカリキュラム・マッピングの提案と実践」	共著	2014年	大学・学校づくり研究紀要(名城大学)(6)	池田輝政、野口眞弓、佐々木幾美	29-40頁
「授業研究のためのアクション・リサーチ法」（査読付）	単著	2014年	名城大学教育年報(名城大学)(8)		1-8頁
「地域と共に生きる私立大学の地域貢献戦略ー組織能力の優位性に関する事例調査ー」	共著	2015年 3月	大学・学校づくり研究（７）	柴田千登勢、姜茜、鈴木洋平、黒木恭子、黒田光太郎	35-48頁
IB学習者像にかかわる調査から見えたこと	共著	2016年 3月	アサーティブ学習高大接続研究(追手門学院大学)１	志村智美・池田輝政	17-26頁
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1997年4月～現在に至る	日本教育工学会（国内学会）会員
1998年5月～現在に至る	高等教育学会（国内学会）会員
2011年 9月～現在に至る	大学教育学会(国内学会)会員
2015年 5月～現在に至る	大学教育学会(国内学会)代議員・理事
2016年 3月 1日～現在に至る	まなびのコミュニティ協会 評議会議長

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
基盤教育機構	教授	梅村　　修	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
外国人留学生のための「インタビュー・プロジェクト」の試み	2005年 4月 1日 ～2013年 3月31日	大学・学部で学ぶ外国人留学生対象の「日本語読解」や「日本語聴解」の授業を、自律的・主体的な活動にするために、「インタビュー・プロジェクト」という活動を実践した。「インタビュー・プロジェクト」は、「読解フィールドワーク」によって絞り込まれたテーマについて仮説を設定し、日本人対象のインタビュー調査を通じて、その仮説を検証していく活動である。
外国人留学生のための「読解フィールドワーク」の試み	2006年 4月 ～2013年 3月	大学・学部で学ぶ外国人留学生対象の「日本語読解」や「日本語聴解」の授業を、自律的・主体的な活動にするために、「読解フィールドワーク」と「インタビュー・プロジェクト」という活動を実践した。「読解フィールドワーク」は、「インタビュー・プロジェクト」に先立って行われ、インタビューのテーマを絞り込むために、学生が自分の興味や関心に応じて、様々な文献を渉猟する活動である。
「ペアワーク・アクティビティ」および「ティーチング・プロジェクト」の試み	2010年 4月 1日 ～2013年 3月31日	将来、日本語教師を志す日本人学生と、日本語の運用能力を高めたい留学生が、二人一組になり、日本語を仲立ちにして学びあう。日本語を学びたい留学生と日本語を教えたい日本語教師志望の日本人学生の出会いを用意する授業の試みである。
自校教育の展開	2013年 4月 ～現在に至る	追手門学院は、長い歴史を有する、関西でも有数の伝統校である。社会有為の企業人や文化人を輩出してきたこの追手門学院が、今、大学の正規科目として力を入れているのが「自校教育講座」だ。自校教育は、学院の歴史や先人の事跡の勉強にとどまらない。学生には誇りや安心感を与え、教職員にはアイデンティティを確認させ、卒業生には母校の今を体感してもらう絶好の機会である。また、教員のFD(授業改善)活動や、学生の参加意識の醸成、キャリア形成にも資するところが大きい。2016年現在、追手門学院大学の自校教育講座は「追手門UI論」として全学履修科目に位置づけられ、月曜日から金曜日まで毎日開講される基盤教育科目の枢軸科目に成長している。
ワークショップ型授業におけるファシリテーション養成	2014年 4月 ～現在に至る	追手門学院大学の共通教育を担う基盤教育機構では、「個性と郷動力を磨くゼミナールの追手門」をスローガンに掲げ、少人数・双方向・参加体験型の協働学習の場をたくさん設けている。そのなかでも、表現コミュニケーション科目群は、受身の学生をActive Learnerにする科目と位置づけている。この科目群では、ワークショップ型の授業がたくさん設けられ、グループワークやプレゼンテーションを通じて、コミュニケーション能力、対人交渉能力、チームワーク、リーダーシップなどを持った学生を養成している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
追手門学院の自校教育	2014年 2月	追手門学院は、126年の歴史を有する、関西でも有数の伝統校である。社会有為の企業人や文化人を輩出してきた追手門学院が、今、大学の正規科目として力を入れているのが「自校教育講座」だ。自校教育は、学院の歴史や先人の事跡の勉強にとどまらない。学生には誇りや安心感を与え、教職員にはアイデンティティを確認させ、卒業生には母校の今を体感してもらう絶好の機会である。また、教員のFD(授業改善)活動や、学生の参加意識の醸成、キャリア形成にも資するところが大きい。本著では、理事長、学長、教職員、学生、卒業生、みんなで作り上げた学び論A「自校教育講座」の記録である。筆者は、東京大学名誉教授の寺崎昌男氏とともに、監修を務めた。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
『学生とともにすすめるFD』	2013年 3月15日	2013年3月15日『学生とともにすすめるFD』第19回大学教育研究フォーラム 於：京都大学　吉田キャンパス
『学生とともにすすめるFD~学生FDの地域交流の展望を探る～』	2013年 6月 1日	2013年6月1日『学生とともにすすめるFD~学生FDの地域交流の展望を探る～』第35回大学教育学会ラウンドテーブル　於：東北大学　川内北キャンパス
『学生とともに進めるFD』	2014年 3月19日	2014年3月19日『学生とともに進めるFD』第20回大学教育研究フォーラム　参 加者企画セッション（代表）　於：京都大学　吉田キャンパス
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

3500

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『学生FDサミット奮闘記　大学を変える、学生が変える２～追手門学生FDサミット編』	共著	2013年 3月	(ナカニシヤ出版)	木野茂（監修）	11-222頁
追手門学院の自校教育	共著	2014年 2月	(追手門学院大学出版会)	寺崎昌男、梅村修、山本直子	P.33-P.185頁
論文					
顧客心理型コピーの伝播について～An appeal power of ″customer psychology type copy″（査読付）	単著	2012年12月	日本繊維製品消費科学会　繊維製品消費科学(日本繊維製品消費科学会) 53(12)		72-77頁
学習支援室での教養ゼミ13	単著	2013年 3月	追手門学院大学学習支援・教育開発センター年報　第３号 (3)		73-99頁
文章表現コンクール『青が散る』Award短詩の部『追手門ジャック（惹句）』の取り組みについて	単著	2013年 3月	追手門学院大学教育研究所紀要　第31号 (31)		1-16頁
なぜ教育研究所を「廃止」するのか？（単著）	単著	2014年 3月	追手門学院大学教育研究所紀要　第32号(追手門学院大学　教育研究所) （３２）		１－４頁
基盤教育機構 主催 意見交換会『教養ゼミをどうするか』の記録	単著	2014年 3月	追手門学院大学教育研究所紀要(追手門学院大学教育研究所) (32号)		123-140頁
基盤教育機構 主催 意見交換会『教養ゼミをどうするか』の記録	単著	2014年 3月	追手門学院大学教育研究所紀要　第32号		
プロジェクト２Ｆ　「学生発案型授業～SCOTプログラム」の活動報告	単著	2015年 3月	追手門学院大学基盤教育論集　第2号(追手門学院大学 基盤教育機構) ２(２)		
大学における共通教育のあり方	共著	2015年 3月	追手門学院一貫連携教育研究所　紀要　第一号(追手門学院) １(１)	樋口勝一（基盤教育機構教授）、下川邦泰（就職・キャリア支援課課長）　村上亨（基盤教育機構教授）	108－119頁
追手門学院型APシステムについて	共著	2015年 3月	追手門学院一貫連携教育所　紀要(追手門学院) １(１)	山本直子、藤本祥之	21－56頁
基盤教育機構の現況と課題～基盤教育の充実のために	単著	2016年 2月	追手門学院大学　基盤教育論集 (3)		59-78頁
学部共通科目のマネジメントについての一考察	共著	2016年 3月	追手門学院一貫連携教育研究所紀要 (2)	樋口勝一、水藤龍彦、武田裕紀、村上亨、田上正範	
その他					
「つぶやきコピー」の伝播について	-	2012年 6月	日本繊維製品消費科学会(文化学園大学)		
ウェディングドレスに対する意識調査	-	2012年 6月	日本繊維製品消費科学会(文化学園大学)		
広告の影響力の分析	-	2012年 6月	日本繊維製品消費科学会(文化学園大学)		
新ビジネスモデル分析からゲーミフィケーション～	-	2012年 6月	日本繊維製品消費科学会(文化学園大学)		
顧客心理型キャッチコピーの訴求力について	-	2012年10月	日本消費者行動研究学会第45回消費者行動研究コンファレンス(慶應義塾大学)		
対話形式で織りなす大学教育ものがたり	-	2012年12月	大学コンソーシアム石川（大学共創フォーラム2012～みんなで大学教育について語ろう）(金沢学生のまち市民交流館)		
自校教育の今	-	2012年12月	追手門学院大学創立50周年記念事業(追手門学院大学学生会館)		

学生とともにすすめるFD	–	2013年 2月	第18回FDフォーラム(立命館大学以学管2号ホール)		
学生とともにすすめるFD	–	2013年 3月	第19回大学教育研究フォーラム(京都大学　吉田キャンパス)		
アート・マーケティング再考	–	2013年 6月	日本繊維製品消費科学会年次大会(椙山女学園大学)		
学生とともにすすめるFD~学生FDの地域交流の展望を探る～	–	2013年 6月	第35回大学教育学会(東北大学　川内北キャンパス)	村山孝道	
学生FD戦略論	–	2014年 3月	学生ＦＤサミット2013春(東洋大学白山キャンパス)		
学生とともに進めるFD	–	2014年 3月	第20回大学教育研究フォーラム(京都大学　吉田キャンパス)	木野　茂（立命館大学・共通教育推進機構）、服部憲児（京都大学・教育学研究科）、村山孝道（京都文教大学・教務課）、天野憲樹（岡山大学・教育開発センター）、吉田　博（徳島大学・教育改革推進センター）、山本堅一（追手門学院大学・教育開発センター）、長谷川伸（関西大学・商学部）、堀江育也（札幌大学・地域共創学群）、鹿島　我（京都光華女子大学・短期大学部）	
デジャ・ヴ　マーケティングのための基礎研究～訴求力のあるコミュニケーションに通底する集合的な記憶について	–	2014年 6月	日本繊維製品消費科学会2014年年次大会(京都工芸繊維大学)		
追手門学院大学の自校教育の状況	–	2014年11月	追手門学院大学 創立50周年記念講演会(追手門学院大学　5号館　5301教室)		
キーワードで読み解く大学改革の針路～「学生FD」	–	2015年	Between（4－5月号）(進研アド編集部)		
衣服の百科事典（　担当）	–	2015年	(丸善出版株式会社)		
基盤教育機構の教育研究に関する取り組み全般とその進捗について	–	2015年 3月	2014年度　追手門学院大学ＦＤ活動年報(追手門学院大学) １(１)		
学生FDと大学マネジメント～追手門学院大学の学生FD活動紹介	–	2015年 3月	第20回FDフォーラム（第３分科会）(同志社以学　今出川校地)	岸岡奈津子	
大人数授業での試行錯誤～追手門学院大学の場合	–	2015年11月	法政大学第10回FDフォーラム「大人数授業での工夫」(法政大学　外濠校舎4階S407教室)		
学生ＦＤを支援する教職員の動機と期待に関する考察	–	2016年 3月	第22回大学教育研究フォーラム(吉田キャンパス　吉田南構内　総合館北棟)	木野茂	
追手門学院の高大接続の試み～追手門型APシステムについて	–	2016年 3月	第22回大学教育研究フォーラム(京都大学吉田キャンパス　吉田南構内　総合館北棟)	山本直子、森岡正樹	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2008年～現在に至る	初年次教育学会(国内学会)会員
2010年～現在に至る	大学教育学会(国内学会)会員
2004年～現在に至る	日本繊維製品消費科学会(国内学会)会員
2013年 4月～現在に至る	日本繊維製品消費科学会(国内学会)査読委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
基盤教育機構	特任助教	大串　恵太	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
企業・自治体などと連携した教育プログラム開発	2013年 4月 ～現在に至る	企業・自治体などと連携した、PBLや実践型インターンシップなどのプログラムコーディネートをおこなっている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
	なし

V　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無　（有）
基盤教育機構	教授	加村　　隆英	

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
九州大学大学院比較社会文化学府に提出された博士論文の審査員（副査）を担当した.	2015年 4月 1日 ～2015年12月25日	博士（理学）の学位申請論文（分野：動物分類学）の審査に関して副査を務めた. 公聴会（2015年12月25日）に出席した.
本学の「プロジェクト成果報告会」（春学期末，秋学期末）の審査員を務めた.	2015年 4月 1日 ～2016年 3月31日	本学の授業科目である「プロジェクト」の学期末の成果報告会（開催日：春学期末2015年7月22日，秋学期末2016年1月21日）で審査員を務めた.

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
日本産土壌動物（第２版）	共著	2015年 2月	（東海大学出版部）	青木淳一，小野展嗣，西川喜朗，他	731-870頁
論文					
日本産ワシグモ科（クモ目）の1新記録種	単著	2014年 3月	追手門学院大学基盤教育論集 (1)		61-64頁
その他					
日本産ワシグモ科研究の概要	-	2012年 8月	日本蜘蛛学会第44会大会 (山形県　山形市保健センター)		
愛媛県内子町などで採集されたクモ類	-	2013年 6月	しこくこげら(山本森林生物研究所) (12)	山本栄治	24-31頁
書評：Bradley, B. A. 2013. Common Spiders of North America. University of California Press.	-	2013年12月	Acta Arachnologica 62(1)		62-62頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1978年～現在に至る	日本蜘蛛学会(国内学会)会員
1987年～現在に至る	日本動物分類学会(国内学会)会員
1989年～現在に至る	日本生物地理学会(国内学会)会員
1991年～現在に至る	日本土壌動物学会(国内学会)会員
2009年 4月～2015年 3月	日本蜘蛛学会(国内学会)評議員
2011年 8月～2014年 3月	京都府レッドデータリスト再検討委員会（昆虫・クモ部会）委員
2012年 4月～現在に至る	日本蜘蛛学会(国内学会)編集委員長
2013年 8月	豊中市主催のサイエンスカフェで講師を務める
2013年 9月	NHK 「ぐるっと関西おひるまえ」に出演（セアカゴケグモに関する話題を提供）
2014年 7月	環境省中国四国地方環境事務所主催の講演会でセアカゴケグモについて講演
2014年 9月	京都YMCA主催の自然観察会で講師を務める
2015年 5月	池田市立五月山児童文化センター主催の自然観察会で講師を務める

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 基盤教育機構	職名 講師	氏名 岸岡　奈津子	大学院における研究指導 担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
UNGLのアングルvol.1　~「振り返り」手法編~	2015年 3月20日 ～現在に至る	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
教育効果の実証	共著	2013年 7月	日本評論社	平尾智隆、 梅崎修、 松繁寿和 編著 （第8章担当大竹奈津子・平尾智隆）	pp. 149－157.
論文					
「SDプログラムの効果的な開発手法に関する考察～実践と理論の融合に向けた教職協働による取り組み～」	共著	2011年 5月	大学教育学会誌 33(1)	大竹奈津子，秦敬治	pp. 153-161
「授業コンサルテーションの現状と可能性」	共著	2011年11月	大学教育学会誌第33号第2号 33(2)	佐藤浩章,城間祥子，大竹奈津子, 香川順子，安野舞子，倉茂好匡	pp. 50－pp. 53
「初年次教育が教育目標の達成に与える影響」	共著	2012年 3月	大学評価研究(大学基準協会) (11)	大竹奈津子、平尾智隆	pp. 93-99.
「大学・短大・高専教員の研修ニーズとFDの課題」	共著	2013年 3月	大学教育研究ジャーナル (徳島大学) (10)	城間祥子、大竹奈津子、佐藤浩章、 山田剛史、吉田博、俣野秀典	pp. 67-79.
その他					
「学習環境が学生の学習に与える影響～図書館，学習支援室，自主学習スペースの比較から～」	-	2011年 6月	大学教育学会 第33回(桜美林大学)		
「授業コンサルテーションの現状と可能性」	-	2011年 6月	大学教育学会 第33回(桜美林大学)		
「研究・教育の場としての大学研究室に関する分析枠組みの開発」	-	2011年 6月	大学教育学会 第33回(桜美林大学)		
「研究室における教育機会の分類」	-	2011年 6月	大学教育学会 第33回(桜美林大学)		
「ネットワークを持続的に機能させるための教職員能力開発について」	-	2011年 9月	第7回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム(大阪府立大学)		
「教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）における教職協働の事例紹介」	-	2011年 9月	大学行政管理学会第15回 (金城大学)		
「四国地区大学教職員能力開発ネットワークによる大学の教育力向上」	-	2012年 3月	ＦＤ／ＳＤコンソーシアム名古屋主催大学教育改革フォーラム in 東海 2011(名古屋大学高等教育開発センター)		
「大学・高専教員のFD研修ニーズに関する研究」	-	2012年 3月	第18回大学教育研究フォーラム(京都大学)		
「ポストＧＰ時代の大学間連携事業のマネジメント」	-	2012年 6月	大学教育学会第34回(北海道大学)		

「修士論文作成過程での学びに関する大学院生の自己評価」	-	2012年 6月	大学教育学会第34回(北海道大学)		
「大学院生が学習支援を通して得られる教育的効果」	-	2012年 6月	大学教育学会第34回(北海道大学)		
「愛媛大学における授業コンサルテーションの取組～学生のコメント分析による一考察～」	-	2012年 6月	第59回中国・四国地区大学教育研(鳴門教育大学)		
「スタッフ・ポートフォリオ導入における現状と課題」	-	2012年 9月	大学行政管理学会 第16回(芝浦工業大学)		
「愛媛大学の学習支援の取り組み～先輩から学ぶ大学院生による学習支援～」	-	2012年12月	IDE現代の高等教育 546		
「大学間連携 SD を活用した次世代リーダー養成システム～SPOD－SD の事例から～」	-	2013年 9月	大学行政管理学会 第17回(東京電機大学)		
「愛媛大学におけるスタッフ・ポートフォリオ導入における現状と課題」	-	2013年 9月	大学行政管理学会 第17回(東京電機大学)		
「理工系分野における研究室教育の形態と汎用的能力との関連」	-	2014年 3月	第20回大学教育研究フォーラム(京都大学高等教育開発センター)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2007年～現在に至る	水文・水資源学会(国内学会)会員
2009年～現在に至る	大学教育学会(国内学会)会員
2010年～現在に至る	大学行政管理学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
基盤教育機構	教授	齊藤　一誠	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
ブランド創生の意義と大学の広報活動	単著	2014年 3月	大学時報（355号）（日本私立大学連盟）		56-61頁
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2009年 7月 1日～現在に至る	東京都立図書館協議会 委員
2012年 7月	明治学院大学のブランディング活動
2012年12月	「大学の戦略広報再論～企業の広報と大学の広報のここが同じ、ここが違う～」
2012年12月	大学ブランディングによる広報活動の活性化
2012年12月	大学広報戦略、プロの手で－外部の経験者、積極活用
2015年 2月	ブランド創生の意義と大学の広報活動

V　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
基盤教育機構	教授	水藤　　龍彦	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
大学における新たな飲酒教育の試み	共著	2015年 2月	追手門学院大学基盤教育論集（2）	朝倉康仁	1-8頁
学部共通科目のマネジメントについての一考察	共著	2016年 3月	追手門学院一貫連携教育研究所紀要(追手門学院一貫連携教育研究所)(2)	樋口勝一、武田裕紀、村上亨、田上政範、梅村修	80-81頁
その他					
〔翻訳〕ムージル伝記２	-	2012年12月	(法政大学出版局)	◎早坂七緒、北島玲子、赤司英一郎、高橋完治、渡辺幸子、満留伸一郎	1007 - 1096頁、1299-1362頁
〔翻訳〕乾山―日本陶芸の歴史のために（上）	-	2016年 2月	基盤教育論集(追手門学院大学基盤教育機構)(3)		79-100頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1979年～現在に至る	日本独文学会(国内学会)会員
1991年～現在に至る	オーストリア文学研究会(国内研究会)会員
2006年～現在に至る	ジャポニスム学会(国内学会)会員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
基盤教育機構	准教授	田上　正範	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
双方向・参加型協働学習	2014年 4月 1日 ～現在に至る	双方向・参加型の協働学習を図り、マルチメディアの中で育った学生の関心を促す、テレビドラマ等（DVD）を活用した教材開発を行うとともに、受講者同士で学び合う学習環境づくりを実践している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
交渉学入門	2013年10月23日 ～現在に至る	「理系のための交渉学入門」東京大学出版会を共著で出版し、「表現コミュニケーション（交渉学入門）」で使用
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
学生ＦＤサミット2015夏	2015年 9月 2日	主催となる学生団体（学生ＦＤパレット）及び協力学生スタッフに対し、教育開発機構と連携して助言・指導を行い、当日全国から500名弱の来場者を受け入れた。
学生ＦＤのＷＡ	2015年12月12日	主催の学生団体（学生ＦＤパレット）に対し、運営の助言とともに、監修として学生講師の指導を行った。
入学前教育	2016年 2月25日	学生スタッフ（約60名）の統括リーダーおよび各リーダーに対し、教育開発機構と連携して、企画及び運営の助言・指導を行った。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
理系のための交渉学入門	共著	2013年10月	（東京大学出版会）	一色正彦, 田上正範, 佐藤裕一	（全章について、話し合いながら作成したため、著者別の該当頁はありません）
論文					
学び続ける姿勢を育む教育実践　ーコミュニケーション演習を通じてー	単著	2013年 3月	追手門学院大学教育研究 所紀要　第31号		49-54頁
交渉学(アドバンストコミュニケーション)のカリキュラム開発および教育モデルの提案（査読付）	共著	2013年 8月	情報科学技術フォーラム 講演論文集(電子情報通信学会) 12(3)	田上正範, 山本敏幸	401-402頁
生涯学び続けるゼミナールの実現に向けて -交渉学コミュニティの可能性-	単著	2014年 3月	追手門学院大学教育研究 所紀要　第32号		199-206頁
交渉学教育の定性的評価を関連づける定量指標の一考察（査読付）	共著	2015年 3月	関西大学高等教育研究 (関西大学教育開発支援センター) (6)	田上正範、一色正彦	101-103頁
大学教育における実務家と関わり方に関する一考察	単著	2015年 3月	一貫連携教育研究所紀要第１号(追手門学院 一貫連携教育研究所)(1)		149-154頁
学生-社会人ギャップを乗り越える育成モデルの研究開発	単著	2016年 2月	基盤教育論集(追手門学 院大学基盤教育機構) (3)		19-30頁
学生講師によるワークショップの試み　ー真の主体性を求めてー	単著	2016年 3月	一貫連携教育研究所紀要第２号(追手門学院 一貫連携教育研究所) (2)		93-99頁
学部共通科目のマネジメントについての一考察	共著	2016年 3月	一貫連携教育研究所紀要第２号(追手門学院 一貫連携教育研究所) (2)	樋口勝一，水藤龍彦，武田裕紀 ，村上亨，田上正範，梅村修	77-91頁
その他					

アカデミックスキルとしての交渉学-学部生に必要な実務教育の提言-	-	2011年12月	第4回大会日本説得交渉 学会(構造計画研究所)	山本敏幸, 田上正範	
交渉学の学習効果を可視化する分析報告	-	2011年12月	第4回大会日本説得交渉 学会(構造計画研究所)	田上正範, 田村次朗, 隅田浩司, 山 本敏幸, 一色正彦	
交渉学学習の学生と社会人の違いに関する一考察	-	2011年12月	第4回大会日本説得交渉 学会(構造計画研究所)	佐藤裕一, 一色正彦, 田上正範	
交渉学教育の最前線報告-Advanced Programの実践-	-	2011年12月	第4回大会日本説得交渉 学会(構造計画研究所)	一色正彦, 田上正範	
コミュニケーションスキルを育成する実践的なカリキュラム開発	-	2012年 9月	平成24年度 教育改革ICT 戦略大会(私学会館)	田上正範, 山本敏幸	
「交渉学研究」を活用して、知財実務のパフォーマンスを上げる方法論	-	2013年 1月	特許実用新案部会／医薬バイオ特許研究班／外国特許実務研究班 合同 （冬休み特別企画）（日本弁理士会近畿支部）		
ビデオを活用したe-ラーニングで補講授業を行う試案	-	2013年 3月	大学eラーニング協議会総会・フォーラム2012(関西大学)	田上正範, 山本敏幸	
コミュニケーションスキルを育成する実践的なカリキュラム開発	-	2013年 8月	平成25年度 ICT利用による教育改善研究発表会(東京理科大学)	田上正範, 山本敏幸	
交渉学（アドバンストコミュニケーション）のカリキュラム開発および教育モデルの提案	-	2013年 9月	第12回情報科学技術フォーラム(鳥取大学)	田上正範, 山本敏幸	
交渉学を体験する	-	2013年10月	第11回企業心理と消費者心理研究会公開講座(神戸国際大学)		
ジェネリックスキルを培う新しいアクティブ・ラーニング	-	2014年 9月	第11回関西大学FDフォーラム(関西大学)		
交渉学を利用した学生ー社会人ギャップをうめるコミュニケーション力の育成モデル構築	-	2014年 9月	平成26年度 教育改革ICT戦略大会(アルカディア市ケ谷（東京私学会館）)	田上正範、山本敏幸	
復興とリーダーシップに関する研究（交渉学）	-	2014年11月	G-SEC Square2014(慶應義塾大学)	田村次朗、山本敏幸、一色正彦 、隅田浩司、高槻亮輔、田中康 之、三好陽介、佐藤裕一、田上 正範	
交渉学の基礎	-	2015年 2月	NIPA平成27年2月度例会(神戸市産業振興センター)		
交渉学のFuture Design -交渉学を身体化する-	-	2015年 6月	第13回関西大学FDフォーラム(関西大学)		
交渉学を利用した学生-社会人ギャップをうめるコミュニケーション力の育成モデル構築	-	2015年 8月	平成27年度 ICT利用による教育改善研究発表会(東京理科大学)	田上正範、山本敏幸	

ロジカルシンキング	-	2015年12月	学生FDのWA!!!!!!! 2015(追手門学院大学)		
新規ビジネスの成功確率を上げる「交渉学」セミナー	-	2015年12月	VHP「交渉学こみゅ」 (富士ゼロックス福岡㈱)		
交渉学学生リーダーのための研修・ワークショップ	-	2016年 2月	第4回交渉学ワークショップ(関西大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
	なし

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
基盤教育機構	教授	武田　　裕紀	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
合理性の考古学	共著	2012年12月	(東京大学出版会)	編者：金森修、著者：武田裕紀、重田園江、三宅岳史ほか	13-92頁（該当部分を単著）
デカルトの数論	共著	2014年 2月	デカルト全書簡集　第二巻(知泉書館)	編：武田裕紀、小泉義之	362－374頁（該当部分を単著）
デカルト全書簡集 第二巻	共著	2014年 2月	(知泉書館)	編・訳者：武田裕紀、小泉義之､訳者：東慎一郎ほか	105-124，142-148，189-202，213-218，241-267，272-289，293-333，339-356（該当部分を単著）
デカルト全書簡集　第三巻	共著	2015年 2月	(知泉書館)	編・訳者：武田裕紀、香川知晶、訳者：山上浩嗣、三浦伸夫ほか	9-23，34-59，62-78，83-103，106-136，140-146，166-173，176-186，197-199，202-210，229-237，240-242，253-263，266-271，303-314，（該当部分を単著）
論文					
デカルトの数論	単著	2013年 2月	追手門学院大学国際教養学部紀要(追手門学院大学) （６）		27-40頁
エティエンヌ・パスカルから見えるデカルト像 ――1638年のパリ――	単著	2014年 2月	基盤教育論集(追手門学院大学)(1)		15-24頁
Les objets les plus simples dans la démonstration de l'optique	単著	2015年 2月	基盤教育論集(追手門学院大学) （２）		17-24頁
西洋近代合理性の出現におけるハルモニアの位置（本訳と注釈）	単著	2015年 2月	基盤教育論集(追手門学院大学) （２）		45-58頁
その他　（主な発表・講演）					
アリストテレス主義者デカルト？	-	2012年12月	日本科学史学会西日本研究大会(追手門学院大学梅田サテライト)		
デカルトの数論――友愛数と倍積完全数	-	2013年 3月	大阪大学フランス語フランス文学会第72回研究会(大阪)		
デカルトの光学を構成するもの	-	2014年 3月	京都哲学史研究会(京都大学)		
Les objets les plus simples dans la démonstration de l'optique	-	2014年10月	Descartes et ses contemporains(大阪国際会議場)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1994年11月～現在に至る	日本フランス語フランス文学会(国内学会)会員
2001年 4月～現在に至る	日本科学史学会(国内学会)会員
2003年～現在に至る	日仏哲学会(国内学会)会員
2007年～現在に至る	Centre international Blaise Pascal(国際学会)会員
2009年 4月～2013年 4月	日本フランス語フランス文学会(国内学会)編集委員
2012年 6月～2014年 5月	日本フランス語フランス文学会(国内学会)関西支部実行委員会

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
基盤教育機構	講師	巽　樹理	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
教育開発奨励制度　採択	2016年 5月 ～現在に至る	よくできる大学生として、勉学と運動のバランスのとれた学生生活習慣を身に着ける運動プログラムを開発する。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
マスターズシンクロナイズドスイミングの課題と可能性に関する一考察（査読付）	共著	2014年 2月	(大阪体育大学紀要) ４５	藤本淳也	８７-１０２頁
マスターズシンクロの実施者の実施・継続要因に関する研究（査読付）	共著	2015年 3月	(大阪体育大学　紀要) ４６	藤本淳也	２１７頁
スポーツコースに所属する高校生の学校・競技生活に関する現状と課題：Jユース選手と他競技選手の比較分析	共著	2016年 3月	追手門学院大学　スポーツ研究センター紀要　第１号	松井健	１－１３頁
その他					
トップアスリートによるスポーツ振興「好循環」推進システム	–	2013年 1月	(京都)		
「女子アスリートの力」現状と課題	–	2013年 8月	(長野県：立科)		
マスターズシンクロクラブの現状と課題　～Aクラブの事例を用いて～	–	2013年10月	(東京（筑波大学　東京キャンパス）)	藤本　淳也	
マスターズシンクロ実施者の特性に関する研究	–	2014年10月	(大阪)	藤本淳也	
なでしこリーグ所属チームのチームブランドに関する研究	–	2014年12月	(日本スポーツマネジメント学会)		
高齢者健康活動からの提言	–	2016年 3月			

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2009年～2015年	大阪市子ども体力支援委員会 副座長
2011年～現在に至る	大阪市夢授業講師
2012年 9月～現在に至る	マスターズ（中高齢者）シンクロナイズドスイミングヘッドコーチ
2013年	2020オリンピック・パラリンピック組織委員会
2013年 4月～現在に至る	一般社団法人アスリートネットワーク 理事
2013年 8月～現在に至る	スポーツマネジメント学会(国内学会)会員
2014年 9月～現在に至る	日本生涯スポーツ学会(国内学会)会員
2015年～現在に至る	2021関西ワールドマスターズゲームズ組織委員会 スペシャルアドバイザー
2015年	日本体力医学学会(国内学会)会員
2015年 7月～2015年 9月	大阪市夢授業　講師（大阪市内4校）
2015年10月	フジテレビ「ひろいき村」出演
2015年10月	体育の日（アスリートイベント）ゲスト
2015年11月	高知工科大学　マネジメント学部　講義
2016年 3月	健康なまちづくりシンポジウム

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無
基盤教育機構	教授	辰本　　頼弘	（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
講義では、学生の興味関心のある内容を探り講義することを心がけている。また教材使用のプリントも簡潔にまとめ学生が使いやすいように工夫をしている。実技では、学生が楽しめかつ技能が向上できるよう基礎から応用まで、各人のレベルで実践できるよう心がけている。	2011年 ～現在に至る	幼児から高齢者、障がい者まで人生のライフスタイルに合わせての発育・発達、健康の保持・増進について講義を展開している。また、運動やスポーツにおける身体変化や心理変化、食事摂取の方法等、なぜ大学生の現在に身体活動をしなければいけないかを展開している。実技では、技術習得が出来てこそ、ゲームの楽しさも生まれることから、技能段階を追いながらの実践指導に心がけている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
スポーツ場面での縁起かつぎに関する調査研究	共著	2014年 3月	大阪芸術大学短期大学部紀要(大阪芸術大学短期大学部) (第38号)	◎濱田　重雄　、辰本　頼弘	23-33頁
特別養護老人ホームでの運動プログラム実施における研究(第2報)-ゲームプログラムの評価-	単著	2014年 3月	追手門学大学社会学部紀要(追手門学大学社会学部) (第8号)		33-42頁
大学生のスポーツ実施における意識調査	共著	2016年 3月	追手門学院大学スポーツ研究センター紀要　第1号(追手門学院 大学スポーツ研究センター)	◎辰本　頼弘、宇惠　弘、坂崎貴彦	15-22頁
特別養護老人ホームでの運動プログラム実施における研究(第3報)-ゲームプログラム中の笑い-	単著	2016年 3月	追手門学院大学社会学部紀要　第10号(追手門学院大学社会学部)		
その他					
あなたの体力は大丈夫~運動・スポーツとどう関わるか~	-	2012年11月			
高齢者運動プログラム	-	2012年11月			
大学生の運動経験と特性的自己効力感との関連	-	2014年 8月	日本応用心理学会　第81回大会(中京大学)	宇恵　弘	
幼少期の運動の大切さ~お子様の運動をどう考えるか~	-	2014年10月			
大学入学以前の運動経験と特性的自己効力感との関係	-	2015年 9月	日本応用心理学会第82回大会(東京未来大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1986年 4月～現在に至る	日本体力医学会(国内学会)会員
1986年 4月～現在に至る	日本体育学会(国内学会)会員
1986年 4月～現在に至る	日本教育医学会(国内学会)会員
2007年 4月～現在に至る	日本安全教育学会(国内学会)会員
2013年 8月～現在に至る	日本教育医学会(国内学会)評議委員
2015年 6月～現在に至る	茨木警察署協議会 委員

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
基盤教育機構	准教授	千葉　　英史	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
体育実技での工夫点①	2011年 4月 1日 ～現在に至る	最近の学生は人の話や説明を聞かない者が多いと捉えている。 体育実技の中では、単にスポーツ種目を実践するだけでなく、コミュニケーションワークやグループワークを取り入れるように心掛ける。
体育実技での工夫点②	2016年 4月 1日 ～現在に至る	体育実技において、執行部の方から授業開始時に専門種目の実践前に基礎体力向上のプラグラムを導入せよ。という、指示に従い、私は体幹部分のトレーニングに重点を置いて、腹筋群の筋力トレーニングと股関節・大腿部周辺のストレッチを主としてのトレーニングメニューを取り入れました。 私が担当するクラス独自で体力テスト「上体おこし」と「長座体前屈」の２種目を学期15回の授業計画の中で定期的に数回分けて実施する計画を立てた。
2　作成した教科書、教材、参考書		
教材資料	2003年 4月 1日 ～現在に至る	講義内容を　ＭＳ　ＰｗｅｒＰｏｉｎｔ　を利用し資料を作成。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
スポーツ研究センター主催セミナー（7/2）、（10/1）、（10/13）、（12/10）、（1/19）	2015年 4月 1日 ～2016年 3月31日	「スポーツで元気になる、強くなる」をメインテーマにして5回のセミナーをスポーツ研究センター所員として参加。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
デフラグビーに関する活動調査（3）	単著	2014年 2月	基盤教育論集(追手門学院大学基盤教育機構)(第１号)		25-59頁
追手門学院大学トレーニングセンター（追fit）が果たす役割ースポーツ外傷・障害の処置におけるケアルームの有用性と利用の実際ー	共著	2016年 3月	(追手門学院大学スポーツ研究センター紀要（第1号）)	田中淳也	23-29頁
その他					
追手門学院大学アワー	-	2012年 7月	(京都市)		
スポーツと人間の成長	-	2012年11月	公開講座(茨木ローズＷＡＭホール)		
トレーニングセンター（追fit）の利用頻度について	-	2015年 3月	(追手門学院大学スポーツ研究センターYear-end report)(１)	田中淳也	17-19頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1988年 4月～現在に至る	日本体育学会(国内学会)会員
1988年 4月～現在に至る	関西ラグビーフットボール協会（大学委員会委員）
2003年 4月～現在に至る	身体運動文化学会(国内学会)会員
2005年 4月～現在に至る	日本聴覚障がい者ラグビーフットボール連盟（強化委員）
2007年 4月～現在に至る	日本ラグビー学会(国内学会)会員
2007年 4月～現在に至る	日本ラグビー学会(国内学会)実行委員
2013年 4月～現在に至る	関西ラグビーフットボール協会（コーチ委員会委員）
2013年 4月～現在に至る	関西ラグビーフットボール協会（女子委員会委員）

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
基盤教育機構	教授	豊島　眞介	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2015年４月～現在に至る	教養ゼミ「新しい大阪観光を企画する」、プロジェクト授業「記者入門プロジェクト」、「日本語表現」のいずれでも、旅行会社幹部、会社社長、デザイン事務所長らのミニ講演を実施して、刺激を与えた。16年度の「日本語表現」では「読む」「書く」「聞く」「話す」の4大機能を伸ばすため、暗誦、記事要約を毎回させている。
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
2015年 9月～2015年10月	茨木市産業振興アクションプラン改定に係るワークショップ

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
基盤教育機構	教授	秦　敬治	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
クリティカルな関係を構築するためのアクティブラーニング	2007年 4月 ～現在に至る	学生が仲間のためを思い、また、自らの成長のために物怖じすることなく、何でも話せる関係を構築できようにアイスブレイクを導入したり、傾聴力養成を行ったり、ファシリテーションスキルを修得する授業を取り入れている。また、席の場所やグループメンバーを頻繁に変えることで教室内の誰とでも対話やワークをできる環境を整えている。
毎回の振り返りレポートを授業の最後に記入	2007年 4月 ～現在に至る	授業の最後10分間で400字～800字のレポートを必ず手書きで書かせることを徹底している。これにより、その日の授業を落とし込むことと、文字で自分の考えを伝える力、短い時間でまとめて書く力などをつけさせるとともに、次回の授業冒頭で、学生の疑問に答えるなどの復習ツールとしても活用している。
チームティーチングの導入	2007年 5月 ～現在に至る	基本的に担当する全ての教育プログラムにおいて、同僚教員とのチームティーチングを行うことで、多面的、多角的、多手法の教育を行うことや教員同士の振り返りを行うことで授業改善ができるよう工夫している。
ビデオ映像の活用	2007年 5月 ～現在に至る	学生の成長確認や振り返りに活用するために、教育活動の多くの場面でビデオ撮影を行い、映像を使った振り返りを行っている。
リーダーズ読本の出版	2007年 5月 ～現在に至る	リーダーシップ個人セミナーを実施した学生にリーダーズ読本にするための原稿を書かせ、それを１年分まとめて製本し、全国の大学等に配布している。
ルーブリック評価シートの作成・導入	2007年 5月 ～現在に至る	授業におけるプロジェクト活動やプレゼンテーション、および学生によるリーダーシップ個人セミナー等の評価のためのルーブリック評価シートを考案し、活用している。
効果的な振り返り手法開発と実践	2007年 5月 ～現在に至る	教職員、学生同士、学生自身の3段階で行える振り返り手法を活用しており、勤務大学だけではなく、西日本の15大学の教職員を対象に手法を開放・指導し、学会などでも発表して広めている。また、FD研修講師としてもその手法を広げているとともに、成果についての測定も行っている。
学生によるリーダーシップ個人セミナーの実施	2007年 5月 ～現在に至る	学生自身が身に付けたいリーダーシップの素養が身に付くセミナーを受講学生自身が講師となって他の学生に実施する取り組みを行っている。
授業内容や進捗に応じた民間人や他大学の講師、留学生の活用	2007年 5月 ～現在に至る	必要に応じて、企業経営者、卒業生、若手社員、行政の首長、スポーツ選手、留学生、他大学生等を授業に交えることで教室の中で異文化交流、グローバル化が図れるように工夫している。
自分史の導入	2007年 5月 ～現在に至る	学生が自己の成長を図るには自らを知る必要がある。そのため、授業のはじめに自分史を書かせ、メンバー内で共有させている。
音楽を使った授業	2008年 4月 ～現在に至る	その授業で伝えたい場面を歌っている音楽と歌詞カードを使い、その場面を想定させることで学生同士のディスカッションを活発にできるようにしている。
PBLの導入	2009年 4月 ～現在に至る	大学院の授業においてはプロジェクトをチーム及び個人で企画させ、実際にその企画をもとに立案、プレゼン、模擬作業などを行い、実践に沿った形で進めている。
クリッカーの活用	2010年 4月 ～現在に至る	学生の動機づけや全員で授業参加する意識、客観的に視覚で情報を感じ取ることができるようにクリッカーを活用している。
ポートフォリオの作成と学生同士のメンタリングの導入	2010年 4月 ～現在に至る	自分がなぜ大学で学ぶのか、これからどのようになりたいのか、そのためにどのような能力を有し、不足しているのかを学生自身が気づくためにポートフォリオを導入している。その際に、学生同士でメンタリングができるようにメンタリング実践のトレーニングも行っている。
クラスルームコントロール術の活用	2011年 4月 ～現在に至る	効果的な学び、主体的な学び、積極的な学び、規律重んじるクラス運営ができるためのクラスルームコントロール術を確立し、自身の授業で活用するとともに、FDにより学内外の教員にセミナーを行っている。
ポートフォリオ・ミニワークショップ教材の開発	2011年 4月	ポートフォリオ作成のためのメンタリング手法やポートフォリオ作成手法の修得のツールとして、「ポートフォリオ・ミニワークショップ」の教材を作成した。
SPトランプの活用	2012年10月 ～現在に至る	SP（サブ・パーソナリティ）トランプを導入し、自己分析、他者分析を行うことで、学生自身の成長と教室内、グループ内の活性化を行っている。
振り返り手法を修得するためのDVD教材制作	2013年10月	【教育方法の実践例】クリティカルな関係を構築するためのアクティブラーニングで説明した効果的な振り返りを行うためのノウハウをまとめたDVDを作成し、誰でも振り返りを行えるように配慮している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
PPT資料作成	2007年 4月 ～現在に至る	全ての授業において、PPT資料を作成し、学生に配布している。内容は、先行研究や言葉の定義をまとめたもの、データ等資料等である。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
「大学職員の専門性と人事異動に関する考察」	単著	2013年 3月	『大学職員論叢』第1号(公益財団法人大学基準協会)		25-33頁
「FDの実践と課題―愛媛大学の事例に基づいて―」	単著	2014年 4月	現代の高等教育No.559 4月号(IDE)		36-41頁
「次世代リーダー養成ゼミナールによる大学経営人材の養成－四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）の取組み－」	単著	2014年 7月	現代の高等教育No.562 7月号(IDE)		
大学生を対象とした防災教育の試みと検証－ビジネスリーダーコースの研修を通じて－	共著	2015年10月	九州国際大学経営経済論集(九州国際大学経済学会) 22(1)	◎村岡治道、鈴木理恵、秦敬治、小江茂徳、宇都宮浩司、山内一祥、淺田隼平	1-21頁
大学職員の専門性と人材育成に関する視座	単著	2016年 3月	大学職員論叢(公益財団法人大学基準協会) (4)		5-12頁
組織文化に基づく大学職員試論（査読付）	共著	2016年 3月	大学職員論叢(公益財団法人大学基準協会) (4)	◎各務正、山本淳司、秦敬治、山﨑その	59-68頁
その他					
「大学間連携による継続的学生リーダーシップ育成に関する取組」	－	2012年 9月	大学行政管理学会2012年度研究集会(芝浦工業大学)	岸岡洋介、泉谷道子、秦敬治、阿濱志保里	
「教職員能力開発拠点の取組－SDC（SD・コーディネーター）の養成（事例報告）－」	－	2012年 9月	大学行政管理学会2012年度研究集会(芝浦工業大学)	秦敬治、米澤愼二	
「職員は適正に機能して大学運営・経営に適切に貢献しているだろうか？」	－	2012年 9月	大学行政管理学会2012年度研究集会(芝浦工業大学)	各務正、秦敬治、山﨑その、山本淳司	
「資格課程カリキュラム・マネジメントにおける大学人の構成と機能」	－	2012年11月	2012 年度課題研究集会(くびにきメッセ)		
「学生リーダーシップに関する評価指標策定に関する考察」	－	2013年 6月	大学教育学会第35回大会(東北大学)	秦敬治、山崎その、鈴木理絵、泉谷道子、津曲陽子、林真輝、山内一祥、岸岡洋介、仲道雅輝	
「学生リーダーシップ養成における学びのサイクルに関する考察」	－	2013年 6月	大学教育学会第35回大会(東北大学)	泉谷道子、山内一祥、林真輝、鈴木理絵、仲道雅輝、津曲陽子、岸岡洋介、秦敬治	
「大学間連携SDを活用した次世代リーダー養成システム～SPOD－SDの事例から～」	－	2013年 9月	大学行政管理学会2013年度研究集会(東京電気大学)	秦敬治、阿部光伸、大竹奈津子、仲道雅輝、米澤愼二、石原卓也	
「愛媛大学におけるスタッフ・ポートフォリオ導入における現状と課題」	－	2013年 9月	大学行政管理学会2013年度研究集会(東京電気大学)	阿部光伸、大竹奈津子、吉田一惠、砂田寛雅、秦敬治、仲道雅輝、米澤愼二	
「本学会会員に行った職務活動に関するアンケート調査結果報告」	－	2013年 9月	大学行政管理学会2013年度研究集会(東京電気大学)	各務正、秦敬治、山﨑その、山本淳司	
「教職協働によるカリキュラム・マネジメントの諸形態と大学人の役割」	－	2013年12月	2013 年度課題研究集会(同志社大学)		
「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップのための基準」	－	2014年 3月	第20回大学教育研究フォーラム(京都大学)	栗田佳代子、尾澤重知、北野健一、榊原暢久、秦敬治、竹元仁美、松本高志、皆本晃弥	
カリキュラム・アセスメントの試み－愛媛大学の事例から－	－	2014年 6月	大学教育学会第36回大会(名古屋大学)	清水栄子、秦敬治	
学生・教職員の学びを促進するリーダーシップ教育を通じた「能力開発手法」に関する考察	－	2014年 6月	大学教育学会第36回大会(名古屋大学)	岸岡 洋介、山中亮、林真輝、村田晋也、松岡陽子、泉谷道子、鈴木理絵、奥村恵美子、山内一祥、秦敬治	
SDC研修会＠追手門学院大学	－	2014年 9月			

SDC養成講座～その実践と検証～	–	2014年 9月	大学行政管理学会2014年度研究集会(東北学院大学)	清水栄子、仲道雅輝、吉田一恵、秦敬治、米澤愼二	
人生のドラマ化～自分、組織、意識、育成～	–	2014年 9月	志秦塾：2014年9月例会		
国公私立大学の学長・理事長アンケート調査の結果報告とその検討	–	2014年 9月	大学行政管理学会2014年度研究集会(東北学院大学)	各務正、秦敬治、山﨑その、山本淳司、清水栄子	
FDセミナー：クラスルームコントール	–	2014年10月			
ドラッガーのマネジメント_第1回	–	2014年10月	志秦塾：2014年10月例会		
個別の授業から組織的FDへ	–	2014年10月			
SDとはなにか。なぜ大学職員にはSDが必要なのか。SDへの取組の効果(有効性)をどのように評価するか。	–	2014年11月	日本赤十字秋田看護大学		
ドラッガーのマネジメント_第2回	–	2014年11月	志秦塾：2014年11月例会		
ワールド・アライアンス・フォーラム	–	2014年11月	追手門学院大学(追手門学院大学)		
人生をファシリテーションしよう_第1回	–	2014年11月	愛媛県男女共同参画センター		
次世代リーダー養成ゼミナール（2014年第3回）	–	2014年11月	愛媛大学		
次世代リーダー養成ゼミナール（2014年第3回）	–	2014年11月	愛媛大学		
3つのポリシー作成WS	–	2014年12月	広島工業大学		
ドラッガーのマネジメント_第3回	–	2014年12月	志秦塾：2014年12月例会		
人生をファシリテーションしよう_第2回	–	2014年12月	愛媛県男女共同参画センター		
社会人として輝くために～社会人基礎力グランプリ　関西地区予選　パネルディスカッション～	–	2014年12月	社会人基礎力グランプリ　関西地区予選2014		
ドラッガーのマネジメント_第4回	–	2015年 1月	志秦塾：2015年1月例会		
職員のキャリアを育成するメンタリング実践	–	2015年 1月	創価大学		
職員人材育成ビジョンの必要性と策定手法	–	2015年 1月	創価大学		
これまでの大学改革とこれから	–	2015年 2月	追手門学院大学　教育改革シンポジウム2015(追手門学院大学)		
ドラッガーのマネジメント_第5回	–	2015年 2月	志秦塾：2015年2月例会		
大学教学改革を進めるために必要なものとは	–	2015年 3月	大学教育改革フォーラム in 東海2015(名古屋大学)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1996年 4月～現在に至る	ＮＰＯ法人　西南フットボールクラブ　代表理事（現在）
1999年 4月～現在に至る	大学教育学会(国内学会)会員
1999年 4月～現在に至る	日本教育経営学会(国内学会)会員
1999年 4月～現在に至る	日本高等教育学会(国内学会)会員
2000年 4月～現在に至る	九州教育経営学会(国内学会)会員
2003年 4月～現在に至る	大学行政管理学会(国内学会)会員
2009年 3月～現在に至る	大学教育学会(国内学会)理事
2011年 4月～現在に至る	高等教育質保証学会(国内学会)会員
2011年 4月～2014年 3月	高等教育質保証学会(国内学会)評議員
2011年 8月～現在に至る	APSSA（アジア太平洋学生支援協会）(国際学会)会員
2011年 8月～2014年 8月	APSSA（アジア太平洋学生支援協会）(国際学会)エグゼクティブメンバー/副プレジデント
2014年 8月～現在に至る	APSSA（アジア太平洋学生支援協会）(国際学会)エグゼクティブメンバー/プレジデント
2015年 4月 1日～現在に至る	山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）外部評価委員会 委員長

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
基盤教育機構	教授	樋口　勝一	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
共感と思いやりの心理～援助職をめざす人のために	2013年 4月	小学校算数教育の中にある失敗や成功体験について、授業受講学生のアンケートから考察できる内容を記述した。
幼稚園教諭・保育士をめざす人のための初年次リメディアル学習ワーク	2013年 9月 1日	幼稚園教諭・保育士をめざす人に対するリメディアル学習ワークブック．保育現場で使われると考えられる一般常識，日本語，計算，社会，健康の分野の基礎を学習するために作成された．見開き2ページで，左が解説，右が練習問題と授業で使いやすくなっていることが特徴である．（監修，編著）
小学校教諭をめざす学生のための一般教養リメディアルワーク	2014年 4月 1日	小学校教員をめざす人に対するリメディアル学習ワークブック．小学校現場で使われると考えられる一般常識，日本語，計算，社会，健康の分野の基礎を学習するために作成された．見開き2ページで，左が解説，右が練習問題と授業で使いやすくなっていることが特徴である．（監修，編著）
レジリエンスの心理～援助職をめざす人のために	2014年 9月	大学生に対するリメディアル教育が学業不振の回復につながる結果について考察した．
おとなの問題集～理科の基礎おさらいドリル	2015年 2月	大学生など大人が小学校から中学校，高校の基礎的な理科の内容（物理・化学・生物・地学）を復習するためのおさらいドリル．「説明＋例題＋練習問題ドリル」という様式になっている．就職試験，教員採用試験，公務員試験対策にも利用できる．
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
教員採用試験・ＳＰＩ・就職試験対策用　これならわかる大学生のための数学・理科基礎計算ドリル	単著	2012年10月	(晃洋書房)		
共感と思いやりの心理～援助職をめざす人のために	共著	2013年 4月	(開成出版)	◎澤田瑞也、樋口勝一、竹安知枝、岡村祥子	34-38頁
幼稚園教諭・保育士をめざす人のための初年次リメディアル学習ワーク	共著	2013年 9月	(開成出版)	◎樋口勝一、浅井由美、中田尚美、尾崎秀夫、竹安知枝	1-6,19-42頁
小学校教員をめざす人のための初年次リメディアル学習ワーク	共著	2014年 4月		◎樋口勝一、岡本麻里、佐々敬政、江里口大輔、平野真理子、尾崎秀夫、竹安知枝	29-40頁
レジリエンスの心理～援助職をめざす人のために	共著	2014年 9月	(開成出版)	◎澤田瑞也、中植満美子、竹安知枝、樋口勝一	27-34頁
おとなの問題集理科の基礎おさらいドリル	単著	2015年 2月	(ベレ出版)		
論文					
物理授業でのノートの作成とその教育的効果（査読付）	共著	2012年 7月	大学の物理教育(日本物理学会) 18(2)	◎樋口勝一、溝邊和成	80-83頁
Quality assurance for education content and evaluation of mastery of skills by using qualifying examinations in university classes (査読付)	単著	2012年 9月	2012 IIAI International Conference on Advanced Applied Informatics(CPS)		309-313頁
エキゾチックフェルミオンを含む電弱ゲージモデルとUSY機構	共著	2013年 3月	神戸海星女子学院大学 H24年度研究紀要(神戸海星女子学院大学)	◎樋口勝一、山本克治	61-65頁

Introduction of practical cases for systematic management of Liberal Arts education (査読付)	共著	2013年 9月	2013 IIAI International Conerence on Advanced Applied Informatics proceedings(CPS)	◎Katsuichi Higuchi,Mariko Hirano, Isamu Saeki, Toru Murakami	405-406頁
Aspect of fermion mass hierarchy within flavor democracy for Yukawa couplings (査読付)	共著	2014年	Proceedings of the 12th Asia Pacific Physics Conference - JPS Conference Proceedings (2014)(Japan Physical Society)	◎Katsuichi Higuchi, Katsuji Yamamoto	1-5頁
The Evaluation of a Basic Training Textbook on Physics With a Method of Entry and Drill for University Students Majoring in Liberal Arts (査読付)	単著	2014年 2月	Proceedings of The World Conference on Physics Education in 2012(PEGEM AKADEMI)		163-170頁
大学生の資格に対する意識についての考察	共著	2014年 3月	基盤教育論集(追手門学院大学基盤教育機構) (1)	◎樋口勝一、仁平征次	1-14頁
文科系大学生就職支援のための数学教育の必要性	共著	2014年 3月	教育研究所紀要(追手門学院大学教育研究所) (32)	◎樋口勝一、河﨑美保、石田敦英、村上亨	141-150頁
The relation between lepton flavor mixing and their masses in flavor democratic model with E6 inspired vector-like fermions	単著	2015年 2月	Bulletin of Institute of Liberal Arts(Otemon Gakuin University) (3)		9-15頁
大学における共通教育のあり方	共著	2015年 3月	一貫連携教育機構紀要 (1)	◎樋口勝一、梅村修、下川邦康、村上亨	108-119頁
一般教養の物理における古典的スパイラル授業方法	共著	2016年 2月	パリティ(丸善出版) 2016(2)	◎樋口勝一、武田裕紀	68頁
The necessity for management of common subjects and quality assurance for higher education of mastery of skills by using qualifying examinations in university Liberal Arts classes (査読付)	単著	2016年 3月	Information Engineering Express International Jounal(Official Publication of International Institute of Applied Infomatics) 2(1)		1-10頁
The scenario on fermion mass generation in electro-weak model including vector-like fermions within USY hypothesis	単著	2016年 3月	Bulletin of Institute of Liberal Arts(Otemon Gakuin University) (3)		11-18頁
学部共通科目のマネジメントについての一考察	共著	2016年 3月	追手門学院大学一貫連携機構紀要(追手門学院大学一貫連携機構) (2)	◎樋口勝一、水藤龍彦、武田裕紀、田上雅範、村上亨、梅村修	77-92頁
その他					
The evaluation of a basic training text-book on physics with a method of	-	2012年 7月	The World Conference on Physics Education 2012(istanbul)		
初年次教育における入学試験別リメディアル学習効果の分析	-	2012年 8月	日本リメディアル教育学会(立命館大学)	◎樋口勝一、尾崎秀夫	

Quality assurance for education content and evaluation of mastery of skills by using qualifying examinations in university classes	-	2012年 9月	2012 IIAI International Conference on Advanced Applied Informatics(Fukuoka,Japan)		
就職試験と物理・数学	-	2012年 9月	日本ビジネス実務学会近畿ブロック研究会(西宮)		
女子大学生がとらえる祖父母から学んだこと	-	2012年10月	日本世代間交流学会(名古屋)	◎樋口勝一、溝邊和成	
祖父母との世代間交流と女子大学生の生活・運動習慣	-	2012年10月	日本世代間交流学会(名古屋)	◎竹安千枝、樋口勝一	
近畿の大学・短期大学におけるビジネス資格指導状況調査最終報告	-	2013年 2月	日本ビジネス実務学会近畿ブロック研究会(西宮)	◎樋口勝一、仁平征次	
大学生の「社会」に関する知識について	-	2013年 3月	大学教育研究フォーラム(京都大学)	◎樋口勝一、尾崎秀夫	
私立教養系大学における初年次情報リテラシー・リメディアル教育の狙いの整理	-	2013年 3月	大学教育研究フォーラム(京都大学)	◎樋口勝一、佐伯勇、落合史生、平野真理子、澤田瑞也	
近畿の大学・短期大学におけるビジネス資格指導状況の分析～平成23-24年度近畿ブロック研究助成報告	-	2013年 6月	日本ビジネス実務学会第32回全国大会(福島学院大学)	◎樋口勝一、仁平征次	
New ansatz for lepton mass matrix with USY	-	2013年 7月	The 12th Asia Pacific Physics Conference(International Conference Halls, Makuhari Messe)	◎Katsuichi Higuchi, Katsuji Yamamoto	
Similarites between Basic English Education and Information Literacy Education in General Education in Japanese Universities	-	2013年 8月	JACET the 52th international convention(Kyoto univ.)	Katsuichi Higuchi, ◎Mariko Hirano, Matsuoka Shinya, Howard L'Shawn, Isamu Saeki	
資格・検定を用いた大学一般教養授業の標準化の提案	-	2013年 8月	高等教育質保証学会第3回大会(京都大学)		
Introduction of paractical cases for systematic management of Liberal Arts education	-	2013年 9月	2013 IIAI International Conference on Advanced Applied Informatics(Shimane,Japan)	◎Katsuichi Higuchi, Mariko Hirano, Isamu Saeki, Murakami Toru	
保育士養成校における学習支援の試み(1)	-	2013年 9月	全国保育士養成協議会第52回研究大会(香川)	樋口勝一、◎中田尚美、浅井由美、尾崎秀夫、竹安知枝	
文科系女子大学生の物理嫌いの現状追加報告	-	2013年11月	第42回物理教育研究集会(大阪教育大学)		
保育者養成におけるリメディアル教育の取り組み事例	-	2014年 3月	大学教育研究フォーラム(京都大学)	◎樋口勝一、竹安知枝、浅井由美、中田尚美、尾崎秀夫	
フレーバーの物理とシングレットクォーク	-	2014年 6月	京都大学原子核工学専攻主催研究会「量子→素粒子・光・原子…宇宙」(京都大学)		
就職試験における数的処理能力測定の意義～適性試験等に見る就業力とは	-	2015年 2月	日本ビジネス実務学会近畿ブロック研究会(西宮大学交流センター)	◎樋口勝一、福井就、仁平直	
就職試験における数的処理分野出題状況調査	-	2015年 6月	日本ビジネス実務学会全国大会(鹿児島国際大学)	◎樋口勝一、福井就、仁平直	
開放制教員養成文科系大学生に対する教員採用受験指導における学生データの活用	-	2015年 7月	大学機関・情報調査研究会MJIR(岡山コンベンションセンター)		
古くても新鮮な大学一般教養の物理授業における古典的スパイラル授業の実践報告	-	2015年 8月	日本物理教育学会第32回物理教育研究大会(九州大学)	◎樋口勝一、武田裕紀、河﨑美保	

子供の頃の異なる世代との交流体験が大人になったときにもたらす効果	–	2015年10月	日本世代間交流学会第6回全国大会(追手門学院大学)		
大学一般教養の物理授業における古典的スパイラル授業の実践結果の分析	–	2015年11月	第44回物理教育研究集会(流通科学大学梅田オフィス)	◎樋口勝一、武田裕紀、河﨑美保	
就職試験における数的処理能力測定の意義～適性試験等に見る就業力とは	–	2016年 2月	日本ビジネス実務学会近畿ブロック研究会(西宮大学交流センター)	◎樋口勝一、福井就、仁平直	
一般教養の古典的スパイラル授業を受講した私立文科系大学生の物理の問題正答率の分析	–	2016年 3月	日本物理学会第71回年次大会(東北学院大学)	◎樋口勝一、武田裕紀、河﨑美保	
大学一般教養の物理授業における古典的スパイラル授業の実践効果	–	2016年 3月	第22回大学教育研究フォーラム(京都大学)	◎樋口勝一、武田裕紀、河﨑美保	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1996年 4月～現在に至る	日本物理学会(国内学会)会員
2009年 6月～現在に至る	日本ビジネス実務学会(国内学会)会員
2009年 6月～現在に至る	日本ビジネス実務学会(国内学会)近畿ブロック運営委員
2011年 4月～現在に至る	近畿数学教育学会(国内学会)会員
2013年 4月～2015年 3月	日本物理学会(国内学会)代議員
2013年 5月	兵庫県青少年団体連合協議会助成研究報告会（県民と県知事）
2013年11月～現在に至る	日本物理教育学会(国内学会)会員
2014年 4月～現在に至る	耳原北中学校学生ボランティア派遣
2014年 4月～現在に至る	耳原小学校学生ボランティア派遣
2014年 4月～2015年 3月	茨木市商工会主催　茨木童子寺子屋塾　学生ボランティア派遣
2015年 4月～現在に至る	福井高校ボランティア・インターンシップ提携派遣

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
基盤教育機構	教授	松井　健	担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
体育実技科目におけるショートレポートの活用	2014年 4月 ～現在に至る	体育実技の授業において、実践への感想等を記入したショートレポート（授業の終わりに記入）を毎回集め、コメントを翌週に返却している。学生諸君が苦手としている実技内容の把握、教材が授業の目的にあっているか否かの確認、教員と学生の意見交換・コミュニケーションなどの用途で活用している。学生諸君においても、半期を通じての振り返りが容易にできる、技術の上達を確認できるなどの利点がある。
講義科目におけるグループディスカッションの導入	2015年 9月14日 ～2016年 1月19日	150名の授業科目（体育概論Ｃ）においてグループディスカッションの回を３回設定した。座席エリアを指定して授業内で９～10のグループを編成した。一つのテーマ（授業内で扱っているテーマ）について、グループ内で意見交換を行った。他学部・他学科の者とディスカッションできるようにしたが、一部の学生で、時間内に一度も発言しない者もいた。各回の後半のプレゼンでは、斬新な意見が出たり、一方的に聴く授業より良い、との評価があったが、大教室ゆえの議論のしにくさ（椅子や机を動かせない）をどのように改善していくかという課題が残った。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
秋学期　トレーニング論のマネジメント	2014年 9月 ～2015年 1月	担当科目の履修者が増え（440名）、期中に急遽、非常勤講師クラスを増設し、２クラス体制にした。しかし、授業準備（資料作成、印刷）や台風休講分（２回）の補講対応、最終授業後の学生対応（補講・最終授業を病欠もしくは、補講授業の重複により出席できなかった者への配慮：レポート課題）は全て２クラス分を松井が担当した。これらは、期中での２分化であったため、完全に両クラスの歩調を合わせなければならなかったこと、最終授業後は非常勤の担当者が海外出張に出かけたため、学生対応が難しかったことなどの理由による。 さらに、本科目では、３名のAP科目履修生を受け入れており、彼らに対する一定の配慮も行った。
体育実技「基礎体育」における体力テスト結果のフィードバック	2015年 4月 ～2016年 1月	春学期約500名、秋学期約300名の体力テスト結果をエクセルに入力し、各学生の個票として、Ｔスコア表とグラフ、各種比較データ（棒グラフ）を一覧にしてまとめたフィードバックシートを作成した。各シートをクラス担当教員に渡し、学生に（自身の体力の現状と将来の目標を考える資料として）フィードバックした。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
遠泳学事始　「今こそ，子どもたちに遠泳を！」海で育てる生きる力とおもいやり	共著	2013年 2月	(フリースペース)	木村一彦，矢野博己編・著　他7名による分担執筆	9-40,81-100頁
運動生理学の基礎と応用　－健康科学へのアプローチー	共著	2016年 1月	(ナップ)	長澤純一，杉浦雄策，古川覚，松井健，柳原大，大西朋，髙橋淳一郎，佐藤和	第２章「呼吸・循環器系」17-47頁
論文					
平成24年度エリート小学生研修合宿（競泳）における科学サポート	共著	2013年 8月	水泳水中運動科学(日本水泳・水中運動学会)16(１)	◎浅井泰詞，村松愛梨奈，寺西洋平，松井 健	20-26頁
平成24年度競泳ナショナル強化選手合宿（富士・鈴鹿）における科学サポート	共著	2013年 8月	水泳水中運動科学(日本水泳・水中運動学会)16(1)	◎水藤弘吏，高橋篤史，植松 梓，松井 健	7-11頁
Cardiovascular responses in rest, exercise, and recovery phases in water immersion.	共著	2013年11月	the Journal of Physical Fitness and Sports Medicine(The Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine)2(4)	◎Takeshi Matsui and Sho Onodera	475-480頁
Water exercise and health promotion.	共著	2013年11月	the Journal of Physical Fitness and Sports Medicine(The Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine)2(4)	◎Sho Onodera, Akira Yoshioka, Kazuki Nishimura, Hiroshi Kawano, Kumiko Ono, Takeshi Matsui, Futoshi Ogita, Hideki Hara	393-399頁

ジュニア競泳選手のレース特性の解明　～男子100m自由形を対象として～（査読付）	共著	2015年 3月	一般財団法人上月財団	◎植松　梓，松井　健，岩原文彦，高橋篤史	1-17頁
平成25年度エリート小学生研修合宿（競泳）における科学サポート	共著	2015年 3月	水泳水中運動科学(日本水泳・水中運動学会) 17(１)	◎村松愛梨奈，浅井泰詞，寺西洋平，松田有司，岩原文彦，松井 健	26-32頁
平成25年度競泳ナショナル強化選手合宿（鈴鹿）における科学サポート	共著	2015年 3月	水泳水中運動科学(日本水泳・水中運動学会) 17(１)	◎水藤弘吏，高橋篤史，村松愛梨奈，森 誠護，松井　健	22-25頁
Jリーグサッカークラブのファン・サポーターを対象とした観戦者調査	共著	2016年	追手門学院大学スポーツ研究センター紀要(追手門学院大学スポーツ研究センター) 1(1)	◎松井健，巽樹理，平谷浩貴，松林政一，新名久美，加賀井大輝	49-68頁
スポーツコースに所属する高校生の学校・競技生活の現状と課題：Ｊユース選手と他競技選手の比較分析	共著	2016年 3月	(追手門学院大学スポーツ研究センター) 1(1)	◎巽樹理，松井健	29-41頁
その他					
第89回日本選手権水泳競技大会競泳競技　競泳レース分析表	-	2013年 6月	(公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会)		
ジャパンオープン2013（50m）競泳レース分析表	-	2013年 7月	(公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会)		
第90回日本選手権水泳競技大会競泳競技　レース分析表	-	2014年 6月	(公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会)		
ジャパンオープン2014(50m)　競泳レース分析表	-	2014年 8月	(公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会)		
第54回全国中学校水泳競技大会　競泳（決勝）レース分析表	-	2014年10月	(公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会)		
第82回日本高等学校選手権水泳競技大会　競泳（決勝）レース分析表	-	2014年10月	(公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会)		
第37 回（2014 年度）全国JOC ジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会　競泳（決勝）レース分析表	-	2015年 2月	(公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会)		
第90回日本学生選手権水泳競技大会　競泳（決勝）レース分析表	-	2015年 3月	(公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会)		
追手門学院大学スポーツ研究センター Year-end report 2014年度事業報告	-	2015年 3月	(追手門学院大学スポーツ研究センター)		1-8頁
第91回 日本選手権水泳競技大会競泳競技　競泳レース分析表	-	2015年 5月	(公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会)		
中等度の水中運動後が運動後回復期の動脈スティフネスに及ぼす影響	-	2015年 6月	第20回　ヨーロッパスポーツ科学会(マルメ（スウェーデン）)	T. Matsui, T. Saito, M. Murata, A. Yoshioka, Y. Watanabe, N. Yoshida, T. Wada, Y. Tamari, S. Onodera	
ジャパンオープン2015(50m)　競泳レース分析表	-	2015年 8月	(公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会)		
水中運動と脈波伝播速度	-	2015年 9月	(和歌山県和歌山市)		
第55回全国中学校水泳競技大会　競泳（決勝）レース分析表	-	2015年10月	(公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会)		
第83回日本高等学校選手権水泳競技大会　競泳（決勝）レース分析表	-	2015年10月	(公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会)		
追手門学院大学スポーツ研究センター　ニューズレター　No.1	-	2015年11月	(追手門学院大学スポーツ研究センター) (1)		1-4頁

運動・スポーツで元気になる	–	2015年11月	公開講座フェスタ2015 大阪府新別館南館８階大研修室(大阪府新別館南館８階大研修室)		
第38 回（2015 年度）全国JOC ジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会　競泳（決勝）レース分析表	–	2016年 2月	(公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会)		
まだまだ青春　アクティブに元気に暮らそう	–	2016年 3月	大阪府北部コミュニティカレッジ 卒業式公演		
第91回日本学生選手権水泳競技大会　競泳（決勝）レース分析表	–	2016年 3月	(公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会)		
追手門学院大学スポーツ研究センター　ニューズレター　No.2	–	2016年 3月	(追手門学院大学スポーツ研究センター)(2)		1-3頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1986年 4月～現在に至る	日本バイオメカニクス学会(国内学会)会員
1986年 4月～現在に至る	日本体力医学会(国内学会)会員
1986年 4月～現在に至る	日本体育学会(国内学会)会員
1992年12月～現在に至る	日本運動生理学会(国内学会)会員
1995年 8月～現在に至る	アメリカスポーツ医学会(国際学会)会員
1997年11月～現在に至る	日本水泳・水中運動学会(国内学会)会員
2002年 9月～現在に至る	日本体力医学会(国内学会)評議員
2003年 4月～現在に至る	日本水泳・水中運動学会(国内学会)諮問委員
2003年 4月～2011年 3月	財団法人　日本水泳連盟　医・科学委員会　委員
2004年 8月～現在に至る	ヨーロッパスポーツ科学会(国際学会)会員
2007年 7月～現在に至る	日本障害者スポーツ学会(国内学会)会員
2007年10月～現在に至る	日本スポーツ産業学会(国内学会)会員
2011年 4月 1日～現在に至る	公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会 委員
2012年 9月～2014年 5月	みはまスポーツクラブ 会長
2013年 4月 1日～現在に至る	公益財団法人　日本水泳連盟　科学委員会 委員長
2014年 4月～現在に至る	愛知水泳連盟　医・科学委員会　委員長　(2015年度から一般社団法人愛知水泳連盟)
2014年 4月～2015年 3月	武豊町　温水プール建設検討委員会　委員長
2014年 4月 1日～現在に至る	愛知水泳連盟　医・科学委員会 委員長
2014年 4月 1日～2015年 3月31日	武豊町　温水プール建設検討委員会 委員長
2014年 5月～2014年 6月	日本福祉大学　第２回ボッチャ大会の開催準備並びに大会運営（6/29）
2014年 7月	追手門学院大学スポーツ研究センター設立記念シンポジウム「大学と地域スポーツ」(7/26)※シンポジスト
2014年 8月	愛知県武豊町教育委員会生涯学習課主催　福寿大学 講師　「運動・スポーツは百薬の長～その効果と楽しみ方～」(8/8)
2014年10月	日本水泳連盟基礎水泳指導員講習会（愛知県）　講義「水泳の科学：力学」担当　(10/19)
2014年10月～2014年11月	日本福祉大学　グラウンドゴルフ大会（なかよしカップ）の開催準備並びに大会運営(11/9)
2014年11月～2014年12月	日本福祉大学　2014車いすバスケットボール大会の開催準備並びに大会運営（12/6）
2014年12月	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会　連携大学地域巡回フォーラム近畿ブロック大会 in 京都(12/8)※追手門学院大学のオリンピック、パラリンピック関連の取り組みを紹介（指定発表）
2014年12月～2015年 2月	スポーツ研究センター共催事業(土日開催)への参加（12/20少年野球大会，1/31・2/21セミナー後期講座，2/8少年サッカー大会，2/21おうてもんジュニアキャンパス冬のスポーツ講座）
2014年12月	追手門学院大学地域文化創造セミナー後期講座　運動・スポーツへの誘い　第３回「運動・スポーツでこころとからだをリフレッシュ　～その効果と楽しみ方～」(12/12)
2015年 4月～2016年 3月	2015年度　スポーツ研究センター主催事業への参加（7/2，10/1，10/13，12/10，1/19セミナー講座，12/12，19少年野球大会，2/6，7少年サッカー大会，2/20おうてもんジュニアキャンパス冬のスポーツ講座）
2015年 4月～現在に至る	一般社団法人　愛知水泳連盟　理事
2015年 4月 1日～現在に至る	愛知水泳連盟 理事
2015年 6月 1日～現在に至る	茨木市スポーツ推進審議会 委員長
2015年10月	日本水泳連盟基礎水泳指導員講習会（愛知県）　講義「水泳の科学：力学」担当　(10/11)

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導
基盤教育機構	教授	村上　　亨	担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
なし		
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
大学教育における共通教育のあり方	共著	2015年 3月	一貫連携教育研究所紀要(追手門学院一貫連携教	樋口勝一、梅村修、下川邦泰	108-119頁
学部共通科目のマネジメントについての一考察	共著	2016年 3月	研究所(追手門学院一貫連携教育研究所)(2)	樋口勝一、水藤龍彦、武田裕紀、田上正範、梅村修	77-91頁
その他					
幸福小国日本の現実	-	2015年 4月	はびきの市民大学(大阪府羽曳野市)		
世界の中の日本	-	2015年 7月	はびきの市民大学(大阪府羽曳野市)		
円高、円安、どちらがお得？	-	2015年11月	茨木シニアカレッジ(大阪府茨木市)		
税制と私たちのくらし	-	2015年11月	茨木シニアカレッジ(大阪府茨木市)		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

年月	内容
1981年～現在に至る	日本経済政策学会(国内学会)会員
1999年～現在に至る	公益事業学会(国内学会)会員
1999年～現在に至る	公益事業学会(国内学会)評議員
1999年～現在に至る	国際公共経済学会(国内学会)会員
1999年～現在に至る	国際公共経済学会(国内学会)理事
2007年 8月～現在に至る	豊中市上下水道事業運営審議会委員
2010年 5月～2013年 4月	日本経済政策学会(国内学会)常務理事
2013年 5月～2016年 4月	日本経済政策学会(国内学会)本部幹事
2013年 8月～現在に至る	大阪府生活衛生営業指導センター分野調整事業協議会会長
2014年 4月～2015年 3月	大学基準協会大学評価分科会評価委員
2014年 4月～現在に至る	大阪府大規模小売店舗立地審議会委員
2014年 4月～現在に至る	茨木市大規模小売店舗立地審議会会長